1990年4月1日発行（毎月1回1日発行）第3巻第4号 通巻26号　昭和63年6月6日第3種郵便物認可
月刊ドラゴンマガジン
FANTASY SENSATION
DRAGON
Magazine
4
APRIL 1990
600yen
(本体583円)
●巻頭特集
燃える！
ドラゴンハーフ大特集
見田竜介
雷の娘シェクティ
嵩峰龍二&末弥純
風の大陸
竹河聖&いのまたむつみ
機動警察
パトレイバー
伊藤和典&高田明美・佐山善則
●小説
バセット英雄伝
エルヴァーズ
ひかわ玲子&美樹本晴彦
ユミナ戦記
吉岡平&春巻秋水
●ソード・ワールドRPGリプレイ
氷原に響く交声曲 後編
山本弘&草彅琢仁
●コミック
機神幻想
ルーンマスカー
出渕裕
WOLFMAN ROAD
青木邦夫
御先祖様はご機嫌斜め
奥瀬早揮
表紙イラスト　見田竜介

チェッカーズの、
高杢禎彦がお送りします!!
日曜日の朝、5時間の生放送!
今週のベストヒット20を発表!
電リク専用電話番号
03-211-3299
リクエスト受付時間
日曜朝7:00〜10:30
SUPER DENRIKU
Sunday Hit Paradise
スーパー電リク
サンデー
ヒットパラダイス
SUNDAY 7:00AM▶0:00PM
日曜日の朝、ゴキゲンな音楽をめいっぱい詰めこんでお送りしている『スーパー電リク・サンデーヒットパラダイス』! パーソナリティーの高杢禎彦も、豊富な音楽知識を生かしたトークが絶好調です。最新情報や多彩なゲストもたっぷり。今、あなたの1番聴きたい曲をお届けします!! もちろん、参加大歓迎。電話リクエストをお待ちしています!!
ラジオはダイヤル1242 ニッポン放送

月刊ドラゴンマガジン4月号

1990 April
CONTENTS

"Whole Note"　ILLUSTRATOR HIROYUKI KATOU & KEISUKE GOTOU

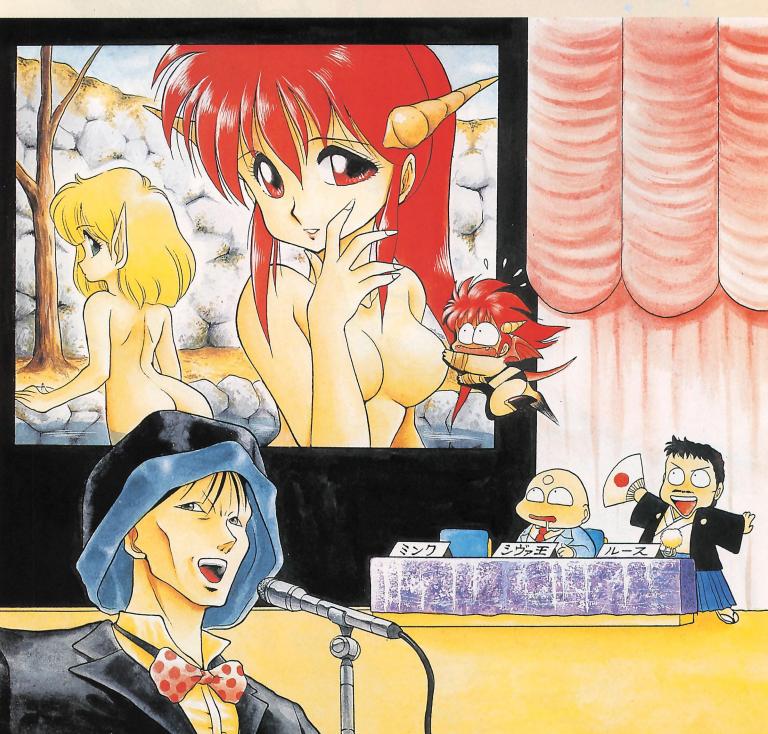
COVER ILLUST／見田竜介　COVER DESIGN／朝倉哲也
FINISH WORK／佐々木雅人　TITLE LOGO DESIGN／多田井善治
表紙製版／広川健司

DRAGON HALF
ドラゴン ハーフ
FINISH WORK/MASATO SASAKI
寒さ知らずのD☆GAL'S
熱いハートで女は勝負！
KISS KISS
KISS KISS
LOVE
HAPPY
DRAGON HALF

PLAY BACK THE BEST SCENE

あの感動の名場面をもう一度！

全国のDM読者の皆様こんにちは。さて本日は、「PLAY BACK THE BEST SCENE・あの感動の名場面をもう一度！」を送りいたします。思い出に残るあのシーン、もう一度見たいこのシーンを、主人公ミンクさん、戦士ルースさん、国王シヴァさんたち三人のゲストに解説していただく趣向になっております。なお司会進行役はシヴァの浜村淳こと、私ロザリオが務めさせていただきます。それでは、ごゆっくりとお楽しみくださいませ！

ミンク
シヴァ王
ルース

究極奥技・無想転生剣（ソーサースペシャル）
（'89. 12月号）

前々から名前が知られていながら、技自体が不明だった幻の剣。その威力は最強の獣、赤竜ガヤを一撃で倒したほど。敵の胸に刻まれる「S」の文字が、この奥技のポイントである

スクープ！幻の奥技と王様の秘蔵写真を公開!!

ロザリオ「では、さっそく一枚目の写真を見ていただきましょう。ハイ！」
ミンク「ホエホエー！　ソーサーだ!!」
ルース「なんじゃ男か、つまらん」
ミンク「何いってるのよ。今NO・1の人気アイドル剣士ディック・ソーサーを知らないの!?　コンサートのチケットなんか、アリーナでも20万ガメルはするっていうくらいスゴイのよ!!」
ルース「フン！　ワシだって、シヴァの赤い稲妻と呼ばれた竜討戦士だわい。ワシが竜退治に行くと言えば、周囲20キロガメートルの若い娘が、全員非難したとゆうくらいスゴイもんだったぞ!!」
ミンク「そんなの自慢にならないじゃないの！」
ルース「何だと！　娘の分際で父に逆らうか!!」
ロザリオ「まあまあ、親子ゲンカはまたあとで。ところで、王様は何か意見がございますか？」
シヴァ「うーむ。たしかにこの技はスゴイのう。やはり、作者が一晩寝ずにポーズを考えただけのことはある」
ロザリオ「なんと、それはスゴイ！　さすが王様、悪知恵と地獄耳だけは達者ですな」
シヴァ「お前、それで誉めとるつもりか？」
ルース「まあまあ。ところで、こういう番組には、お色気も必要だと思いませんか？」
シヴァ「まったくじゃ。ではひとつ、ワシの秘蔵写真をお見せしようかの」

ルース「ぬおおぉぉう、これは!?」
ロザリオ「素晴らしい。このロリロリしたボディが、なんとも言えませんな」
シヴァ「どうじゃ。まだあるぞ。そのうち、富士見書房から『軟質的魔女』とか言って、写真集を出そうかと思……イタッ！」
ビーナ「何が写真集ですって！」
シヴァ「これビーナ。父のお前に対する深い愛情を何故わかろうとせんのだ」
ビーナ「これのどこが愛情だってゆうのよ、このエロダコポン酢！」
シヴァ「ぬう、父を愚弄するか!!」
ルース「親子ゲンカとは情けない」
シヴァ「大きなお世話じゃ！　貴様に言われる筋合いはないわい!!」

ビーナ姫13歳 変化魔法修得
（'88. 10月号）

スライムハーフとして生を受けたビーナは、13年に及ぶ過酷な修業の末、人間への変化魔法を会得した。彼女の、あの強引な性格が生んだ奇跡といっても過言ではないだろう

ハート・ニルグ王とサラ（'89 10月号）

15年間離ればなれになっていた妻(サラ)との再会。不幸な過去の出来事を、とびきりの笑顔で包んでしまう大人のやさしさ。ハニーって、踊ってばかりいる能天気な王様じゃなかったんだね。あぁ感動！

あぁハニー、涙の再会！そしてミンクの××は!?

ロザリオ「いやー、感動のシーンの連続で、番組も盛り上っておりますが…」
ミンク「何が感動のシーンよ。本当の名場面ってゆうのは、こういうものよ」
ロザリオ「これは『天空の城』ですね」
ミンク「そうよ。私たちがハニーの奥さんを助け出して、ロベロの聖球をもらったんだけど、魔法で鎧王の妻にされていたサラさんには、子供が出来てしまったの。でも、ハニーったら『今日からはわしらの娘じゃな』なんて一言で済ましちゃって、あぁカッコ良かったわー。あんな素敵な大人の恋がしてみたいなー」
ルース「うーん、そうかそうか。じゃあミンク、ある日当然、お前に弟妹(きょうだい)が出来てもかまわない、とゆうことだな。うん」
ミンク「なんですって！どーゆー意味なの!?」
ルース「いやあ、仮定の問題だよ、ハッハッハ」
ロザリオ「仮定の問題だけに、家庭の問題になりかねないというところでしたな。ハッハッハ……」
シヴァ「お前、そんなにペタンコプレスが恋しいか？ ほしけりゃやるぞ」
ロザリオ「……失礼しました。えーではこのへんで、取っておきのネタをひとつ御覧に入れましょう！」
ミンク「キャー！ 何よこれ!!」
シヴァ「おぉ、これはなかなか」
ルース「いやーミンク、お前も子供だと思っていたが、立派に育ったもんだなぁ。お父さんはうれしいぞ」
ミンク「何がうれしいよ！ まったく」
シヴァ「しかし、おへそがあるというのも不思議じゃが、あのシッポの付け根はどうなっとるんじゃろ？ 噂ではキバが生えているとゆーことだが」
ルース「いやね、ミンクのは見たことないんですが、うちの奥さんのマナなんかもう、××で○○なんか△△……」
シヴァ「うおー、そ、それはスゴイ！」
ロザリオ「そうすると□□は？」
ルース「そりゃもう、■■■でして」
ロザリオ「いやー、勉強になりますな」
ミンク「いいかげんにしなさい!!」

摩訶不思議、ミンクの秘密!?（'88 7月号）

ドラゴンハーフのミンクは、卵から生まれた。なのに何故かおへそがある。突然変異みたいなもの…というのは本人の弁だが、ではあそこはどーなってるのかなぁ…？

ミンク、乙女の純情！（'89 7月号）

第28回の凶殺武闘大会において、大魔王アザトデスの息子ダクの攻撃により、大観衆の前で胸をさらしてしまったミンクちゃん。初めて見せるのはソーサーに…と決めていた乙女の涙が美しかった！

ロザリオ「さて、番組もそろそろ終了時間が近付いてまいりましたが、いよいよ、本年度の名場面大賞の発表をさせていただきたいと思います。数々の名場面の中から選ばれたBEST1は、果してどんなシーンでしょうか？　皆さん、準備の方はよろしいですか？」
ルース「……そうすると、スライムハーフの○○は△△なんですか？」
シヴァ「それはもう××じゃよ」
ミンク「いつまでやってるのよ！」
ロザリオ「……えー、おっほん。ではいよいよ発表です――御覧ください!!」
ルース「うおおぉぉ〜〜！」
シヴァ「スゴイ、スゴイぞ〜〜！」
ミンク「もうやだぁ〜〜！」
ロザリオ「いやあ素晴らしい、ワンダフルです。ビューティフルです。感動しております。私ロザリオを始め、ゲストの三人も皆、感動して泣いております」
ミンク「違うわよぉ！　エ〜〜ン!!」
ルース「チッチッチッ。ミンク、恥かしがることなんかないぞ。お前が立派な身体に育って、全国の読者の皆さんの期待に応えることが、主人公としての名誉ある務めなのだ！　私もお前の父親として鼻が高いぞ」
ミンク「そんなもん、低くたってい〜わよ！　エ〜〜ン、エ〜〜ン」
シヴァ「しかし、あのダクとかいう坊やの一撃は、子供ながら見事じゃった」
ルース「いやいや、凶殺8連覇勇者のこの私に言わせれば、まだまだミジンコか7級の写植みたいなもんで……」
ダグ「だれがミジンコやて、おっさん」
ルース「おっさんとはなんだ、こら！」
ダグ「さっきから黙って見とれば、好き勝手ぬかしおって。ワイの活躍するシーンがないやないかぁ!!」
ルファ「そうよ。私たちの出番がほとんど無いじゃない。不公平だわ！」
ピア「そーだよ、そーだよ！」
ミンク「私にばっかり恥かしい思いをさせて、次の特集は覚えてらっしゃい」
ルース「次があったらね〜〜！」
ロザリオ「……えーとゆうわけで、番組を終了させていただきます。なお、次の特集はこんなのが良いという御意見がございましたら『DH次はこれ！』係までお手紙ください。では再見……」

ドラゴンハーフキャラクターコンテスト

輝け！第2回 DRAGON HALF CHARACTER CONTEST

燃える！ドラゴンハーフ ACT2

ハーイ！ミンクです。さあ皆さんお待ちかねの第2回キャラコンの発表です。今回は、応募作品中の優秀作を全部SDイラスト化しちゃいました！君のデザインしたキャラがいるかしら？

Ⅱ 準グランプリ ケルベロス3姉妹
京都府 PEACHⅡ

↘長女アーダ
←三女ドーダ
→次女コーダ

ミンク「皆さんこんにちは、ミンクです。今日は『第2回ドラゴンハーフ・キャラクター・コンテスト』の発表ということで、作者の見田竜介先生に来ていただきました！ 拍手!!」

見田「どーも見田です。よろしくお願いします」

ミンク「では先生、いきなりですが準グランプリのケルベロス3姉妹について。どのあたりが受賞理由ですか？」

見田「三匹（人？）をつなぐ鎖を取るとケルベロスになっちゃうという設定、それにカラーのイラストが可愛かったことかな。（笑）あと名前(ネーミング)の良さですね」

ミンク「なるほど。本人は『色物だから駄目かな？』と言ってますが…」

見田「いやー色物が一番です！（笑）」

↓半吸血鬼(ハーフバンパイヤ)
岐阜県／ラル三世王

ミンク「さて次の半吸血鬼(ハーフバンパイヤ)は？」

見田「これは夜はこわくて外出できないという設定が笑えたので…」

ミンク「やっぱり、アイディアの良さが優先ですか？」

見田「ええ。僕はやっぱりそれが中心で選びますね。このベニウラも、無想転生剣(ソーサー・スペシャル)が平気な身体になれるけど、元にもどれないので一生に一度の技という設定が良かったんで選んだんです」

ミンク「皆さん、この辺が入選のポイントですよ！ えー次は…あれ？ これは第1回キャラコンの応募作品ですね？」

見田「そうです。あの時使えなかったけど、おしいと思った作品を、

↖ベニウラ
大阪府／日がわりタヌキ

➡これが噂のミンク・キット。89年10月号の表紙を元にしていますが、まだ未完成状態なので、これから色や細かいモールドのチェックが入ります。期待していてね！

速報！ガレージキット

さてさて皆さん、この辺でとっておきのニュースです。このたび、私ミンクのガレージキットが発売されることになりました！ バンザーイ、ホエホエ〜〜!! スケールは8分の1ぐらいで、約20センチの全身像になります。製作はアペンディクッス倶楽部で、近日発売……の予定です。是非買ってくださいね。お願いしますぅ〜す♡

今回のSD化記念で救済してみました。インテリスケルトンは『愚か者めが!!』という口癖が良かったし、スー・タブルの思い付きの伝説を語る自称〝謎の賢者〟で、間違いを指摘されるとボケたふりをして誤魔化すという設定には大笑いしました」

ミンク「このすける豚なんか、絵そのものですね。アザトデスお菓子会社社長というのは……?」

見田「名前が良かったので、つい…」

ミンク「選んでしまった?」

グランプリ ランプの精
北海道/西田勉

見田「はい(笑)」

ミンク「さて、もう一度第2回の応募作品にもどりますが、この鉄ジン28号はスゴイですねぇ」

見田「これはもう名前の勝利、それと元絵のデザインですね」

ミンク「元絵といえば、サキュバスのイラストは素敵でしたね」

見田「ええ、今回のハガキの中では、一番可愛いくて、お色気のあるカラーイラストでした。絵では一番でしたね」

ミンク「このバンシーもなかなか可愛いですよ。とにかく、キャーキャー泣き叫ぶ設定も面白いし…」

見田「そうですね。あと、このアドレナリンなんかは設定が良かった。相手の弱点を立体映像で出して、ひるんだスキに攻撃するなんて、超ヒキョー技ですよね。(笑)こいつやさっきのスー・タブルなんか、いかにも僕の使いそうな設定なんで、びっくりしました」

ミンク「でも先生、あんまりヒキョーな敵は出さないでくださいね。苦労するのは私なんだから」

見田「あ、ごめんなさい(笑)」

ミンク「いえいえ。えー次は、スライム犬なんですけど、なんとゆーか…」

見田「おかしいですよね。まぬけとゆーか、その…何も考えてない瞳に魅かれるものがあったんで…」

ミンク「では最後になりましたけど、第2回キャラコンのグランプリ作品、ランプの精の受賞理由をおしえてください」

見田「えーと、こいつはですね。自分の鍛えあげた肉体で、主人の頼みのポーズを3つとるだけ! とゆうあまりのバカバカしさに感動して、グランプリとなりました。いやーこのギャグセンスには参りました。強烈ですよねー」

ミンク「破壊力ありますねー。さて、そんなわけで第2回キャラコンをそろそろ終了させていただきます。なお、前回と今回の入賞者には、見田先生のサイン入り色紙と粗品を進呈します」

見田「また傑作を送ってくださいね!」

ミンク「第3回の募集要項は次の機会に発表します。ではお元気で!」

予告編

PRESENTED BY 見田竜介

混沌の地に大魔王降臨せり。闇は天を覆い、魔が地を跳梁する。人々が悲しみにくれ、心に祈りの言葉満ちるとき、伝説の竜人戦士あらわれ、魔を払い、遍く天地を照らす
——なーんつって、お待ちかねのコミックス第2巻の発売が、ついに決定となりました！
それを記念して、特別描き下ろしの予告編を誌上公開！　みんな必ず買ってよね〜〜〜!!

3種の神器!?

あ…あんたら
大魔王と
やり合う気かい!?

元気そうで
何よりね…
イモ娘さん!!

良いな…
始末する
小娘の名は

ミンク

ミンクを
凶殺武闘大会に
出場させるのです

神殺魔剣(ゴッドスレイヤー)!!

くっ…

はあ
はあ

乞・御期待!!

4月吉日発売予定

シェクティの絶望は
ダーラを呼び寄せ……

人間不信によって閉ざされたシェクティの心

シェクティに神の御子たる証が発現したのは、彼女が九歳の時であった。

故郷を追われたロニィとシェクティの母娘は、放浪の民、ジプシィの許に身を寄せていた。だがある日、手にした者に一切の不可能がなくなるという〈力の至宝〉の封印を解く〈鍵〉の存在を嗅ぎつけた大妖術師の襲撃をうける。無数の使い魔によって惨殺されていくジプシィたち。シェクティもまた使い魔の一匹の手にかかろうとした時、ロニィは天に祈った。

〝あなたの御子をお見捨てになるのですか〟と。

その時、天空より無数の電雷が降りそそぎ、妖術師の軍勢をことごとく灼き亡ぼした。だが、その電雷はシェクティの身をも撃った。一命はとりとめたものの、以来、シェクティの髪と左の瞳は、父、雷神ズラドウラの色＝橙　色に染められてしまった。

この時、ロニィはシェクティの守りとして〈天神の剣〉と招雷の呪文を授かる。そして、これ以上の迷惑をかけぬため、ジプシィの許を去り、ふたりきり、あてのない旅へと踏みだした。

だが、それから三年も経たぬうちにロニィは病に倒れてしまう。死の間際、ロニィはシェクティに出生の秘密を明かし、〈天雷の剣〉を手渡した。しかし、〈鍵〉のことは何も告げなかった。

天涯孤独となったシェクティは、ターバンとアイパッチで髪と瞳の橙色を隠し、男の子のふりをしながら、行くあてもない流浪の旅をつづけた。〈鍵〉を求める者どもに追われながら――。

さまざまな出会いと別れ――その中でシェクティは、心に多くの傷を負っていく。どんなに親しく、心を許しあった相手でも、シェクティの髪と瞳の真の色を見たとたん、恐怖におびえ、去っていく。彼女は誰にも心を許さぬようになっていった。信じなければ傷つかずにすむと……。

そんな彼女の前に〝風〟が現れた――。

四邪神の復活の刻が迫った現在、妖魔軍の現界侵攻は目前と思われていた。
人間側の護りの要である聖都アル・カゼイナ　神話時代から築き上げられた強大な結界の地に、シェクティとレマはたどりついた。互いの秘密を打ち明けるために……。
「シェクティ」第二部、堂々の開幕！ 本編の前に第一部をふり返ってみた！

雷（いかつち）の娘 シェクティ
Shekty

AUTHOR
嵩峰龍二 RYUUJI TAKAMINE

ILLUSTRATOR
末弥 純 JUN SUEMI

そして、〃暗黒〃が訪れる

神の御子たる宿命が
シェクティを翻弄する
その軌跡は何処へ!?

レマ

⬆普段は吟遊詩人の姿をしているが、風の女神の加護を享けた〝狂戦士〟としても有名。神の御子探索の使命を帯び、シェクティを探していた。シェクティの頑な心を開かせようとするうちに、シェクティ自身に魅かれていく自分に気がついてしまった

ダーラ

⬇妖魔王ヴァゲイゴルナの息子。正式には蛇公子ダレイゴルナ。お忍びで遊びに出掛けたモスパの街でシェクティと出会い、その豪快さと同じような境遇が気に入り求婚した。その婚約の証として、〝指輪〟をシェクティに渡し、半年後の再会を約した

ファリィ

⬆呪いを受けたため、普段は平背獣の姿の巨人族の娘。満月期の月光の下でのみ、本来の姿と魔力を取り戻す事ができる。その魔力で何度かシェクティたちの危機を救ったが、あくまでもレマに対する好意からで、シェクティに対しては反感を抱いている

ロニィ

⬅享年29歳でこの世を去ったシェクティの母親。もとは北方の神殿の巫女だった彼女は、夢の中で雷神ズラドウラと交わり身ごもったため一族を追放され、ジプシィの一団に助けられた。シェクティの危機にズラドウラより〈天雷の剣〉と招雷の呪文を授かった

ILLUSTRATION／JUN SUEMI
C. G. EFFECTS／EGOTACS

開き始めたシェクティの心。だが、しかし…

泉の都アドレガでシェクティと出会った吟遊詩人レマ。狂戦士〝風のレマ〟として有名な彼の使命は、シェクティを探し出し、神の御子として育て上げることだった。だがシェクティの頑な心を開くことは、レマをもってしても至難の技だった。何度も逃げ出そうとするシェクティの先回りをして、とにかく一緒に旅をするレマとファリイ。

ある時、レマたちから逃げようとしたシェクティは偶然〈門〉をくぐり、幽界のひとつ〈黒の妖精郷〉へと渡ってしまう。すぐに後を追ったレマとファリイの活躍で、シェクティは現界へと戻ることができた。しかし、〈黒の妖精郷〉で大邪鬼の猛毒に冒されたシェクティの髪と左瞳は黒く染まり、左眼は失明してしまっていた。

招雷の魔力を失ってしまったかもしれない不安から、シェクティはレマたちの同行を承諾する。だが、招雷の魔力は損なわれておらず、左眼には霊的視覚が宿っていた。

やがて、レマのもうひとつの姿である〝風のレマ〟を知ったシェクティは、レマに対して同じ魔性の血を持つ者としての親近感を抱くようになった。ともあれ、少し心を開いたシェクティにレマは行儀作法、歴史を始めとする数数の知識を教え込んでいくのだった。

そうした旅の中で立ち寄ったモスパの街で、シェクティはダーラと出会う。妖魔王の息子ダーラは、ひとりで城を抜け出しては、現界の人間にイタズラをして楽しんでいたのだった。シェクティに一目惚れしたダーラは、その後をつけるが、シェクティの左眼に見とがめられてしまう。しかし互いに魔道の者という仲間意識が、ふたりを意気投合させた。さらに、シェクティを気に入ったダーラは彼女に求婚した。

うろたえるシェクティに半年の猶予を与えたダーラは、元服後に迎えに来ると約束し、婚約の証として〝指輪〟を手渡して去っていった。シェクティは照れくささから、ダーラとのことをレマには秘密にしてしまう。

宝玉の都リンディで〝無限鏡迷宮陣〟を打ち破るため、レマは瀕死の重傷を負ってしまう。魔術士たちの追撃をかわしながら、シェクティたちがたどり着いたのは廃墟と化した街だった。

〝あんたはロニィのかわりにすぎない〟とファリィにののしられ、呆然とするシェクティ。そんなシェクティを白の妖精王ユリエドナは〈白の妖精郷〉へと呼び寄せ、〈生命の水〉を手渡す。この〈水〉のおかげで体力を回復したレマの前に魔術士たちは全滅した。だが、レマとシェクティの間には、気まずさが残ったのだった。

神の前で互いの秘密を総て打ち明けるという約束の下、シェクティたちは聖都へと向かったのだった……。

ヴァゲイゴルナ

⬆狂気の女神ドムレビイの寵を享け、魔族や妖術師たちをまとめあげた〝妖魔の国〟に君臨する妖魔王。聖戦軍との戦いの後、大魔海に位置した居城を半幽界へと移し、力を蓄えている。彼の軍勢が現界へと侵攻した時、人間界の存亡を賭けた大いなる〝戦い〟が始まる

聖都アル・カゼイナ

⬇〈大陸〉各地にある神殿都市を傘下に置く〝神聖同盟〟の盟主たる都。〈中央高原〉の只中、堅固な台地の上に位置し、南方の岩肌に直接刻まれた階段が唯一の入口となっている。この聖都は訪れる巡礼の姿が絶えたことがなく、強力な結界によって護られている

風の大陸
The Weathering Continent
黄金の海の都アドリエを舞台に展開中の新章
「再会の街」。陰謀うず巻くこの街では、恋さえも
純粋ではいられない。イルアデルとマレシアーナの、
ティーエの、ボイスの想いを呑み込み、
巨大な運命の歯車は回り続ける
AUTHOR
竹河聖
SEI TAKEKAWA
ILLUSTRATOR
いのまたむつみ
MUTSUMI INOMATA

ティーエ（左）とイルアデル（右）の容貌がそっくりなのは、2人の母がいとこ同士という血のつながりからくる。右から2人めがイルアデルの異母妹マレシアーナ。3人めはイルアデルをひそかに慕う奴隷の少女アナイナ

王族に生まれたがゆえの悲劇、というのだろう。イルアデルは孤独な人間であり、幸福ではない。〝親殺し〟と人は彼を呼ぶ。強欲な権力者のイメージを与えるこのあだ名とはうらはらに、イルアデルは本心から権力ゲームを楽しんでいるのではない。むしろ、いやいや参加しているようだ。ごく身近な人間にとって彼は〝いつも金色の眼を同色の睫でけぶらせ、どこか遠くを見ている〟という印象を与えるのだ。大国の王として強大な権力を掌中にし、欲しいものは何でも手に入れられる彼がいちばん望んでいるものは、信頼とか純粋な愛情といった案外あたりまえの人間の幸福なのかもしれない。彼が義妹のマレシアーナに執着するのも、彼女が自分と同じ一族の血を引き、同じように孤独な人間だからなのだろう。

しかし、マレシアーナもまた、王族の娘である。絶世の美貌とたおやかな雰囲気でまわりの人間を魅了しているが、そのじつゼルフト元帥に密書を送り、手を結ぶことをほのめかす。秘かに権力ゲームへの参加を企てているようなのだ。

イルアデルはそれをカンづきながらも、マレシアーナを責めようとはしない。それは、愛に目がくらんでいるためなのか。それとも彼女の両親を自分が殺したという罪の意識からなのだろうか。いずれにしろ、イルアデルとマレシアーナの関係はただの恋愛に終わらず、大国アドリエの権力ゲームに色濃い陰影を落とさずにはいられない。

そして、ティーエ。〝運命〟に会うためにアドリエを訪れ、自分と瓜二つのイルアデルの中に深い因縁を見出したティーエ。しかし、彼がマレシアーナをひと目見て、顔から血の気が引いたのはなぜか。イルアデル同様、彼もマレシアーナに魅かれたのか。それとも……。3人の運命の糸はいよいよからみあい、物語は佳境へと向かう。

アドリエの権力ゲームを彩る美姫の企み、不義の恋、少女の哀しみ……

〝こいつについて行けば、きっと何かがあるに違いない〟そう信じて、ボイスはティーエと共に旅をしてきた。命を助けられたという恩もある。しかし、何よりティーエの無垢な人間性とあまりにも大きな力に魅かれたのである。

そして、そんなボイスのカンは間違ってはいなかった。ティーエの素姓はデン共和国の名家の一人息子だという し、彼の瞳は〝世界〟を現わすという。長い旅のあとにたどりついたアドリエの街の国王イルアデルと、どうやら彼は深い因縁もあるようだ。

しかし、ボイスはまだ気がついてはいない。アドリエの街で、自分自身の運命と〝再会〟することになる、ということを。そして、これまでのような気楽な傍観者ではいられなくなることを……。

もともとボイスはトリニダ王国の宰相の息子として生まれた。順調に行けば、彼もトリニダの名士となれたはずだったのだが、一七歳の時、父が政敵の陰謀で失脚させられたため出国。そのまま傭兵となり、自由戦士となった。一七歳の少年がひとりで生きてゆくのは並大低の苦労ではなかったはずだが、そのことについてボイスは多くを語ろうとはしない。むしろひとりで生きていた年月の重さが、彼を無口にしたのだろう。ティーエやラクシも、あえて多くを尋ねようとはしなかった。

だが、アドリエの街で彼を待っているのは過去との再会。栗色の髪と官能的な肉体の持ち主であるマンレイドと、混血の中年男バリカイとのめぐりあいは、ボイスが語りたがらなかった過去をいやでも白日のもとにさらすことになる。再会の街、アドリエは、ボイスをどこへ導びくのだろうか——。

再会の街で待ちうける栗毛の美女——運命の輪はボイスを捕えて離さない

栗毛で青味の強い灰色の瞳を持った美女マンレイド（中央）は、すご腕の傭兵でもある。傭兵たちの勝利の女神といわれる彼女が、唯一負けたのが、自由戦士のボイス（右）だ。マンレイドは常にバリカイ（左）と行動をともにする

FINISHWORK/I. G. TATSUNOKO
SCENERY/KAORU CHIBA

方舟・野明・カラス……そして鳩と朝日

彼方へと広がる海原を眺めつつ、微笑を浮かべ、方舟の屋上から身を投げた、確信犯・帆場映一。彼が仕組んだ犯罪は、現代に生きる者すべてへの挑戦ともいえる、計算し尽くされたものであった。

……これに対抗できる資格を持つ者。それは、後藤隊長や松井刑事のような、権力に背を向けた人々ではない。彼らの感情は、むしろ帆場に近い。また当然のこととして、海法警備部長や福島課長のような、保守的な官僚ということも有り得ない。つまりこれは、まだ生きる目的にこだわらず、汚れていない野明や遊馬たちのような、若者だけが持つことのできる資格なのだ。

そしていま、暴走プログラムという悪魔に支配されてしまった、現代の方舟のなかで繰り広げられる、両者の戦い。その勝敗は、東京湾に朝日が昇るとき、人々の前に示されることになる……。

なお、特車2課の次の活躍は、1か月のお休みをいただいて、6月号から完全小説版オリジナルストーリーを連載する予定。

機動警察 パトレイバー

AUTHOR
伊藤和典
KAZUNORI ITOU

CHARACTER ILLUSTRATOR
高田明美
AKEMI TAKADA

MECHANIC ILLUSTRATOR
佐山善則
YOSHINORI SAYAMA

半年に亘って、読者の熱い声援を頂いてきたFILE: 2「風速40メートル」もついに最終回！　野明たち第２小隊の面々は、帆場の犯罪と対決のために荒れ狂う海原に漂い、暴走プログラムに支配された方舟へと突入して行く。はたして、最後に勝つのは死者の怨念か？　それとも若者の意地なのか……？

「機体を捨てて、逃げなさい」

あらすじ

“方舟”を解体させなければ、首都圏8000台のレイバーが暴走するかもしれない。後藤は上層部を説得し、台風に乗じて方舟を解体させることにした。帰国した香貫花を加えて特車二課の面々は出動。が、解体直前、進士が方舟の最上階に人影を発見。どうやらそれは、死んだはずの帆場らしい。一方、本部に残ったしのぶたちは、遊馬たちが解体作業に使っているコンピュータが汚染されていることに気がついた……。

FILE:2 風速40メートル ACT.6

「Dレベル第5ブロック、パージ30秒前……職員はただちに他のブロックへ退去して下さい。このブロックは間もなくパージされます……パージ20秒前……」
方舟の暗く巨大な回廊に警報が鳴り響き、あちこちで赤い非常灯が回転している。
コンピュータの合成音のアナウンスにせかされるように、野明のアルフォンスが走っていく。
前方に格納ブロックが見えてくる。
「……第5ブロック、パージ10秒前」
アルフォンスが格納ブロックに駆け込んでほどなく、背後で、第5ブロックが轟音とともにパージされ、落下していく。
圧倒的な量感をもってブロックが闇に吸いこまれていくと、奈落の底から他のブロックを巻き込む破壊の音と方舟全体をどよもすような水音がわきあがった。
「D5ブロック、パージ完了。アルフォンス、D6からD7へ向け移動中」
中央制御室の中央モニターに、パージされたブロックと、移動するアルフォンスを示す光点が表示されている。進士がコンソールに向かった遊馬に状況を読み上げた。
ほんの少しばかりこわばった表情で遊馬もモニターを見上げる。
「次、準備しとくぞ。D7のコードは？」
「FPD00207……せめて上層部への移動を確認してから通過フロアを一気に落とせば――」
「一度に大量のブロックを失うと〝方舟〟のバランス自体が危なくなる……大丈夫。開放系のブロックから優先してパージすれば共鳴効果を相当、減殺できるはずだ」
「………」
進士が言いたかったのは、そういうことではなかった。野明がパージの対象となるブロックにいるうちにパージ・プログラムを起動するやりかたは、野明にとってあまりにもリスクが大きすぎるのではないか。もし、プログラム起動後に、野明に――アルフォンスに何かあったとしたら……。そのことを思うと進士は気が気ではない。が、
「外の様子は？」
遊馬のようすに、進士はあきらめたように計器を読みあげた。
「風速35……今、36をマーク」
「……D7、いくぞ！」
遊馬は必死に焦りを押えようとしている。

「格闘では零式に勝てないわ！」

それは進士にも痛いほどよくわかった。彼らにあたえられた選択肢は、情けなくなるほど少ないのだった……。
「……Dレベル第7ブロックのパージが実行されます」
アルフォンスが走りつづける。
コクピットの野明は、ひたと前を見すえてアルフォンスを走らせつづける。
パージされたブロックが落下していく音と震動が、驚くほど近くに感じられる。フロアの結合部分を切り離す火薬の匂いさえも、鼻をつくように思われる。幻臭だろうか……。
落下は遊馬がコントロールしている。
遊馬を信頼するしかない。
とにかく、サブコントロールへ！
野明は無心にアルフォンスを走らせた。

そして、また、背後でひとつのブロックが彼方の海面に落下していく。パージされ落下するフロアは、下のフロアも圧し潰し、巻き添えにして海に没する。

歯が抜けたように、ブロックの欠如した空間から轟と風が吹きこむ。風は目に見えない妖魔のように〝方舟〟の中を吹きぬけ、駆けぬけていく。

上部フロアがパージされ、嵐の空が顔を見せた格納ブロックにも、塑像のように林立するレイバーの間を、唸りを上げて風が吹き抜ける。

そして——

作業レイバーの無人のコクピットで、深い眠りから目覚めるように、ピピとLEDが発光して、モニターにHOSの起動画面が表示される。

一台だけではない。

波に洗われるように、燎原に広がる野火のごとく、次々とセンサーアイやランプが点灯して、格納ブロックじゅうのレイバーが続々と起動していく。

暴走の〝刻〟がきたのだ。

「あ……あす、遊馬さん！　あれ！——」

ひきつった進士の声に顔を上げた遊馬は、モニターに写しだされたものに目を剝いた。

ありとあらゆる監視用スクリーンに、うじゃうじゃとレイバーの群がひしめいていた。

「——Dレベル、第3、第5、第7！　Cレベルにもっ！　どのフロアの通路もレイバーで一杯だっ!!」

「でも、どうして！　外の風速はまだ40メートルを越えてないのに！」

「シミュレーションが甘かったか、それとも……パージでできた空洞で風が巻いたのかも……」

そのとき、中央制御室の外でカノンの発射音が轟いた。

発砲したのは太田の2号機である。

「かかってきやがれ、この有象無象どもぉぉぉぉっ!!」

ブリッジの向う——闇の奥に、多数のレイバーの光がうごめいていた。

太田が発砲しつつ突進する。

指揮車を盾に、対レイバー用ライフルを構えたひろみのバイザーに遊馬の声がとびこんできた。

「ひろみ！　どうした!?」

「ブリッジの向うに、暴走したレイバーが殺到しています。今、太田さんが突撃しました」

「香貫花は？」

「さっき、武器を捜しに行くといって、そのまま……」

ただおろおろするばかりの進士の横で遊馬が息をのんだ。

「あいつ……まさか！」

その、まさか、だった。

零式のコクピットモニターに、HOSの起動画面が表示され、合成音が、いつでも零式を動かせることを伝えていた。

零式用のヘッドギアをつけた香貫花に、遊馬の声がつげる。

「香貫花、やめろ！　零式は危険だっ！」

だが、香貫花は動じなかった。

「例のウィルスを分離したシステムよ。うまくいけばコントロールできるかもしれない」

「しかし！　どこかに残留していたら——」

「放っておいても、これは脅威になるわ。それに太田の2号機だけでは、そこを支えきれない。一か八か、やってみるまでよ。通信終

わり！」
一方的に無線のスイッチを切って、香貫花は零式を動かした。モニターアイに光がやどり、ズイと一歩踏みだす零式――肩で回転するパトライトが、何かひどく場違いなものに感じられた。
「野明、聞こえるか！ 状況が一変した。予定より早く暴走が始まりやがった。一刻を争う状況だ。全力で目標に向かえ！ 以上だ！」
いうだけいって遊馬からの通信が切れた。
「なぁにが……！」
ギリッと歯がみして野明がつぶやいた。
遊馬に言われるまでもない。野明は全力で目標に向かっていたし、アルフォンスの前にわらわらと群がる暴走レイバーが状況が一変したことをものがたってもいた。
群がるレイバーに追いつめられた壁ぎわで、銃を持ったアルフォンスの右手が壁をさぐり、シュッとマニピュレータを伸ばしてスイッチを押す。
アルフォンスの背中でエレベーターの扉が開いて、野明は後ずさるようにエレベーターカーゴに入り込む。
閉まりかけた扉に、暴走レイバーが手をかけた。野明はリボルバーカノンのトリガーを絞る。ためらっているときではなかった。レイバーがガクンと後退する。が、そのレイバーを押し退けるようにして、さらに別のレイバーがエレベーターカーゴへと迫る。
野明はリボルバーカノンを連射して、閉まる扉ごと、暴走レイバーをブチ抜いた。
にぶいショックがあってエレベーターが上昇をはじめる。
つかのまの静寂の中で、アルフォンスがリボルバーのシリンダーをオープンして排莢する。床に落ちるケースがキンキンと澄んだ音をたてた。この間に弾をつめかえなければならない。野明は片膝立てた形でアルフォンスに腰をおろさせ、コクピットハッチを開けた。
降り立った野明の頬を雨滴が濡らす。
見上げると、エレベーターシャフトの遥かな高みに真っ黒な空が顔をのぞかせている。轟と吹く風の音が長く長く尾を引いた。

17

〝方舟〟最上層――吹き荒ぶ暴風雨の中に、片膝立てた姿勢のままのアルフォンスが上昇してくる。コクピットの野明が唾を飲みこんだ。
すぐ目の前に、異様なシルエットを見せるサブコントロール・タワーが立っている。
そこで待っているのは何か？
野明はラックからライアットガンをはずしてアルフォンスの外にでた。
タワー内の空気はひんやりと湿りけをおびていた。狭い螺旋階段を照らす非常灯の頼りない明りの中を、ライアットガンを手にした野明が足早に昇っていく。
カンカンと響く靴音が、まるで警鐘のように聞こえた。
前方にサブコンの入口が見えてきて、野明は、速度をゆるめる。
ライアットガンを持つ手が汗ばんでいた。
ゆっくりとズボンで手のひらをぬぐい、野明は通路から、そっとサブコントロールルームを覗きこむ。
「……！」
大きく目をみはった野明の口から、声にならないあえぎがもれた。
コンソールの上に、天井のパイプに、窓枠に――カモメ、鳩、スズガモなど、いっぱいの鳥が部屋中のいたるところで羽を休めていた。
「鳥……」
鳥たちを刺激しないように、野明は静かに室内に足を踏み入れる。
窓ガラスが割れて、そこから雨と風が吹きこんでいた。どうやら、鳥たちは嵐を逃れてそこから入りこんだらしい。
大きな羽音に、野明がびくっと振り返る。
と――
威嚇的に翼を広げ、尾を跳ね上げた一羽のワタリガラスの脚で〝666〟のプレートが揺れていた。そのプレートこそ、野明をここまでやってこさせた帆場のIDプレートだった。
カラスが、ギャーッ!! っと、すさまじい鳴き声をあげ、鳥たちが一斉に羽ばたき、騒ぎだす。
「…………」
こんなもののために……こんなもののために、自分はここまで昇ってきたのか……？
激しい感情に動揺しつつも、野明は必死で込み上げるものに耐えていた。
中央制御室に警報が鳴りひびく。
「洋上の瞬間最大風速、40メートルをマークしました！ これ以上、待てません!!」
報告する進士の声も悲鳴に近い。
「野明！ 応答しろっ、野明!!」
遊馬がバイザーのマイクをとおして野明に呼びかける。
ややあって、弱々しい野明の声が返ってきた。
「カラスが……カラスの脚に……プレートが

「……」
「野明、結論だけ報告しろ！　そこに誰かいるのかっ!?」
「いないよ！……ここには人間なんか、いないよぉっ!!」
　そのときだった。モニターの明りだけを残して、スーッと室内の照明が消える。
　そして、メイン・モニターに、ぞろぞろと〝BABEL〟の文字列が這い上がってくる。
　進士が慌ててキーボードを叩くが、
「入力不能!?」
「……メインコンピュータまで汚染されてたなんて！」
　遊馬もショックを隠せない。
　さらに、追い打ちをかけるように、ひろみの声がつげる。
「中央制御室！　こちら山崎！　中央制御室！　応答願いますっ!!　暴走レイバー、なお増加中！　ものすごい数です。正面から押し込まれたら、ひとたまりもありません！　パージを！　パージを急いでください!!」
　中央制御室前。ブリッジ前方の暗闇に、無数とも思えるレイバーの明りがうごめき、妖しく明滅していた。
「……まだ何か……何か、打つ手があるはずだ……」
　〝BABEL〟の文字列がぞろぞろとスクロールするモニターを、凝っと睨みつけて、遊馬がつぶやく。
「……コンピュータを経由しないで……結合ブロックの火薬に直接点火する、バックアップシステムがあったはずだ！」
　茫然と立ちつくしていた進士が、その言葉に反応した。床の上のラップトップコンピュータにとびついて、キーを操作する。
「でも、この混乱の中を、どうやって点火線の場所まで……？」
「いいから早く！」
　遊馬にせかされて、ラップトップの液晶モニターに〝方舟〟の構造図を呼びだす。
　赤いラインで示された、集中点火線の位置は――
「メイン・シャフト頭頂部サブコントロールの真下！」
　遊馬はニヤリと笑って進士を見た。
「やっぱり警官は人命尊重を貫いとくもんだ。ドタン場で大正解……野明の足の下だ！」
　あちこちパーツが脱落してボロボロになった太田機が、もぎとったレイバーの脚を振り回し、群がる暴走レイバーを相手に奮戦していた。
「このヤロ～、これで、どうだぁ～っ!!」
　大上段に振りかぶったレイバーの脚を叩きつけ、バラバラと部品やら破片やらを撒き散らしつつ、さらに横の暴走レイバーをなぎはらう。と、エモノの脚のほうが壊れてしまい、太田機は、一歩出た暴走レイバーに押し返された。
　後退する太田機に、前からも、後ろからも、横からも、暴走レイバーが押し寄せてくる。多勢に無勢、ついに進退きわまったかと思われたとき、
　太田の目の前に、ズンッ！　と、レイバーの頭をつかんだアームが伸びてきた。
　太田機があわてて向き直ると、その前で、暴走レイバーは何者かに持ち上げられ、一気に頭上までさしあげられる。
「……零式！」
　太田の顔が希望にかがやいた。
　零式は、差し上げたレイバーを自分の膝に叩きつけ、胴から真っ二つにへし折った。さらに、素早い抜き手で、次々と暴走レイバーを粉砕していく。
「……スゲェ！」
　圧倒的な強さを誇る零式を、太田はただ唖然と見るばかりだった。
　スクラップの山を築いた零式が、おごそかともいえる動作で、太田機のほうを見る。そのモニターアイに、チチチと反応があって、太田はなにか異様なものを感じた。
「太田さん、香貫花さん、これから全フロアのパージを実行します。中央制御室へ戻ってください！……太田さん！　応答してください!!」
　無線で進士が、そう告げていたが、それどころではなかった。太田はようやく悟った。零式もまたHOSに汚染され、香貫花のコントロールを離れて、勝手に動いているのだということを……
　太田を恐怖が支配した。
　サブコントロールの下層で、フロアがゆっくりとスライドして、集中点火装置がその姿を現わす。
　点火装置の横に降りた野明が、小さなパネルのキーを操作すると、信号銃と信号弾がせりあがってきた。取り出して、手早く装塡する野明に遊馬が指示を送る。
「点火して30秒で、全フロアが連続的にパージされるはずだ。一挙に重量を失った〝方舟〟がどうなるか見当もつかん。点火後もその場を一歩も動くな！」
「…………」
「いいなっ！」
　野明はアルフォンスを置いてある外の方を、チラとうかがう。アルフォンスをあのまま放っておくわけにはいかない。

「復唱しろ、野明！」
「了解！」
野明の取るべき行動は決った。
「点火！」
信号銃をかまえ、トリガーを引く。閃光とともに、集中点火装置の中心から、導火線の火が八方に走った。
「点火確認！」
いうと信号銃を放りだし、ためらうことなく走り出した。外へ。アルフォンスのもとへ。
外では風が、さらに強さをまして荒れくるっていた。野明の小さな身体が、風にさらわれそうになる。嵐の中にうずくまって野明を待つアルフォンスまでの距離が、異様に遠く感じられた。パージが始まる前に、アルフォンスのコクピットにもぐりこむことができなければ、野明の明日は存在しない。

中央制御室の壁を突き破って、頭のとれた太田機がとびこんでくる。
「……香貫花……香貫花さんが！」
後ずさるように入ってきたひろみが言ったとき、太田機が破壊した壁を、さらに押し崩して、太田機の首をぶら下げた零式が、ヌッとその姿を現した。

ようやくコクピットに入りこんだ野明がアルフォンスを立たせるのと、〝方舟〟全体に小さな震動が走りはじめるのとが、ほとんど同時だった。
野明はサブコントロールのあるタワーめがけて、アルフォンスを全力疾走させる。
あとわずかのところで、グラリとフロアが傾いた。アルフォンスがすかさずジャンプする。コンマ何秒かの差で、足元のフロアが強制パージされて崩れ落ちていく。

間一髪、アルフォンスはサブコンの壁を這うパイプに飛びついた。

〝方舟〟の中核をなすメインシャフトとフロアの結合部分で、次々と火薬が発火して、各フロアが、一斉に落下を開始する。
嵐の中で、各層のフロアが雪崩をうって崩れていく。大崩壊が始まったのだ。
激しい水しぶきを上げて〝方舟〟のシルエットが変貌していく。
荒れ狂う海面に、重量を失って〝方舟〟のフロートが浮上し、それにともなってサブコントロールのあるタワー――メインシャフトが、その奇怪な全貌を現した。
中央制御室では遊馬と進士が、めくれあがる床に必死でしがみついていた。

その傍らで、ひろみが2号機から太田をひきずり出そうとしている。
零式は、いまや落下するパイプ類に埋もれようとしていた。
気を失っているものはともかく、全員、崩れたパイプの隙間で、生きた心地もない。
ギギギ……と、嫌なきしみを立てて床が大きく傾きだし、遊馬と進士は傾斜に耐えきれず、床の上を滑りだした。
フロアを失ってバランスを崩した〝方舟〟は、大波に翻弄され暴風に煽られて、さらに傾きつつあった。
シャフトの頭頂部から、風に吹き千切られるように鳥たちが飛び去っていく。
傾きつづけるシャフトは、ついに、その自重をささえきれず、途中で裂け、折れようと

していた。
パイプにしがみついたアルフォンスで、野明もこの衝撃に耐えようとしていた。が、パイプがもたなかった。
アルフォンスが傾いた外壁を滑り落ちていく。野明は咄嗟にワイヤーを繰り出した。
へし折れたシャフトが倒壊していく。
爆発的な水柱を上げて、海に没していく。
このとき、首都圏は台風の猛威のただ中にあった。

18

暗闇に警告音が鳴っていた。
アルフォンスのコクピットでバッテリー警告灯が点滅している。
ボンヤリと見ていた野明が、ハッと正気にもどり状況を確認する。
アルフォンスは航空標識灯のアームにワイヤーで宙吊りになっていた。
雨はやみ、急速に雲が流れる。
夜明けが近い。
ワイヤーを巻き上げ、器用にパイプを伝ってアルフォンスを甲板に立たせる。
「遊馬ァ〜！ 進士さぁ〜ん！ 香貫花ァ〜！」
構造材やレイバーの残骸が散乱し、壮大な廃墟と化した〝方舟〟の甲板を野明の声がわたる。
「ひろみちゃ〜ん！ 太田さぁ〜ん！ 誰か返事してよぉ〜!!」
と、背後で、瓦礫が崩れ、98式によく似たシルエットが立ち上がった。
「太田さ――」
いって振り向いた野明は、それが2号機ではないことに気づいた。
じっと見つめる零式のモニターアイが赤く光って、バシャッ！ とフェイスガードが跳ねあがる。
野明は悪意を感じた。
それにつづく零式の動きはすばやかった。繰り出された抜き手に、アルフォンスのショルダーパットがはじけ飛ぶ。
ザッと間合いをとってアルフォンスは即座にガンホルダーを開き、カノンを抜いた。
スクラップを押上げて、太田を背負ったひろみが、ひょいと顔を出し、同じくスクラップの隙間から、すっかりボロけた遊馬と進士が這いだしてきたのは、そんなときだった。
前方、足場の悪いヘリポートのほうへ後退していくアルフォンスと、迫る零式が見えた。
零式は足場の悪さに動じることなく黙々と間合いをつめていく。
アルフォンスが、ジリジリと後退しつつ、リボルバーカノンを向けると、
「やめろ野明！ そいつには香貫花が乗ってるんだ！」
遊馬の声に野明は、思わず銃をひいた。
零式がその隙を逃さず、すかさず踏み出して、抜き手をくりだす。
アルフォンスは危うく避けるが、銃をはじきとばされた。
前進する零式と後退するアルフォンス。
瓦礫から大きく海に張り出したヘリポートの上で対峙する2機を水平線に昇る朝陽が染めあげていく。
野明にはあまり時間が残されていなかった。バッテリー警告灯の点滅間隔が短くなっている。動けなくなるまえに、なんとか決着をつけなければならなかった。
「香貫花！ 香貫花っ!! 香貫花っ!! 答えて!!」
野明が懸命に呼びかける。
その声が朦朧とした香貫花の意識をゆり起こした。モニターから即座に状況を読み取って、香貫花がいう。
「機体を捨てて、逃げなさい。格闘ではこれに勝てないわ！」
「なんとか止められないの？ 起動用ディスクは？」

「抜いたわ。抜いてリセットしても、まだ動く！　おそらくパターン学習用のS－RAMに潜りこんだウィルスがプログラムを修復してるのよ」

野明は考えた。確かに、格闘では零式に勝てないかもしれない……しかし、しょせんは機械ではないか。しかも、今は人間のコントロールを離れているのだ。勝算はある――

「S－RAMの位置は？」

「98式と同じ、首の後ろ」

「了解！」

言うが早いか、野明はアルフォンスを突進させる。零式は、シュン！と抜き手を繰り出してくるが、アルフォンスは、その腕をガッキと脇に挟みこんで零式の動きを封じた。

小爆発があって、アルフォンスのエスケープハッチが落ち、コクピットの野明がむきだしになる。

「もらった！」

野明はライアットガンをつかんで、跳び出そうとした。が、

少しずつ少しずつ、アルフォンスの機体がもちあがっている！

零式の凄じいパワーで、アルフォンスの脚がついにフロアから浮き上がった。

駆け寄ろうとしていた遊馬たちも、思わず立ち止まり、息をのんでなりゆきを見守っていた。

腕1本でアルフォンスを高々と差し上げた零式は、さらに、肘を入れ、逆にアルフォンスの左腕をへし折ってしまう。

倒れこむアルフォンスは残った右腕で咄嗟に、むきだしのコクピットをガードした。しかし、落下の衝撃で、フロアの一部が崩れ落ちる。

ゴウと風に煽られた野明が見たのは落下する破片を吸い込む、奈落のような海面だった。

「野明、逃げろ！　イングラムじゃ勝ち目はない!!」

「…………」

スペックの問題としてなら勝ち目はないかもしれない。だが……

コンのやろぉ～、と野明の負けん気が頭をもたげる。

立ち上がり、零式に向き直ったアルフォンスは股間のウィンチを急回転させてワイヤーを送りだし、その先端を右手でつかんで手首に固定、零式に突進する。

同じく、突進して向かってくる零式にワイヤーを投擲。ワイヤーが零式にからみつく。

「野明っ！」

遊馬の声が野明にとどいたかどうかは定かではない。

激突したアルフォンスと零式は、からみあったままズバーッとヘリポートの甲板をブチ抜いて、落下した！

ボロボロとこぼれる床材の中で、零式が、ヘリポートを支える鉄骨につかまる。

アルフォンスはその零式を介して、ワイヤー1本で宙吊りになっていた。

零式は、アルフォンスと自分の重量を支えつつ、鉄骨に腕を立て、なおも身体を持ち上げようとしていた。

ショックアブソーバーを跳ね上げた野明が、ライアットガンを手に、コクピットからとびだす。アルフォンスの腕から鉄骨へ、そして零式へ、巧みに昇って野明は零式の顔に取りついた。と、零式のフェイスカバーがガバ！と割れて、野明ははじきとばされそうになる。

かろうじて零式の首の後ろにしがみつき、パネルに手を伸ばす。S－RAMの収納された小さなハッチが開いた。

片膝をついて、ライアットガンに装弾する。

零式が、ギギギと首をめぐらせ、アンテナユニットで野明をはらおうとする。

野明はタイミングを計り、一挙動で構えて、ライアットガンを発砲した！

零式の動きが止まる。

野明の身体からふっと緊張がとけた。

刹那、零式は腕一本で身体を持ち上げ、ズーン！と甲板上に頭部を現わした。

振り落とされそうになって、必死にしがみついた野明が、すばやく体勢を立て直す。

「このぉ～っ！　止まれぇぇぇぇぇっ!!」

猛烈なスピードでポンプアクションを繰り返し、RAMユニットを撃ちぬいた。

零式のすべての光が消えて、コクピットのモニターに『NO　FILE』の表示が出る。

今度こそ、零式は完全にその動きを止めたのだった。

零式の首からコロンと甲板にころがって、野明が大の字になって虚脱している。

「野明ぁあっ！」

遊馬たちが駆けてくる。

「やたっ……やっ……た」

ハァハァと荒い息をしながらも、笑みがこぼれる。大の字になったまま空を見上げる野明の目から、ぼろりと大粒の涙があふれた。

遠く、ヘリのローター音が聞こえてくる。

台風一過の青空を救援のヘリ隊が接近してくるのが見えた。

先頭のヘリには後藤の、しのぶの、シゲの手を振る姿があった。

野明が晴ればれとした笑顔で手を振りかえす。

朝陽を浴び、瓦礫の山となって漂流する〃方舟〃の上空を鳩が飛んでいた。

了

いかづち

雷の娘シェクティ
Shekty

AUTHOR
嵩峰龍二 RYUUJI TAKAMINE
ILLUSTRATOR
末弥 純 JUN SUEMI

聖都アル・カゼイナで互いの秘密を打ち明ける約束を交わしたシェクティとレマ。
気まずい思いのまま旅をつづけるシェクティたちの前に聖都がその姿を現わした……。
波乱の予感に満ちた「シェクティ」第二部の開幕!! はたしてシェクティはどこへ行くのか!?

第十二回
「運命の一夜」

前回までのあらすじ

雷神ズラドウラの娘として生まれたシェクティは、泉の都アドレガで出会った吟遊詩人レマとともに旅をするうちに、レマのもうひとつの姿"風の狂戦士"を知り親近感を抱くようになった。だが、レマの使命はシェクティを神の御子として育てることだった……。妖魔王の息子ダーラと出会ったシェクティは、ダーラから求婚され婚約の証として"指輪"を渡されるが、レマにはこの事を話さなかった……。

その一

聖都アル・カゼイナ——それは、〝神聖同盟〟の盟主たる永遠の都であった。

すべての〝神殿都市〟をその傘下に置く、ということはつまり、『〈大陸〉の何分の一かの面積を占める大沙漠地帯のほぼ全域を、事実上支配している』という意味だ。

また、遥かなる伝承によれば、この都は今を去る二千年あまり前に、世の堕落を憂えた七人の大賢者たちの手によって築かれたものであった。とはいえ、物理的な規模それ自体は決して〝巨大〟という程ではない。人口もいい実質は三万に満たぬだろう。

『来るべき〝大洪水〟に備えて造られた』と云うだけあって、場所は〈中央高原〉の只中、揺るぎなき磐石の重みを備えた広大な台地の上が選ばれていた。ここならば確かに、いかなる大洪水によっても決して侵される心配はあるまい。

その台地は三方をほとんど垂直な崖によって囲まれており、ただ南方にのみ下界へと続く斜面が拡がっていた。それも、人間がようやく登れるほどの急勾配だ。岩肌に直接刻まれた広大な階段を登るより他には、この都に辿り着く手段は全く無いと言って良かろう。また、長大な階段の要所要所には頑丈な楼門が築かれており、一朝事あらば聖都全体を難攻不落の城砦と化すことのできる構造となっていた。

それでも、その階段を登って聖都を訪れる者は、連日連夜、全く跡を絶たなかった。行き交う聖職者たち、貢納金を運ぶ各都市の代表たち、祭礼めあてのさまざまな芸人や商人たち、そして、莫大な数の巡礼者たち——。

八大神を崇める者たちにとって、聖都巡礼は云わば〝信仰の証〟であった。それ故にこの大沙漠地帯では、老いも若きも男も女も富める者も貧しき者も、脚の動く者はみな一生に一度は必ずこの都を訪れようとする。

だが、旅に危険はつきものであった。盗賊に襲われたら、たとえ命は助かっても奴隷としてどこかへ売り飛ばされる程度のことは当然だし、沙漠で道に迷えば、そのまま野垂れ死ぬこと請け合いである。

だから、巫女や先達らに導かれつつ、自衛力を備えた隊商とともに行動するのが、巡礼の常道であった。隊商を率いる大商人らにとっては、無力な彼等に同行を許すことは神殿への寄進にも勝る〝善行〟なのだ。

そして今、ここにも一隊、聖都アル・カゼイナをめざす隊商の姿があった。

数多の荷を負うた平背獣の群れ、駱駝鳥に乗った武装商人たち、道案内の先達と騎竜を駆る傭兵ども——ここまで登って来る隊商としてはなかなかの規模である、と言って良いだろう。

また、彼等の後方には、その素質ゆえに聖都へと召されたうら若き巫女たちや来る冬至の大祭を当て込んだ旅芸人の一座、それに各都市からちらほらと集まった貧しき巡礼者の一団が続く。そして最後尾には、シェクティとレマとファリィの姿もあった。

白の妖精王ユリエドナとの邂逅から、すでに四か月が過ぎ去ろうとしている。

今、十三歳の少女は例の木箱を背負って独り駱駝鳥の背に跨り、平背獣に乗った美しき吟遊詩人から半ば意識的に〝距離〟を保っていた。物理的にも、感情的にも——。

あの夜以来ずっと、或る種の気まずさが二人の心を微妙に分け隔てていた。

決して疎んじている訳ではない。決して大切に想っていない訳でもない。だがそれでも、互いに視線が合うなり、言葉が喉の奥で妙にたじろいでしまうのだ。そんな不自然な日々が、もう百日以上も続いていた。とうに夏は終わり、秋も過ぎ、〈中央高原〉ではすでに雪も舞い始めている。

何か言葉をかけねば、とは思いながらも、不用意な一言でまたこの微妙な均衡を崩してしまうことが、何よりも怖かった。聖都に辿り着くその日を待ち焦がれながらも、同時に心の奥底ではそれを最も怖れていた。そんな矛盾と錯綜に満ちた想いが今、二人の心を満たしていたのだ。

また、二人の間柄から、かつてのような遠慮のない気安さが消え失せてしまったことに関しては、実はもう一つの理由があった。他でもない、シェクティ自身の肉体である。

初潮を迎えてはや九か月——男装の生活が長かった少女の心にも、否応なく〝女性〟としての自覚が深まりつつあった。だが、自覚が深まれば深まるほど、何故か、レマの顔を直視することができなくなってゆくのだ。

初めてレマと出逢った頃には彼の胸許までしかなかった少女の背丈も、今ではレマの顎に届くほどになっていた。月毎に胸も膨らみ、次第にロニィそっくりになってゆく——そんな少女の姿は、レマにとってもやはり、直視しづらいものであったに違いない。

ともあれ、今——冬至を半月後に控えた秋火の月の十四日、朝——一行はついに、聖都アル・カゼイナの威容をその視界に収めたのであった。

その二

こんなにたくさんの石材、一体どーやってこの高台まで運び上げたのかしら？

まず、それがシェクティの第一印象であった。或いは、何か魔法の力によるものなのかも知れない。

ほとんど半日がかりでようやく石段を登った隊商の一行は、そのまま南正門をくぐって聖都アル・カゼイナに入った。聖都の周囲はぐるりと堅固な城壁によって囲まれている。そして、門と呼べる存在は南側の城壁にのみ設けられていた。他の三方には、全く必要がないからだ。

南正門をくぐると、商人たちは巡礼者たちに別れを告げて隊商宿へと向かった。広場に残された巡礼者たちも三々五々、今宵の宿を求めて街路の人混みの中へと溶け込んでゆく。この都には入れ替わり立ち替わり、居住人口の倍近い人々が訪れているのだ。大祭の当日ともなれば、おそらく総人口は十万にも達することだろう。

聖都に住む三万の人口は、そのおよそ半数までが聖職者階級によって占められていた。農業に従事している者は、女子供を合わせてもなお一万にすら満たない。にもかかわらず

この都は食糧を完全に自給することができ、なおかつ大祭に際しては十万の大人口をも養うことができるのだ。
その秘密は、神官らの指導の下に行なわれる〝魔法農業〟にあった。すなわち、月齢や星位が植物の成長に及ぼす影響力を考慮し、それを儀式的手段によって増幅または削減するという農法である。これを用いれば、このように寒く雪の多い土地に於ても、普通の農地の何倍もの収穫を得ることが可能なのだ。
ともあれ、シェクティたちは今、広場の一画にぽつりと取り残された形となっていた。刻限はすでに夕刻である。
「で、これからどこ行くの？」
シェクティはやっとのことで、その重たい口を開いた。すでに吐く息も白く、二人とも毛織りの外套で身を覆っている。
「早飛脚を出しておきましたから、迎えの者が来てくれているはずなのですが……」
レマの言葉どおり、じきに供の小姓らを連れた一人の老神官が広場にその姿を現し、疾くレマの許へと歩み寄って来た。もっとも、神官の服装はしていない。まるで平民のようなその身形ゆえ、レマの方は一瞬、相手の正体に気づくのが遅れたようだ。レマは慌ててファリィの背から降り、シェクティもそれに倣った。
二人はまず、軽い会釈を交わす。そして、人目をはばかるような小声のやりとりがそれに続いた。
――一体どーなってんのかしら？
シェクティにはまだ、今一つ状況がよく呑み込めていない。
「では、こちらへ」
ともあれ、老神官はそう言って、来た道をまた足早に戻り始めた。二人の小姓もぺこりと頭を下げ、各々、ファリィと駱駝鳥の手綱を手に歩き始める。レマは二人の娘に視線で合図を送り、三人は彼等の後に続いた。
市街を縦断するのに、たっぷり小半刻はかかる。
聖都アル・カゼイナの外形は、一言で言ってしまえば凸型であった。四角い市街の北側に、もう一つの小さな四角がくっついた形である。二つの四角は、云わば〝聖〟と〝俗〟――この都の中枢たる〝大神殿〟は、大教主を初めとする高位聖職者たちの住居とともにその小さい四角の方に建てられていた。
南北が東西の倍ぐらいはあるだろうか。平坦な市街地とは異なり、その土地には緩やかな北高南低の勾配がついている。手前半分は単なる参道などに費されており、至聖所たる〝大神殿〟はその奥の奥、聖都の北端部――この台地で最も高い場所にあった。その北側はすぐに切り立った断崖となって深い谷底に落ちている。この都の上水はすべて、その谷底を流れる急流から、魔法の力によって汲み上げられたものだ。
また、〝聖〟と〝俗〟と分け隔てる巨大な真鍮製の門は、古来、黎明とともに開けられ、日没とともに閉じられるが定めであった。一般の人々が〝大神殿〟に参拝することができるのは昼の間だけなのだ。
そして、太陽は今まさに、山々の頭を覆う遥かな雲海の中に没しようとしていた。参道では日没を告げる鐘が鳴らされ、巨大な門は続々と参拝者たちを吐き出し続けている。
ともあれ、一行は聖職者用の小さな通用門をくぐって内部に入った。
西天はいまだ朱く燃え立ち、中天はすでに昏く、東天からはわずかに満ち足りぬ〈中の月〉が、その真白き姿を現している。そして、前方に聳え建つ巨大な白亜の殿堂は、今しも日月の光に左右を等しく照らされて、まさにこの世のものならぬ美しさと荘厳さを体現していた。
小姓らは各々の手綱を樹に結わえてその場から退出する。それを見送った老神官は、
「どうぞこちらへ。先程から大教主様がお待ちかねです」
と、二人を誘った。レマはそれにうなずき応えてから、平背獣の額をそっと優しく撫でさする。
「それでは、ファリィ。済みませんが、しばらくここで待っていて下さい」
――はい、レマ様♡
ファリィは老神官の手前、肉声には出さずにそう応えた。

「では、行きましょうか、お嬢さん」
「うん」
シェクティは言葉も少なく、老神官とレマの後に続く。
四か月前、レマは確かに、『聖都に着いたら必ず、大教主の前ですべての〃真実〃を語る』ことを約束してくれた。その瞬間は今、刻一刻と近づいている。
だが、少女は心の奥底から湧き上がって来る不安をどうしても消し去ることができなかった。語られる〃真実〃とは、一体何なのか？ 自分とレマは一体どうなるのか？ またどこかへ旅を続けることができるのか、それとも引き離されてしまうのか？ いや、そもそも、レマとは一体何者なのか？
悩み始めると、もう本当に際限がなかった。
だが、不安に駆られているのはレマとても同じことだ。もっとも、レマの方はここに到ってもう一つ、新たな不安の種を抱え込んでいた。
レマの眼には解るのだ。一般の民衆には、まだ何一つとして知らされてはいないようだが、参道を行き来する神官たちの背には何かが、何かが重くのしかかっている。九年前に比べると、神官の〃質〃もかなり変わって来たようだ。或いは、自分が務めを怠っている間に、何らかの事態がかなりの程度まで深刻化してしまったのかも知れない。
各々の不安を胸に、シェクティとレマは緩やかな石段を登り、やがて〃大神殿〃へと到ったのであった。

その三

「どうしてさ？ 『お待ちかね』だって言うから急いで来てやったのに」
シェクティはしきりに不平をこぼした。老神官が二人を部屋に残して立ち去った後、入れ代わりに現れた一団の巫女たちが、用意が整ったので早く湯浴を済ませるよう、二人に勧めたのである。
「貴人の前に出る時は身だしなみにも気を使うものですよ」レマはそう言ってシェクティをなだめすかした。「今の私たちは埃だらけで、お世辞にも清潔とは言えませんからね」
「……解ったよ。入りゃいいんでしょ」
少女は唇を尖らせ、嫌々ながらに納得した。昔から、風呂は苦手なのだ。ただ単に、慣れていないだけだという話もあるが――。
ともあれ、シェクティは横目でレマの涼しげな表情をねめつけ、続けた。
「けど……覗くなよ」
「そゆう趣味は、持ち合わせていないつもりなんですが……」
両者とも、今はこれが精一杯の軽口であろう。
そして、二人は各々、別室へと導かれていった。言うまでもなく、この神殿の浴場は男女混浴ではないのである。
シェクティはいつの間にか、十名を越す浴場づきの婢女たちに取り囲まれていた。
「服ぐらい一人で脱げるってば！」
少女は、母娘ほども年齢の違う女たちを追い散らし、あらかじめ湯気で暖められていた脱衣所の中、素早く服を脱ぎ始める。だが、抜こうとした右袖が、ふと何かに軽く引っかかった。
薬指にはめた〈指輪〉だ。
服を脱ぎ直しながらも、シェクティはふとダーラのことを思い出していた。突如として彼女の前に現れた奇妙な求婚者――この指輪は、その少年から贈られた〃婚約の証〃であった。
『半年経ったら、オレは必ずお前を迎えに行く。お前が現界の何処にいようと、オレは必ずお前を見つけ出す』
彼はあの日、そう言ってシェクティの許を去っていったのだ。
――あれが確か、春地の月の十八日のことだったから……そっか、もうほとんど半年になるんだ。
何にせよ、指輪をはめたまま風呂に入る訳にはゆくまい。シェクティは木箱の裏側にある小さな蓋を開け、そこへ指輪を丁寧にしまい込んだ。
「ホントに大事なものばかりなんだからね。この木箱にゃぜーったいに、指一本触わるなよ。誰にも触わらせるなよ」
何度もそう念を押してから、シェクティはようやく浴室に入った。かわいそうに、婢女の一人はそこで木箱の見張り役に回されてしまう。
そして、泡だらけにされたシェクティが、あまりのくすぐったさに悲鳴を上げたりしている間に、脱衣所には至極上等な着替えが運び込まれた。着つけ係の婢女たちを率いているのは、熟練の巫女頭である。
だが、彼女はそこで、およそ場違いな魔性の呪力を感じ取ってしまったのであった。
大教主――それは、八大神を奉ずる僧職者たちの中でも〃最高の位階〃を表す階級名であった。云わば、聖都アル・カゼイナの頂点に立つ人物――大神官の中の大神官である。
その役職は決して血統に依らず縁故にも依らず、古来、神託による指名と厳格な終身制によってのみ受け継がれてきた。神々に選ばれた者が常に、その才能と徳目に於て最高の人物だったことは言うまでもあるまい。
事実、当代の大教主アル・ザラーマ十三世も『半世紀前にこの都の門をくぐった時からすでに〃不世出の神童〃と呼び讃えられていた』と伝えられるほどの人物であった。レマとは、九年ぶりの再会となる――。
一人で手早く沐浴を済ませ、持参した新品の服に着替えた後、レマは先の老神官の案内によって、大教主の待つ一室へと導き入れられていた。
レマも、事前に少し二人だけで話がしたいとは思っていたのだが、どうやらそれは教主の方も同じだったようだ。私的な面会ゆえ、場所も仰々しい〃謁見の間〃などではなく、廊下に直接面した何の変哲もない一室である。
アル・ザラーマ十三世の容貌は、とても七十近い老齢とは思えぬほどに若々しいものであった。髪もまだまだ黒く、十二年前にレマが初めて逢った時と比べても、ほとんど老け込んではいない。やや痩身ではあるが、座席にどっしりと腰を落ちつけたその姿には、充分な〃重み〃があった。暖かな微笑の中にも、ごく自然な威厳が備わっている。
老神官が退出して扉を閉めると、レマはまず、作法に則って片膝をつき、深々と頭を垂れた。
「レミスカグナ、只今戻りました」
「長年のお務め、御苦労。実に良いところに帰って来てくれました」
穏やかな、それでいて張りのある声だ。
「いえ。到着が大変遅くなりましたこと、慎んでお詫び申し上げます」
「うむ。まぁ固苦しい挨拶はそれぐらいにして掛けなさい。これから、あなたにはいささか重要な話をせねばなりません」

レマはまた一礼して立ち上がり、大教主と差し向かいの席に着いた。
「昨年の夏に最初の報せを受けて以来、私たちは長らく〝神の御子〟の到着を待っていた訳ですが——まぁ、その話題はひとまず後にしましょう。それよりもまず、あなたの質問にお答えしておくと、確かにこの数年、全体的に見て神官の〝質〟は低下しています」
　レマはかねてから、早飛脚を使ってその辺りの事情などを尋ねていたのである。
「ですが、何故そのような事態に？」
　そこで、アル・ザラーマ十三世は唐突に話を切り出した。
「ヴァゲイゴルナという名を御存知かな？」
「はい。リンディで一度、妖術士の口から聞かされたことがあります。確か、〝妖魔王〟とか……」
「うむ。私たちが初めてその名を耳にしたのは、五年前の夏のことでした。何でも〝西の封印〟で邪神の寵を享けた、とかいう触れ込みで——」
　五年前の夏と云うことは、シェクティが雷に撃たれ、〈天雷の剣〉を手に入れたのとほぼ同じ時期か——レマは心の片隅でそんなことを考えながらも、ふと教主に問うた。
「西の封印、と云うと、狂気の女神ドムレビィの？」
　四邪神の封印は、物理的には〈大魔海〉の四方に一個ずつ置かれているのである。大教主は深々とうなずき、言葉を続けた。
「最初は私たちも、ただのはったりだと思って——下等な妖術士どもの間ではよくあることですからね——事態をさほど重く見てはいませんでした。ですが、念のため調べに遣った神官たちは誰一人として還らず、そうこうしているうちに、奴めは〈大魔海〉の只中に城を構えて〈大陸〉中の名だたる妖術士どもを次々とその傘下に収めていったのです」
〝妖魔王〟が決して地方的な存在ではなかったことを知り、レマは思わず蒼然となった。
　古来、四邪神の崇拝者どもは言う内容が互いにばらばらで、その教義は必ずしも、正統な八大神崇拝のように一本に体系化されている訳ではない。故に、個人的なつき合い程度ならばともかく、妖術士同士が崇める邪神の違いをも超えて結束・組織化されるなど、常識的に考えれば到底あり得ない事態であった。
　つまり、ヴァゲイゴルナなる人物には、その常識を覆すだけの実力がある、という意味だ。
　大教主はさらに続けて言った。
「そしてその年のうちに、奴めは〝大儀式〟を完成させたとかで——その儀式が具体的に如何なる代物だったのかは、全く解らないのですが——まさしく闇の世界に〝王〟として君臨する身となりました。
　妖魔軍侵攻の兆候が見え始めたのも、ちょうどその頃でしょうか。とはいえ無論、そんな情報を公開したら、一般民衆は恐慌を起こしてしまいます。行動は隠密裡に進めねばなりませんでした」
「行動、とおっしゃいますと？」
「秘かに〝力〟のある神官たちを聖都に呼び戻して〝聖戦軍〟を組織し、敵の体勢が整わぬうちにこちらから討って出たのです」
　これには、さしものレマも驚愕した。その決断力といい、行動力といい、やはり、この教主、只者ではない。
「奇襲の結果は——一言で言ってしまえば、痛み分けでした。この一戦で敵の勢力は一旦大きく後退しましたが、こちらもそれ以上の潰滅的打撃を被っていたのです。私を初め何とか生還できたごく一握りの者たちも、その後は長らく体勢の立て直しに忙殺される日々を送りました。
　私自身もその戦いで脚腰を傷めてしまい、今なお、歩くにも不自由している始末です。それで、根本的な人手不足なども手伝い、泉の都の変事などに関しても、長らく気がつかずにおりました。どうやら、あの一件ではあなたにも随分と手間をかけさせてしまったようですね」
　要するに『第一級の人材の大半は、五年前の秘かなる戦いですでに失われてしまっていた』と云うのである。それならば、人材の養成過程が簡略化され、その結果として全体的な〝質〟が低下してしまうのも、確かにやむを得まい。
「いえ、私はただ、御子に少しばかり〝力〟をお貸ししたまでです。それより、奴等はその後、何か？」
「この現界からは完全に姿を消してしまいました」大教主はまず、端的に事実だけを述べた。「おそらく、年が明けるとともに、奴めはその居城ごと〝妖魔の国〟全体を半幽界へと移したのでしょう。それで、今のところはまだ、我々の世界にも一応の平和が保たれている、という訳です。ですが、所詮はかりそめの平和、云わば〝嵐の前の静けさ〟でしかないでしょう」
　つまり、『現在は秘かに〝力〟を蓄えているが、やがて期が熟せば、妖魔の軍勢は現界への本格的な侵攻を開始するだろう』という意味だ。
「問題は、その嵐がいつ始まるか、ですね」
　そうしたレマの問いに、大教主は深々とうなずき、そして恐るべき内容をいともあっさりと言い放った。
「その通りです。思うに、早ければ次の満月——すなわち、明晩にでも始まるでしょう」
　刹那、燭台の灯火が風もないのにゆらゆらとゆらめく。心なしか、窓から射し込む月光までもが不意に翳りを帯びたようだ。レマの表情は今や、そんな薄暗がりの中でもそれと解るほどに、蒼ざめていた。
「特に何か具体的な情報が入った訳ではないのですが、星回りから判断して明晩あたりが何やら危うそうなのですよ。何しろ、歳星を除く六つの惑星がことごとく〝変化の宮〟の上で一直線に並ぶのですから」
「……そうでしたか」
　その星位が相当に特殊な代物であることはレマにでも解る。
「だから、私は最初に『良いところに帰って来てくれた』と言ったのですよ。あなたたちの〝力〟、貸していただけますね」
「はい、もちろん喜んで」レマは間髪を入れずに、そう即答した。「ですが、教主様、それなりの〝用意〟はできているのですか？」
　これだけの話を聞いた後では、レマが心配になるのも無理はあるまい。だが、大教主は落ち着きに満ちた口調で応えた。
「すでに、〈大魔海〉の南岸部では主力部隊が敵の侵攻に備えています。過去に何度か小競り合いのあった〝南の封印〟へも、すでに相応の軍勢を遣りました」
「……それでは、聖都の防衛網は？」
「やや手薄になりはしたかも知れません。ですが、相手が幽鬼妖魔のような半幽界の存在である以上は、まず大丈夫でしょう。神話の時代から営々として築き上げられて来たこの都の〝結界〟は、内側から誰かが呼び込みでもしない限り、そう簡単に破られる心配はありません」

自信に満ちた口調である。
「それを聞いて安心いたしました」
「ただ――直接的な攻撃よりも心配なのは、むしろ心理的なゆさぶりです」
「と、おっしゃいますと？」
「この都を護る神官たちの中には、まだ実戦経験の不足している者も多く――己の責務に忠実たらんと欲するあまり、やや神経過敏になっている者もいるらしいのです。訊けば、先日も『挙動不審』を理由に無辜の巡礼者を咎めだてた神官がいたとか。
　これは無論、人材の育成に際して、〝心〟よりも〝力〟に重きを置いてしまった私たちの責任なのですが――こうした疑心暗鬼を巧みにつかれたりすると、或いは危いかも知れません」
　今度は一転して、深い悔悛の念に満ちた口調であった。だが、妖魔王の〝力〟に対抗するためには、それもまた、やむを得ない処置だったのであろう。
　ともあれ、この時点ではまだ、二人は知る由もなかったのだ。よもや、その疑心暗鬼が〝神の御子〟にまで向けられようとは――。
　今まさに、運命の歯車は常ならぬ急転を遂げようとしていた。

その四

　その頃、シェクティは部屋に戻ってむくれていた。
　くたくたになって湯から上がると、いきなり新品の服をお仕着せられてしまったのだが、その服がまた、いかにも女の子女の子したかわいらしい白のドレスだったのである。
　――腹へったよぉ、足がすーすーして寒いよぉ。こんな体に悪い服、着せやがって、ばかやろー。ったく、レマの野郎はどっかにいっちゃうし……。
　シェクティは心の中で勝手なことを喚き続けていた。もっとも、こんな格好をしている時に、現実にレマが隣にいたりしたら、それはそれでまた、赤面しつつ何かを喚き出すに決まっているのだが――。
　一方、敏感に魔性の呪力を嗅ぎ取った巫女頭は、シェクティを部屋まで送り返した時に、その〝力〟の源泉が少女の右薬指にはまった一個の指輪にあることを突き止めていた。
　――でも、これは私の判断を超えた事柄だわ。
　そう思った巫女頭は、感知・鑑定を得意とする知己の神官にその旨を伝える。後にして思えば、それが〝大いなる過ち〟の発端だったのであった。
　唐突な睡魔に襲われ、シェクティは椅子に座ったまま夢現の中を彷徨っていた。
　――シェクティ。どこだ？　シェクティ。どうして何処にもいないんだ⁉
　遥かにダーラの叫びを耳にしたような気がする。過ぎ去りし日の光景が、まざまざと眼前に蘇った。だが、そうした夢現の状態は、荒々しい肉声によってまた唐突に打ち消される。
「急げ！　眠っているうちに、それを取り外すんだ」
　誰かの手がやや乱暴にシェクティの右手を摑んだ。それは解っているのだが、まだ体が動かない。声も出なかった。皮膚の接触を通して、奇妙な忌避感が伝わって来る。
　――やめろよ、何すんだ？　大事なもんなんだぞ！　てめぇ、人のもんを勝手に……。
　シェクティは心の中で必死に抵抗の声を上げた。それにも構わず、男の指が〝指輪〟をつまむ。
　――やめろぉ！
　感情の爆発が呪縛を打ち砕いた。少女の眼がかっと見開かれると同時に、男の体はびくりと震え、後方へとのけぞる。
　シェクティはとっさに、椅子をも蹴倒すような勢いで立ち上がり、その男の鳩尾へ痛烈な膝蹴りを叩き込んだ。ドレスの裾が悲鳴を上げるほどの鋭い一撃だ。男は哀れ、反吐を吐いてぶっ倒れた。
　その脇には、まだ若い一人の神官が茫然と突っ立っている。そして、その驚愕に満ちた表情を目にするや否や、シェクティは直感的に覚った。先程の不自然な睡魔は、この男の魔法によるものだったのだ！
「娘！　その〝指輪〟、一体どこで手に入れたぁ⁉」
　神官は一瞬の自失から立ち直るなり、居丈高に叫んだ。彼はまだ、この少女が他ならぬ〝神の御子〟だとは知らされていなかったのだ。
　ともあれ、相手が魔法で他人から何かを奪おうとするような輩であるならば、こちらも遠慮する必要はない。
「るっせぇ！」
　神官の質問には答えず、シェクティはいきなりその若者の許へと駆け寄った。有無を言わさず、相手の胸板にエルボー・スマッシュを叩き込む。男は訳の解らぬ悲鳴を上げて倒れ込んだ。
　だが、その悲鳴がかえって人を呼び込む結

果になったようだ。幾つもの慌ただしい足音を耳にして、シェクティはとっさに身の危険を感じた。駆け戻り、卓の上から例の木箱を取り上げる。

だがもちろん、シェクティには状況の把握など全くできてはいなかった。ただ、野性の勘が彼女に、いや、何かが彼女にそこから逃げ出すよう命じたのだ。

扉を大きく開け放った途端、巫女頭とはち合わせる。室内の状況を目にした巫女頭は、いきなり両手でシェクティに摑みかかった。自力で何とか捕らえようというのだ。

シェクティは当然の如く、巧みにその脇をすり抜けて廊下へと跳び出した。木箱を抱えたまま、足音とは反対の方向へと一目散に駆け出す。

立ち止まって相手に理由を問うだけの余裕は、シェクティの心にはなかった。もとより〝話し合いによる解決〟という発想を得るには、彼女の幼年期はあまりに悲惨な代物でありすぎたのだ。

——レマ！　畜生ぉ、どこ行っちゃったんだよぉ!?

ところどころに魔法の灯りが点されてはいるものの、やはり〝大神殿〟の廊下は広く、足許はもの悲しいほどに薄暗かった。しかも今は、このちゃらちゃらした服が少女から自慢の俊足を奪っている。

これでは、いくら夜目の効くシェクティでも、いささか心細くならざるを得なかった。レマと出逢って以来、久しく感じたことのなかったあの感覚が、飢餓にも似た猛烈な孤独感が蘇って来る。

見も知らぬ土地、予測もできぬ未来。周囲には知己の一人とてなく、いるのはただ、自分に敵意を持っているとしか思えぬ者たちばかり——今のシェクティにはもう、頼るべき者はレマ以外には存在していなかった。

あちこちからかすかに響いている足音や人の声が、ますます少女の心を不安と焦燥で満たしてゆく。

レマに逢えさえすれば助かる——ただそれだけを信じて、シェクティは闇雲に逃げ続けたのであった。

大教主アル・ザラーマ十三世は、続けて語った。

「ですが、もちろん、星々の語る内容は単なる〝傾向性〟であって決して〝確実な未来〟などではありません。善き未来を創るのは、あくまでも神々と人間の、正しい意志と努力なのです」

たとえ惑星が人間に好機を与えたとしても、その人が実際にその好機を活かすことができるかどうかは、結局のところ、その人次第なのだ。また逆に、惑星から同じ苦難を与えられたとしても、それで潰れる者もいれば、それに打ち克つ者もいるだろう。

〝星の運命〟とは、つまり、そういう性質の存在なのだ。真に神々を崇めるのならば、決して運命論者などになってはならない。

レマは深々とうなずき、大教主はまたさらに言葉を続けた。

「私自身、明晩には何も起こらぬことを心から神々に祈っています。また、許されるのなら、〈大陸〉全土が永久に平穏であることを——」

「私も思いました。このままの日々が永遠に続けば、どんなに良いだろうか、と」

レマは、諦めにも似た口調でそう応える。大教主は、そんなレマの微妙な表情から、深い苦悩の色を読み取ったようだ。

「愛してしまったのですね、御子を」
質問ではなく、確認の口調である。レマには無言でうなずくことすらできなかった。
ただ、重苦しい沈黙だけが流れていく――。
やがて、大教主は哀しげに言った。
「それ自体を咎めることは、私にもできません。ですが、レミスカグナ、よもや、己の務めを忘れた訳ではないでしょうね？」
「はい」
レマのものとは思えぬほどの苦しげな声が室内に低く響いた。
二人はこの時、わずかに開かれた扉の気配に、気づくべきだったのだ。だが、レマの心は今や、狂おしい煩悶の情に駆られてすべての注意力を失っていた。
「この先も御子と二人で気ままな旅暮らしを続けてゆくなどということは、決して許されぬことなのですよ」
「解っています。こんな生活が、いつまでも続かぬことは最初から解っていました」
大教主の教え諭すような言葉に対し、レマはまるでむきになっているかのような口調でそう即答した。無論、レマの心の中では今、どうしようもないほどの哀しみが荒れ狂っているのだが、外見上は見事に平静を装っている。
もしも、取り乱して泣き喚くことができたなら、一体どんなに楽だろうか？ だが、そんな行為はもちろん、レマの性格では決して為し得ない行為であった。レマの苦悩は所詮、傍観者には計り知れぬ種類の苦しみでしかない。
レマはまた、自分自身に深く言い聞かせるかのように、一言一句はっきりと続けた。心の奥底では、自分自身を欺いていると知りながらも――。
「私の務めは最初より、御子をこの都へお連れして猊下の御手にお委ねすること――ただそれだけです。そもそも、私はかつてそのためにのみ、七年余の長きに亘って御子のお姿を探し続けていたのですから」
「では、良いのですね？」
「はい。御子の身柄は猊下と他の神官の方々にお委ねします。私は――私は、正直言ってもう疲れました」
その言葉は、許されぬ想いをみずから断ち切るために敢えて口にした〝呪文〟だったのかも知れない。だが無論、極限まで追い詰められていたシェクティの耳には、文字通りの意味にしか聞こえなかった。
刹那、がちゃり、と金属音が室内に響く。回されていたドアのノブがいきなり戻った時の音だ。二人は慌てて入口の扉へとその視線を向けた。手放された時の勢いによるものか、扉は音もなくすうっと開いてゆく――。
そして、扉の向こうには怒りに身を震わす少女の姿があった。今の言葉を聞かれた、と気づいた時にはもう遅い。話しかける暇もなく、少女は例の木箱を背負ったまま脱兎の勢いで逃げ出していた。その一瞬、少女の瞳に涙が浮かんで見えたのは、果たしてレマの眼の錯覚だろうか？
「！」
大教主は自分の脚が悪いことも忘れ、急いで駆け出そうとした。だが、腰を上げて途端、そのまま前方の床へ崩れ落ちそうになる！ すでに床を蹴っていたレマは、とっさの判断で進む向きを変えた。間一髪でその老体を無事に抱き止める。
だが、大教主はその腕をも払いのけるようにして、切迫した声を上げた。最前までの落ち着きぶりがまるで嘘のようだ。
「私のことなど構わず、早く御子を！」
「ですが、猊下」
「一瞬でしたが、御子の心を読みました。御子の到着を秘密にしておいたのが、かえって良くなかったのでしょう。私の部下がまた何か、早まったことをしてしまったようです。雷神ズラドウラは荒ぶる戦神――早く御子の誤解を解かねば、大変なことに――」
「解りました。猊下はここでお待ち下さい」
レマは大教主の言葉を途中で遮り、早口にそう応えた。老体を椅子の上に戻し、疾風の速さで廊下へと駆け出す。
だが、愛する少女の姿は、すでに闇に消えていた。
一体どこから聞かれていたのだろうか？ 不安と焦燥と自責の念とに駆られつつ、レマは〝神の匂い〟を頼りに少女の後を追いかけ始める。
だが、レマはとうとうシェクティに追いつくことができなかったのであった。

その五

信じていた。
数々の不安を抱きながらも、レマだけは心から信じていたのだ。それなのに――。
それなのに、レマはもうあたしと一緒にいることに疲れてたんだ。最初からあいつらとぐるで、あたしをあいつらの手に引き渡すためだけに、レマは上手いこと言ってあたしをここまで連れて来たんだ。みんな……みんな、みんな、そのための嘘だったんだ！
シェクティは今や、成り行き上、そう思い込んでしまっていた。それはもちろん、誤解の積み重ねでしかないのだが、一度〝考え〟として固まってしまうと、後はもう勝手に膨らんでゆく一方である。
悔やしくて、悲しくて、瞳に涙が滲んだ。裏切られることになど、もう馴れていたはずなのに――それでも胸が張り裂けそうに痛んだ。低い嗚咽が込み上げて来る。もはや、信ずべきものも、頼るべきものも、ここにはなかった。
一体どこをどう走って来たのかは覚えていない。
ともあれ、気がついた時には〝大神殿〟の正面広場へと駆け出していた。雲一つなく澄み渡った星空に、真白き〈中の月〉が皓々と照り輝いている。東西には二つの小月の姿もあった。
「いたぞ！」
〝大神殿〟の奥から、人の声が響いて来る。シェクティは迷わず一直線に逃げた。すなわち、緩やかな石段の参道を駆け降りていったのである。
――シェクティ、そこにいるのか？ どうして泣いている!?
その時ふと、再びあの声が脳裡に届いた。忘れもしないダーラの声だ。
「ダーラ？ どこなの？」
シェクティは思わず立ち止まり、周囲をきょろきょろと見回した。だが、どこにもあの少年の姿はない。
――ここだ。シェクティ！ 俺はここにいる。お前、追われてるのか？
すでに精神的に追いつめられていた少女は、思わずその言葉に飛びついた。
「そうよ、ダーラ。お願い、あたしを助けて。早くここへ来て！」
今のシェクティにはもう、ダーラ以外に頼るべき者がいなかったのだ。だからこそ、恥も外聞もなく泣きついたのだ。

だが、恋人の言葉に力を得たダーラは、喜び勇んで応えた。

――よし、〃指輪〃に想いを込めて俺を喚べ！　お前が心から喚んでくれさえすれば、俺はこの結界を打ち破ってそこへ行くことができるんだ。さぁ早く！

無論、その言葉に疑問を抱いている余裕はなかった。シェクティは言われるがままに、〃力〃を込めてダーラを喚ぶ。

そして、その刹那――

空間そのものが震えた。得体の知れぬ震動が全身を駆け抜け、大地をも震わす。

鈍い衝撃音が耳を撃ち、建物をも揺るがした。二千年余の長きに亘って築き上げられたこの都の〃結界〃が、今、一瞬にして打ち砕かれてしまったのだ。

また、その時〃大神殿〃の祭壇では同時に、二千年来の聖火が不意にかき消されていた。神に捧げた聖火を吹き消されることは、その神を穢されることにも等しい。

そして――シェクティの頭上には、どこからともなくダーラが出現していた。

ダーラは〃空飛ぶ絨緞〃の上に立ったまま、右腕をシェクティの方に差し伸べる。無論、手の届く高さではないのだが、ダーラがその掌をくいっと翻すと、シェクティの体は背負った木箱ごとふわりと宙に浮き上がった。そのまま、ダーラの腕の中に抱き締められる。

しかし、現在のダーラの姿は、シェクティの記憶の中にある少年の姿とは大きく異なっていた。かつての少年は、今や逞しい若者へと変貌している。

「ダ、ダーラ？」

「そうだ。見違えたか？」

精悍な美青年は、いかにも嬉しげに微笑んで見せた。どうやら、ダーラはこの半年間で一挙に数年分の成長を遂げたようだ。

「約束どおり迎えに来たぞ、シェクティ。あらかじめ花嫁衣装ってことは、その気になってくれたんだな」

ダーラはシェクティがお仕着せられた白いドレスを勝手に、自分に都合の良いように解釈して言った。これには、シェクティも一瞬、返答に窮する。

だが、そこへ不意に誰何の叫びが割り込んだ。シェクティを追いかけて来た神官たちの声だ。

「貴様、何者だ!?」

刹那、ダーラの腕の中でシェクティの体がびくつく。そして。ダーラの表情は見る間に怒りで歪み始めた。

「あいつらに追われてるのか？」

牙を備えた口から、震えを抑えた低い声が漏れ出す。シェクティは、ダーラの表情も見ぬまま、こくりとうなずいた。

一方、不審な少女を追って〃大神殿〃から駆け出した神官たちは、左右に大きく展開してすでに臨戦体勢に入っている。シェクティは知らなかったが、宙に浮かぶダーラの姿は見る者が見れば即座に〃妖魔〃と解るような代物だったのだ。

「貴様ら、よくも俺の嫁に手を出してくれやがったな……」

ダーラは左腕でしっかりとシェクティの視界を覆いつつ、一応の指揮者らしき神官に向かってその右腕をぬぅっ、と突き出した。その掌から、猛烈な勢いで敵の生気を吸い取り始める。

神官としての訓練を受けていない、ただの戦闘部隊だったら、即座に恐慌に陥っていたことだろう。神官たちの眼の前で、彼等の指揮者は見る間に齢老い、干涸び、そして死んでいったのだ。

「儂に構わず、散れ！　決してあの二人は逃がすな。包囲して捕らえるのだ」

それが、指揮者の最後の言葉となった。

さらに大きく散開してゆく神官たちの姿を、ダーラは逃走と見誤る。そこに、隙が生じた。

「さて、もう安心だぞ。シェクティ」

暖かい――ダーラの胸板に頬を埋めつつ、シェクティは思った。すがりつける胸があるという状況は、なんと幸福なことなのだろうか、と――。

ダーラの体から、熱とともに〃力〃までが流れ込んで来るかのようだ。

だが、そこへ突如として一陣の突風が襲いかかった。普通の風ではない。絨緞は流れに翻弄され、二人は危うくそこからずり落ちそうになる。

やっとのことで体勢を立て直してみると、二人の眼下では一人の肉感的な美女が何やら呪文を唱えていた。満月の下で、人間の姿に変身したファリィである。

ダーラは一目でそれを見破り、そして咆えた。

「巨人か、小癪な！」

右腕を振り降ろすとともに、その先から不可視の〃力〃が伸びてゆく、ファリィはかわしきれず、視えない腕に殴り倒された。

だが、時間稼ぎはそれで充分だったのだ。いつの間にか、〃空飛ぶ絨緞〃の周囲には神官たちによる包囲陣が形成されていた。一人一人が各々の印を結び、ダーラに向かって何事か呪文を唱え始めている。

――しまった！

今さら一人や二人を倒してみたところで、到底間に合わないだろう。となれば、逃走あるのみだ。

ダーラは絨緞に移動を命じた。

だが、動かない。まるで、何かに釘づけにされているかのようだ。

皓々たる月明かりの下、斜めに伸びた絨緞の影には、よくよく見ると何本もの針が打ち込まれていた。呪力の籠った針ならば、その影を象徴として本体の動きをも封じることができるのである。

それに気づいたダーラは思わず、一つ大きく舌を打った。原理はごく単純な類感魔術だが、それだけに、力ずくで打ち破るのは容易な業ではない。

――あの月光さえ消せれば……。

ダーラは思った。その苦々しげな表情を見て、シェクティが唐突に言い出す。

「あの月が隠せれば、それでいいんだね？　ダーラ」

「そりゃそうだが……できるのか!?」

「やってみる！」

そうと決まれば、シェクティの行動は素早かった。背負っていた木箱を足許に降ろし、表の蓋を半ばまで開け、その中に手を入れて〈天雷の剣〉の柄をぐっと握りしめる。

そして、シェクティは心の中で叫んだ。

――雷よ！　雷よ！　雷よ！

満天の星空を、一瞬にして暗雲が覆い尽くす。この時まだ、シェクティはダーラの素性を知らなかったのだ。

「よくやった、シェクティ！　後は任せろ」

闇の帳の中、ダーラは突如として神代の呪文を唱えた。嬉々として、周囲に凄まじい重低音を響かせ始める。

「暗黒よ！」

音は波動と化し、形となり、シェクティの

左眼に〈神聖文字〉として映った。だが、その字体は奇妙にねじくれ、おどろおどろしい波形によって彩られている。意味など解らずとも、その言葉がとてつもなく邪悪な禍言であることは、もはや疑いようがなかった。

「暗黒よ！」

闇が、見る見る深まってゆく。シェクティはふと、言いようのない怖気と悪寒に駆られた。つい先程まであんなに暖かかったダーラの胸が、どうして今はこんなに冷たく感じられるのだろう？

「暗黒よ！」

その〈文字〉はVGLZANと綴られていた。見るからに禍々しい文字だ。

自分は何か、とんでもない誤ちを犯してしまったのではなかろうか？　今になって、己の短慮が悔やまれて来る。

シェクティはその毒々しい〈文字〉から必死になって眼をそむけた。だが、それは結果として、ダーラにより強く抱きつく形となる。ダーラはそれに力を得て、さらに呪文を続けた。

「光を呑み込み、滅し去る者どもよ。
大地を揺さぶり、切り刻む者どもよ。
狂える暗黒の魍魎どもよ」

その声に呼応して、大地の奥底で何かが蠢き始める。

天にかざしたダーラの右手には、いつしか一本の斧が握られていた。もっとも、常人には見ることすらできぬ半エーテル・レヴェルの斧だ。大地はびりびりと震え、空間そのものすら歪み始めている。

シェクティは眼を塞ぎ、耳も塞いで、必死に己の責任を黙殺した。それでも、ダーラの呪文は脳裡にまで伝わって来る。

YA　DRYGLN　DRNWM　SKRBNW
VLYM　AMY　DMRBAL
ZYN　DS　RLDAM　GRSTYZ

YAAAAM　BRNKhAAAAAAAS

ダーラは最後の叫びとともに、その斧を勢いよく地面に叩きつけた。大地が割れ、そこから黒く禍々しいものが、闇よりもなお黒い存在たちが溢れ出してくる。大地は轟々と鳴動し、ダーラの哄笑がそれに重なった。

そして、〝大神殿〟が崩壊する！

聖都の建つ台地は北端部から次々に谷底へと崩れ落ち、建築物も当然その後を追った。

二千年余の歴史を誇る聖都アル・カゼイナの中枢が、今、たった一人の妖魔の手によって打ち滅ぼされたのだ。

ダーラとシェクティを乗せた絨緞は、疾く〈大魔海〉の只中へと飛び去ってゆく。

そして、後にはただ、無残な廃墟だけが残されてしまったのであった。

（第十話に続く）

製作費50億、世界に挑む
角川映画戦国超大作。
'90年6月23日、日本公開。

運は天にあり。鎧は胸にあり。手柄は足にあり。

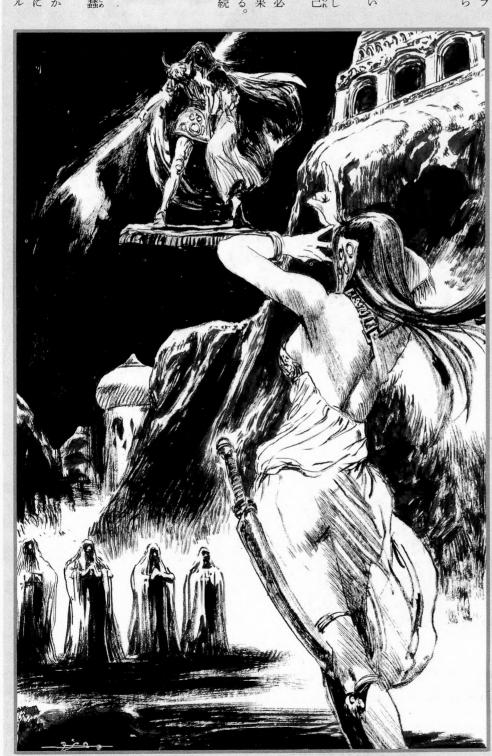
天と地と

題字・金田石城

監督 角川春樹

原作・海音寺潮五郎(角川文庫版)

榎木孝明
津川雅彦
浅野温子
財前直見
野村宏伸
夏八木勲
渡瀬恒彦

製作……角川春樹
大橋渡
脚本……鎌田敏夫
吉原勲
角川春樹
音楽……小室哲哉(EPIC・ソニー)
配給……東映
製作「天と地と」委員会

天と地と 海音寺潮五郎

- 単行本(上・下) 定価各1,800円
- 文庫本 [1]～[5] 定価各430円
- 角川コミックス 画・石川賢 [1]～[5] 定価各660円

定価には消費税が含まれています。

《前売券絶賛発売中!!》全国の書店・洋画系劇場窓口にて(劇場窓口でお買い上げの方に戦勝・開運・学業増進の刀八毘沙門天王御守護(信貴山寺入魂)限定プレゼント)

(刀八毘沙門天とは)北方世界を守護する戦いの神で四天王のひとつ。不世出の名将上杉謙信が「軍神」として終生崇拝。頭文字の「毘」を旗印とし、生涯無敗という驚異的な戦歴を残した。また出世自在、金銭如意、商売繁昌、家内安全と多くの福をもたらす神としても知られている。

天と地と

いよいよ撮影も終了し、6月23日の公開がますます楽しみになってきた超大型時代劇『天と地と』。主人公の上杉謙信や宿敵武田信玄の他にも魅力的な人物はたくさん登場する。今回はその名脇役を紹介しよう

⬆上杉謙信を囲んでの、上杉軍のショット。どの顔も乱世を生き抜く男たちの野性がにじみ出ている。皆、謙信に忠実に働いてくれる武将たちだ

⬇陣を構える武田の武将たち。もちろん中央に構えているのが武田信玄だ。その迫力は、上杉軍のそれを越えるものがある

これが越後上杉軍武将の顔ぶれだ!!

⬇謙信を前にして立ち上がる上杉軍の兵士達。名も無い兵の働きこそ、戦の勝負を決めるカギになる。士気湧きたつ軍は、迫力だけで敵軍を圧倒できるのだ!

この『天と地と』の映画について説明するとなると、どうしても上杉謙信、武田信玄ばかりに触れてしまう。たしかに映画のメインはこの宿命的なふたりの姿を描くことだけれど、歴史の教科書には名前の出てこない名将達の力があってこそ、このふたりも戦国時代に名を残すことができたわけだ。しかも、この時代の多くの武将達は、自分の城主に対してあくまで名脇役(わきやく)をつとめている。物語の主人公にはむかなくとも、実に脇役らしい活躍をしてくれている武将が多いのだ。封建的な社会だったからこそ、こういった役目を果たしてくれる人物が多かったのだろう。そこで今回は、歴史の中でも脇役を演じ、この映画の中でも時には謙信や信玄以上に重要になる脇役について、ちょっと触れておこう。

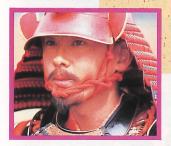
数多い上杉軍の名武将達の中でもとりわけ重要な宇佐美駿河守(するがのかみ)定行。琵琶(びわ)島城をおさめる宇佐美定行は、謙信の幼少の頃からの良き相談役であり、謙信の戦いの知恵は、この宇佐美から学んだものが多い。謙信の家庭の事情にちょっと踏み込んでみると、実は謙信は父親にはあまり愛情をそそがれておらず、年の離れた他の兄弟との仲も悪かった。そのため、父親はまだ幼い謙信を自分の城で育てるのではなく、林泉寺という寺に預けてしまった。自分のもとで戦(いくさ)を学ばせて一人前の武将に育て上げる気などまるでなかったのだ。そんな謙信に兵法を伝授したのが、宇佐美定行だった。また、自己満足的な戦をしていた謙信に、勝ち残るためには時として人の道をはずすような非情な行為も必要だと教えたのも宇佐美だった。しかし、この映画ではそれと同時に、謙信の意中の女性である乃美の父親という立場も大きい。謙信にとってだけではなく、乃美にとっても、実の父親である宇佐美定行の存在は当然のことながら大きかった。

そんな宇佐美も、映画では、謙信と刃を交えることになってしまう(史実では最後まで謙信に仕える)。謀反(むほん)を起こしてしまうのだ。あれだけ謙信に忠義をつくした宇佐美だけに、謙信としても、胸中には重いものがある。ストーリー中盤の盛り上がりを見せてくれる場面だ。武田軍との戦に兵を率いてこない宇佐美に、一向一揆(いっこういっき)を鎮(しず)めるのに手をやいている、と、あくまで宇佐美を信じる謙信だったけれど、武田信玄と宇佐美との間に交わされた手紙が発覚し、ついに謙信は心を決める。一気に攻め入ろうとする武将達をおさえて、自ら宇佐美との一騎打ちへ。

「これしきの太刀(たち)さばきでは武田は倒せぬ」と槍(やり)をふるう宇佐美の姿は、謀反人でありながら、最後まで謙信に戦の厳しさを教えた男を映し出しているのかもしれない。

そういった謙信とは対照的に、武田信玄には、戦において自らを支えてくれる武将よりも、他方で心の支えとなってくれる女性がいた。女武将、八重だ。夕陽の中の富士山を八重とふたりで並んで仰ぎ見ながら「富士の向こうには駿河がある。いずれ駿河を攻め、八重に海を見せてやる」と言う信玄の台詞(せりふ)がある。こんな言葉を信玄に言わせてしまう女性だ。

⬆宇佐美定行を演じるのは、ベテラン渡瀬恒彦。浅野温子演じる乃美との父娘という関係も興味深い

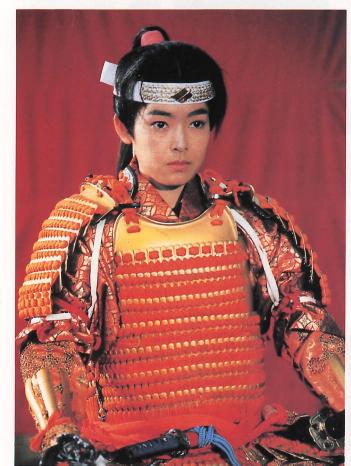
信玄の片腕となる武将達！

↑角川春樹監督を囲んで、上杉軍の武将達。城主である謙信も、監督の力にはかなわない。謙信役の榎木孝明も、演技指導の厳しさを実感したという。ちなみに足元にあるのはカメラを動かすためのレール。迫力ある映像をつくる名脇役だ

自らも鎧に身を包み槍を構える八重は、とりわけ気が強く、川を間にはさんでお互い陣を据えたまま動けない状態にある上杉軍との睨み合いの中、女性騎馬軍を率いて上杉軍に威嚇をしかけるほどだ。しかし、川に馬を入れ騎乗にて槍を構えているところを、謙信の鉄砲に撃たれてあっさりと命を落としてしまう。沈黙が続いた両軍の間に、八重を射止めた銃声が響き渡り、信玄は戦意を失ってしまう。睨み合いを続けていた上杉と武田の両軍は、八重が討ち取られたことによって武田軍が撤退し、上杉はそれを後追いしなかった。ちなみにこの後、謙信は、兵を挙げた宇佐美定行を鎮めに向かうことになる。八重と宇佐美も、そういった意味では運命の糸を共にしたのかもしれない。

さて、このふたり以外にも、多くの名武将達が活躍してくれる。なかでも、鬼小島弥太郎や柿崎景家などは上杉軍において、信玄をうならせてしまうほどの強豪ぶりを見せてくれる。もちろん武田軍の武将達も「我手柄を手にせん」と言わんばかりに暴れてくれる。名前の出てこない多くの雑兵達も同じだ。合戦の迫力は観ているほうを圧倒してしまうけれど、そんな中からも名脇役達の手柄をきちんと見ていてやってほしい。

さて、物語での名脇役ももちろんだけれど、映画としては、スクリーンに映らない部分で活躍してくれる裏方さん達も重要な脇役だ。特にこの映画で注目されているといえば、やはり音楽の小室哲哉。あのTMネットワークのメンバーという説明は、もはや不要だろう。その彼がつくる音楽も、映像を支える大事な脇役であり、また、時として映像以上に重要な演出になるのだ。

そういった脇役とはちょっと違うけれど、重要でありながら忘れられがちな存在が脚本家だろう。この映画では鎌田敏夫、吉原勲、そして監督でもある角川春樹の共同脚本となっている。鎌田敏夫といえばテレビドラマのイメージが強いかもしれないけれど、角川映画としては『戦国自衛隊』などを手掛けている人だ。

その他にも多くの人達が支えている『天と地と』。スクリーンの隈々までたっぷりと楽しめるぞ。

↑武田軍の女武将、八重の勇姿。演じるのは財前直美。活躍するといった場面はほとんど出てこないものの、武田軍にとっては大きな存在だった。謙信の鉄砲に散ってしまう

PRESENT

上杉謙信も熱心に信仰していた『刀八毘沙門天』の御守護を、今回は本誌読者10名にプレゼント。その名のとおり八本の刀を握る毘沙門天の姿が刻まれ、商売繁昌、家内安全など、多くの福をもたらしてくれる。宛先は、83ページを参照。

Catch-Up PERSON

ドラゴンクエストⅣ発売記念・中村光一・大いに語る

(株) チュンソフト代表取締役

PROFILE 高校生時代、エニックスのプログラムコンテストに『ドアドア』を出品し、優秀賞を受賞する。その後、大学在学中に (株) チュンソフトを設立。『ポートピア連続殺人事件』や『ドラゴンクエスト』を発表する。

あの『ドラクエⅣ』のプログラマーである中村光一氏にインタビューを決行!ゲームファンは必読だぞ!!

僕の場合、最初、コンピュータにはあまり興味はなかったんです。ただ、TVゲームで遊ぶことは好きで、インベーダーなんかはすごくやりました。それ以前も、デパートの屋上なんかが好きで、ピンボールをやったりしてました。もともとゲーム大好き少年だったんですよね。

それで、高校に入ると、パソコンの同好会みたいなものがありまして、そこに入れば毎日ゲームで遊べるぞ、と思ったわけです。ところが、そこが実は結構まじめなところで、先輩にプログラミングを教えてもらったりしていたんです。それが自分の性格に合っていて、それ以来、自分でプログラムをつくるようになりました。作るのはゲームがほとんどでしたが、必要があれば実用的なプログラムも作ってましたね。

最初は、ゲームセンターにあるゲームをコピーして、パソコンで作っていました。雑誌に掲載されているプログラムを自分で打ち込んで遊びもしましたし、自分のプログラムを雑誌に送ったりもしました。それが掲載されると印税ももらえたので、当時、高校生としてはなかなかのお小遣いを持っていたのですが、パソコン少年の悲しさで、どんどん新機種のパソコンに買い換えていましたね。

その頃、市販されているゲームソフトでもいくらか遊んだのですが、中にはひどくつまらない物もあって、こんな物で商売しているのが許せない、と思ったんです。五千円とか六千円とか、高校生や中学生にとっては大金ですよね。それで、そんなゲームよりも自分の作れるゲームのほうが絶対に面白いという自信もあったので、高校生の頃から、将来は会社を作って面白いソフトを世に送り出したいと思ってました。それが、大学に入ってから、仲間達と実現したわけです。

最初はほんと、ゲームセンターにあるゲームのコピーばかり作っていたのですが、最初に自分でデザインをしたゲームは『ドアドア』です。エニックスのコンテストで賞を取らせていただいた作品です。

「長く遊び継がれるゲームを作りたい！」

もともとはゲームセンターにあった『ディグダグ』という、地面に穴を掘るゲームが好きで、それをパソコンでやりたかったのですが、エニックスさんから「オリジナルでないとダメ」と言われてしまったので、その『ディグダグ』の面白さをなんとか別のゲームで作りたいと思ってできたのが『ドアドア』なんです。教室とか廊下とか、要するに学校の校舎の構造なんですよね(笑)。あれは授業中に考えていて、登場キャラクターのイラストをノートに書いていたのですが、それを、同じクラスのひとつ前の席に座っていたパソコン同好会の仲間が見て、興味を示してくれたんです。彼はイラストが描ける人だったので、キャラクターを書いてもらいました。そうしてできたのが『ドアドア』ですね。デザイナーとしての仕事は『ニュートロン』というゲームが最後で、あとはほとんどプログラマーです。ファミコン版の『ドアドア』とか。細かいところでのアイデアはもちろん出しますけどね。

だいぶ以前からファミコン上でアドベンチャーゲームを作りたいという願望はあったのですが、当時の技術では、今のような何メガものカセットはつくれなかったので、アドベンチャーゲームを作るのは難しかったんです。そこに堀井雄二さんの『ポートピア連続殺人事件』がありまして、もともとはパソコンのゲームだったのですが、これならばカセットの記憶容量も少なくてすむだろう、ということでゴーサインが出ましたね。もう、その次には、僕も堀井さんも、ウィザードリーやウィルティマといったロールプレイングゲームに夢中になってましたから、当然、ファミコンでもRPGを作ろうということになって、最初のドラクエを作ったとき、これは発売日から一気に売れるぞ、と思っていたので、実際にふたを開けてみて、それほどでもなかったのには、正直ガックリしましたね。でも、それからジワジワと話題になってきて、ドラクエIIのときは、一気にいったので、逆に驚きました。そしてドラクエIII、IVときたわけです。本当はドラクエシリーズはIIIで終わりにしたかったんです。売れるからといって連作を続けていつか飽きられてしまうのも嫌だったですから。それでもあえて、AI（人工知能）を取り入れるという新しい挑戦を、今まで築き上げたドラクエという土台でやってみたかった。ファンの皆さんの期待もあったし。AIに対しては、もっと時間的に練りたかったです。遊ぶ人にはもちろん充分に楽しんでもらえますが、作る側のこだわりとしては、もっとやりたかったですね。

これからについてですが、スーパーファミコンもチュンソフトとしてはやっていきたいです。スーファミはゲームに限らず、一家に一台あるべきマシンだと思いますね。今のファミコンでも通信で株売買とかやっていますが、限界があると思うし。ゲームボーイは、目が疲れるし肩がこるのであんまり好きじゃないんです(笑)。

あと、CD-ROMには注目しています。生産コストも安いですし。最初にPCエンジンのCD-ROMソフトを見たときに「これだ！」と思いましたから。これからのゲームファンは、目も耳も肥えてきますから、演出に凝ったゲームを作りたいですね。スーパーファミコンにCD-ROMが付くことを強く望んでいるんですが(笑)。作るほうからいっても、容量が大きいということで、今まではどうやって少ない容量に多くのデータを押し込むかということに費やしていた負担が無くなりますから、楽ですよ。

そういった新しいハードでのゲームは、やはり、新しいジャンルのゲームを作りたいですね。RPG作れば絶対に売れるというのはわかっていますが、それじゃあちょっとね。

あとはライフワークとして、長い歴史の中で遊び継がれていくようなゲームを作りたいです。囲碁や将棋、麻雀といったような。チュンソフトの会社としては、海外進出も狙ってはいますが、まずは経験値とゴールドを貯めてレベルを上げてから(笑)。

新しい人も、会社で育てていきたいのですが、人材を見つけるのが難しいですね。たとえば、百人いる中で、その中に一人、テトリスというゲームを思い付く人がいたとしても、その一人を見いだすのはすごく難しいわけです。あるいは、百人を雇ってしまうか。リスクが大きいんですよね。それでも、いい方法を見つけたいとは思っています。

これからプログラマーを目指すという人は、とにかくパソコンを買ってきて勉強をすることです。最低限の数学知識も必要。ただ、数学をやることよりも、数学を楽しんでしまうようでないとダメですね。方程式をパズルだと思って解けてしまうような。あとは、独学でも許される世界です。たとえば、同じ結果が出さえすれば、どんな形のプログラムでもいいわけです。そういった意味では、各々が遊べる部分でもありますね。ただしこれからは、個人で作るということができにくくなってしまいますが。プログラム自体も大きくなってしまうので、何人かの分担作業になるし。僕の頃は、趣味が実益になって、ここまでこれましたけれど。

デザイナーとしての部分では、とにかくゲームを多くやることです。発想とか経験とか、必ずしも多くの本を読んでいる事が大切とは限らない。あと、ある程度の絵が描けること。テクニックではなく感覚として、自分の頭に思い浮かべたイメージを他人に伝えるということはどうしても必要ですから。ゲーム画面を頭に思い浮かべ、それを絵にする。自分でできなければ、それをやってくれる良いパートナーを見つけることです。

ということで、表面的にはしばらく活動は見えてこないかもしれませんが、今後も遊びのトップメーカーを目指すチュンソフトをよろしくお願いします。

え？　ドラクエVですか？　IVでの反応を見てからですが、可能性がまるで無いわけではないですねぇ…(笑)。

ドラクエグッズご紹介

すでに大好評のドラクエグッズシリーズ。今回、ドラクエIVの発売を記念してニューグッズが登場したぞ。

全てニューデザインの『勇者の記録帳』（ノート）『冒険下敷』『冒険者の手帳』『導かれし者たちのカンペン』等の強力アイテムはもちろん、ゴールドの消しゴムや勇者達を描いた8本の鉛筆がセットになったカンペンセットもオススメ。ジャンボサイズの『キングタオル』も迫力満点だ。そして一番の目玉は『キングスライムぬいぐるみ』（左写真・税別五八〇〇円）。お求めは全国のデパート玩具店で。通販のお問い合わせはカニエ・ドラクエ係（Tel03−641−8220）まで。

⬆インタビューは都内のチュンソフトオフィスでスライム君と共に行われた

撮影／江尻宏明

NEWS

マルチメディア

これが最先端の情報メディアだ

ニューメディアの代表選手であるレーザーディスクとパソコンがつながって、家庭用の新しいメディアとなった。パソコンを操作してLDの映像から好きな場面を一瞬で呼び出したり、その映像についての解説をパソコンの画面に表示させたり、と、まさに未来を感じるマルチなメディアなのだぞ。

↑映像を情報として活用できる。ただ観るだけではない映像の利用だ！

→あくまで一般家庭レベルでの製品なので、それほど大げさなシステムではないのだ！

GAME

電脳都市OEDO0080

メディアミックスソフト登場

ポータブルタイプも開発され（うわさによるとNEC以外のメーカーから発売される可能性も高いとか!?）、話題いっぱいのPCエンジン、NEWソフトの情報です。小説版は弊社より大好評発売中の『電脳都市OEDO0080』がイヨイヨ5月あたりに発売されるらしい。かなりアニメしているって話だからCDロムユーザーは遊んでみてね！

↑NCSさんより5月中旬発売される予定だ！

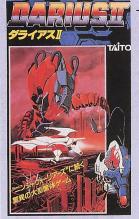
なんとかなるでショ！

あの人気コミックがビデオ化！

マンガをあまり見ない人でもその名前は知っているというトレンディなマンガ家、あの江口寿史氏の超傑作コミック『なんとかなるでショ！』がオリジナルビデオとして発売された。実写も取り混ぜてのオムニバス構成だ。うれしいことに。ちょっとエッチな場面（もちろん実写）もあるぞ！

↑お値段7,800円（税別）

ダライアスII

美しいゲーム画面を自宅で堪能

ゲームセンターで話題を集めたタイトーの『ダライアスII』のゲーム画面が、そのままビデオとして発売された。2画面分のワイドスクリーンに美しいグラフィックスを映し出したビジュアル的にも優れたゲームだけに、ファンとしてはうれしいビデオ化。また、このビデオも含めたポニーキャニオンのサイトロンレーベル商品をすべて集めたサイトロンレーベルフェアも全国の主要レコード点で開催されている。期間中はプレゼントも用意されているので今すぐレコード店へ！

↑HiFiステレオで税別4,800円

MOVIE

大霊界2

死後の世界を楽しくのぞいてみる映画なのだ！

あの大ヒット映画『大霊界』の続編、『大霊界2・死んだらおどろいた』をキミは観たかな？　説明するまでもないと思うけれど、あの霊界おじさんこと丹波哲郎の作った霊界のマニュアル的映画だ。丹波哲郎といえば「死後の世界はあるんです」が合言葉。もはやすっかりコメディアン化しているけれど、もともと、あのジェームスボンドの007にも出演した立派な役者なのだ。タモリや明石家さんま、山瀬まみといった人気タレントも特別に出演。しかし話題性だけでなく、なかなか奥の深い映画だぞ。パート1同様、ビデオ化の予定もあるので楽しみだ！

↑死後の世界もあんまり悪い所ではなさそうかな!?

GAME

LYNX

ハイパー携帯ゲームマシン

いろいろな噂が飛びかいましたが、ついに話題の米国アタリ社のカラー液晶ゲームマシン・LYNX（リンクス）が発売された。なんたって日米同時発売だからゲームファンにとってはうれしいことだよね！　開発は米国のアタリ社。製造は日本のアタリジャパン、国内の販売はムーミンという会社が担当している。性能面も今まで国内で発売された家庭用機の性能を越えている優等生マシン。さらに、別売のケーブルによって最大8人で遊べちゃうっていうんだからオドロキだね！　まだメジャーになっていない？　今だからこそチェックをいれて友達に自慢しちゃおうぜ！

↑発売中のソフト『エレクトロコップ』ちなみにサードパーティも続々と決っているそうなので期待しちゃうのだ！

→これが本体！
本体価格29,800円（税別）
ゲームカードは4,300円程度だ！

IDOL

ミスモモコグランプリ'90

90年代のニューアイドル誕生!

去る1月15日、第3回ミスモモコグランプリの決戦大会が行われた。雑誌MOMOCOから選ばれた全国の女子中高生たちが集まってグランプリを決めるというもの。西村知美ちゃんや畠田理恵ちゃんを生んだこのグランプリを受賞したのは千葉県出身の高校一年生、岡田由起ちゃん。これからの活躍が楽しみだね!

↑菊池桃子さんと、西村知美ちゃんが応援にかけつけてくれたのだ!

IDOL

大橋亜紀

今年はこの娘に注目しなくちゃ!

この写真は昨年末に行われたレモンエンジェルのライブの時に写した物の1コマ。レモンエンジェルもいいんだけど、誰だこのかわいい子は? と思って早速、事務所の人に聞いてみると、現在、同事務所でレッスン中の女の子、大橋亜紀ちゃんだそうだ。デビュー前からすでにファンクラブもできちゃうほどの人気ぶり。夏には舞台公演を行なう予定もあるそうなので、ファンクラブに入って応援しよう!

↑ファンクラブの問い合せは…☎03(372)7604まで!

IDOL

生稲晃子コンサート

寒さを忘れる熱唱コンサート!

最近いちだんと大人っぽくなってきた生稲晃子ちゃんのコンサートツアーの東京公演が、1月18日、渋谷公会堂で行われた。一連のヒット曲はもちろん、アニメの主題歌『秘密のアッコちゃん』まで歌ってくれたぞ。おニャン子クラブやうしろ髪ひかれ隊時代の曲も熱唱。おしゃべりのほうもたっぷりと楽しませてくれたのだ。新曲は3月21日発売予定なので、こちらのほうも楽しみだ!

↑いつもカワイイあっこちゃん 新曲も頑張ってね!(ナカナカいい曲です!)

IDOL

新田恵利コンサート

新田ちゃんが新しい旅立ちへ

おニャン子クラブの一員として日本中を湧き起こした新田恵利ちゃんが、歌手活動を引退することになった。淋しいことだけれど、今後は歌詞や小説などに挑戦していきたいとのこと。3月21日にはさよならコンサートが中野サンプラザで行われる。お問い合わせはボンドファミリークラブ(TEL03-452-0401)まで。

↑最後の新曲『プロローグ』は彼女の作詞なのだ!

GAME

倉庫番WORLD

超難解パズルゲームがいよいよPCエンジンに!

去年のテトリスの社会的大ブームにともなって、最近はどうもパズルタイプのゲームに人気が集まっているようだ。中高生だけでなく、ネクタイ姿のサラリーマンまでもが一緒になってゲームセンターで夢中になっている。キミたちも、1秒間に何回もボタンを叩いてしまうような激しいシューティングゲームに疲れ、複雑なストーリーを時間をかけて解いていくロールプレイングゲームに飽きた頃、突然パズルゲームで遊びたくなる経験はあると思う。いや、あるハズだ。

さて、テトリスといえば対戦プレイも斬新だったゲームボーイになるわけだけれど、そのゲームボーイでテトリスを越えるほどの人気を誇った難解パズルゲームが、この『倉庫番』だ。そしてこのゲームが、いよいよPCエンジンでも楽しめるようになったぞ。

パズルゲームの特長は、なんといっても最初に覚える必要のあることが少ないこと。簡単なルールで誰にでも楽しめ、遊ぶほどに熱くなるパズルゲームの代表ともいえるものが『倉庫番』だ。かなり以前にパソコン版で発表され、支持を受け続けてきたゲームで、ゲームボーイ版も大ヒット中なので面白さは保証済み。倉庫にある荷物を動かして所定の位置に納めれば一面クリア。テトリスのようなスピード、スリル感はないけど、直感だけではなく、じっくりと頭を使って解いていくタイプのゲームだ。マニュアルで説明される事項は単純なコントローラーの使い方だけで、それ以上のコツはキミが自分で遊んだ体験から身につけてほしい。いつか本当に倉庫番の仕事をする時に、役に立つかもしれないぞ。

→3月中旬にメディアリングより税別5,400円で発売予定。お金を貯めて、発売を待とう!

↓これがメイン画面。エディット機能も付いているので、自分の作ったパズルを彼女や友達に解かして遊ぶこともできるのだ!

Newtype増刊 コミック GENKi 春の号

夢の競演

美樹本晴彦描き下ろし
スクランブル♡れでぃ

菊池通隆描き下ろし
超音戦士ボーグマン

3月20日発売
特別定価490円
角川書店

+

Newtype
THE MOVING PICTURES® MAGAZINE
4

新時代へ!
創刊5周年記念
特別企画!

ビッグプロジェクト『Z』スタート

付録ポスター
パトレイバー大決戦

別冊フロク
コミック
GENKiの素

3月10日発売
特別定価490円
角川書店

ウルフマン ロード
Wolfman Road
GUMELL CHRONICLES
COMIC
青木邦夫

エミリオ様
御入浴中
失礼いたします
カ

何か用か
イシュタル

連絡によりますと
アルジャリーンの部下が
ニトロ城にのり込んだ
ようです………

姫は
手に入り
そうか？
確実です

そうか……

●おわび● 先月号の「ウルフマンロード」で、58ページと59ページが入れ替わっておりました事を深くお詫び申し上げます

バーカ
お前らの相手をしてるヒマはねえんだよっ！

まったく何やってんだい!!

アルジャ様!!

エミリオ様がお待ちかねだよ！

パ
ア

エリイ・リン

くらくら

スリープの呪文さ!
朝までゆっくり
寝てなさい

さあ早く
飛行船を
お出し!
は!
ぐ……

ま……
まちやがれ…

ほう
ドグラの電撃を
まともにくらって
まだ立てるのか…
スー

シャッ

「鬼狼」と呼ばれたトロイもこれでおしまいね……
おおその刃の型はグラウンドマスター!!
大地を裂き岩を溶かすという魔剣!!
ザザッ
地竜波!!
ゴゴゴゴゴ…
お前達は早く逃げな
ヴヴヴーン

ぐあぁ…
ゴオッ
ドッ
ドォン
ドドドドド…
ヒュウウ

ぐああ
ゴロロ

ド

立つのです

こ…この声は…
セルロースに
初めて会った
時に聞いた……
ぐっ……
これから死ぬ
オレにゃあ
どうでもいい事か…

セルロースは
あなたを
必要として
いる!!

さあ
目覚めなさい!!
ドクンッ

ドクッ
ドクッ
か……
体が…
焼ける
ように
熱いっ!!
ドクッ

なんじの中に
眠りし
まだ見ぬ
力よ!!
ギョ

オオオオオ
しかし アルジャ様 ムチャクチャ やりますなぁ
なに言ってんの トロイはあのくらい やんないと 殺れないのさ…
はあ…
まったく グラウンドマスター は恐ろしい剣 だぜ……
ん？
あそこに 何か いやがる
確認 するのよ!!

トロイ!?

メキ

ジャッ
ぎぁあ ああああ
ドグラ!!
ザン
ズギュ
ブギギ
ドズ
ズズズ
ギギッ

ズドン
こ……この姿は!?
ぐぐっ
トロイ!!
!
するっ
ランディ殺っておしまい!
トロイ!!
このバケモンがあっ!!
ちいっ!!

ドンッ
いやーっ
トロイー!!

へ……へへっ
何が「鬼狼」だよ
オレ様の手にかかりゃ
ざっとこんなもんよ!!
ふははは
ははは!!
オン!
しかし……

●第8話おわり●5月号(3月30日発売)につづく

風の大陸
The Weathering Continent
「再会の街II」
夢を満たすための小さな欲望が、実現への階段を昇りながら野望という蒼黒い獣に姿を変えてゆく──
互いの喉笛を切り裂くための牙や爪を雅やかな薄衣に隠した獣たちが、美都アドリエの王宮に集う……
AUTHOR
竹河聖
SEI TAKEKAWA
ILLUSTRATOR
いのまたむつみ
MUTSUMI INOMATA

Ⅳ

アドリエ王国の行政の長、宰相バルドと、それに与する収税処の大臣ナバンは、首都アドリエ市の大宮殿にある執務室近くの中庭に居た。
　特に暑いこの季節の習慣通りに、午後の一時の涼を取っているのである。
　芳香を辺りに振り撒いている白い小花を一杯に付けた木々が、何本も中庭に埋められている。葉はこの日射しにも艶々と青いが、花じたいは、もう峠を越し、黄ばんだり、縁が茶色くなり始めたものが目立って来た。
　二人の大臣は、木陰に運ばせた長椅子に、半分横たわり、泉でよく冷やした飲み物を飲んでいた。
　菊の花や、薄荷から作った茶に、ハチミツや果実酒を混ぜたものだ。庶民もよくこうしたものを飲むが、大臣たちの飲みものは、とりわけ上等だった。
「やはり、本当の魔術師のようですな。こけ威しではないかと思っておりましたが」
　二人の男は、大臣のみの纏える、金糸銀糸で縁取りをした長い白の上衣を脱ぎ、寛いでいた。
　バルドは同じ白の服、ナバンは淡い青緑のものだった。刺繍などはあまり施されてはいないが、一目で上等のものと分かる服である。
「若造の方は分からんが、ラグルドは大魔術師と恐れられた男。年を取ったとはいえ、たかが呪い師の歯の立つ相手ではないよ、ナバン」
　バルドが若造と言うのは、暦司処の若き大臣グラウルのことだ。むろん、若いといっても大臣としては、ということで、年齢は三十ほどになる。
　しかし、この二人から見れば、三十という年は、まだ若造に過ぎないのだ。
　バルドは六十をいくつか過ぎた、白髪の小柄な男で、ナバンはそれより十歳ほど年下だった。
「チャチな呪い師の十人や二十人が束になってかかってもな」
　バルドは目を細める。
　目と目の間がいささか狭いので、どこか狡猾そうに見えた。
「わしは、魔術で対抗することなど、考えてはおらんよ、ナバン」
「しかし、彼奴の魔術は侮れませんよ」
　ナバンは中肉中背で、肌の色は赤銅色の民族のそれであり、黒髪だ。もっとも、髪にはかなり白いものが目立つようになっている。
「おぬしの傭った呪い師が倒されたからかね」
　バルドは、皮肉に唇を歪めた。
「おぬしの屋敷の中で、全身穴だらけになってな」
「それは、おっしゃらないでいただきたい」
　ナバンは、首の後ろの辺りを堅くして言った。
「今でも冷や汗ものですよ」
　数日前、ナバン大臣の傭い入れた呪い師が一人、グラウルとラグルドに呪術の闘いを挑み、敗れたのだ。
　呪い師の中では、力のある者だったのだが。
「ナバン……」
　バルドは微かな笑いを口辺に浮べた。
「この世には、魔術でも敵わぬものがあるのさ」
「魔術でも……敵わぬもの、とおっしゃると」
　ナバンはゴクリと唾を呑み込む。
　自分の屋敷で死んでいた呪い師の死体を見ているのだ。全身、槍で貫かれたような穴が開き、そこから肉や内臓までが露出していた。
「ひとの心さ」
「ひとの……こころ」
　ナバンは、自分に言い聞かせるように繰り返した。完全に理解した訳ではない。
「ところで、第三の魔術師のことだがね」
　バルドは、小声で言った。
　むろん、人払いはしてある。
　この中庭で密談をするのも、逆に見通しがいいからなのだ。潅木や石のベンチの陰には、人は隠れることはできない。
　それでもつい小声になる。よほど聞かれたくないということだ。
「第三の魔術師というと……地震の前日に、グラウルたちと魔術の闘いをしたらしいという者ですな」
「そうだ。黒影団が血まなこになって捜していたが」
「そのものの行方が知れましたか」
「どうやら、その魔術師と、王とグラウルの捜している男とが同じらしいということは分かったのだがね」
　バルドは苦笑しながら首を振った。
「行方は分からない。黒影団すらも、まだ掴んではおらんようだ」
「それでは、役には立ちませんな」
「今のところはな」
　バルドはあっさりと認めた。
「しかし、接触さえできれば、傭い入れられる可能性は高そうだ」
「それは……そうですが」
　ナバンは首を傾げる。
「王がその男を捜させておいでになるという

THE PLOT OF STORY

砂漠に呑まれゆく大陸を、数奇な運命に導かれ旅する三人の若者。自由戦士ボイス、新イタール公国公女ラクシ、そして美貌の薬師ティーエ。オルボ、ジッダを加えた一行は、グラウルたちの魔手を逃れつつ、アドリエ市外の難民村に辿り着く。その時、都市を地震が襲った！　混乱の中、一行は盲目の老婦人アナリスを助ける。元デン共和国の市民だった彼女との邂逅を喜ぶティーエ。一方、市内の酒場には、ボイスの過去を知るらしい女傭兵マンレイドたちが姿を見せていた……

のは、その男が魔術師だからですか？」
「いや、そうではないようだ」
「そうではない……」
他にどういう理由があるのか、ナバンはすぐには考えつかなかった。
「まだ分からんが……」
バルドは慎重に言葉を選び、続けた。
「もっと深い訳があるようだ。目論見と言うのか……」
「それも、結局はグラウルめの野心に関わりのあることなのでしょうな」
「それは、そうだろう。王は無能ではないが、まだまだ世間知らずの子供同然。グラウルが、また何かたきつけているのだろうさ、あの、先王……」
そこまで言いかけてバルドはハッと口を噤み、目だけで残りの言葉を伝える。それは十分に伝わった。
〝あの先王殺しの時のように〟
二人の男は目くばせを交わした。
「いずれにせよ、あの若造には、このアドリエから消えてもらうさ」
バルドは含み笑いの低い声を漏らした。
「グラウルさえいなくなれば、ワガママ小僧は宰相どのの掌の内……」
そう言ってから、ナバンはふと抱いた疑問を口に出した。
「ときに宰相どの、マレシアーナ姫とゼルフトとのことは、もうお耳に入っているかと思いますが」
「むろんのこと」
「どう思われますかな。ゼルフトが、マレシアーナ姫に接触を計るとは……」
「そうではなく、王女の方でゼルフトを抱き込むつもりなのだよ、ナバン」
「姫君が……」
さすがのナバンも驚いたようだ。
マレシアーナは夢の中の住人のように儚げな、ただ優しいだけに思われる美姫なのだ。
「考えてみろ、ナバン。王は、妹君にとっては父と母の敵だよ」
「ですが、ゼルフトは王の後ろ盾……」
「だが、やはりグラウルのことは快く思ってはいないはずだ、ゼルフトは」
そう言うバルドも、やはりゼルフト元帥には快く思われていない人間のひとりなのだが。
アドリエ正規軍を握る元帥ゼルフトは、先王ネモスアデルの従弟で、れっきとしたアドリエの王族の一員である。
「しかし、ゼルフトは正道を重んじる男。姫の目的は分かりませんが、王を擁護する態度を、簡単に変えはしますまい」
「ゼルフトとても人間、欲もある。おまけに、あの男は気が短い」
「気が短いのは、確かですが……」
ナバンはそう言いかけ、数秒、バルドの目を覗き込んだ。
「あの小うるさい若造が、これからもチョロチョロとネズミのように動き回れば、ゼルフトも……な」
「宰相どの……宰相どのは、なにか……」
なにかを仕掛けるつもりなのかと問うつもりだったが、ナバンはそれを口に出すことは出来なかった。
まるで、魔術の呪文のような気がした。口に出せば、何かが動き出すのだ。
「ホッ、ホッ、ホッ……」
バルドはいささか甲高い声で笑い、一口飲み物を啜った。

「どうだ……読んだか？」
暦司処の大臣の執務室の、自分の机の前に座っていたグラウルは、入って来た黒服の男に尋ねる。
この黒い装束は、男が王の影の親衛隊と言われる黒影団の一員だということを示していた。
「は……」
黒服の男は深々と頭を下げてから、部屋の中央に進み出る。
それほど広い部屋ではない。やはり暦司処の大臣のものだけあって、他の大臣や行政長官たちの部屋と比べると異色だった。
床の大理石のモザイクは、大きな、この大陸の地図となっており、壁の一面には天体図を織り込んだつづれ織りが掛けられている、という具合だ。
男は、大陸の地図の、アステ・カイデの上辺りに立ち止った。
「大部分は読めましてございます」
「それで……」
グラウルは、机の上に両肘を突き、身を乗

り出す。
「あいつらは、何の密談をしていた？」
「お頭さまのことを」
男は顔の下半分を覆っていた黒布を取り、ニッコリと笑った。
意外に若い男だ。二十歳前後だろうか。とりわけて特徴はないが笑顔が爽やかだった。
男は他人の唇の動きを読むことに長けている。よく、この宮殿内での密談を盗み読んで来るのだった。
眼が良い。そして、必ずしも正面からでなくとも読み取れるのが、この男の強味だ。
「どうせわしの悪口の言いたい放題だろう、クテダ」
グラウルは、どこか嬉しげに微笑した。苦笑を通り越しているのだ。
「そのようでございますな」
クテダと呼ばれた男は、かえって真面目な顔に戻って言った。
「その他には？」
グラウルは無造作に尋ねる。バルドたちのように、盗み聞きを警戒することもない。盗み聞きを防ぐための、魔術の結界なら、既に十分にこの辺りに施してある。
「姫君と元帥閣下のことを……」
「やはり嗅ぎ付けたか」
グラウルの顔が、急に厳しくなった。
もとより、バルドは宰相だ、その情報収集能力の程は十分にわきまえている。
報告の終ったクテダと入れ違いに、グラウルの執務室に入って来たのは、黒影団ではなく、灰色の簡素な服を着た男だった。ただ、年の頃だけは同じである。
少々細身で、中背の男は、機敏そうでありながら、動作はゆっくりとしていた。意識的なものだろう。
白い小さめの顔は繊細だが、決して沈んではいない。眼は様々な輝きを宿していた。好奇心や、野心までも……。
肌色は、グラウル同様に少しオリーブ色がかっている。純粋な白色系ではなく、二種の人種の混血なのだ。
もっとも、この大陸では、白色と赤銅色と、二種類の肌色を持つ人々の混血はかなり進んでいる。今では、全く他種の血を受けていない人間など、ほとんど居ないだろう。
もともとは大陸の北部や東部には白色系が多く、南部や西部に赤銅色の民族が住んでいたのだが……。
むろん、現在でもこのアドリエ近辺は、白色系の人々の方が数が多いことに変りはない。
「閣下」
部屋に入って来た灰色の服の若い男は、地図のアドリエ辺りで止り、恭しく頭を下げた。
グラウルは、この暑いのに、若い男のものと似た灰色の服の上に着用している大臣の白い上衣を脱ごうともしないで涼しい顔をしていた。
丘ひとつを覆うような巨大な宮殿の下部の役所から、いくつもの階段を登り、廊下を渡って来た若い男は、灰色の服にいくつもの汗の染みを作っている。
「マルバ・シレル」
グラウルは、部下をフル・ネームで呼んだ。二つの名前を持つということは、男が平民

階級だということを示している。
ちなみに、名前は、多くなるほどに身分が高くなるのだ。
部下……マルバ・シレルは、同じグラウルの部下でも、黒影団ではなく、本来の役所、暦司処の者なのだった。
暦司処は、他の役所と比べると、かなり異質の行政機関と言える。
本来は、宗教勢力を抑えるために置かれたものなのだが、その機構が整うに従って、天体の観測や自然現象の研究、呪術の研鑽までが行われるようになっている。
もちろん、呪術は、もともとは星神セイタ神殿に研鑽所が置かれているのだ。
呪術はともかく、天体観測と自然現象の研究は、宗教だけでなく、アドリエの行政に関わる重要なことだった。
季節の変化、潮の干満……全てが農業や、海運を主体とするアドリエの交易にとっては、最も重要なことなのだ。
種の蒔き時、雨季と乾季、海流の変化……。
辛抱強い観測と正確なデータが、それらの予測を容易にする。
当然、そういったものは、星神セイタの神殿の付属機関で研究されていたものなのだ。神殿……宗教勢力から、農業や交易をなるべく切り離すためにこそ、暦司処が作られたのだから。
シレルは、何本もの巻き紙の文書や、綴じた本を小脇に抱えていた。
「お問い合わせの件を、ご報告に参りました」
シレルはそう言うと、更に前に進み、グラウルの机の上に、持って来た本や文書をドサリと置いた。
いかにも若い、そうした態度を、グラウルは不快には思わなかった。
「ここに、これまでのアドリエ王国内の、記録に残っている地震の全てを記したものと、分析、そして予測がまとめてございます」
「ご苦労だったな」
シレルは、グラウルが最近目をかけている部下だ。よく気が利き、労を惜しまない。有能だった。
「閣下……お望みでしたら、周辺諸国や太陽帝国の記録も取り寄せることができるかと存じますが」
シレルは、ごく控え目な調子で言った。
「いや、今はこれだけで良い」
グラウルは軽く手を上げ、断ると、巻き紙の一つにさっそく手を伸ばす。
「閣下……」
シレルは、いかにも邪魔をして申し訳ないという様子で、おずおずと言い出した。
「閣下がこの記録をお求めになられたのは、やはり……」
「やはり、何だ？」
グラウルは顔を上げ、シレルを見た。
シレルは、少しも悪びれた様子ではない。
「五日前の地震が、単発的なものではないとお考えだからですね」
シレルは、よく見ると、なかなかに整った顔立ちをしている。
「そうだ」
グラウルは、すぐに認めた。シレルには、もう少しこの事柄について調べさせるつもりだ。
「ここ数年で、確実に地震の頻度が増した。そうは思わないか、シレル」
「はい」
シレルは、大きく頷く。
「わたくしは、アドリエの生れでございます

アドリエに頻発する地震――それは何かの前兆なのか？

が、小さい頃には、これほど地震はなかったと思います」

　先日ほど大きいものは、そう滅多にあるものではないが、このところ、月に二、三度は、かなりの揺れを感じる地震があるのだ。

　グラウルは、ターフィの貴族だと称している。シレルの言葉は、それを十分に知った上でのものだった。

「記録にも、はっきりと出ておりますよ」

「だろうな」

　グラウルは半ば呟くように言ってから、しばし黙考した。

「これが、何かの前兆でないと良いのだが」

「何かの前兆……とおっしゃいますと」

「おまえも学んだだろう、シレル。千年前のことを」

「大災害の時代のことでございますね」

　答えてから、シレルは拳を口に当てる。

「まさか……閣下は……」

　シレルは、魔術師でもあるという暦司処の大臣にして、暦博士のグラウルを見詰めた。

　むろん、ある種の恭しさを保ったままで。

「大災害が起きることを懸念していない、と言ったら嘘にはなるが、わしはまだ、それほど大きな危惧を抱いている訳ではない」

　グラウルは、有能な部下にだけ見せる寛大さを示して言った。

「ただ、千年前の大災害の後から、しばしば、この地方はかなり大きな地震に見舞われている。古い記録を丹念に調べ、何らかの法則が発見できたらと思うのだ」

　グラウルは続ける。

「シレル、おまえはそのための特別班を作り、研究させてくれ」

「はい」

　シレルは、すぐさま胸に手を当てて頷いた。

「大災害との関連が分かるかもしれない」

「はい」

　もう一度答えてから、シレルは真っすぐにグラウルを見詰め、声だけは控え目に尋ねる。

「あのう……魔術で、それを知ることは不可能なのでございますか？」

「それ……とは、地震の時期のことか」

「はい」

「不可能だ。我が師ならば、半日前に知ることがおできになるかも知れん。しかし、半日前では、市民を避難させることもできまい」

「魔術で抑えることも？」

「根本的には、不可能だ」

V

「ご心配には及びません。あたし、あなたのことは、誰にも言いませんから。決して」

　アナイナは、大きな澄んだ瞳をティーエに向けて断言した。

　ティーエの、イルアデル王によく似た顔を見てしまった後のことである。

　マレシアーナ王女に仕えるアナイナは、兄王の顔もよく見知っているのだ。

　アドリエ王の信じられないほどに美しい顔……同じ顔を持つ人間がもう一人居たとは。

　しかも、その人間の瞳は、エメラルドの緑と紫水晶の紫という、天界のもののみが持ち得るような色なのだ。

　ティーエは、自分の顔を見せた後で、この事は内密にと、アナイナに頼んだ。

　本当は、ボイスもラクシも、こんなにも簡単に他人を信用してしまう、ティーエのおめでたさに、呆れ返るところなのだが、このアナイナという少女を見ていると、横から口出しをする気にはなれなかった。

　可愛いだけでなく、雰囲気も明るい。それなのに、なぜ、どこか哀し気に見えるのだろう。ラクシは、それが気になった。

　ラクシは、もうじき十六歳になる。アナイナは、そのラクシより一歳ほど年下だとは思うが、ほぼ同じ年だ。

　だが、ラクシとアナイナを見較べていると、強い生命力の輝きを示す、いきいきとしたラクシの陰で、アナイナはいかにも脆そうに見え、ボイスも、ふと、この少女のことが気にかかった。

　どんな生活をしているのか、この先、どうなるのか。

　奴隷とはいえ、華やかな王宮で王女の身辺で仕え、いずれはその奴隷の身分からも解放されるはずの少女なのに。

「アナイナは、王女さまに仕えてるんだって言ってたよね」

　日暮れ前に、王宮に戻って行ったアナイナを見送ってから、ラクシは母のアナリスに尋

ねた。

「アドリエの宮廷って、どんなとこなんだろ。きっと華やかで、きれいな人ばっかり住んでるんだろうね」

ラクシは、心のどこかで、貧しい新イタール公国の宮殿のことを思い出していた。

宮殿とは名ばかりの、石と木とで造られた、他の家々より、ほんの少し大きいというだけの建て物に過ぎない。

ラクシは、その家に、母の公太后と兄のイタール公アルン・ハラドと三人で住んでいた。身の周りのことや、雑用は、公国の女たちが交替でしてくれた。

公国といっても、貧しい小さな山村に過ぎないような所なのだ。

夏や秋は、山にも川にも食料にできるものが豊かにあって、公国は平和で幸福だったが、冬から春先までは、誰もが飢えていた。割り当ての穀物と、豊かな実りの時期に、せっせと採って保存しておいた木の実や魚の干物などで、一冬を乗り切らなければならない。

食料は他にはないのだ。

それだけに、春先に大地から姿を現わす小さな植物の芽が、どれほどに嬉しく愛おしいことか……

アドリエは、そんなラクシには想像もできないほどに豊かな大国だった。

その大国の中心、大アドリエ市の丘の上に聳える壮麗なる大宮殿と、華麗な奥宮殿。

麗わしい奥宮殿の女主人とは、どんな人なのか。

少し前に、一度だけ姿を垣間見たことがあったが、息を呑むほどに美しく儚げなひとだった。

「きっと、優しいお方なんだろうね、王女さまは」

ラクシはいつもの男のような喋り方をしているが、アナリスが、既に少女だと気付いているのは知っている。

目が不自由な分、音には敏感だし、男の服を着ているラクシを見ることもないのだ。

「娘はあまり、王宮でのことを話したがらないのです。いつも、王女さまもお乳母さまもお優しいし、周りの方たちもご親切だから心配はないのよ、と言うのですけれど……」

アナリスの声は少し沈んでいた。

「でも、私には、あの子が幸福とは、とても思えません」

「どうして？ アナリスさん」

「それは……」

アナリスは言いかけ、ふと思い直したようだった。

「あの子がまだ奴隷だからですわ」

アナリスは言った。デン共和国の市民だった、その誇りを支えに、辛い人生を生き抜いて来た女なのだ。その言葉は、ラクシにもよく理解できた。

「あの子が自由の身になれたら、私たちは、このアドリエを離れたいと思っています」

それも十分に分かる。奴隷としての屈辱の思い出ばかりの都市なのだ。

「息子はターフィに行こうと言っておりますが、私は戻りたいのです」

「戻るって……どこへ？ おばさん」

ジッダが尋ねた。

アナリスが戻るという所は、デン共和国しかないが、そのデンは、もうこの地上には無いのだ。

「もちろん、デンよ」

「でも……デンはもう廃墟だよ。おれ、見て来たんだ」

「知っているわ、ジッダ」

アナリスは、見えない目でジッダに微笑みかけた。

「私は、デンが燃え尽き、破壊されるところをこの目で見ていたのよ、その後で、農業もできないように畑に塩が撒かれたって聞いたわ。二度とデン共和国が再建されないようにって……」

「それじゃ、どうして？」

ラクシとジッダは、顔を見合わせた。

「それでも、塩はいつか雨に流されて土と同化するわ。私は少しでもデンに近付きたい。塩の影響が無くなるまで、近くに住んで、いつかは……」

「いつかは……」

ティーエが、半分夢を見ているような様子で繰り返した。

「いつかは、デンに行きます。そして、新しいデン共和国の最初の市民になるんですよ」

「デン共和国の……最初の市民……」

ティーエは空を見つめ、うっとりと微笑ん

だ。
それだけで、周りの人々には、日暮れ時の薄暗い路地やみすぼらしい家の周りが、急に明るくなったように思われた。

地震のあった日から、五日が過ぎ去ろうとしていた。

ティーエたち一行は、ずっとこのアドリエ市外の難民の街に滞在している。

この地方の雨季も終ろうとしていた。

すぐに厳しい夏が来る。

地震の時の怪我人の手当てで、外傷用の薬を使い果たしてしまったティーエは、ヴァユラの街に行き、必要な薬草の大部分を入手していた。

ヴァユラの人々は、薬草や、植物から作る香料、毒蛇やトカゲを捕って作った薬などを扱っている。

薬草のこととなると、ついつい夢中になってしまうティーエだったが、顔や目を人目に晒さないというだけの分別はまだあった。

その日、また地震があった。

ごく小さなものだったが、はっきりと身体で感じられる揺れだった。

「地震かあ……よくあるな」

ラクシが手を休めて言った。

アナリスの家の前の小さな空き地で、干した薬草を取り込んでいるのだ。薬草の中には、ティーエが自分で、近くの草地で捜して来たものも含まれていた。

「おれの国では、地震なんて、ほとんどなかったんだけど……」

「おれの故国でもだ」

珍らしくボイスが言った。ボイスは、自分のことはあまり話さない。故国という言葉を口に出したのは、これが初めてかもしれない。

少くとも、ラクシの記憶にはなかった。

「故国……ボイスさんの国は、どこにあるの？」

ジッダが無邪気に尋ねた。

「西の方だ。大きな河があった」

「大きな河……アド・アトナ河みたいな？」

アド・アトナ河とは、アドリエ第一の大河で、アドリエ市は、その河口近くに出来た都市だ。都市の東の外に出ると、ゆったりと流れる大河を望むことができる。

大河の作り出したデルタ地帯は、アドリエ市民の生活を支える農産物を生産する。肥沃な農地だ。いくつもの運河で、河と農地とアドリエ市が繋っている。

「アド・アトナ河より、もっと大きな河だった。なにしろ、水源は中央山岳地帯なんだからな」

ボイスは目を細めた。

ジッダの屈託のなさが、いつになく、ボイスに故郷を語らせているのかもしれない。

「いい国だった。平和で、水と緑が豊かで」

「どうして……」

どうしてその古里を捨てたのかと問おうとして、ジッダは口を噤んだ。

足音が近付いて来る。

見ると、大きな荷物を背中一杯に背負った若い男だった。

男は家の前に立ち止り、訝し気に四人、ティーエ、ラクシ、ボイス、ジッダを眺めた。

「何をしてるんだ？」

男の声には、不審と微かな怒りがある。

「ここは、おれの家だぞ」

（つづく）

愛されて◆100年。

ガメル連邦

UNITED COLONY OF GUMELL

COPYWRITER／パラディン・WTP商隊✢　　ILLUSTRATOR／KUNINUENUE AOKI

●ガメル連邦の国民はドラゴンマガジン読者の皆さん。この国は国民の投稿で成立している誌上RPGスチャラカ投稿国家です。読者の皆さんはこの架空世界・ガメル連邦の国民になったつもりで投稿してください。

●ガメル連邦に掲載されると、王様からこの国の貨幣『ガメル』が褒美としてもらえます。ガメルの活用法は無限！　現実世界に円があるように、通貨ガメルを使ってできる遊びを考えてみるのも一興です。ガメル世界での経済活動を活発にしましょう。

●例えば1万ガメルを使ってガメル連邦へ移民申請をすれば、ID番号とすばらしく立派な国民証が発行されます(次回公募は今春)。

●もちろん、国民証を持っていなくたってガメル連邦への投稿は可能です。このページを読んだあなたにはガメル国民になる資格があるのです。

●さらに誌上に掲載された優秀な投稿にはこの国での投稿力の指針である勲章✢が与えられます。これはあなたの投稿経験値として数えられます。✢の数が5個ふえるごとにあなたのこの国での地位は、平民から男爵〜子爵〜伯爵〜侯爵〜公爵とランクアップされていくのです。あなたもこの世界で投稿貴族を名乗ってみませんか？

♠

♥

♣

★

☎

トルエン・T・ニトロ7世
ガメル連邦首長国ニトロ公国のスチャラカ国王。あなたの君主。

セルロース・ニトロ姫
トルエン7世の孫で、連邦国民のアイドル＆オモチャ。主人公。

ラジット・S・アドマン子爵
連邦でいちばんマジメな国王の側近で広報官。苦労が絶えない。

サンチョ・ド・イウォーク
セルロースの愛犬……ではなく侍従を務める亜人間の少年。

司祭様（ステラ＝レーター）
無限の愛をあなたに与える両刀使いの誉れも高い聖なる女好き。

万感の想いを胸に悲しみを越えろ！

⬆小平市／パローレ山本✢

「今日は姫様の16歳の誕生日です。宴会も一段と活気づく中、貴族やナイトから一人一人贈り物が姫様に献上されました。しかし、たった一人だけ呼ばれなかったナイト1・あだちぴろかずは、怒って姫様に呪いをかけました。『おまえはダンス虫に刺されて死ぬだろー。ヒッヒッヒ』……ガメル連邦外伝いま動き出す伝説！ガメルクエストV、ナイト1の反逆！」(ニトロ公国／邪猫丸✢)

セルロース♥おじーさまは私の身代りに悪い魔法使い(とうこうきし)の犠牲に……。「もう早いものですね。王様が死んで3周年になりましたね」(人魚屋／大阪㋜)

トルエン7世♠だから！　しつこいっ！　死んでないとゆーとろおが!?　「姫様っていくつでしたっけ？　むかしは16だとばっかり思ってました……」(城陽市／ロム＝ライリス)

♥あたし、じゅーよん♡

ラジット♣そー言って、一昨年も去年も今年も来年もずーっと14歳だったでしょう？　早く高校に受かって、本来の歳に戻ってくださいよ。

進(しん)前(ぜん)匐(ふく)匍(ほ)

ガメル紀行・セルロース漫遊記

セルロース姫がガメル世界のあなたの国や村を訪問します。自慢の故郷の名所、名物、歴史、地図設定と代表者の連絡先（取材先。電話番号含む）を添えて、故郷に錦を飾ろう！

所在地

亜人間国家ディオニソス王国

建国：ガ暦2901年／国家元首：亜人間王・Dシグマ
首都：中央都市ガルガウシュを首都とする。
地理：南ガメル大陸にあり、気候は日本に似ている。中央都市ガルガウシュ、王政巨大都市ク＝セイ、騎兵都市レガシアム、聖邪都市インドラの4都市が点在している。／総人口：260万人（実数＝260人）。
ＰＲ：ファンタジー界の『亜人間』をよせ集めた（人間もいるケド）おもしろいコトを探求する軍団。他国との交流ならナンバー1を自負できる！
連絡先：〒229 神奈川県相模原市下九沢1764-8-101 内田方 ディオニソス／現在第3次国民募集中。宛名カード＋返信用62円切手同封で！

★……来ましたねー。ニトロ公国を出て最初の国・ディオニソス。
♥ラジットったら『とりあえずニトロ公国の次に大きな国に行ってください』なんて言って……。
★夏冬は逆さまですけどニトロ公国とよく似た温暖な気候ですねえ。ところで盛大な出迎え来てませんね？
♥お忍びだから他の国民に内緒にしてねってDシグマに伝えておいたの。だから空港までDシグマ本人だけが出迎えてくれるはずなのよね。
Dシグマ「姫様ーっ！ やほー！」
♥やほー♡……って、あれ？ どうしたの？ その後ろに引き連れた出迎えの集団は……？
★『歓迎セル姫漫遊記御一行』って横断幕までありますねえ。
D「いやあ姫様が来るって言ったらウチの全国民に知れ渡ってしまいましてねえ。あ、これ私の嫁です」
睦月詩穂「本妻の睦月です♡ いつも夫がお世話になってます」
★こちらの怖い顔した人もDさんの親族の方ですかぁ？
ギーガ「失敬なことを言うな！ 誰が万年嫁もらい男の血縁かっ！」
D「あの、それ、うちの宰相のC・S・ギーガですけど……」
♥あー、その昔、南ガメル大陸の魔王と恐れられた……という設定の！
D「かつて人間に迫害された我々亜人間が、ディオニソスを建国しようとこの南ガメル大陸に渡って……」
ギ「その頃、先にこの大陸で魔王の名をほしいままにしていたのが私だ」
♥で、Dシグマと戦って敗れ、世界征服をあきらめた？
ギ「こいつに敗れたからではない。おまえの祖父・ニトロ7世のスチャラカ加減を見ていたら、世を邪悪たらしめるのがアホらしくなったのだ」
★わー、やっぱり王様ってガメルの世界平和に貢献してるんですねー。
♥バカにされてるみたいで、素直に喜べないわね。
★ところで、紹介してもらいたがってる国民の列が地平線の彼方まで続いてるようなんですけど……。
D「なにせウチの国は設定＆人材が豊富ですからねー。あの高崎吏生卿も、全権大使のグレムリン実力男爵も、ナイト18・庭に鶴がいる氏も、村娘上級大将も…（中略）…常連の多くはみんなウチの国民ですしー」
♥あなた、TVに出たときに早口で友達の名前連呼するタイプでしょ？
★姫様、帰りの飛行機の時間です。
D「もー帰っちゃうんですか？」
♥まだ空港のロビーから一歩も出てないよ？ あちこち案内してもらおうと思ってたのにぃぃ（涙）。

♥あら、ラジット何か踏んでるわ？
♣……え？ あ！（Ld.KONPON）
♠レディ・KONPON？
「陛下、LdとはLadyではなくLordの略ですので、お間違いのないようお願いします」（ニトロ公国／Ld.KONPON）
♣元Dr. KONPONも実力で連邦初の男爵商人になったそうで。
♠そうか。そりゃーよかった。
♥それでおしまい？ お祝いは？
♣我々だってかわいそうなんです。
「謁見の広場から廊下になっちゃって。謁見の廊下って、これじゃ私ら立たされぼーずじゃないですか」（GAP／聖チェンバレン）
「えーん、1月号はまだ広場だったのにっ！ とゆーことで淋しいので泣きますっ!! わぁーんっ！ 広場に戻りたいよぉっ！」（北九州市／羅城龍奈）
♥ひーん、廊下は寒いよう！
「お知らせ……皆さん、廊下では暖房が効きませんので、コートとカイロは持参のこと」（ニューシルバー広告部／G将）
♠このまま没常連の呪いで凍てついてしまうのぢゃろうか。
「まさか次号は謁見の物置とか、謁見の地下室とか、謁見の〈以下略〉」（寝屋川市／岩崎まのを）
♥下水道とか、玄関口とか、謁見の門前の小僧習わぬ経を読むとか、
♣なんですか？ それわ。まあ、そろそろ春ですから、暖かくなってくるんじゃないかと思いますが。
「今度は日当りの良い謁見の縁側とゆーのはどうでしょう？」（羽生市／

廊下は、走らないで！
サクラ前線だよ
⬆宮崎市／しりうす

ガメルーブル美術館

画家国民の名画を展示するコーナー。毎回のテーマに沿ったイラストを投稿してください。薄墨、ボールペン、水性ペンやカラーは避けて、黒いペンで描いてください。

⬆三郷市／GUN BUSTER

⬆香川県／アルバート

⬆エレメンタラー／霊呼

⬆神龍／枇杷田　修中

⬆埼玉県／しんくいくろう

⬆天狼／ナイト21・唯みさき

狛江市／ナイト23・深沢師生

⬆死ね死ね団／サー・マセウス

⬆でぞば～ん／日がわりタヌキ

⬆旧ラジウム市国／早丁良案

♠つーわけで今月のテーマはレストランぢゃ。

♥で、やっぱりいちばん多かったのは「ダンス虫料理」でしたっ。だんす寿司とか踊り食いとか……。

♠そうそう食べられる恐怖で踊り狂うダンス虫を捕まえて、一緒になって踊りながら食べると言う……。

♥違うって。あ、この馬料理すっごーい……あれ?

♠乗馬代わりならピケがおるからもう用済みぢゃろ?

♥あたしのラッキースター号があああああっ!

♠干支（えと）料理は毎年の恒例ぢゃからのう。

♥何も食べちゃうことないのに……しくしく。ところでおじーさま、このレストラン国会とゆーのは?

♠アオキ画伯が「何がなんでも入れてほしい」んだそうぢゃ。おもしろくもなんともないところがいいとか……マンガ家の考えることはようわからんわい。

♥……。えーと、2月号ルーブルの人気投票は21票獲得のナイト23・深沢師生中が、3票という僅差でナイト17・笑い男―其ノ二から逃げきりました。さすがに騎士同士の戦いはすごいのね。

♠とゆーわけで、次回のテーマは絵で描きにくいモノがえーのう。……「噂」はどーぢゃ?

♥こんなテーマを絵にできる人、いるのかしら?

♠アイディア勝負ぢゃ!

たけいつかさ)

♥春ねえ。

♣春はいいけど姫様、今日受験でしょう? 急がなくていいんですか?

♠そうぢゃ。セルロースよ。ニトロ王家の明日を担うものとして勉学にいそしむことが大切ぢゃ。

♣おお、さすが陛下。お言葉に王の風格や権威を感じますなあ。

「ガメル連邦3大政治原則。

①投稿で国が成り立つ。

②集会で国が成り立つ。

③王様に権威がない」(トルちゃん友の会／鎌津)

♠やかましいわ!

「司祭様! 神龍は根性曲がりの集まりじゃありません!! ただ性根が腐ってるだけです(笑)」(神龍／怪異けーいち)

♣いかんですよ王様らしくビシッとしなきゃ。勢力の伸びてきた国民の新興国に攻め込まれてしまいますよ。

「ニトロ公国攻略のため、今、ミサイルが発射されたっ!!『種子島の野菜は、種が縞ぁ～……』……不発だった……」(でぞば～ん／日がわりタヌキ)

♠その程度で揺るぐニトロ公国ではないわ! 王の余裕をみせてマジメハガキを受けてみせようぢゃないか。

「ガメル連邦に出すハガキには一枚につきひとつのことしか書いてはいけないのですか?」(枚方市／剣狼)

♠ハガキ一枚＝1コーナーなら、いくつネタを書いてもOKぢゃ。ただし、ガメダスは「サ＝1枚」のように、一語群ごとに分けた方がよいぞ。「所属にギルドは入れなきゃいけな

⬆天狼／ナイト21・唯みさき中

ガメダス サ〜ソ

好評第２版。現用日本語・外来語の数々を、あなた流・ガメル流に解釈して、ガメル用語に仕立てあげてください。異常な解釈をコンパクトに集約することが掲載のコツです。

さ

サーガ　横浜大学図書館の端末はサーガと入力すると佐賀で検索する。
サーカス　曲芸の神様。ヴァッカス同様、宴会には欠かせない。
さーみんなで考えよう　恐るべき混乱の呪文。
最悪　ガメリアンが店に入ってきたときのマクド〇ルド店員の気持ち。
最年長国民　82歳という噂は本当だろうか。
ザイル　これを切ればオレは助かる。
サイロ　北海道でよく見かける核ミサイルの格納庫。
さかん　勢いよく壁を塗る軍隊の将校。
桜狩り　銃を使って桜を生け捕りにする。
叫ぶ　わ————っ!!
流石(さすが)に私も初の海外旅行で犬のウ〇コをふんづけるとは思ってなかったわ　長くてすいません。
左遷　「あー、君をガメル連邦大使に任命する」
作家　ーチームII人。
寂　常連の作品にある。
錆　没連の頭にある。
寂しいの　面と向かって言われるとこわい。
猿知恵　近ごろは鍵をあけて脱走するので馬鹿にできない。
山椒は小粒でもぴりりと辛い　オオサンショウウオは火を吹くほど辛い。
サンプル　太陽がプルルンと揺れること。
サンマリノ　ガメル国民より人口の少ないかわいそうな国。

し

死　ウィザードリィとファイナルファンタジーIIでは重みに天と地の差があった。
使役形　おやり。
誌上の楼閣　ニトロ城。
地震雷火事総没　あなおそろし。
指数法則　生物を指の数で分類する法則。
静かにしてください　初級の沈黙呪文。あまり効かない。
死体　「コインロッカーに入れてはいけない物」の看板に書いてあった。
士投稿商　ガメル連邦の身分階級。ガメル連邦は士（王、貴族）、投稿（投稿する人々）、商（メインストアで商売する人々）から成り立っている。
しどろもどろ　アオミドロの一種でうまくない。
島流し　下ネタを投稿した人が北方四島に流されるという恐ろしい刑罰。
締め技　ああー、落ちるうー。
シャーマン　精霊を使う戦車。
獣化　オオカミやコウモリはともかく、ラッコやナマケモノに獣化したら大笑いである。
習慣　投稿。
出家　とーさん、かーさん、ぼくはとーぶんいえにもどりません。
主役　ガメル国民。
ジュラルミン　機動隊の盾から採れる飛行機の材料。
召喚　職員室に来なさい。
職業選択の自由　①ダーマの神殿。②カメルではその気になればどんな職業にでもつける。
植物性タンパク質　①ガメル国民の脳の主成分。②トウフ。
シンクロナイズドスイミング　鼻の潰れた女性が笑いながら溺れている様子。
新参者　変人への第一歩を踏み出した初級投稿者たち。
人種のるつぼ　アメリカ大陸。
人種のどつぼ　南ガメル大陸。
人肉　うますぎる！

す

心配　友人からおもしろい話を聞き出すときに使用する態度。
水銀　王様、不老不死の薬ができました。
推稿　流行を予測して投稿すること。
スイ爆　スイカ爆弾。ＧＵＴＯの最新兵器。
素顔　見てはいけないもの。
好かれる　たっぷり可愛いがってやるぜ。
スコール　局地的に降る炭酸雨。
スッポン　月の対義語。
ステゴザウルス　拾ってください。
住めば都　ほらほらガメル連邦の良さがわかってきたでしょう？
スランプ　調子のいいときがある奴だけがなるんだと言われた。
ずるずる　投稿を始めるときに発生する音。

せ

精神構造　食べる・投稿する・寝る。
贅沢　牛丼に思い切って卵をのせること。
責任転嫁　俺が悪いんじゃない。没リヌス菌がいけないんだ！
説教　右から左。
セミクジラ　木に住む鯨。地中で7年間過ごし、地上では7日しか生きられない。
セルロース姫　14歳……ガッカリ。
先見の明　オチが見抜かれること。
専制君主　悪いのは任せきりの国民。
洗脳　頭がすっきりする。
せんべい布団　お茶受けによい。

そ

増刊ドラゴンマガジン　出たらおもしろいのに……。
送電線　電撃魔法に必要なもの。あまり知られていない。
底なし沼　DMにおけるガメル連邦。
側近　主君にふさわしい方ばかりですね。例＝ロザリオ＆シヴァ王、イシュタル＆エミリオ、ラジット子爵＆ニトロ陛下。
ソノシート　国王陛下の笑い声で始まり司祭様の愛のささやきで終わる。作らないんですかぁ？（笑）
ソバガキ　ソバカスだらけのガキにお湯を注いで作る。栄養がある。
ソビエト　①刑事は筋肉ダルマでいつも原発が爆発しているイメージがある。②アメリカの同盟国。今にドイツ第４帝国＆日本と戦争が始まる。③北海道を返してください。
それっきり　……ふられたのかなぁ（涙声）。
そろそろ　忍び足。
ぞろぞろ　30人の大行進。
存在　とにかく投稿しないと常連でも薄れることがある。

今月の単語解説者

ナイト17・笑い男—其ノ二中（５）／フィン（３）／ハタ坊（２）／10フィート４分の１（２）／奈良塚武坂馬（２）／反町亮弥（２）／鎌津（２）／早丁良案（２）／ハウザー（２）／マイケル（２）／氷竜牙（２）／MRN（２）／Bird（２）／好色脳天気男（２）／S＝くりす（２）／沼里香辺／嗚呼憧れのSILKどーろ／枇杷田修／サラディーネ／まっくすひでぶ／日本一の斎藤義龍!!／ヤンマー赤目／吉丸千里／ファクティス／浅川奈月／フォー／米倉正顕／キング・あっぷるマン／零羅／メイガス／東宮殿下／らっきい☆どらごん／桐島晟／沢口靖子／矢飛人／びりぃ／神鷺翔／夢桜／ことびき輝／風の吟遊詩人（β）／みつばやしあおい／ふぬばの戦士／ふず／R・田中一郎／ギャンブラーナイト／薔薇十字／本多康伸／黒白の風戦士／器用貧乏カシム／幻流隻語／天舞龍／飛竜／超雲子竜／霧影／シアン（2）／ナイト22・MSK—426／F.T. ガルドベルグ／C.C.グレイン（2）／MooLの里／LEANNIN・C

いんですか？」（放浪中／伊夢座川侍五十代）
♠諸君ら国民はせっかくこのガメルに移民してきたのぢゃからして、書いた方がよかろう。ギルド活動をしようがしまいが投稿に有利不利はないが、放浪中、浪人中、服役中などと書くと、異世界気分が盛り上がるぢゃろう。
♣……すばらしい、陛下ブラボー！
「質問!!　ガメル連邦に国歌はないんですかー？　それとも忘れさられただけなのー？　どうなんです陛下」（高岡市／月代詩神）
♠その昔（88年9月号）あったんぢゃが……どらごんふらいという国民の作詞でのう。その後いかたこくらげという国民がつけた曲が非常にそれっぽくてよかったんぢゃが……。
♣ぢゃが？
☎歌える人間が僕と担当※しかいないんですよ。だから歌唱率は低い。
♣マイナーな話ですなあ。
「投稿者のみなさん、ガメルはマニアックだなんて言われないよーに初めて読む人にもわかるネタを書きましょーね」（火のギルド／ＫＯＨＡＬ卿）
♠そう、マジメに未来を………。
♥……？　おじーさま？
♣最後までマジメを保てなかったみたいですねえ。さ、姫様も、こーなりたくなかったらちゃんと試験受けて。
「おおお、一歩一歩進むたびに脳ミソから英単語が消えていく〜」（楽教／ナイト18・庭に鶴がいる）
「最早これまで……メガンテーッ!!」（風龍／楠丸）

王様！　これが　うそをついている人の目に見えるのですか？

☗栃木県／ペルソナ

ガメル生物大系

ガメル世界に生息する生物について報告してください。生物の名称、分類、特徴(イラスト図解も可)を考えて、ガメル生物図鑑の製作に一肌脱いでいただきます。

ラジット♥もうすぐ試験会場からセル姫が戻られるはずなんですけどねー。大丈夫だったかな。

「このコーナーだけ、やたら元気になりますね。ラジット子爵は……」(ニトロ公国/Ld.KONPON)

♣そりゃもう、受験生を脅かすのは最高の気分転換に……あ。姫様ー♡ どうでした? 試験の調子は?

セルロース♥ヤマがはずれたぁっ!

●受験本番植物特集

「松竹梅……枝が松、幹が竹で根が梅のおめでたい木。樹液はアルコール分を含んでいる」(宇治市/嗚呼憧れのS-LKどーろ)

♥これは知ってる。ニトロ公国の国木でしょ?

「シャクヤク(酌役)……宴会でお酌をしてくれる。ニトロ城で栽培されているらしい」(錬金術ギルド/フィルセン)

♥これも知ってる。おじーさまが水栽培で育ててる。

♣あれは酒ですよ。酒栽培。

「バ木……近くを生物が通ると枝で殴る。全長30GMのモノは「ブァ木ィッ!!」と呼ばれる。同種に「べ木」や「ゴ木」などがある」(ナイト22・MSK-426♧)

♣攻撃用の枝をピ枝ィと言います。

♥出たわね、ダジャレ魔人!

「ビシバシ草……最高級ペンペン草」(ニューシリバー/LEANNIN・C)

♥これってべ木の苗だっけ?

♣ちゃいますって。

「ゴボウ……輪切りにすると切り口が☆型をしている野菜」(神龍/あるてみす)

♥これ、わかんなくて……ゴボウって豚汁に入れる野菜よね?

♣これはゴボウじゃなくて「五芒」じゃありませんか?

♥スターフルーツみたい。

♣豚汁に入れるのはこの野菜でしょ。

「オーク……みにくい木。豚がなる」(トルちゃん友の会/鎌津)

♣なった豚をもいで豚汁に。

♥豚って野菜だったのね……。

♣野菜はきちんと食べなきゃいけませんですよ。

「ナス……お盆になると割箸の足を生やして動き回る。同類=キューリ」(村八分中/ナイト18・庭に鶴がいる)

♣これなんか天然物は捕まえるのが大変なんで、牧場で養殖してるってなくらいのもんで。

「草々……手紙の文末に見られる2次元植物。連邦全土で栽培されているため、その数は測定不可能である」(楽教「猿!」/kv-II)

♥その他の2次元植物に「かしこ」という樫の木の仲間や「けいぐ」という桂の木の仲間がいるのね。

♣そーそー。

「植物人間……海水浴に行くとよく見られ、砂浜で光合成をしている」(本庄市/霧影)

♥で、植物人間の雌株の回りに群生していてうっとおしいのが、「やぼてん……サボテンの一種。そこらじゅうにいる(ある)」(ディオニソス/ヤンマー赤目)

♣そうそう。あってるじゃありませんか♪

「ユリア……ガメルの名花。ながめて楽しむ。なでたり、なめたりしてはイケない」(GAP/聖チェンバレン)

♥花園を荒すと管理人がうるさい。

「大合草……うるさい」(無節操!村/MRN)

♥同種に「混声四部合草」「国歌斉草」がある、と。

「まばら……気の小さい茨」(札幌市/まほろば怒号)

♥ぽつぽつと少ししか生えていないのでこの名がある、と。

「道草……食用となる。藤原道草という人が、歴史に出てきたような気がしてしかたない」(ニトロ公国/Ld.KONPON)

♣それって藤原道長でしょーが?

♥同種に「油ウリ」という樹液の脂っこいウリがある、と。

「ノーミン……ノームとムーミンのハーフ。これらの植物を、食用ならば片っ端から刈り取ってしまう生物」(天竜八部衆竜神族/Roost)

♣なあんだ、これだけできてれば合格間違いなしです。心配しちゃいましたよ私……あら、どーしました?

♥………本番じゃ思いだせなかったのよ! どーしよおおおっ!?

⬆ゲーム人/かみひとし♧

⬆鹿角市/ナイト16・アラハバギ♧

⬆神龍/ナイト20・PINX

⬆FFギルド/霊紀さむす♧

⬆神龍/PIT-A改め炎

⬆足立区/ハタ坊

ハガキ募集

♥連邦憲法第一条「国民は毎月必ず投稿すること」守ってますぅ?

●謁見の広場
王様や姫様たちがガメル連邦国民の陳情のお相手をします。無差別フリートークへの参加はガメルの住人になるための第一歩ですもん。

●ガメル紀行・訪問先募集
セル姫の訪問を受けたい国~村は、詳しい紹介、地理設定、自慢と代表者の連絡先(電話含)を明記して左の宛先までっ! ほら、急いで!

●ガメルーブル美術館・4月の課題
今月は「噂」がテーマです。ガメルに広まる怪情報をイラストで!

●ガメダス・ガメル用語新解釈募集
今月は「な~の」までの単語・諺を募集します。「例:なまくら……生のクラゲのような切れ味の刃物」

●ガメル生物大系・新生物報告募集
幻の未確認巨大生物(UMA)を追え! とにかく大きな生物について報告を!

●ガメルの百人一首・短歌募集
課題テーマは「梅雨」です。キーワードは5・7・5・7・7です。

●ガメルイベント道楽レポート募集
GUMCONレポートを始め、ガメルイベントの情報はこちらへ!

●メインストア・商品広告募集
あなたの作ったオリジナル商品を販売してください。ガメル価格と誌上公開可能な販売元住所、商品の紹介とサンプルをメインストアまで。

●連邦を盛り上げるコピーも募集。

〒102 東京都千代田区富士見1-12-14 ㈱富士見書房
月刊ドラゴンマガジン編集部
ガメル連邦(脱皮ぴっぴ)係まで♡

ガメルの百人一首

5・7・5・7・7で、ガメルの世界にしっくりくる独創的な短歌を詠んでください。もちろん自由律もアリです。吟遊詩人をなのる国民の実力やいかに!?

司祭☎死人が蘇る奇跡のことを復活と申します。というわけで、今月のお題は「復活」。
セルロース♥この命尽きても、何度でも何度でも復活します！
☎まるで浪人みたいですねえ。
●テーマ部門・復活
「近頃の『第3世代』に負けんとて
復活狙うは 我らが『第1世代』よ!!」
（風の谷共和政府／ワイバーン卿）
♥あ、やっぱりきた！
「不気味にも 静かに復活 ワイバーン 噂じゃきっと ワナバーンにでもと……」
（ニューシリバー／らっきぃ☆どらごん）
☎くるくる♪ 悪意に満ちたのが。
「復活をネタにできるは 元常連 私なんかに 書ける訳なし！」
（ガメルーラ・アイランド／天竜八部衆緊即羅・アリサ＝ウェーリット）
♥なんだかんだ言いながら2つも他のネタを誘発するとは、さすが投稿貴族！ 巻き込まれて載った国民さん、おめでとう！
「復活よいとこ 一度はおいで チョイナ チョイナ♪」
（ディオニソス／竜騎兵1天河れむ）
☎ぶわー、いい湯だあああ！
♥つまりこれは復活と草津をひっかけたとゆーネタだったのね……。
「魂を 黄泉の国から呼び戻し もう一度だけ 君の笑顔を」
（天狼／はぁふフェアリー）
♥いつもながらステキねー♡
☎現実に引き戻してあげましょうか。
●受験生に鞭打つ部門
「春がきて 冬眠してた連中が 帰ってきたぞ 浪人だけど」
（超人ハルク／すこっち♬ばくろまん）
「受験生とかけてサナギと解く。その心は、春キャンパスを飛び交う大学生にもなれば、予備校にはびこる浪人にもなる」（座間市／Dr.?）
☎現実から目をそらせてはいけませんよ、姫。
♥ひぃいぃいぃぃぃぃぃ……。
●いつまでたってもナイトになれない永遠のナイト候補部門
「友たちの 熱き声援受け止めて 今月こそはと 本誌手に取る」
（旧ラジウム市国／早丁良案⚜）
☎毎月、他の国民より余計にスリルを味わえていいでしょ？
♥とゆーより、なんか哀れね。
「さて次回のテーマは梅雨です。くれぐれもおソバにつけるツユとゆー大ボケは慎むように」（吟遊詩人／沢口靖子）

MAKING OF うるふまん・ろーど

ガメルが誇る宮廷画家・クニヌウヌウアオキ画伯のガメルマンガを、ガメル国民全員でなぶり物にするコーナー。ガメル一の穴場を好き勝手に演出するのはキミだ！

☗横浜市／霊呼

☗ハイランド／トラブル虎一郎

☗ナイト16・アラハバキ⚜

「KOHALはゾクッとくる男になって帰ってまいりましたぁっ!! あ、頭がくらくらする、鼻水が出る……」（火のギルド／KOHAL卿）
画伯◎鼻水をつけるんじゃない！
サンチョ★それにしても集まりましたねー。怪人……いや「獣人募集」。

☗神龍／PIT-A改め炎

☗各務原市／ラルIII世王

「青木先生、猫耳娘出してくださいよー、猫耳娘！」（ディジョン／ハウザー）
★1月号で姫様がやってたあれかな。そうか、姫様は獣人だったのか！
◎あれはコスプレだろーが。
「画伯！ ワルサーP38男はどうでしょう〈銃人〉」（ニューシリバー／G将）
◎ざぶとんやって放り出しなさい！
「火竜人……容姿は目鼻立ちの鋭い美形。トロイより少し背は高い。髪は燃え立つような赤毛。実は、現獣人最強の戦士『ブラフォードの3獣士(?)』の一人(以下略)」（浦和市／竹沢時計）
★で、ここに紹介されたらW・Rに出られるんですか？
◎さあ。もしかしたら出ることもあるかもしれないね。何処に出て来るか、より細かくチェックしよう！
★……詐欺みたいな企画ですな。

円卓の投稿騎士

♥連邦に貢献した人を祭り上げて誉め讃える（だけ）のコーナーぁ！
「Dr.KONPON氏は連邦商業を発展させた偉い人だと思います。ぜひ彼をナイトにしてください」（風の盗賊王国／KONPON氏を尊敬するリョグ）
♠そのつもりぢゃよ。Ld.KONPONよ。これから1年間はナイト24の称号を受けて Kt.KONPON を名乗るがよい。
「を？ をををを？ なんという名誉（？）!! これが『棚からセル姫』という奴なのですね。第3世代投稿者としてがんばります。あ、それから12月号のルーブルで私の作品に投票してくださった22（おお!!）名の方々、ありがとうございました。おっと真面目な文章になっちまったぜ」（ナイト22・MSK―426）
♥今月もナイトになれなかった早丁良案が『もしもナイトになれたなら』という条件付きで婚約したそうです。
「早丁さーん、早くナイトになって私をむかえに来てくださいねー♡」
（風の盗賊王国／早丁良案の婚約者・彼方こり乃）

新コーナー イベント道楽見聞録

GUMCONなど全国で続々と行なわれている国民同士のガメルイベントの顛末記を紹介するコーナー。活動中の国家の国報や街の市報もずんずん紹介します。最新情報待ってます！

♥ガメルの国民は日本全国に2万人以上。なにせ元々お祭り大好き・楽しいこと大歓迎の宴会民族だから、今までガメル国民のイベントは、ほっといてもあっちこっちで自然発生しては盛り上がっていたのよね。

♥それで、せっかく楽しいイベントがあったんだから、その楽しさを他の国民にも伝えてますます楽しみの輪を広げてしまおー♪　というのが、この新コーナーの目的なのです！

♥でも、難しいことはなーんにもないのよ。例えばGUMCONやお茶会のレポート、感想、それに毎月連邦に送られてくる各国の国報や街の市報、ギルドの会報などなどを紹介しちゃうコーナーだと思ってくれればそれでOK♡

♥とりあえず今回は、昨年末に千葉・幕張メッセで行なわれたコミケット37で盛り上がった人たちの模様をお知らせしまーす♡

●冬コミ〈お誕生会〉レポート

「ガメル国民の誕生会をやりました。それも、幕張メッセ・冬コミで！

巨大な会場にひしめく約1万のサークル。その中での出会いを思うと、これはほとんど奇跡です。

皆さんがんばってましたよぉ。特に凄かったのがディオニソス。Dシグマ国王自ら出撃し、高崎吏生卿率いる国報DIONYSOS・8号もドトウの充実ぶりでした。

が、この日のメインイベントは何と言ってもA－S（アーマーケット・インダストリー・サービス）の皆さんとの〈突発誕生パーティ〉。

元々は、WTP（わんだあ☆たあプレゼンツ）商隊のわんだあ☆たあ氏に教えていただいた別のサークルを探しに行ったのですが、そのサークルは既に終了。その隣で1万ガメルでディスクマガジン「潜伏」を売っていたのがA－S。皆さんが飢えているのを見かねてカップラーメンを差入れたのが始まりで、「うちの本、見る?」「後で、遊びに行くよ！」と、とんとん拍子に話が進み、3時頃……まさか誕生日（バースデイ）ケーキ持って来るとは思わなんだ(笑)。早速みんなでケーキを切って、熱いお茶で乾杯しました。

国民同士・コミケならではのこのノリ！　……だからコミケはやめらんない。A－Sの皆さん、楽しかったよ。また会おうね」（東村山市／リンクス☆お宮♆）

♥さすが、日本でいちばん大きな会場でのイベントだけあって、ガメル国民も大挙して出かけてたみたい。

「冬コミで　有名人（ナイト）に会いました。夏コミでまた　きっと会おうね！」

（千葉市／桐島晟）

♥関東圏の国が多かったみたいで、他にも三人竜女、シルフィナーグ・BLOW-UP・ガメル連邦出版同盟、ガメリアン共和国、NANIGA-NET Press（ガメリアン共和国ゼファート州）等々が参加していて、国民さんたちで賑わっていたようです。

♥さすがに関東までは来られない…

…って人も御安心♡　ガメリアン共和国主導で早くから始まったガメル国民交流イベント・GUMCON は、いまや日本全国に広まりつつあります。コミケ以外でも未知のガメル国民と遊べるようになるといいねっ♡

●全国のガメルイベント状況／主催

☆北海道 GUMCON／闇王国

☆関東 GUMCON／ガメリアン共和国

☆北陸 GUMCON／翠桜京（企画中）

☆GUMCON 名古屋大会『なごやん』／神龍（4／1）

☆大阪GUMCON／G企画会（3／31）

☆愛媛GUMCON／吉丸千里（企画中）

♥そーれーとー、1月7日にあった最新イベントも紹介しちゃいます。

「GUMCON IN 北海道 ACT IIの報告！　今回はすごいぞ！　ナイトが3人も来てくれた！　他にも様々な有名人が来てくれました。ハードではあったがみんな楽しかったと言ってくれた。さあっ他の国民さんもGUMCON を開くんだ！　絶対に楽しいぞっ!!」（闇王国／SiLLY-D ♆）

♥楽しそう……あたしも行きたいっ。

●今月の国報&会報

♥今月あたしの手元に届いた国報&会報は、定期便のアクアマリン通信15号（グリーンフィールド市アクアマリン村）、ライトサイドダークネス9号、テープ版オールナイトガメル（闇王国）、きりんびーるばんざい（エシュティ公国トン＝ターイエン&霜風夫妻）、武士道（翠桜京）、ほんきいとんく5号（有頂天）でした。どんどん紹介しちゃうから、国報&会報の最新号も送ってね！

♥それじゃ、また来週〜！

メインストア

MAIN STORE

⬆踊屋／アル＝パッセオ

¥今月はリストの中に納まりきらんよって、はみだし新製品紹介やで！

「テープ版国報・闇王国のオールナイトガメル。北海道 GUMCON の模様も収録して、1万G＋400円の無記名小為替同封で、89年11月号メインストアの闇王国まで」

¥んで、Kt.KONPON やねん。

「ガメル連邦商人資料。昨年1年間にメインストアで売られた商品データ集。送料分の62円切手のみでOK。90年2月号の根本商会まで」

¥これは重宝するわー。うーん、便利便利。

¥架空世界ガメルで商売をするリアルタイム・ショッピングシミュレーションゲーム。その仲介役をするのがここメインストアでおま。このゲームの勝利条件は、よりたくさん通貨ガメルを集めること。勝者で居続けることの難しさを堪能してや！

¥さて、メインストアで国民の皆はんの商品を取り扱う場合、問い合わせやガメルの支払いなどはすべて各らいまっさかい、ステッカー以外の商品をメインストア（編集部）に注文してもあきまへん。万一、取引上のトラブルが起こった場合でもメインストアは一切関知できまへんで、そこんとこ堪忍してーなっ！

お徳用・国民伝言板

国民への伝言、ギルド～国の仲間募集、各種ガメル関係イベントの情報告知などなど、誰かに何かを伝えるためのコーナーがパワーアップしました。交友関係の拡大にどおぞっ！

♣この伝言板は国起こし・仲間探し&国民情報の告知に使うものです。
♥皆さんの熱烈なリクエストにお答えしてワイド版になりましたっ！
♣とか言ってるうちにお詫びです。90年1月号のS.W.P.Gの住所番地に不備がありました。「長井　3－29　D」ではなく「長井　3－29・D」でした。ごめんなさい。
♣国起こしの基本的集団は次の通り。
ギルド（仲間3人以上が必要。同じ目的・趣味を持っている集団）
村（仲間6人以上が必要。ガメル世界内に1平方GKMの土地を有し、地図を作ることが出来る）
街（仲間12人以上が必要。ガメル世界内に25平方GKMの土地を有し、最低3つのギルドを内包する）
国（仲間30人以上が必要。人口10人増えるごとに25平方GKMの土地を有し、2つ以上の街を内包する）
♣伝言板の書き方は、表内右下を参考にしてください。
♥ガメル連邦は実は活動すればするほどおもしろいものなの。難しいことは何もいらない。まずは未知の道楽満載のパラドックス・パラダイスに最初の一歩を踏み出してみよー♡

GUMCON企画会主催
GUMCON大阪春の陣のお知らせ
③〒560 豊中市長興寺1-3-21
浜名正勝方　G係
日時　3月31日　AM10時～PM５時
場所　豊中市民会館第１会議室
集合　AM９時30分頃までに阪急梅田駅下・紀伊國屋書店前の宝塚ファミリーランドの催し物前に集合！
無記名小為替 200 円分＋宛名カード同封の上、必ずご連絡ください。

北陸GUMCON開催にあたって
参加者募集
②鎌津・06991
③〒930 富山市向新庄609-11
山下方　ぽげむた係
④そんな訳で大体の数を把握しないと動きだしにくいので、北陸ＧＵＭＣＯＮ（金沢が有力）に、これそうな人は連絡ください。実質的な担当は文通省のクルーズ氏ですので、安心して遊べます。

3月すぎたらすべろう！
北方国民スキーツアー!!
②天舞龍・10370
③〒064 札幌市中央区南14西15丁目
2-20　牧野方　なまらさむい係
⑤計画は全然たててません！　これからみんなで話をして決めたいと思いますので、どーぞよろしくお願いします。参加希望者も紹介ください。できるかどうかは別……。
（すべるのは雪と氷の上がいい：♥）

LRPG '90（仮称）
開催のご案内
②高橋利光（申請中）
③〒146 東京都大田区多摩川1-4-8
高橋利光方 LRPG '90 資料請求係
⑤３月25日（日）にライブロールプレイングゲームを開催いたします。参加希望の方は62円切手と宛名カードを同封の上③まで（３／20必着）。参加説明書を送ります。
（新しいRPGの形に挑戦っ！：♥）

怒濤のトーナメント
開催のお知らせ
②テンワーズ・11494
③〒180 東京都武蔵野市関前
2-2-17-308　増田方
「怒濤のトーナメント」係
⑤素敵艦隊主催、「第１回怒濤のトーナメント大会」を開催します。「激ペナ２」を使った大イベント！
参加申込は3/15まで。詳しい説明書を送ります。いっぱい来てね！

ガメルクエスト研究会
新冒険者技能大募集!!
②迫間リョウ・申請中
③〒422 静岡県静岡市曲金3-1-40
福島俊和方
⑤当研究所では新技能を募集します。くわしくは、62円切手を同封して送ってください。採用者には15万Ｇ＋αプレゼント!!
ガメルらしい技能を待ってます。
（これはCRPGじゃないのね：♥）

シルヴァネスティ疾駆軍
プレーヤー募集
②クランドルフ・11286
③〒424 静岡県清水市横砂東町
31-4　勝又功方
④現在４名
⑤みんなぁ、ソード・ワールドＲＰＧをやろーぜぇ!!　とゆー訳で近隣の方求む。大学生、社会人優先だけどDMのリプレイに負けないプレイをしようっっ。

メンバー募集
Truth
②ぐらすらんなあ
③〒564　大阪府吹田市藤ケ丘町
15-23　辻健一郎方
④１人
⑤SWRPGを中心に、みんなで楽しくＲＰＧするギルドです。初心者大歓迎！
切手同封の上ご連絡を。
（どんどん増えるSWの仲間あ：♣）

メンバー募集
OUTCAST CLUB
②伊夢座川　侍五十代
③〒245 神奈川県横浜市戸塚区
汲沢町1154 ぐみさわ東ハイツ
2-210 吉澤方「サークル・ガメ連」
④まだ１人・目標10人くらい
⑤ＲＰＧ、パソコン、マンガ、小説。
活動は４月から月刊コピー本と年２回のオフ本を予定。ヤル気のある方を募集。62円切手同封で③へ！

占い師ギルド
SEER（仮）
②反町亮弥・10477
③〒053 北海道苫小牧市日新田
４丁目8-10　中原方　反町亮弥宛
④１名・たくさん……
⑤占い師よ集え！　……という訳で正副業問わず。所属にこだわらない国際的ギルドになるとうれしいな。
（うんうん、いーですねえ：♣）

メンバー募集
語り部のギルド
②北斗由
③〒807-01 福岡県遠賀郡芦屋町
江川台3-7　西岡方　北斗由宛
④ただいま１名・目指すは12名以上
⑤小説、漫画、イラスト書ける人、書きたい人募集中。不定期に会誌を発行、作品に対する意見を交換しましょう。遠方の方もどうぞ。
夏コミで会えたらいいですね。

ガメル連邦蓬莱学園出張所
②ネットワーク・09097
③蓬莱タイムス
学籍番号50170706　犬江流仙まで
④ガメル連邦の人でネットゲーム90やってる人全部
⑤「蓬莱学園にガメル研を作って情報交換、悪だくみ、宴会 FAの相談などをしよう」というものです。
（留学生なのね♡：♥）

夢幻迷宮
②桜井あや
③〒115 東京都北区桐ケ丘
1-7E3-206 大西由恵方
④現在２名（18歳）
⑤ソード・ワールドです。できたてのパーティです。えっと、マスター（♀）をいじめようと言う方も来てね♡
（女の子のマスター……じゅる：☎）

楽教の里のギルド
楽教警備隊
②ナイト19・菊池桃太郎・10567
③〒639-22奈良県御所市今住211-4
吉川方　カバの反対係
④目標、せこく12人
⑤楽教信者を守るのが主目的。
でも本当は人様の役に立っていないギルドなんすよ。新国民かんげー。誰か入ってくれ。
（つまり僧兵なんですか？：♣）

集会大国
ガメリアン共和国
②ナイト14・千手こーいち
③〒362 上尾市小泉478-2
千手孝一方　ガメリアン共和国
④現在26名／たくさん
⑤人口30人以下の超大国ガメリアン共和国では、入国希望者を募集しています。GUMCONのスタッフをやりたい人、同人誌を作りたい人などはぜひガメリアン共和国へ！

会員募集中！
RPGグループ『DDM』協会
②禍神☆社（まがつかみ☆やしろ）
③〒192-03 東京都八王子市南大沢
5-3-3　足立方『DDM』協会！
④約70名／目標100名
⑤当会では冒険友達を募集中☆　主にRPG、MRPGをプレイ！　会誌・会報も作っているので、小説・絵をかける人も大歓迎！　女性も多いので女の子も安全です☆

平和国際機関
GC（ガメル共同体）
②スライムドラゴンⅣ・16360
③〒721 広島県福山市日吉台367
パレーシャル日吉台202号室
塩村方
④ＧＵＴＯに次ぐ大型機関ガメル共同体の登場だっ!!　加盟国はお互い協力しあって平和を守ろうじゃないか。てなことで、たくさんの加盟をお待ちしておりま～すっ。

ガメル連邦
公認職業適正検査
②ラーズ・10607
③〒206 東京都稲城市矢野口1721
吉田方　ガメル検査係
⑤本当に簡単なアンケートですが、興味のある人は72円切手同封で４／10までに連絡をください。集計が終わったらコピー本を出します。
（魔法戦士や魔法使いや吟遊詩人以外の職業の人っているの？：♥）

PORCUPINE COMPANY
②ＲＧＣ・16691
③〒336 埼玉県浦和市本太1-25-15
小田雄一方
④現在国民２名他２名
⑤オリジナルゲームの製作を中心とする他、各種ＴＲＰＧを楽しんだり出来れば月１回位会報も出したいです。興味のある方は返信用切手同封の上封書でご連絡ください。

募集要項
①イベント名・組織名
②代表者PN・国民証ＩＤ番号
③代表者の連絡先。または、公開可能な住所とする。
④現在の構成人口／目標人口
⑤国、街、村、ギルドのＰＲや活動目的などをできるだけ詳しく。また集会・イベントの告知の場合は開催場所、日時、内容などを明記。
手紙のエチケットを忘れずにね♡

UNITED COLONY OF GUMELL

●国立高校入試合格発表。
……セルロース・ニトロ。補欠合格。
♥……………………受かった！
——全ての受験生であるガメル国民が志望校に合格していますように。

品名	ダンス虫ハート ぬいぐるみ✢（写真参照）	ミンク（D・H） レリーフバッジ	語り部ギルド南海の塔 仙郷の詩II	第2弾 ショートソード
価格	２万Ｇ＋700円（材料費＋送料）の無記名小為替	１万Ｇ＋300円分の無記名小為替OR 400円分の無記名小為替（送料込み）	１万Ｇ OR 300円の無記名小為替＋210円分の切手（送料）	50万Ｇ。限定10本につき全予約者から抽選。往復ハガキで予約受付けます
販売元	〒071-07　北海道空知郡中富良野市街　岡田方「踊屋 αほえほえダンス虫」係　（アル＝パッセオ）	〒519-01　三重県亀山市住山町373 服部方　Ｄ・Ｈ・Ｂ係　（SILENUS＝くりす）	〒772 徳島県鳴門市撫養町立岩字５枚18-1　湯浅方 塔 仙 係　（ウンディーネ）	〒161 東京都新宿区中井1-12-7 丸富ハイツ203 櫛田方 ショートソード係（ARMARKET.I.S）
データ	新装開店踊屋（ダンス屋）が放つ新商品！ 先着３名様に粗品贈呈。ご注文締切は３月末日まで。メッセージつきで申し込むといいことあるぞ！	プラキャスト製のバッジです。ドラゴンハーフファンなら一人一個持っていても損しません。（こっちも実にええ出来してはりまっせええ：¥）	語り部ギルド製作のオフセット同人誌。半年ぶりの続編発行です。尚、Ｉは1万G＋210円分の切手で現在も販売しています。	アーマーケット・インダストリー・サービスがお贈りする、司祭様純正ショートソード。サイズは47㎝、キャスト製。貧民にもチャンス有り！

ENQUÊTE
読者アンケート

読者プレゼントの応募方法&アンケートの記入方法

●DM4月号読者プレゼント応募方法

このページとプレゼントのページの間にあるとじ込みハガキに、希望するプレゼント番号を記入し、プレゼント品名と41円切手をはって送ってください。

このとき、自分の住所・氏名・年齢など（ガメル国民はIDナンバーも）を明記し、裏面のアンケートにも答えてください。

とじ込みハガキ以外（コピーのハガキなど）での応募は採用されにくくなります。また、住所・氏名などが不備のハガキは無効となりますのでご注意ください。

読者プレゼントの応募の締切は、3月15日（当日消印有効）です。なお、当選者の発表は発送をもってかえさせていただきます。

●読者アンケートの記入方法について

とじ込みハガキ裏面の読者アンケートの1と2――今月号で面白かったものとつまらなかったもの――については、かならず左下のタイトルリストのタイトルナンバーとタイトルで答え、その理由をA～Dから選んでください。もしタイトルナンバー㉙その他を選んだ場合は、そのページとタイトルを書いてください。同様に「その理由」からDその他を選んだ場合も、その理由を簡単に書いてください。

また「ひとり」とか「ひとつ」といった数の指示がある場合は、なるべくそれに従ってください。

最後の「今月号の感想・要望」の項目についても、可能なかぎり答えてください。

●その他のお手紙の送り方注意事項

いくつかのコーナーあてにお便りがあるときは、かならず別々のハガキまたは手紙で送ってください。また、住所・氏名等もかならず明記してください。

特別に指示された締切がない場合、締切はすべて15日となります。

ドラゴンマガジン4月号アンケート用リスト

タイトルNo.	タイトル
❶	表紙（ドラゴンハーフ）
❷	目次
❸	燃える！ドラゴンハーフ（特集）
❹	雷の娘シェクティ（特集）
❺	風の大陸（特集）
❻	機動警察パトレイバー（小説）
❼	雷の娘シェクティ（小説）
❽	メディア倶楽部　Catch-UpⅠ
❾	メディア倶楽部　Catch-UpⅡ
❿	メディア倶楽部　Game-Catch
⓫	メディア倶楽部　Data-Catch
⓬	WOLFMAN ROAD（Comic）
⓭	風の大陸（小説）
⓮	ガメル連邦
⓯	DRAGON PRESENTS
⓰	RPG BOX だからRPGがすきっ！
⓱	FANTASY GAME FILE
⓲	16ビットのアレクラスト世界
⓳	S・W RPGシナリオ 狂気の季節
⓴	機神幻想ルーンマスカー（Comic）
㉑	S・W RPGリプレイ 氷原に響く交声曲
㉒	ユミナ戦記（小説）
㉓	御先祖様はご機嫌斜め（Comic）
㉔	バセット英雄伝エルヴァーズ（小説）
㉕	DRAGON SCRAMBLE
㉖	BOOK REVIEW
㉗	奥付　編集後記
㉘	DRAGON HALF（Comic）
㉙	その他（タイトルとページを書いてください。）

バックナンバーガイド

●バックナンバー入手の際は本屋さんに「富士見書房の『月刊ドラゴンマガジン』何月号がほしい」という具合に注文して取り寄せてもらってください。

3月号　表紙・風の大陸／エルヴァーズ パトレイバー／ネーナ／S・Wリプレイ

2月号　表紙・ルーンマスカー／ふろく 風大ポスター／ZEQU／他

1月号　表紙・エルヴァーズ／ドラゴンハーフ／シェクティ／S・W／他

★'88年3月号～'89年12月号は在庫なし

DRAGON MAGAZINE SPECIAL

●ドラゴンマガジンスペシャル入手の際は本屋さんに「富士見書房から出版している○○という画集がほしい」と御注文ください。

加藤洋之&後藤啓介画集
Factlily

●美樹本晴彦画集
Movement

●いのまたむつみ画集
月の聲　星の夢

DRAGON PRESENTS

寒かった冬も終わろうとして、暖かい春がやってきます。プレゼントを当てて身も心も暖かくなりましょう！

❶DMオリジナルテレカ　100名
⬆今月号は貝田竜介先生による本誌特製テレカなのだ！

⑯タイタン　5名
⬆「FIGHTING FANTASY」の世界を君も楽しんでみよう！

⑮教師びんびん物語II手帳　5名
⬆"教師びんびん物語II"のダイヤリー手帳だ！

⑰謎かけ盗賊　5名
⬅君にも楽しーいRPGの世界をあじわってもらいたいなぁ！

㉖テレコレオリジナル生稲晃子テレカ3名

⬇3月30日コナミより4M＋VRC6バッテリーバックアップ搭載8500円（税別）で発売。もちろんファミコンカセット。で、これは、イメージCDです！

❾電脳都市OEDO808・反逆の孤狼　3名
➡ゲームの発売を記念して！

❿ドラゴンクエストへの道　2名
➡ドラゴンクエスト誕生の秘密がよくわかるぞ！

㉒ダブルダンジョン 3名
⬆PCエンジン版の倉庫番WORLDなのだ！

㉔MADARAオリジナルCD　3名
⬅かわいい生稲晃子ちゃんテレカだ！

➡"クトゥルフの呼び声"はRPGだ

⑲CALL of CTHULHU　3名
⬇倉庫番WORLDの発売を記念したテレホンカードだ！

⑱天野喜孝ファンシフルカレンダー　3名
天野喜孝先生の1990年度版カレンダーなのだ！

⑫刀八毘沙門天王御守護　10名
⬆『天と地と』特製のお守りなのだ！このお守りを持っていれば、きっといいコトがあるヨ！さぁ、手に入れなくちゃ！

⬅これで君もドラゴンクエスト博士になれるというパーフェクトブックだ！

⑪パーフェクトコレクション1990　3名

⑬"天と地と"時計　3名
⬅『天と地と』特製の時計なのだ！　かっこいいでしょ!?

㉕なんとかなるでショ！テレカ　5名
⬆江口先生によるオリジナルテレカだ！

⬇3月31日、東京・ヤマハホールで午後6時30分から行われる『巨乳ハンター』の特別イベント招待券。主演のかいはるみちゃんのミニコンサートも行われるからぜひ見に行こう！

㉑倉庫番WORLDテレカ　3名

⑳クトゥルフモンスターガイドII　3名
➡これさえ読めば君もモンスター博士だ！クトゥルフの世界を100倍楽しめるぞ！

⑭花島優子ポスター　5名
⬆花島優子ちゃんのデビュー記念ポスターなのだ！

㉓巨乳ハンターイベント招待券50名

❹不死朝伝奇ZEQU　3名
➡不死朝伝奇の最新刊なのだ！

❸スレイヤーズ！　3名
➡ファンタジア大賞準入選作品だ！

❷レプラコーンの涙　3名
➡ソード・ワールドの短編集だ！

❽Rio　3名
➡小川範子ちゃんがカッコイイぞ！

❼タイラー大逆転　3名
➡宇宙一の無責任男シリーズ第6弾！

❻悪の江ノ島大決戦　3名
➡なんとここの表紙はCGなのだ！

❺闇の中のイノセント　3名
➡時の光、時の影の第2巻なのだ！

プレゼント提供

エニックス	⑩⑪
オレンジ出版	㉖
角川書店	⑫⑬㉔㉕
社会思想社	⑯⑰
天プロダクション	⑱
日本コンピュータシステム	㉒
東北新社	㉓
ホビージャパン	⑲⑳
ポニーキャニオン	⑭⑮
メディアリング	㉑㉒

ヒーロー・オブ・ランス

神々の怒りにより、〈大変動〉が起きて300年余り。〈暗黒の女王〉タキシスはその魔手をクリンに伸ばそうとしていた。しかしタキシスの恐るべき力に対抗できる唯一の力、信仰心はすでに人々の心になかった。「ランスの仲間たち」は人々に信仰心を蘇らせるために、〈まことの癒し〉をもたらすミシャカルの円盤をザク・ツァロスの神殿から持ち帰るべく、苦難の冒険に旅立つのだった。RPGのアクション部分に重点をおいて仕上げられた「ヒーロー・オブ・ランス」。緻密に描き込まれたキャラクター、戦闘、魔法、隠されたアイテムなどをめくるめくAD&D®の世界が展開する!

- PC-9801シリーズ 5"2HD F75F5122
- 3.5"2HD L75F5122
- PC-8801SRシリーズ 5"2D(3枚組) M75R5122
- PC-88VA 5"2HD F75A5122
- X1turboシリーズ 5"2D (4枚組) M75J5122

〈各〉¥7,500

- FMタウンズ用
- MSX₂用

'90年春発売予定

Heroes of the Lance developed by U.S. Gold Ltd. and Strategic Simulations, Inc.
このゲームはU.S.ゴールド社およびSSI社によって開発されました。

プール・オブ・レイディアンス

戦いの中から多くの伝説が生まれた。フランを解放せよ!

「プール・オブ・レイディアンス」の舞台は、〈月海〉と呼ばれる内海の北側の地で展開する。話の中心となるのは、「ストジャナウ川」河口にある「フラン」と呼ばれる都市である。この都市は、はるか数千年前に最盛期を迎えたが、外敵の侵入により、しだいに荒廃し、やがて、人住まぬ廃墟となった。「フラン」は、その後いくたびの盛衰をくりかえしたが、今日の「フラン」は、「新市街」に住む「評議会」を中心とする人間の軍と、「旧市街」に住む「邪悪」な軍が戦っている。

- PC-9801シリーズ〈2HD〉 F98F5124
- PC-9801シリーズ3.5"〈2HD〉 L98F5124
- PC-88VA 5"〈2HD〉 F98A5124

〈各〉¥9,800

- PC-8801SRシリーズ 5"〈2D〉 M98R5124
- X1turboシリーズ 5"〈2D〉 M98J5124

'90年・春発売予定

Pool of Radiance developed by Strategic Simulations, Inc.
このゲームはSSI社によって開発されました。

(富士見文庫)

AD&D®を小説で楽しむ!

「ドラゴンランス戦記」

DRAGONLANCE® Chronicles "Dragons of Autumm Twilight"
by Margaret Weis and Tracy Hickman
Copyright ©1984 by TSR, Inc.
Translated by Hitoshi Yasuda.
First published 1987 in Japan by FUJIMI SHOBO, Inc.

「プール・オブ・レイディアンス」'90年・春発売予定
上下巻〈各〉500円(予)

書店RPG フェア開催

●富士見文庫RPGフェア。開催中!
もれなく特製ポスターカレンダーをプレゼント!
(くわしくは本についている帯をごらんください)

PONY CANYON INC.
PONY CANYON
〒102 東京都千代田区九段北4-3-31
㈱ポニーキャニオン ポニカ事業部 ☎03-221-3161

販売元/株式会社ポニーキャニオン販売
〒102 東京都千代田区九段北3-3-5 ニューポニービル 第2営業部 ☎03-221-3131
札幌支店/011-232-5151 仙台支店/022-261-1741 東京支店/03-464-9201
名古屋支店/052-562-0111 大阪支店/06-541-1971 広島支店/082-243-2915
福岡支店/092-751-9635 ニッパンポニー/03-667-3741

全米No.1の「AD&D®」がついに登場！
語り継がれてきた伝説とドラゴンと魔法の世界!!

OFFICIAL
Advanced Dungeons & Dragons®
COMPUTER PRODUCT

•アクション・タイプ•

HEROES OF THE LANCE
ヒーロー・オブ・ランス

第2弾

•ファンタジーRPGタイプ•

POOL OF RADIANCE
プール・オブ・レイディアンス

►絶賛発売中◄

TSR, Inc.

クトゥルフ・ナウ

人は神を超えたのか

**クトゥルフの名を知る人は、彼らの前では人類も無力だと言います
1920年代ではそうだったかもしれません。しかし、それから70年
そろそろ暗黒の邪神にリターンマッチを挑んでもいいんじゃない?
平和がいいって? でもむこうはそう思っていないみたいですよ……**

AUTHOR
かつらつかさ
TSUKASA KATSURA
監修 近藤冒険企画局
ILLUSTRATOR
都築和彦
KAZUHIKO TSUZUKI

クトゥルフ・ナウ
4300円(税別)
ホビージャパン(Tel.03-354-9341)

⬇『クトゥルフ・ナウ』は、このスタートセットがないとプレイできませんので注意してね。さてこのゲーム、邪神さんたちの強いこと強いこと、私たち人間さまが何をやろうと、とにかく未知の恐怖と破滅に向けて一直線! 冒険を繰り返すほど正気度というポイントが減り、最後は気が狂ってしまうというおまけつき。そんなゲームが面白いわけがない、と思いきやこれが面白いからあら不思議。まさかと思う人は一度やってみて
●クトゥルフの呼び声　ホビージャパン　4500円(税別)

⬅クトゥルフの舞台は、1920年代のアメリカでなきゃね、って思ってたの。だから『クトゥルフ・ナウ』を見る前はちょっと不安でした。現代世界の新しい装備や、それを使うための技能、新しい職業などのデータがどんなにたくさん入っていても、それだけじゃあまり意味がないじゃない? でもそれだけじゃなかったのよね。『クトゥルフ・ナウ』についている4本のシナリオ、これがとってもよくできてるんです。今回は、イラストでそのシナリオのほんのさわりだけをご紹介しましょう。まずは『海底の都市』と題された一本。アトランティスの存在の証拠を捜し求める博士の依頼で、探索者は光も届かぬ深海に挑むことになります。最新鋭の潜水艇と水中作業服を装備した彼らを、海底で待っていたのは……という導入部からして、どこかで見た話だなあ、なんて思いながらやっぱりわくわくしちゃうでしょ? バックにビデオをかけながらプレイしたりなんかすると、おもいっきり盛り上がっちゃうことうけあいね。おすすめはやっぱり『リバイアサン』『ザ・デプス』しかないでしょう

⬆昔々の1920年代、アメリカにH.P.ラヴクラフトというひとりのおじさんがいました。あるときおじさん、今までにだれも聞いたことがないような恐い話を書いてやろう、と思い立ちます。だれも聞いたことがないような恐い話、というくらいですから、ありきたりの妖怪や化物を出してよしとするわけにはいきません。そこでおじさんは、この地球の影でうごめく、人知を越えた邪悪な神々についての、まったく新しい神話を作りだしてしまったのです。これがとっても面白かったので……という言い方はおじさんに失礼ですが、とにかく、この『クトゥルフ神話』は以来大人気。ラヴクラフトおじさんだけではなく、他にもたくさんの人たちが、この神話をタネにした傑作を書いています。1981年には、RPGにもなっちゃってこれがまた大人気。シナリオや資料集なんかもたくさん出されています。この、現代版『クトゥルフ・ナウ』は日本語版シリーズ最新作。そういえば他にも、シャーロック・ホームズの時代1890年代のロンドンが舞台の『クトゥルフ・バイ・ガスライト』、現代日本版クトゥルフ『黄昏の天使』なんていうのもあったわね

やっほ～♪ みなさんお元気ですか? ケンイチ、メイ、シンジの三人が、数々のRPGに挑戦してきたこのコーナーも、めでたく1周年をむかえました。

そこで今回は、これまでにプレイしてきたRPGの中から人気の高かった、『クトゥルフの呼び声』に再挑戦します!

今回の舞台は、いつもの1920年代じゃなくて1990年代。つまり現代世界なの。ここまで言えばもうわかっちゃったかな? そう、今回挑戦するのは、シリーズ最新作の『クトゥルフ・ナウ』。

科学技術の発達で、ほんの少しだけ神に近づいた人類が、どこまで神話にくいさがれるか? 前回発狂したケンイチも、今度こそはとはりきってます。

今回の事件の発端は、私立探偵の『島村めい子』に依頼された、夫の浮気調査。ところが、調べていくうちに、何やら怪しげな研究が明るみにではじめたのです。そんなとき、依頼人の夫の乗る旅客機が、長野県の山中『乗鞍岳(のりくらだけ)』に墜落してしまったのでした。現地で取材中の記者『城木健一』と、カメラマンの『佐藤真二』に出会っためい子は、むりやり取材ヘリに乗りこんだのでした……

ではさっそく始めましょう。合言葉は、「あなたのハートにSANチェック!!」

★　★

〝さて、きみたちが旅客機墜落の事故現場についたのは、日がくれてからのことだ。下では、夜の暗闇の中、いぜんくすぶる炎のかがやきが、吹雪の中で不気味な舞いを踊っているかのようだ……〟
メイ「あんまり不気味な描写をしないでほしいわ……恐くなるじゃない」
シン「それで、事故の被害はどのていどのものだったんですか?」
〝事故の被害者は、ざっと三百人。乗客リストの中には、有名芸能人や政界の大物の名前もあり、日本中のマスコミが大騒ぎしている。今年最初の大事故だ〟
ケン「う～。新聞記者の血が騒ぐぜ。『真二、ちゃんと写真撮ってるか?』」
シン「じゃあぼくは、ファインダーを覗(のぞ)いたまま、『ええ、バッチリですよ。これで明日の一面は、最高のショットでかざれそうですよ』と答えましょう」
メイ「私は操縦席の健一に向かって、『ねえねえ、パイロットさん。もう少し下がってくれない? ここからじゃ現場が遠くてよく見えないわ』と言います」
ケン「気楽に言ってくれるねえ。仕方なく健一は、『とほほ、社のヘリコプターに探偵を乗せたなんてバレたら、始末書ものだな……』とぼやきつつ、ヘリコプターの高度を下げよう」
〝それじゃあこのへんで、みんなに『目星』の技能でロール(サイコロを振る)をしてもらおうかな〟
メイ「えいっ……28。失敗しちゃった」
シン「60、ぼくも失敗です」
ケン「ありゃりゃ、おれもダメだ……」
〝う～ん、しょうがないなあ。じゃあ、ケンイチだけ、『航空機操縦』の技能でもう一度ロールして〟
ケン「58……失敗だ……」
〝……(やれやれ)……。みんなの乗るヘリコプターは、強烈な突風にあおられて、ぐらぐらと揺れる!〟
メイ「『健一のへたくそ～っ!』」
ケン「うるさいなあ。吹雪なんだから、しょーがないだろ! だいたいおまえ何しに来たんだよ?」
メイ「『乗客の一人にちょっとした用事があったんだけど……まさか旅客機が落ちるなんて思ってもみなかったわ……』」
シン「『乗客って?』」
メイ「依頼の内容は秘密なんだけど……特別に教えてあげるね。『寺口陽介という教授なんだけど、彼のことを調べてほしいって依頼があったの』」
ケン「とにかく、『これ以上降下するのは危険みたいだな。こりゃあ取材どころじゃない、墜落する前にひきかえそう』」
シン「もう帰っちゃうんですか?」
メイ「そうよそうよ、健一の根性なし!」
〝きみたちがヘリの中でもめていると、他社のヘリが一機、墜落していく!!〟
一同「いそいで帰るっ!!」

↑今回紹介する2本目のシナリオは、『異次元の殺人者』。軌道上のスペースシャトル、アトランティス号に異常が発生します。飛行士全員が、極端な疲労と衰弱を示し、その皮膚は乾燥し、まるでミイラのようになってしまいます。シャトルが未知の病原体に汚染されたと判断したNASAが対応に苦慮しているうちに、アトランティス号の船長は手動で軌道を外れ、カンザス州にあるゴープという小さな町のはずれのハイウェイに強行着陸してしまいました。さあ大変、ほうっておけば謎の病原体がカンザス中に広がってしまいます。あわてた政府は、軍を動員してゴープ郡全体を封鎖しました。偶然近くに居合わせたプレイヤーたちを巻き込んで、シナリオは進んでいきます。さあ、飛行士たちを殺した謎の病原体の正体は？　いやいや、はたしてそれは本当に病原体なのでしょうか？　それとも、なにか別のもっと恐ろしいものなのでしょうか？　小麦畑を焼いて墜落したシャトルの中では、いったい何が起こっているのでしょう……というわけで、こちらも現代ならではの道具立てで楽しませてくれるの。『アンドロメダ病原体』とか、最近だと『ブロブ』にも似たようなシーンがあったわね。イメージのふくらませ方次第で、あなたなりのアレンジもできます

封鎖された町——謎の病原体の正体は？

墜落していくヘリコプターをまのあたりにした健一たちは、いちもくさんに現場からひきかえした。

社にもどった真二は、さっそく写真の現像をはじめたのだが……

★　★

〃真二はここで、『写真』の技能ロールをしてみてくれ〃

シン「24、成功しました」

〃写真の現像は無事完了したんだが、一枚にだけ、何か巨大な影が写っているのに真二は気づいた〃

シン「はて？　なんなんでしょうか？　気になるなあ……よし、その一枚だけ、大きくひきのばしてみましょう」

〃OK！　ひきのばしにはしばらくかかるから、シンはちょっと待っててくれ。

さて、そのころ暗室の外で待っている健一たちに、現場の新しい情報が入った。その情報によると、昨夜の事故現場で、多数の取材ヘリが墜落し、救助隊までもが行方不明になったのだそうだ〃

ケン「あのとき、すぐにひきかえしといてよかったぜ……」

メイ「でも……一体どういうこと？」

〃乗鞍岳は、冬場はもちろん春先でも気象条件が厳しい。吹雪による二次災害だということなんだけど……ねえ〃

ケン・メイ「……あやしい……」

〃さて、そろそろ写真のひきのばしも終わるころかな。真二はSANチェックだ〃

シン「ええっ？　どうしてですか!?」

メイ「写真に何か写ってたのね……」

シン「うわあ！　SANチェック失敗!!」

〃暗室の中から、悲鳴が響く!!〃

ケン「『真二の声だぜ!!』」

メイ「『行ってみましょう！』」

〃二人が暗室にかけこむと、写真を片手に失神している真二がいるぞ〃

メイ「あらら。じゃあ、ほっぺたをたたいてあげましょう。ぱんぱん」

シン「『し……写真……写真……』」

ケン「『ん？　写真がどうしたんだ？』」

〃あ、写真を見るんなら、ケンもSANチェックしといてくれよ〃

写真に写っていたのは、30mはあろうかという、巨大なミミズのバケモノだった。その姿に心当りのあるめい子は、健一たちをつれて、寺口邸を訪ねた。

★　★

〃めい子が扉をたたくと、陽介の妻・静江があらわれた。喪服(もふく)を着た静江は、めい子の姿を見ると、悲しそうな表情でうつ向いた。『これは……探偵さん……』〃

メイ「めい子はふかぶかと頭を下げて、『こんなことになってしまって……もうしわけありません』と言います」

〃『気になさらないでください。主人がこうなったのも、自業自得なのですから』と静江は言う〃

シン「依頼主は奥さんだったんですね」

メイ「そう。寺口教授は、最近妙な研究に執着しはじめ、めったに家にもどらなくなったの。それを、浮気とかんちがいした奥さんが、私に夫の素行調査を依頼していたってわけ」

ケン「で、あのミミズのバケモンが、教授の研究に関係あるとにらんだわけか」

メイ「大正解！　そういうわけで、『教授の書斎を見せてもらえないかしら？』」

〃静江は、『はあ……でも、どうして主人の書斎を？』と言っているぞ〃

メイ「『ご主人は、浮気などしていませんでした。その証拠が書斎にあるかもしれないのです』とでも言っておくわ」

〃なら、『言いくるめ』でロールだ〃

メイ「19！　成功よ」

★　★

〃書斎には無数の書物が散乱していて、まるで爆撃のあとのようだ。この中から情報を得るのは、かなりつらいぞ。全員『図書館』ロールだ〃

メイ・シン「失敗で～す」

ケン「成功したぜ！」

〃健一は、本の山の下から、教授の手記を発見した。読んでみるかい？〃

ケン「パス。『真二、読んでみろよ』」

シン「ええっ？　やだなあ……」

メイ「『二人ともおくびょうねえ。私が読んであげるわ』なんて書いてあるの？」

人類VS邪神——こんどは戦争だ!

←『ハイテクノロジーと神話との対決』このゲームの帯の文句です。確かに人類の技術は1920年代と較べると大きく進歩しています。最新兵器の破壊力には、当時の38口径リボルバーが束になってもかなわないでしょう。しかし、邪神を敵に回した場合、残念ながらあまり差がありません。70年分の技術の進歩と言っても、邪神さんはもう兆とか億の単位の年月を生きている方々ですから、年季が違います。でも、だからあきらめてしまうというのもつまりません。かなわないまでも、防弾チョッキに身をかため、ちょっと気分を変えて、『エイリアン2』のリプリーを気取ってみるのも楽しいわよ

〟最後のページには、『朝日のはざま、騎手に供物をささげよ。その神、暮れし七つの後にあらわる』と書いてある〟

★　★

教授の手記を借りて、社にもどった健一たちに、新たな情報がとびこんだ。今朝、第二次救助隊が事故現場に向かったところ、被害者の遺体はどこにも発見されなかったのだということだ。また、墜落した機体には、いたるところに粘液質のものが付着していたらしい……

★　★

メイ「この事件、奥がふかそうねぇ」
シン「それにしても、この手記……なにかの暗号みたいですね……」
ケン「なんのことやらさっぱりだぜ」
メイ「こういうときは『アイデア』ロールよ! えいっ……成功!!」

〟よし、それじゃあヒントをあげよう。この地図を見てごらん〟

メイ「長野県の地図ね。ここが乗鞍岳だから……あらっ? 乗鞍岳をはさんで、『朝日』って地名が二か所にあるわ」
シン「なるほど、『朝日のはざまの騎手』とは、乗鞍岳のことなんだ。すると……墜落した旅客機の乗客が供物……」
メイ「七の後は……八! この『神』があらわれるのは、『八ヶ岳』ね!! ひょっとしたら、『暮れし七つの後』とは、翌日の八ヶ岳のことじゃないかしら?」

〟おみごと! 大正解だ!!〟

ケン「へ? ど〜ゆ〜ことだい?」
メイ「説明は後よ! 『健一! 急いで八ヶ岳にヘリを飛ばしてちょうだい!!』」

★　★

急ぎ八ヶ岳に向かった一行は、岳の中腹にテントを発見した。テントの中には大きな木箱がいくつかあり、その中にはなんと、グレネード・ランチャーと手榴弾が入っていた。

また、テントにあったカバンから、寺口教授の免許証が発見された。これで、教授の生存が確認されたわけだが……

★　★

〟ノートには、教授の遺書らしきものがはさんである。それには『きっと、どうかしてしまっていたのだ。私は大変なものを呼びよせてしまった。あれは断じて神などではない。私の命にかえても、あれを葬らねばならない』と書かれている〟

メイ「『あれ』って、写真に写っていた巨大ミミズのことかしら?」
シン「おそらく、そうでしょうね……」

〟さて、きみたちがそうこうしていると、突然遠くで爆音が響いた!〟

ケン「きっと寺口教授だ!」
メイ「行きましょう!!」

★　★

〟そこにいたのは、全身を青白い粘液でおおわれた、巨大なミミズのバケモノだった! 体の数か所から煙があがっているが、たいしたダメージではないらしい。全員SANチェックだ!!〟

ケン・シン「うわあっ! 失敗だ!」
メイ「私は成功よ!」

〟こいつは、『ドール』という怪物だ。SANチェックに失敗した者は、20面体ダイスを一個振ったぶんの正気度を失う。成功した者も、4面体ダイスを一個振ったぶんの正気度を失う〟

ケン「よし、何とか耐えたぞ!」
シン「うわあ! ぼくは発狂だあ!!」
メイ「『とにかく攻撃よ!』これだけ大きければ、撃てば当たるわ」
ケン「まかせとけって! こっちには、グレネード・ランチャーがあるんだ」

〟30mもある巨大なドールは、今まさに寺口教授を飲みこまんとしているところだった。きみたちの攻撃はすべて命中したが、ドールには無力だった。なすすべもなく飲みこまれていく教授……〟

★　★

ケン「結局、教授を救うことはできなかったな……奥さんには何て言う?」
メイ「本当のことはだまっておいた方がいいでしょうね。どのみち、信じてもらえないでしょうしね」
シン「ぼくは発狂しちゃったんですけど」
ケン「おれが、いい医者紹介してやるよ」
メイ「あ〜あ、今回もさんざんだったわ」

安田均の

FANTASY GAME FILE

第26回

タイタン——そしてアドバンスト・ファイティング・ファンタジー

⬆これが今回の目玉、スティーブ・ジャクソン・アンド・イアン・リビングストンの名前もまぶしい『ダンジョニア』。『エキサイティングなファイティング・ファンタジーの世界にご案内!』なんてことが書いてありますな。厚さも400ページとボリュームたっぷり。日本語版が出るのが待ちきれない、という人は腰を据えてかからないといけないかもね。あ、でも100ページ程度のシナリオ『ダンジョニア・アドベンチャー』が2本はさまっているから、とりあえず半分読めばプレイできるわけだ

➡『ファイティング・ファンタジー』の舞台世界の解説書が、この『タイタン』だ。880円という値段を裏切らないだけの内容が詰まっているぞ。ゲームブックをやりこんだ人なら、かつての自分の冒険の軌跡をたどって楽しむこともできるし、もちろんまた、テーブルトーク用システム『ファイティング・ファンタジー』を持っている人にとっても、プレイをおおいに助けてくれる重宝な資料集となってくれる。魅力的なタイタン世界の全貌を知ることができるという意味だけでも、この本は貴重だ

⬆『ファイティング・ファンタジー』って何？　一言で言っちゃうと、ジャクソン&リビングストンのコンビが出した、かの名著『火吹山の魔法使い』に始まるゲームブックシリーズで、RPGのシステムも出ている。これはそのシナリオ『謎かけ盗賊』640円

世の中では、ときどき偶然というか、〝啓示〟というか、思いもかけないことが起こる。

つい、先日も3年越しの翻訳『タイタン——ファイティング・ファンタジーの世界』(社会思想社)がようやく書店に並んだらしいので、なにかのついでに見にいった。本の開き具合で、カバー絵が原書と逆向きになっているのはご愛敬だが、それでもほっとする。やっと出せたものなあ……

ただ、ほっとしたのと同時に〝ひょっとしたら、これでファイティング・ファンタジーも終わりじゃないかな〟という、一抹(いちまつ)の不安も感じた。それくらい『タイタン』は完璧(かんぺき)に世界を説明していたし、一方でファイティング・ファンタジーのゲームブックは30冊を越えて、内容は充実してきているのに、やはり同じ形式が続いたせいか、このところ売行きがあまりさえない。ロードスはもちろん、ソード・ワールドやT&Tが絶好調(!)なのに比べ、ちょっと見劣りがする。それもこれも、ゲームブックとしていくらすぐれていても、RPGのしっかりしたルールがないせいだということははっきりしている。『ファイティング・ファンタジー』(東京創元社)というそのままの題名で、入門用のRPGルールはあることはあるのだが、いまとなっては簡単すぎて、やはりものたりない。

うーむ、これでは『タイタン』は結局、ただの背景資料集になっちゃうじゃないか、せっかくすばらしいゲームブックや背景世界があるのに、RPGとして活用しないとはゲームズ・ワークショップ社はいったいなにを考えてるのだろう、など(いつもに似合わず)落ち込みかけていたのだ。

そう思って、洋書売場に行ったとたん、目の前の新刊を見て、おおげさに言えば腰がへなへなとなってしまった。そこにあったのは——

アドバンスト・ファイティング・ファンタジー!!

これをどれだけ待っていたことか！

なにか本から後光が射しているような気もしたくらいだ。それにしても人が悪い。3年前、『タイタン』の翻訳に取り掛かりだした頃、ジャクソンやリビングストンが来日して、もうすぐAFFが出るよ、みたいなことを言っていたのに、以後はなんの音沙汰もなし。聞けば、スペインあたりで昼寝とゴルフばかりしているとかで、本国版のウォーロックも出さなくなってしまったし、〝おい、いったいどうしてくれんだよ〟と日本版ウォーロックの監修者としては言いたかった（あっ、『タイタン』の翻訳を同じ気持ちで待ってた人、どうもすみません。でも、こっちは睡眠時間を削って、仕事をしていたのだ。う〜む、イギリス人と日本人はちがう）。

社会思想社のほうも半ば諦めていて、じつはこのAFF、『ダンジョニア』という副題で出たのだが、そうとは知らずにFFゲームブックの新刊だろうと思って翻訳権を取っていたそうな。だから、こちらも聞いていなくて、ほんとに寝耳に水。しかし、それにしても、もうAFFを待ち切れないと思って、『タイタン』を出したとたんに、そのAFFが、それも目の前に出現するなんて、こりゃ、やっぱりなにかあるのかもしれない。

さっそく中を読んでみる。予想通り、わかりやすい。もともとFFシリーズはロールプレイング・ゲームとして考えた場合、初心者向きということもあるだろうが、つねにわかりやすさを第一として考えられてきた。そのあたりが、〝アドバンスト〟になっても変らないのは、D&D®と比較してもはっきりしている。D&D®の場合は、もとのベーシックが中級者向けくらいで、AD&D®は文字どおり上級者向けだが、AFFの場合は初心者向けが、やっと中級者向けになったくらいだろうか。

各キャラクターの技術点、体力点、運点の出し方はこれまで通り。戦闘での戦い方（技術点にサイコロ二個の目を足し合って、敵とくらべる）も基本は変っていない。もっとも、これだと、かなり有利不利が最初から決まるので、今回は技術点をもとにスキルをとれるシステムになっている。魔法ももちろんこのスキルの一環としてある。

なるほど、ふむふむ、魔法使いはさすがに強力だから、技術点が低くなるようにしてあるな、レベル制はとっていないけれども、順に経験をつめば覚えられるようになっているわけか。これまでのFFシリーズのRPGとしての一番の弱点だった経験点も簡潔にまとめてある。

そう思って最後まで読んで、グループSNEおとくいの〝有利ですから〟攻撃を仕掛けてみる。これはシステムに数値的なアンバランスがないかどうかチェックするものだ。

すると、なんと――あるどころではない、ものの見事にもともとFFシリーズが持っていた、技術点の有利不利がそのまま、いや、スキルの分だけ拡大されて残されているではないか。

魔法については、この点はある程度、カバーリングされているのに、戦士や盗賊はサイコロで技術点を決めるからでかい目を出せば、そのまま有利なのだ。む、む？

そう思って、もう一度、ていねいに読むと、〝これまでのFFシリーズのキャラクターを使う場合〟といったところに、〝強いキャラクターはできますが、最初からそんなものを使っても楽しくないですよ〟というようなことが書いてあった。

これを読んだとたんに、このゲームのデザイナー（そう、『タイタン』のマーク・ガスコインです）がなにを言いたいのか、ほとんど理解できた。これは、ロールプレイング・ゲームでレベル制をほとんどとっぱらったものなのだ。FFはもともと技術点や運点が、ゲームの中で大きく変動するゲームだ。ここでは、それをゲームマスター（ディレクターという名が付けられている）の手にかなりゆだねられるようにして、あくまでストーリーのおもしろさで勝負する方向性をうちだしているのだ。

つまり、ルールでバランスをとり、規定していくのではなくて、ロールプレイング・ゲームの集り（ゲームマスターとプレイヤーたち）のなかで、全体として機能するように考えてある。そりゃそうだろう。技術点が低くて、がんばらねばならないキャラクターは必死に頭をひねるだろうし、そうすることで演技賞的な経験点をもらえるようになっている。逆に、何もしらない入門的なプレーヤーは最初から強いキャラクターを与えてあげれば、ゲームがうまくいくという快感をたちまちつかめるはずだ（その分、成長は遅いけどね）。

そして、こうしたことができるのもファイティング・ファンタジーだからこそではないかという気もする。それまでの蓄積がなにもないゲームでは、最初からこのような、ある程度ゲームマスターとプレイヤーに委ねてしまうシステムを作ったなら、遊ぶ方はどうしていいかわからなくなってしまうだろう。

しかし、FFにはもう40冊を越えるゲームブック（日本では32冊）に、徹底した背景資料集『タイタン』、そして、いつでも使えるデータ集『モンスター事典』が備っているのだ。ゲームマスターもプレイヤーもある程度、こうしたものを頭に入れておけば、この世界がどんなものであり、ゲームがどんな進行をするのかわかってくるはずだ。

そうしたストーリー指向を反映してか、この『ダンジョニア――アドバンスト・ファイティング・ファンタジー』は一千枚を越える大冊の中で、なんと半分以上を費やしてシナリオに当てている。邪悪な魔術師を追って、魔術師の塔からサラモニス、ポート・ブラックサンドへと展開するキャンペーンだが、読んでいてめっぽうおもしろいのはこれまでどおり。つい最近翻訳の出たFFのシナリオ『謎かけ盗賊』（社会思想社）がやはり、ストーリーとしては一級品だったように、背景世界がしっかりしているから、こうしたシナリオが作りやすいのだろう。

もちろんRPGのルール派からは、シナリオのバランス面がとりにくいのじゃないかという反論も出そうだが、データが簡単なのがFFのいいところなのだ。技術点と体力点、運点、いくつかのスキルだけ、これならたとえパーティの強弱が少々ばらつこうが、ゲームマスターの裁量（判定のバランスをその場でとる）は楽だろう。

それよりも、RPGを戦闘や魔法の勝ち負けや有利不利のゲームとしてではなく、その場の即興や濃密な背景世界、謎とき、ストーリーの意外性といった、より自由でバラエティのある方向性へと解放しようというのがAFFの狙いのはずだ（だからゲームマスターを映画に模して、ディレクターと呼ぶのだろう）。

どこかで書いたが、FFシリーズは初心者向けとは言っても、RPGの最先端を走っていたのはまちがいなかった。この〝アドバンスト〟も、ルールが〝進んだ〟のではなく、そうしたコンセプト部分を〝進めた〟作品と言えそうだ。

（年末までには、絶対出しますから、それまで『タイタン』や『謎かけ盗賊』で、FF世界を楽しんでおいてください）

⬆発展するタイタン世界。これは、文庫『タイタン』についている地図と、『ダンジョニア』のサンプルキャラクターです

16ビットのアレクラスト世界

ドラゴンマガジン編集部・編

ILLUSTRATOR／YOSHITAKA AMANO
MAP DRAWER／JYOUZI RINDOU

さて、2月号3月号と紹介してきた「ソード・ワールドRPGコンピュータ・ゲーム」だが、現在、あの「ファンタジアン」のクリスタルソフトで開発が着々と進んでいるところだ。きみのマシンで、アレクラスト大陸での冒険ができるまで、もうちょっとの辛抱だぞ。

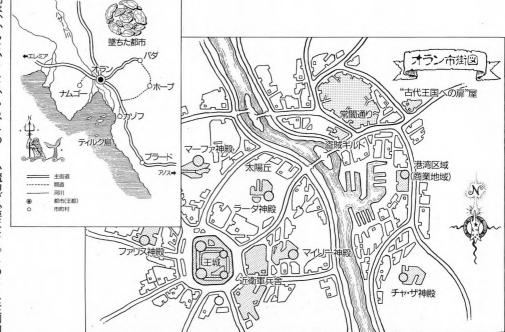
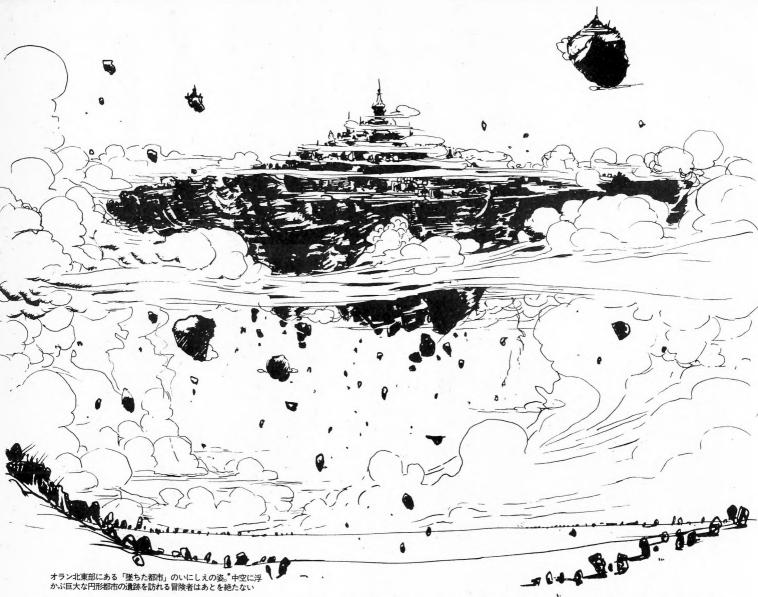
で、今回はコンピュータ版の予習と、テーブルトーク版の復習の意味をかねて、「ソード・ワールドRPGコンピュータ・ゲーム」の冒険の舞台となるオランという国について解説してみよう。

まず、マップを見てほしい。オランはアレクラスト大陸の南岸に面する国だ。東にはミラルゴ、アノス、西にはエレミアの諸国が控え、北東には「墜ちた都市」の廃墟とミード湖がある。こうした地理的な要素のうち、海に面していること、「墜ちた都市」があること、この二つがオランという国の性格を決めた――といえるだろう。

その現れが、この国の首都オランだ。マップを見てもらえばわかるように、オランの都は、ハザード川が大海に流れ込む河口に位置している。このことは、オランの都がまず港湾都市として発達することをうながした。都市を東西に二分するハザード川を挟み、いまも東岸の一帯は港湾区域、商業地域として栄えている(ちなみに、商売の神チャ・ザの神殿があるのもこの地域だ)。発達した商取引からもたらされる財源の裏打ちがあったればこそ、オランは「賢者の国」「学術都市」というもうひとつの顔を持つことが可能になったのである。

では、「墜ちた都市」の廃墟は、オランという国と都になにをもたらしたのだろうか？ それを知るためには、まず「墜ちた都市」がどのような遺跡であるかを理解する必要がある。

「墜ちた都市」は、アレクラスト大陸に無数に散らばる古代魔法王国カストゥールの遺跡のなかでも、最大級のものだ。現在のオランの都と比較しても十数倍の規模を誇り、外周を歩いてたどると軽く一週間はかかるということからも、その巨大さがわかるだろう。また、事実その全盛時における繁栄ぶりの証拠として、この廃墟から発掘される財宝や工芸品の量は他の遺跡の比ではないのだ。しかし、「墜ちた都市」の遺跡としての特異性は、その規模にだけあるのではない。この巨大な都市が古代王国期には中空に浮かんでいたという事実こそが、「墜ちた都市」を他の遺跡と分かつ決定的要素である。容易に想像できることだが、これだけの建造物を空に浮かべるには、とてつもない魔力が必要になる。そのような圧倒的なパワーを持つ古代王国期の呪文の秘密を一端なりとも手にいれようと、現在においても、この遺跡を探る魔術師たち学究の徒が引きも切らないのだ。

そのような魔術師たちの一人に、若き日のマナ・ライがいた。彼は首都オランを拠点に、足繁く「墜ちた都市」の遺跡へと通ったのだ。「墜ちた都市」から持ち帰った工芸品を研究し、魔法の知識を得たマナ・ライは、約百年前、古代の魔法の研究と一種アウトサイダーであった魔

オラン北東部にある「墜ちた都市」のいにしえの姿。中空に浮かぶ巨大な円形都市の遺跡を訪れる冒険者はあとを絶たない

術師の地位確保を理想に掲げ、オランに魔術師ギルドを設立する。もともとオラン国王は代々進取気鋭の精神にあふれており、マナ・ライのこの活動は、ときの為政者が抱いていた学術振興の考えとも合致した。情報・知識は力である——このことをよく理解していたオラン王の援助も得て、魔術師ギルドはやがてアレクラスト全域にその規模を広げていく。これは必然的に、マナ・ライを慕う魔術師たちを、また学究の都との評判を聞きつけた優秀な人材を、全土からオランに集める結果となった。ここにいたって、オランは「賢者の国」「学究の都」として、その性格を決定づけたのである。

ここでもう一度、首都オランのマップを見ながら、現在の都の構造を確かめてみよう。オランで冒険を行ううえでの、チェック・ポイントにも適時触れていくので、ぜひ参考にしてほしい。

ハザード川の西岸、街の南西部に現在のオラン王カイアルタード七世の王城がそびえている。ここを中心に放射状に街路が伸び、王城は事実上オランの中心地となっているのだ。

そして、街の北西には魔術師ギルドの建物、通称「三角塔」がある。その呼び名のとおり、この建物は黒大理石の三つの塔からできており、それぞれ「知識の塔」「真理の塔」「魔術の塔」と呼ばれている。その内部では魔法に関する研究が続けられており、開設の祖マナ・ライも高齢ながらここに住んでいるのだ。また、有名な冒険者集団「見つける者(ファウンダーズ)」の一員、バレンも「三角塔」の一室に居をかまえている。多くの賢人(セージ)たちもここで研究活動を続けているから、冒険の途中で古代魔法王国にまつわる情報を手にいれた場合は、この「三角塔」を訪れてみるとよい。

王城の周辺にはマーファ、ファリス、ラーダ、マイリーの各神の神殿が点在している。このオランの国の性格を反映してか、いちばん信奉されているのは、知識の神であるラーダなのだが、そこはアレクラスト大陸随一の都市のこと、他の各神の神殿も規模の点ではひけをとらない。パーティに各神のプリーストがいるなら、一度神殿に神官を訪ねてみるのもいいだろう。きっと力になってもらえるはずだ。

こと学習に関しては輝かしい業績を誇るオランの都だが、当然、他の国の都市同様、暗黒面もある。それが、ハザード川の東岸、港湾地域の北にある「常闇(とこやみ)通り」だ。この通りのどこかに盗賊ギルドがあり、後ろ暗い商売を一手に引き受けているのだ。盗賊ギルドは敵に回すとうるさい相手だが、つきあい方さえ心得ていれば力強い味方になってくれるはずだ。なによりも、通常の手段では手に入らない情報が得られるのがミソである。コンピュータ・ゲームに登場する盗賊ナイトシェイドたちも、もちろんこの近辺に出没しているに違いない。

もちろんのことだが、「墜ちた都市」が呼び寄せたのはマナ・ライたち魔術師だけではなかった。そこに眠る財宝を狙い、一攫千金(いっかくせんきん)をもくろむ冒険者たちもあとを絶たない。そんな冒険者たちの便をはかる「冒険者の店」もオランの都の各所に点在している。そのなかでもいちばん老(し)舗(にせ)であり、かつ有名なのがマップにもある「〃古代王国の扉〃屋」なのだが、最近、ロマールから一軒の「冒険者の店」が移ってきた。その名も〃奇跡の店〃——と書くと、ピンとくる人が多いだろう。そう、あの剣匠ルーファスも出入りしていたという店だ。あの有名な親父さんも健在だということだし、もしオランを中心に冒険を行うなら、一度は足を運んでおきたい。仕事の依頼はもちろん、おもいがけない情報が手にはいる可能性もあるだろう。

さて、こんな具合いにオランという国、オランという都市を解説してきたのだが、だいたいの感じをつかめてもらえただろうか。このオランの地を、きみもコンピュータ・ゲームで冒険することができるのだ。お楽しみに!

ソード・ワールドRPGシナリオ

狂気の季節

今月は『RPG　EXPRESS』をお休みしてシナリオをお贈りする
『最近、RPGというとGM(ゲームマスター)ばかり。たまにはプレイヤーもやりたい！』
そういうきみは、いっそGMとして身を立てていこうじゃないか
山あり谷ありのこのシナリオを見事にマスタリングしてみせれば
プレイヤーはきっときみを『名GM』と呼んでくれるだろう

DESIGNER
山本弘＆グループSNE
HIROSHI YAMAMOTO & GROUP SNE
ILLUSTRATOR
天野喜孝
YOSHITAKA AMANO
MAP DRAWER／JYOUZI RINDOU

●対象冒険者レベル—2～4
●プレイヤー数—4—6人

SWORD WORLD

平凡な村を襲う狂気の嵐！　一千年の眠りからよみがえった邪神のしもべが、地上に混乱と破壊をまきちらす！　一刻も早く食い止めなくては、世界は破滅してしまうのだ！

I 冒険の概略

このシナリオの目的は、長い眠りからよみがえった邪神の女司祭を倒し、恐るべき狂気が世界に広まるのを食い止めることにあります。

約一千年前の古代カストゥール王国の時代、「名のない狂気の神」の信者たちが、世界に狂気を広めるために活動していました。「理性や秩序は精神の自由を束縛するものであり、狂気と混沌こそ真の自由である」というのがその教義でした。

偉大なる魔法王ステノファーンは、世界の秩序を守るためにその教えを弾圧し、信者を一人残らず処刑してしまいました。しかし、彼らのリーダーであった女司祭だけは、あまりの美しさのために殺すに忍びず、魔法で石像に変えてしまったのです。

そして現在、オーファンの若き魔法使いニフェールは、ある事件がきっかけで、この世界のすべての秩序を憎むようになりました。やがてその憎悪は狂気になり、世界のすべてを破壊したいという妄想にふくれあがりました。彼は古い文献で「名のない狂気の神」のことを知り、それを復活させようと計画します。

かつての神殿の廃墟で女司祭の石像を発見したニフェールは、魔術師ギルドから盗み出した魔晶石の力を借りて「ディスペル・マジック」を行ない、彼女を人間に戻してしまいました。復活した女司祭は、今や完全に「名のない狂気の神」の信者となったニフェールを引き連れ、再び世界に狂気をまきちらすために行動を開始します。

この冒険シナリオは冒険者レベル2～4までの冒険者4—6人用にデザインされています。ゲームマスターは、冒険者であるプレイヤー・キャラクターの強さに従って、登場する敵の強さを調整してください。

II 冒険の舞台

このシナリオは、アレクラスト大陸の西方地方の大国オーファンを舞台にしています。

この冒険のはじまった時点では、冒険者たちはミューリアの街にいます。ミューリアはオーファンの西の国境近く、街道沿いにある平和な街です。人口はおよそ900人で、宿場街として繁栄しています。

街は高さ4メートルの石壁で囲まれ、東西南北の4か所の門のいずれかをくぐらないと出入りできません。それぞれの門には門番がいますが、通行人のチェックはかなりいい加減で、よほど怪しそうな者でないかぎり、自由に出入りできま

す。門は夜になると閉じられます。

街の中央には円形の大きな広場（半径約50メートル）があり、敷石が敷きつめられています。広場の真ん中には噴水があって、大きなグリフィンの像（高さ4メートル）の口から水が流れ落ちています。この広場では昼間はいつも露店が並んでいます。

広場の北にはマーファの神殿があり、いつも8人ほどの司祭がいます。最高位の司祭でも、プリースト技能は4レベルで、他の者は1～3レベルです。

後で重要になるので、GMはこの広場の情景をさりげなくプレイヤーに伝えてください。露店で何か買い物をさせてもよいでしょう。ルールブックの「装備表」の欄に載っているものは、たいてい売られていますし、服や装飾品も売られています。

一般人のNPC（露店商の少年、酒場の娘、陽気な浮浪者など）を何人か設定しておき、冒険者たちと親しくさせるというのもよいでしょう。クライマックスで、彼らはニフェール捜索の手がかりを提供してくれるかもしれません。

オーファン王国についての設定は、このシナリオにとってそれほど重要ではありませんが、ドラゴンマガジン誌の88年9月号に概略が載っていますので、お持ちの方は参考にしてください。

また、舞台は必ずしもオーファンでなくてもかまわないので、ゲームマスターが望むなら、どこか他の国での事件ということにしてかまいません。人名や地名を変えるのは自由です。

Ⅲ 冒険への導入

さて、広場の近くにある酒場にたむろしていた冒険者たちは、ロドムという中年男から依頼を受けます。依頼主はここの近くにあるリトニラ村の村長アーネスで、ロドムは彼の使用人です。最近、家畜がたびたび襲われるので、犯人を見つけて退治して欲しいと言うのです。報酬は一人につき500ガメルです。

かくして冒険者たちは、リトニラ村に出発します。リトニラ村はミューリアの南の山の中にあり、ミューリアからは徒歩でおよそ12時間かかります（馬で走れば、その3分の1の時間で着きます）。最初は平地ですが、やがて山道にさしかかります。

中間地点にはマイエという村があります。出発したのが早朝なら、昼頃に到着するでしょう。山あいにある農村で、東側には垂直に近い岩壁（高さ約30メートル）がそそり立っています。人口はおよそ100人です。

おそらく冒険者たちはここで昼食を取ることになるでしょう。村には酒場や食堂はありませんが、村人は素朴で親切な人ばかりなので、お金さえ払えば、民家で食事を分けてもらえるでしょう。

もし可能なら、GMはこの村の人々のことをプレイヤーに印象づけてください（かわいい村娘などを、ちらっと登場させるのもいいでしょう）。後で彼らが狂気の犠牲になった時、冒険者の怒りをかきたてることができるでしょう。

Ⅳ 本編

1 廃虚の青年

その日の夕方、リトニラ村まであと少しというところで、突然の雷雨が襲ってきます。どしゃ降りの雨で、あたりは真っ暗になります。近くには古い石造りの廃虚があり、そこに明かりが見えます。

冒険者たちはそこで雨宿りをすることになります。（雨宿りをせずに先を急ごうとした場合は、案内役のロドムが雨宿りを勧めます）

そこは古い神殿の跡のようですが、ほとんど崩れ去っており、小さなほこらのような建物が残っているだけです。その前には一頭の白い馬がつながれています。中からは明かりがもれており、ライアー（竪琴）の音色と、男の歌声が聞こえます。

建物の中に入ってみると、中は5メートル四方ほどの広さで、奥には等身大の石像が立っています。中近東のベリーダンサーのような衣裳を着た、美しい女性の像です。

ハンサムな青年（ニフェール）がそれに寄りかかって、ライアーをかなでながら、恋の歌を唄っています。女のような派手な服（女装ではありません）を着ており、吟遊詩人のようですが、メイジ・スタッフも持っているので、ソーサラーでもあることが分かります。冒険者たちが入ってきても、彼はまったく無関心で、自分の世界に没頭しているように見えます。

彫像について質問すると、青年はにやっと笑って、「これは僕の愛する人さ」と答えます。それ以外の質問は適当にはぐらかしたり、「君たちもくだらん理性などというものを捨てれば、真の美というものが理解できるだろう」「狂気こそ真の自由への道だ」などとわけの分からないことを言って混乱させます。（GMは、すでにニフェールが常軌を逸していることをプレイヤーたちに悟らせてください）

やがて雨はやみ、冒険者たちはリトニラ村へ出発します。青年はそのまま廃虚に残ります。

2 ホブゴブリンの襲来

リトニラ村は広い盆地にあり、農業と

牧畜で生計を立てています。人口はおよそ120人です。

「強そうな人たちが来た」

というので、子供たちがはしゃいで迎えてくれます。ここ数日、子供たちは村の外で遊んではいけないと注意されており、思いきり遊べないので退屈しています。大人たちが怪物の出現を警戒しているからです。怪物をやっつけてくれる人が現われたというので、冒険者たちは期待とあこがれの目で見られます。

依頼主である村長アーネスは、この村でいちばんの牧場主でもあります。彼は、この3週間で4頭の牛が消えていること、現場にはおびただしい血がこぼれていたこと、事件はいずれも真夜中に起きていることなどを説明します。

最近の事件は4日前に起こりました。目撃した村人の一人は、「暗かったのでよく分かりませんが、二本足で歩く大きな怪物が4匹、牛を襲っていました」と証言します。

現場にあった足跡や血の跡は、この前の雨ですっかり消えてしまっています。足跡をたどって犯人を探すことはできないのです。待伏せするしか方法はありません。

この村に来て2日目の晩、冒険者たちが牧場で待伏せしていると、夜明け近くになって、4匹のモンスターが牛を奪い(うばい)に現われます。頭は牛のようで、体は人間のようです。

ミノタウロス……ではありません。実は殺した牛の頭をかぶったホブゴブリンたちなのです。ホブゴブリンのデータはルールブックを参照してください。

(この設定が気に入らないGMは、別のモンスターのしわざにしてもかまいません。実を言えば、シナリオのこの部分は、ストーリーの上では、さして重要ではな

ニフェール(人間、男、25歳)

能力値	器用度：14　敏捷度：12　知力：16　筋力：14　生命力：13　精神力：16		
保有技能	ソーサラー技能４(魔力６)　セージ技能４ バード技能２(ララバイ、シング)		冒険者レベル４
装備	武器：メイジ・スタッフ　攻撃力：０　打撃力：10　追加ダメージ：０		
	盾：なし　回避力：０	鎧：ソフト・レザー　防御力：７　ダメージ減少：４	

ライムズ(人間、男、25歳)

能力値	器用度：13　敏捷度：12　知力：14　筋力：11　生命力：13　精神力：17		
保有技能	プリースト技能５(魔力７)　セージ技能２ ファイター技能１		冒険者レベル５
装備	武器：ライト・メイス　攻撃力：３　打撃力：11　追加ダメージ：２		
	盾：スモール・シールド　回避力：４	鎧：ハード・レザー　防御力：11　ダメージ減少：５	

いのです)

3 消えた子供たち

ホブゴブリンたちを退治したなら、翌朝になるとそのニュースは村中に広まり、冒険者たちは村人からとても感謝されます。アーネスは約束の報酬を払ってくれたうえ、今日一日はゆっくり休み、明日出発するといいと親切に勧めます。(魔法で精神力を消費していたキャラクターがいるなら、精神力を回復するためにも、休んでいきたいと思うでしょう)

ところが、その日の夕方になって、別の騒ぎが起こります。遊びにでかけた6人の子供が戻ってこないというのです。恐ろしいモンスターがいなくなったので、安心して遠出しすぎたのではないか、と親たちは心配しています。彼らは冒険者たちに、子供を探すのを手伝ってくれと頼みます。(正式の依頼ではないので、成功しても報酬は出ません)

村人の一人が、子供たちが廃虚の方へ向かうのを見たと証言します。あの廃虚のことを村人たちに訊ねても、古代の神殿の跡らしいということ以外、誰も詳しいことは知りません。

冒険者たちが、あのほこらに来てみると、ニフェールの姿はなく、馬もいません。それどころか、ほこらの中にあった美女の石像も消えています。

ほこらの床には、乳白色の細かい石の破片がいっぱい散らばっています。「セージ技能＋知力ボーナス」で難易度6の成功ロールに成功したなら、それが使用ずみの魔晶石の破片であることが分かります。何者かが十数個の魔晶石を一度に使用して、大きな魔法をかけたのです。

廃虚の近くをあちこち探し回っていると、子供たちのはしゃぎ声を耳にします。声のする方へ行ってみた者は、奇怪な光景を目にします。

月の光の下で、6人の子供(男4人、女2人)が笑いながら踊り回っているのです。傷などはありませんが、明らかに全員が発狂しています。

彼らは朝までにはみんな正常に戻りますが、神聖魔法の「サニティ」を使って正常に戻すこともできます。その場合の目標値は13(難易度6)です。

正気に戻った子供たちは、こう証言します。

「ほこらの近くで遊んでたら、中から男の人と女の人が出てきたんだ。女の人はものすごくきれいで、変な服を着てたよ。その人が僕たちの目の前で踊り出して……あとは覚えてないよ」

4 ニフェールの過去

子供たちをつれて村に戻ると、村の集会所に別の人物が待っています。若いファリスの司祭で、ライムズという名前です。彼は行方不明の友人を探して旅をしているのだと言い、その人相特徴を説明します。その説明は、廃虚で出会ったあの奇妙な青年(ニフェール)と一致しています。

冒険者たちが事情を訊ねると、ライムズは次のように説明します。

「ニフェールは子供の頃から私の親友でした。彼は首都ファンの魔術師ギルドで魔法を学んでおり、その熱心な勉強ぶりで、将来を期待されていたのです」

「ところが、3か月ほど前に不幸なことが起こりました。彼の兄のデュランは、宮廷に仕える魔術師だったのですが、実はこの国を乗っ取ろうとする陰謀に加わっていたのです。その陰謀が発覚し、デュランは処刑されました」

「ニフェールはこの事件でひどいショックを受けました。悪人とはいえ、彼は兄を心から愛していたのです。やがて彼は精神に異常をきたし、兄を殺したこの国を……いえ、この世界そのものを憎むようになったのです」

「そして2週間前、彼は魔術師ギルドの保管庫から15個の魔晶石を盗み出し、失踪しました。私は彼の親友として、彼がとんでもないことをしでかす前に止めようと、足取りを追ってきたのです」

ライムズはわざと伏せていますが、デュランの陰謀に気づき、王に密告したのは、実は彼だったのです。ファリスの司祭として、たとえ友人の兄であっても悪事は見過ごせないというのが、ライムズの信念でした。

しかし、いちばん身近な親友が、自分の兄を国家に売ったということが、ニフェールにとって最大のショックだったのです。結局、ニフェールを狂気と憎悪に追いこんだ張本人は、ライムズだと言えるかもしれません。

もちろんライムズ自身もそれに気づいています。彼は深く苦悩し、何としてでも自分でこの事件にかたをつけようと考えています。

5 マイエの惨劇

廃虚の近くをいくら捜索しても、ニフェールも女も見つかりません。冒険者たちは、とにもかくにも、ミューリアの街に戻ろうとするでしょう。ライムズも彼らに同行します。

しかし、マイエ村まで戻ってきたライムズと冒険者たちは、ここでも信じられない光景を目撃します。村人のほぼ全員が、酔っ払ったように、笑いながら、歌ったり、踊り回ったりしているのです。彼らには凶暴性はありませんが、転んだ人間が他の者に踏み潰されたりして、すでに何人も死傷者がでています。村の一

彼女はいっさい言葉を発しません。いつも無邪気に笑っているだけで、それ以外の感情（怒りや哀れみ）はまったくないのです。
神聖魔法は「ルナティック・ダンス」以外は使いません。小さな縦笛を持っており、呪歌を使う場合にはそれを吹き鳴らします。
彼女は完全に狂っているので、精神を混乱させる種類の呪文（「デストラクション」「コンフュージョン」など）の影響は受けません。また、「サニティ」によって彼女の狂気をいやすこともできません。

（人間、女、年齢不明）狂気の女司祭

能力値	器用度：18　敏捷度：20　知力：11　筋力：8　生命力：13　精神力：19		
保有技能	プリースト技能5（魔力6）　ファイター技能4 バード技能5（ピース、ララバイ、チャーム、ダンス、シング）		冒険者レベル5
装備	武器：ダガー　攻撃力：7　打撃力：5　追加ダメージ：5		
	盾：なし　回避力：7	鎧：なし　防御力：0　ダメージ減少：5	

追加呪文「ルナティック・ダンス」

（説明）この神聖魔法は「名のない狂気の神」の司祭のみが使用できます。魔法を使うのに呪文を唱える必要はありませんが、複雑な身振りで踊りを踊らなくてはいけません。この時、肌をなるべく露出させている必要があるので、必要筋力が1以上のアーマー（クロースも含む）を着ていると使用できません。

精神力を消費するのは、踊りはじめたラウンドのみで、連続して踊り続けているかぎり精神点は消費しません。踊っている間、術者は攻撃力と回避力に－4のペナルティを受けます。生命点にダメージを受けたなら、そのラウンドは踊りを中断しなくてはならず、再び踊り始めるのには精神力が必要です。

術者の踊りを見た者は、精神力による抵抗ロールに失敗すると発狂してしまい、術者の踊りに呼応するように踊りだします。発狂しても凶暴になるわけではありませんが、理性的な行動を取ることが不可能になります。この効果は12時間続きますが、神聖魔法の「サニティ」によって治療することも可能です。

驚くべきことに、この呪文は精霊にもいくらか影響を与えます。踊っている術者に向かって精霊魔法を使い、抵抗された場合、精霊は混乱し、その魔法は使用した本人にはね返ってくるのです！

神聖魔法特殊呪文 5レベル
基本消費精神力：25　距離：術者
効果範囲：踊りが見える範囲にいる知的な存在すべて
持続時間：12時間
効果：踊りを目にした者を混乱させる

画では火災が発生していますが、誰も消そうとする者はいません。

やがて、冒険者の一人が、村を見下ろす岩壁の上に立っている人物を発見します。ニフェール青年と、あの彫像の美女です。彼らは笑いながら村の混乱ぶりを見物しています。

岩壁をよじ登るには時間がかかりますし、30メートル以上離れているので魔法の攻撃も届きません。手出しできない冒険者たちに、ニフェールは陽気にこう叫びます。

「見ろ、新しい時代の到来だ！　今やすべての束縛が断ち切られた！　狂気こそ真理！　狂気こそ真の自由だ！」

「彼女の偉大な力を見たか！　彼女は古代王国時代の女司祭だ。今から千年も昔、『名のない狂気の神』に仕えて、多くの信者を従えていたのだ。彼らは世界に狂気の教えをふりまいていたのだ！」

「当時の魔法王ステノファーンは、世界の秩序を守るためにその教えを弾圧し、信者を一人残らず処刑してしまった。しかし、彼女だけはあまりの美しさのために殺すに忍びず、魔法で石像に変え、あのほこらに封じこめたのだ。彼女は美しい姿と若さを保ったまま、千年も眠り続けたのだ！」

「しかし、それももう終わりだ！　僕が彼女を解放した！　彼女の魔法を解いて自由にしたのだ！　再び狂気と暗黒の時代がやって来るぞ。村から街へ、街から都へ、破壊と混乱ははてしなく広がってゆくのだ！」

「見よ、彼女の美しい舞いを！　そして甘美な狂気に酔いしれるがいい！」

ニフェールがそう言い終えると同時に、美女は身をくねらせ、見たこともない不思議な踊りを踊りはじめます。すかさず目をそむけた者は影響を受けずに済みますが、見てしまった者は目標値13の精神力による抵抗ロールを行なわねばなりません。失敗した者はただちに発狂し、笑いながら踊りだします。（ニフェールはすでに狂っているので影響を受けません）

ライムズは目をそむけていたので、影響を受けずに済みます。冒険者のうちの何人かが発狂してしまった場合、ライムズは「サニティ」で彼らを治療します。しかし、村人すべてを治療することはとてもできません。

影響を受けずに済んだ者が、崖の上のニフェールたちを捕らえようとしても無駄です。彼らは隠してあった白い馬にまたがり、高笑いを残して、崖の上の道を走り去ります。北の方角――ミューリアの街に向かって。

6 ミューリアの捜索

マイエの村人たちの狂気はやがておさまります。しかし、火災や事故によって十数人の死傷者が出ています。大きな街で同じことが起きれば、もっと多くの犠牲者が出るでしょう。

村には全員が乗れる大きさの馬車があるので、ライムズと冒険者たちが、ニフェールたちの馬を追跡することは可能です。しかし、ニフェールたちは崖の上の近道を通っているので、いかに努力しようとも、ニフェールたちより先にミューリアに到着することはできません。

しかし、幸いにも、まだミューリアは狂気に汚染されてはいません。ニフェールたちはいったん身を隠すことを選んだのです。女司祭が精神力を回復するために休息する必要があるからです。

ここから先の展開は、ニフェールたちがミューリアに到着した時刻によって異なってきます。いずれの場合でも、GMはニフェールたちを巧妙に逃げ回らせ、なるべく翌日の昼までつかまえられないように努力してください。

（a）到着したのが午前中だった場合

ニフェールはミューリアの街の手前で、リンゴを積んだ荷車をみすぼらしいロバに引かせている若者に出会います。若者は近くの村の農民で、街にリンゴを売りに行く途中だったのです。ニフェールは自分の白馬とロバを交換しないかと若者に持ちかけます。若者は喜んでそれを承諾し、ニフェールはロバを荷車いっぱいのリンゴごと手に入れます。

ニフェールは女司祭を大きな布袋に入れて、荷車に乗せてリンゴの山で隠します。自分はぼろ布をまとい、「シェイプ・チェンジ」の呪文で老婆になって、ロバを曳いて街に入ります。冒険者たちはそうとは知りませんから、「白馬に乗った若い男女」を見なかったかと聞いて回っても、街の人間は誰も見ていないわけです。

ニフェールは老婆の姿で広場に露店を開き、リンゴを売ります。女司祭はリンゴの山の中に隠れているのです。夜になると、彼は女司祭の入った大きな袋（他人には売れ残りのリンゴが入っているように見えます）を引きずって、宿屋に泊まります。

（b）到着したのが午後だった場合

ニフェールは街の手前で白馬を放すと、自分の服を女司祭に着せ、自分は「シェイプ・チェンジ」で茶色の馬に変身して、女司祭を乗せて街に入ります。彼女は愛想のいい笑顔を振りまき、街角で笛を演奏して、街の人々から拍手喝采を浴びます。しかし彼女はひと言も喋らないので、人々は彼女が口がきけないのだと思いこ

みます。

それから彼女は、この街に一軒しかない宿屋の二階の部屋に泊まります。馬に化けたニフェールは、宿屋の前につながれ、そこで冒険者たちが現われないかひと晩じゅう見張っています。

後から到着した冒険者たちは、「馬に乗った美しい笛吹き」の噂を耳にすることになります。しかし宿屋の前につながれている茶色の馬は、明らかにニフェールの乗っていた白馬とは違います。

それでも冒険者たちが、宿屋に泊まっている「美しい笛吹き」に強引に会おうとしたなら、宿屋の主人と少しもめることになるでしょう。美しい女性客の部屋に男たちが乱入するというのは、どう考えてもモラルに反しているからです。もちろん部屋には鍵がかかっていますから、中に入るには頭を使わなくてはならないでしょう。

危険を察すると、ニフェールはけたたましく鳴いて女司祭に知らせます。女司祭は飛び起きて、窓からニフェールの背中に飛び乗り、逃げ去ります。彼らはどこか別の隠れ場所（おそらく下町の路地裏など）に身をひそめます。

（c）到着したのが夜中だった場合

街の門が閉まっているので、ニフェールは「シェイプ・チェンジ」で大きな鳥になり、女司祭を乗せて壁を飛び越えます。そして街でいちばん大きな建物であるマーファ神殿の屋根に舞い降り、そこで一夜を明かします。

地上からでは、屋根の上にいる彼らの姿は見えません。しかし、どこからともなく聞こえてくる竪琴の音色が、街の人人を不審がらせるかもしれません。

いずれの場合でも、ニフェールと女司

祭には充分な休息の時間があるので、翌日の昼までには、消費した精神点を回復させられるはずです。

ニフェールと女司祭が活動を開始するのは、翌日の昼、広場に人がいちばん集まる時刻です。それまでに冒険者たちは彼らの隠れ場所を捜し当てて、取り押さえなくてはなりません。

もしかしたら冒険者たちは、ニフェールたちがこの街を素通りしてファンに向かったのではないかと考え、後を追おうとするかもしれません。その場合、街を出て数時間後に、冒険者たちはニフェールの乗り捨てた白馬と出会います。

（a）の場合、白馬に乗っていた農民の若者は、リンゴを積んだ荷車とロバを、この白馬と交換したいきさつを語ります。（b）または（c）の場合、馬は乗り手がいません。冒険者たちはニフェールたちが馬を乗り捨てたことを知り、彼らが遠くに行ったはずはないと考え直すでしょう。それでもなお冒険者たちがファンに向かったなら、ミューリアの破滅を食い止める者は、誰もいなくなってしまいます。

7 広場の死闘

冒険者たちが前夜のうちにニフェールの居所を突き止められなかったとしても、まだチャンスはあります。推理を働かせれば、なるべく混乱を大きくするつもりなら、広くて人の多く集まる場所を狙うだろうという見当がつくでしょう。ミューリアでは中央広場がそれに該当します。もしニフェールと女司祭がミューリアで騒ぎを起こそうと考えているなら、必ず中央広場に現われるはずです。(プレイヤーがこの点に気づかなかったなら、GMはライムズの口を借りて、さりげなくヒントを与えてください)

翌日の昼、冒険者たちが広場で待ち受けていると、やはりニフェールたちは現われます。

（c）の場合、彼らはいきなりマーファ神殿の屋根の上に出現します。

（a）か（b）の場合、ニフェールはまたも「シェイプ・チェンジ」で姿を変え、大柄で筋肉りゅうりゅうの労働者になっています。彼は女司祭を隠した樽を肩にかついでいます。

彼は噴水のそばで樽を降ろすと、中からロープを取り出して自分の腰に結びつけ、次にメイジ・スタッフを取り出して呪文を唱えはじめます。広場を見張っていた冒険者は、その時点で彼に気づくでしょう。

ニフェールは、「レビテーション」で空中に飛び上がると、噴水の中に立っているグリフィンの像のくちばしに素早くロープをひっかけます。次に彼は急降下します。ロープのもう一方の端には女司祭が結びつけられています。彼女の体重はニフェールより軽いので、ニフェールが下がると彼女は樽から飛び出し、グリフィン像の頭部までつり上げられます。彼女はグリフィンの頭の上に立ち上がり、ロープをほどきます。

右の一連の動作には4ラウンドかかります(飛び上がる・飛び降りる・立ち上がる・ほどく)。4ラウンド以内に彼らを阻止できたなら、被害は最小限で済むはずです。

もし食い止めることができなかったなら、女司祭はグリフィン像の頭の上で「ルナティック・ダンス」を踊りはじめます。そのラウンドで、広場にいた100人以上の人間の大半が発狂し、大混乱が生じます。騒ぎを聞きつけて集まってきた住人も、女司祭のダンスを見てしまいます。被害は街全体に広がってゆくことでしょう。

冒険者たちが女司祭を阻止しようとすると、ニフェールは必死に彼女を守ろうとします。群衆の中にいる冒険者に向けて「ライトニング」や「ファイアボール」を放ち、無関係の人を巻きこむこともためらいません。完全に狂気と化している彼は、恐るべき敵でしょう。

しかし彼の精神点はさほど多くありません。正常な判断力が失われているため、高度な魔法を乱発し、じきに精神点が足りなくなってしまうでしょう。(盗み出した魔晶石はすべて女司祭のディスペルに使いきっています)

女司祭は何度阻止されても、精神点の続くかぎり「ルナティック・ダンス」を踊ろうとします。冒険者たちはあらかじめ何か対抗策を用意する必要があるでしょう。(たとえば歪んだガラスをはめた眼鏡をかければ、すべてが歪んでみえるため、「ルナティック・ダンス」に対する抵抗ロールに＋2されます。その代り攻撃点と回避点から−2されます)

精神点が足りなくなったなら、彼女はダガーで切りかかってきます。戦っている間も、彼女は笑顔を絶やしません。彼女には恐怖や憎しみといった感情はまったくなく、狂気のおもむくままに戦うだけなのです。

ライムズは冒険者たちの強い味方になってくれます。ファリスの司祭である彼にとって、「名のない狂気の神」は憎むべき敵ですから、女司祭を倒すことにためらいはしません。しかし、ニフェールに対してはためらいがあり、どうしても思いきった攻撃ができないでしょう。

V 冒険の結末

たとえニフェールや女司祭を生きたま

ま捕らえたとしても、完全に狂気の神に支配されている彼らは、永遠に正気に戻ることはありません。おそらくは、どこかの地下牢に監禁されて一生を過ごすことになるでしょう。

ニフェールたちを殺したにせよ、生きたまま取り押さえたにせよ、ミューリアの人々に被害が出る前に阻止できたなら、使命は完全な成功と言えます。プレイヤー・キャラクターは１０００点の経験点を獲得します。

ミューリアの人々に狂気が広がったものの、ニフェールたちを殺すか捕らえることに成功したなら、使命は部分的成功と言えます。プレイヤー・キャラクターは８００点の経験点を獲得します。

ミューリアの破壊を阻止できず、なおかつニフェールたちを取り逃がしてしまった場合、彼らは今度は首都ファンに行き、そこでさらに大きな混乱を起こすでしょう。最終的にはファンの魔術師や戦士たちによって彼らは殺され、混乱はおさまるでしょうが、数え切れない犠牲者が出るのは間違いありません。この場合は失敗となり、５００点の経験点しか得られません。

あの子（マハル）は力（ソーサー）なんて持ってなかったし
あんなに近くで会ったのに
私に気付いてくれなかった

COMIC
出渕裕
YUTAKA IZUBUCHI

機神幻想ルーンマスカー

neMasquer

STORY

機械神たちが守る幻想の大地ルーン。レアルは、義姉ラハと共にイグラッド王国に育つ。だが、神破奴(ジバード)大皇国の侵攻により、自由都市ヴェルヌへと脱出した。超文明国家ミューの少女メネアと不思議なめぐり合いをしたレアルは、神破奴(ジバード)の巫女月女(ツクメ)の庇護の下、夜会へと向かう

ヴィーン ヴィーン

ザザーン

けど 私にはわかったわ あの子は弟の魔覇流(マハル)に 間違いない

だって

Ru

ありがとレアル
でも
遠征軍では
戦死した事
になってるし

それに
あのカウザーと
一緒にいたのも
解せない話よ

そこなんだよ
な
僕にもわからない
のは……

にしても
着がえるって……
こーゆー事だった
訳ね

あの時ブバラの剣は
マハルの胸を
つらぬいていた……

致命傷でなかったとしても
相当な深手だった
筈だ
こんな短時間で
亜人だから？
マハルは
いや それにマハルは
姉の顔を見ても
顔色ひとつ変えなかった
それにしても
月女様たち遅いな
もう着いても
いいころなのに…
…
うーん
ヒョイ

んー
こんな
もんかな
どちらにしても
ナユラには
弟が味方に刺された
なんて言えないよな

なに？
そんなに
おかしい？
もう…

あ いや あの
ナユラでも気にする訳？
その亜人だって事…
そりゃあね
亜人は魔の使い人
だって それは迫害
されたのよ
今では一握りの
人しか生き残ってない
私だって
弟以外の同族には
あった事はないわ
今でも
そう信じてる奴
って多いし…

この島の離宮に
来てる連中
気位の高い貴族や
諸外国の高官
そんな連中だもの
この中に
そんな目で見るやつは
まだまだ
うようよしてるわよ
ネレイドーへの
感謝にかこつけて
こんな宴を開くんだから

顔をかくして
着かざって
華やかというか
茶番というか

ほんとね
ヴェルヌ人て
こういう遊びが好き
なのね きっと

もっと慎ましく
やればいいのに
まァ 郷に入っては
郷に従えってことかしら

加瑠摩様の受け売りだけど…

こんな
異国の格好とか
わざわざしてさ
似合わないよね

いや

けっこう
かわいいと思う

その髪型も……

……

カルマのところの亜人の娘は来ておるようだが当の月女の姿が見えぬな
はて？横の男は見かけぬ顔だが…
真打ちは最後に登場という事なのでしょう…余裕ですか

情報によるとあの亜人の娘の弟がイグラッド侵攻の際反逆の罪で腭人に処断されたのだとか……

その話まだ知らぬのだろう不憫な娘じゃ
たかが亜人では？
意味のないあの娘とてなりたくてなった訳ではあるまい虚言 迷信で己れの目を曇らせてはならんぞネストール

心に刻みおきます…
ミューはジパードに物理魔道機を援助するらしい我らは月女を神官としていただき
ミューを背景にしたジパードの軍事力に守ってもらわねばならん

できればヴラドとも協調してな

シュウ

ナイトマスカーの
調整はいかが？
シルファ・ムーン

!

シュパーーッ

シュウ

2時間も前から最終チェックをしてるんでしょ
ごくろうさま
エヴァか…
万全ですよ
いつでも出せる

あの
アギトに
くれてやる
やつも？
ああ あれね
あちらも大丈夫
大佐の方は？

この上よ
かわいいあの子たちと
一緒に夜会に
御出席…
フフ
あなたも
心配ね

なにしろあの2人は
あなたにとっては
特別ですものね

……

彼らの事なら大丈夫ですよ
あの2人は私たちの期待に答えてくれます
私には…私だからわかるのです
ウォン
ウォン

でしょうね
心から同情してよシルファ・ムーン

あ…
あの娘だ

いこ
レアル
あっち行こ
なんだよ
ナユラ
急にどうしたの
いーから!

おい
ナユラ

ドン
ギュムッ

スッ

ニカ～

あ
すいませ
…ん
いてぇ～

ヴラド人よ あれ
気味悪い…

ハイ
今日も
2人一緒かい
仲がいいね
ギュ

ボク？
やあ君も
が～ん

昨日は
本当に失礼
しました
可愛い
女…
エッ？

僕は
ルカス
ルカス・ルガー
メネアとは
親しい
友だちだよ
君の名は？
……
ニコッ
ギュウ
あっ ああ
ごめん
レアル
……
パディス
だよ
ああ レアルね
メネアの頭の中は
君でいっぱいさ
今 彼女は混乱
しちゃってる
もちろんそれは
一過性のものさ
だって…
最後に勝つのは
ぼくだからね
それは君の
決める事じゃない
と思うよ
クッ…
ハハ！
ぼくの
思ったとおりだ
ぼくらはきっと
いい友だちに
なれるよ
……
だろ？
……

なんだとぉ
きさまアァァ

きさま…
今なんと
言った
え　もう一度
言ってみろ
俺たちを
ヴラドの使節と
知って吐いた
暴言か!?

!

サイ?
フン…
かまうな

無論だ
聞きのがしたと
言われるなら
何度でも繰り返し
聞かせて
しんぜよう

畜生道に落ちたるヴラド人は人に非ず
同胞を喰らい己れを生かす喰人鬼なり

キイイッ…
スッ…
東の山ザルめ！

ザザ
ザザ
ザザ
ザザザ

やめろ
スチャ
！

御館様もお戯れが過ぎます
本日は御従妹様の大切な日ですぞ
ギリッ
安ずるな余興だ

ダルタンだな
ククク…
勇猛でならした草原の戦士も今は牙を抜かれてジパードの飼い犬か
そちらも悪名高きヴルード族がお供とは物騒ですな

ならばもはやこやつらを止められぬのも分かるであろう
ギヒ

フ…そこまで言うならばお相手しよう
シャーッ
がこれは私闘腭人様よろしいですな
好きにしろ
……
スッ

ギギィ
キィ
ピッ

■第19話おわり■5月号(3月30日発売)につづく

ソード・ワールドRPGリプレイ

氷原に響く交声曲(カンタータ)

「後編」

住み慣れたリファールを捨てて
極北の街プロミジーに来た6人組
そこには、やくざな連中に
誇りを奪われた漁師がいた
北の海、失意の漁師と、これだけ
道具が揃えばやることは決まった
海へ出ろ！　獲物はどこだ！
――海はなかった
そこは見渡す限りの大氷原
獲物は伝説の巨大アザラシ(ゴールデン・ワンダラー)だ！

AUTHOR
山本弘
HIROSHI YAMAMOTO

ILLUSTRATOR
草彅琢仁
TAKUHITO KUSANAGI

MAP DRAWER／JYOUZI RINDOU

SWORD WORLD

ケッチャのお料理騒動

「お母さん、お元気ですか。
僕たちは今、富士見書房からでている『ソード・ワールド』というRPGをやっています。キャラクターの能力はいくつもの技能に分かれていて、それぞれの技能は経験を積まないと次のレベルに進めないんだ。
僕たちが今いるのは、氷の街プロミジー。ふとしたことから知り合ったアザラシ猟の名人ラルーさんは、悪いクランドー一味に妨害されて仕事ができなくなり、酒びたりの毎日を送っていました。
そんな時、伝説の巨大アザラシ『ゴールデン・ワンダラー』が出現したという噂を耳にしました。それをつかまえれば、お金が儲かるだけではなく、ラルーさんに自信を取り戻させることもできるんです。僕たちはラルーさんの二人の息子といっしょに氷上船に乗りこみ、ゴールデン・ワンダラーを探して、今日も元気に旅を続けています。
何てったって、面白マジカルだもんね！」
（GM註：『グランゾート』もいいけど、やっぱ『ワタル』の方が面白かったなー）

ユズ「お嬢様が食事の用意してると、ザボさんが後ろではらはら……（笑）」
GM「いちおう船倉の中に凍った肉とか蓄えてあるからね」
ケッチャ「凍った肉を前に茫然としてる。こんな凍った肉、どうしたらいいのよ？」
ユズ「ザボさん、手伝ってあげないの？」
ザボ「凍った肉？　そんなもん、抱いて温めればいいんだよ（笑）」
ユズ「嘘教えてる〜」
アリシアン「とりあえず見張ってるけど、何か見えないかなあ？　後ろから船が追いかけてくるとか……」
GM「そやねえ、遠くの方を白いものが走ってるのが見えるね」
アリシアン「前方？　後方？」
GM「横の方。右舷やね。いちおうセージ技能でチェックしてみて」
アリシアン「18！」
GM「それは知ってるなあ。白熊ですねえ」
アリシアン「みんなに知らせる。白熊が走ってるぞお！」
ケッチャ「どこどこ？」
アリシアン「右横〜！」
ユズ「へえ〜、あれが白熊かあ、と見物する（笑）」
GM「アーウィンが言うには『白熊もいい獲物なんだけども、今は……』」
アリシアン「ゴールデン・ワンダラーひとすじ……他には何もないかな？」
GM「そやねえ、今のところはないみたい」

キャラクター名	種族	性別	所持金	経験点	冒険者レベル
ザボン	人間	男	588ガメル	2663	4

能力値	値	ボーナス	抵抗力
A 7 / B 7 / C 12 / D 7 / E 10 / F 7 / G 7 / H 8			
器用度	14	+2	
敏捷度	19	+3	
知力	19	+3	
筋力	17	+2	
生命力	14	+2	6
精神力	15	+2	6

技能名	レベル
ファイター	4
レンジャー	1

キャラクター名	種族	性別	所持金	経験点	冒険者レベル
ケッチャ	人間	女	677ガメル	217	3

能力値	値	ボーナス	抵抗力
A 9 / B 10 / C 5 / D 5 / E 3 / F 3 / G 7 / H 12			
器用度	19	+3	
敏捷度	15	+2	
知力	10	+1	
筋力	6	+1	
生命力	10	+1	4
精神力	19	+3	6

技能名	レベル
バード	1
ソーサラー	3
セージ	1

魔法（ルーン）	レベル	魔力
ハイエンシェント	3	4

キャラクター名	種族	性別	所持金	経験点	冒険者レベル
ユズ（ユージィ・マヌエル）	人間	女	1115ガメル	1792	4

能力値	値	ボーナス	抵抗力
A 5 / B 7 / C 7 / D 8 / E 10 / F 9 / G 6 / H 10			
器用度	12	+2	
敏捷度	14	+2	
知力	15	+2	
筋力	19	+3	
生命力	15	+2	6
精神力	16	+2	6

技能名	レベル
バード	4
シーフ	1
セージ	1
ファイター	2

アリシアン「じゃ、白熊は見えなくなっていった。さようなら〜」
GM「で、昼過ぎになった。そろそろ交替した方がええんとちゃうかな？」
ケッチャ「え？　お昼なの？」
ユズ「あ、ご飯食べてからにしよう」
ケッチャ「シチューができたよ〜♪」
ザボ「ケッチャの作ったご飯♪」
GM「どんなご飯なんやろねえ。こんなもん判定する方法がないなあ（笑）」
ケッチャ「味つけは保証しないよ（笑）」
ザボ「抵抗ロール振らなあかん（笑）」
ディーボ「だだ甘とか激辛料理は嫌ですよ」
ケッチャ「何か入れるものを間違えてたりして。ふと気がついたんやけど、自分で味見するの忘れてた」
GM「とにかくサイコロ振ってみて。その目を見て、料理の出来を考えよう」

ケッチャが振ったサイコロは1ゾロ！

ユズ「（笑）失敗してる〜！」
アリシアン「お嬢様〜！」
GM「じゃあ、みんなひと口、口にしたとたんに……（笑）」
アリシアン「絶句、というやつですね」
ケッチャ「でもザボは食べるよね？（笑）」
ザボ「戦士は何でも食べないと……」
ケッチャ「あんまり食べっぷりがいいから、あたしの分もあげる（笑）」
ザボ「ザボが食べさせてあげよう♪（笑）ほれ、あーんして」
ケッチャ「いやいや、あたしが食べさせてあげよう（笑）」

その日はそれ以上何も起こらず、翌朝になった。

アリシアン「で、朝ご飯、誰が作るの？」
ユズ「弟さんは？」
GM「うーん、これはやっぱりトムリィ君にやってもらった方がいいかもね（笑）」
ケッチャ「あ、習う習う、料理を習う」
GM「トムリィ君が料理のコツを教えてくれる。『えっとですね、塩加減はだいたいこれぐらいで……』（笑）」
ケッチャ「あ、これぐらいね、ガバッ（笑）。何事にも大雑把なケッチャです」
GM「（サイコロを振る）トムリィ君が代りに料理してくれたら、11の目が出ました」
ケイン「わっ、涙が出るほどおいしい！」

ゴールデン・ワンダラー出現

GM「その日のお昼頃、前方に山が見えてきた。氷の海から突き出している島だ」
アリシアン「島が見えるぞ〜」
GM「アーウィン君が『おお、あれが三日月島です』と言う」
アリシアン「あの山に何か変な話ってないの？　妙な精霊が出るとか……」
GM「そんな話は聞きませんけども……」
ディーボ「妙な基地があるとか、妙な人間が五人ほどいるとか……」
GM「それは三日月珊瑚礁（笑）。古いネタ出してくるなあ！」
ディーボ「好きでしたからねえ、あれ」
アリシアン「懐かしすぎて涙が出る（笑）」
GM「アーウィンが言うには『あの近くでゴールデン・ワンダラーを見かけたという噂なんですが……このへんでちょっとスピードをゆるめましょう。見張りの方、注意して見張っててください』」
アリシアン「三日月島を？」
GM「いや、まわりの氷を。アザラシは海の中で魚を食べてますから、アザラシが出没するあたりには、海中に出入りするための氷の裂け目があるんです」

アリシアン「そのへんを注意して見てたらいいんですね」
GM「それに裂け目に落ちると厄介なことになりますから」

まもなく一行は氷原に大きな裂け目を発見し、船をその近くに止めて、ゴールデン・ワンダラーの出現を待つことにした。ユズはアリシアンと交替してマストに登り、裂け目を見張る。（ちなみに昼ご飯もトムリィ君が作った）

GM「夕方近くになって、氷の裂け目からザバッと何かが現われた」
ユズ「何色？」
GM「灰色のアザラシだ」
ユズ「灰色のアザラシが出たぞお～って、いちおう知らせとく」
GM「あんまり体は大きくないね。5メートルぐらいかな」
アリシアン「子供じゃないの？」
GM「アーウィンが言う。『あれはメスですね』」
ケイン「バリスタの訓練しよか？」
GM「いえ、あれは射ってはいけません。アザラシというのは一夫多妻制で、一頭のオスが何十頭ものメスを守ってるんです。あぶれたオスは氷原をさまよい歩いていて、我々はそれを狩るんです。オスを狩っているかぎり、アザラシが絶滅することはありません。
でも、クランドーの一味はオスもメスも見境いなしに殺しています。あんなやり方では、いずれアザラシは捕れなくなってしまいます。困ったことです」
アリシアン「アレクラストにも自然破壊はあったのか」

その夜、一行は交替で見張りをした。明け方近く、ケインとディーボが当直の時——

GM「君たちは氷の裂け目の方で、ザパーンドパーンという水音を聞いた」
ディーボ「ではナイトビジョン（暗視能力）で見る！」
GM「大きな影が、のそ～っと氷の割れ目の中から出てくるよ」
ケイン「確かランプか何か燃やしてましたよね？　光があるから『ウィル・オー・ウィスプ』を呼び出します。とりあえず明かりを近づけてみて、正体を確かめたい」
GM「やってみて。1ゾロが出ないかぎり成功だ」
ケイン「（サイコロを振って）だいじょうぶです。ポンッ！（ウィル・オー・ウィスプを投げるしぐさ）」
GM「光の中に浮かび上がったのは……昼間見たメスのアザラシよりはるかに大きいやつだ。肌が金色に輝いてる」
ケイン「おっとお！　起きろ起きろ～。ゴールデン・ワンダラーが出たぞお～っ！」
ケッチャ「起きた」
ユズ「起きたと思う」
GM「アザラシは氷の上をのったのったと進んでるよ」
ケイン「ウィル・オー・ウィスプで上から照らしてますけど……」
GM「こっちにはあまり興味持ってないみたいやね」
ユズ「バリスタは誰が射つの？」
ケッチャ「そらもう本職が……」
GM「アーウィンが『ちょっと待ってください。今射つのはまずい』」
ケッチャ「どうして？」
GM「氷の裂け目に近すぎるから、すぐに逃げこまれてしまいます。もう少し氷の裂け目から離れるのを待って、間に割りこみ、逃げ道を断ってから狩りをします」
ユズ「そのへんはまかせた」
GM「それにまだ暗いですから、照準も定まりにくい。夜明けまで待ちましょう」
ケッチャ「夜明けまで何時間？」
GM「あと二時間ぐらいかな？　アザラシは今、動くのをやめて、氷の裂け目から30メートルぐらいのところで、どたっと寝そべってる。アーウィンが顔をしかめる。『むずかしいところだな。あんなに裂け目に近いところにいると、すぐに逃げられてしまう』」
ケッチャ「ということは、誰かにエサを持たせて追いかけさせれば……」
ユズ「面白いけどさあ、不審に思ったら逃げるやんか」
ケイン「ちょっと無理やろねえ」
GM「だいたいこういう風な状況にあると考

キャラクター名：ディーボ・レンワン　種族：ドワーフ　性別：男　所持金：842ガメル

能力値		能力	値	ボーナス	抵抗力
A 13	B 3	器用度	16	+2	
C 8	B 3	敏捷度	11	+1	
D 6	B 3	知力	14	+2	
E 10	F 10	筋力	20	+3	
G 13	F 10	生命力	23	+3	5
G 13	H 16	精神力	29	+4	6

経験点：1624　冒険者レベル：2

技能名	レベル
ファイター	2
プリースト（マイリー）	2
レンジャー	2
セージ	2
クラフトマン	5

魔法 ルーン	レベル	魔力
ホーリー・プレイ	2	4

キャラクター名：ケイン・クレンス　種族：エルフ　性別：男　所持金：1520ガメル

能力値		能力	値	ボーナス	抵抗力
A 12	B 10	器用度	22	+3	
C 11	B 10	敏捷度	21	+3	
C 11	D 10	知力	21	+3	
E 5	F 3	筋力	8	+1	
G 6	F 3	生命力	9	+1	4
G 6	H 9	精神力	15	+2	5

経験点：292　冒険者レベル：3

技能名	レベル
シャーマン	3
ファイター	2
セージ	1

魔法 ルーン	レベル	魔力
サイレント・スピリット	2	5

キャラクター名：アリシアン　種族：ハーフエルフ　性別：女　所持金：1010ガメル

能力値		能力	値	ボーナス	抵抗力
A 10	B 11	器用度	21	+3	
C 8	B 11	敏捷度	19	+3	
C 8	D 10	知力	18	+3	
E 4	F 4	筋力	8	+1	
G 8	F 4	生命力	12	+2	6
G 8	H 8	精神力	16	+2	6

経験点：172　冒険者レベル：4

技能名	レベル
シーフ	3
セージ	4
レンジャー	1

えて。ここに裂け目があって、ここに船があって……」

　GMは船、裂け目、アザラシの位置関係を図に描いて示す。プレイヤーたちはその図を囲んで考えこむ。

ケイン「ウィル・オー・ウィスプを前に飛ばせば……夜行性動物やないから、光に近づく習性があるかどうかは知りませんが」
GM「照明弾を呑みこむ習性とかはないと思うぞ（笑）」
ケイン「他に何か使える呪文（じゅもん）ないかなあ。早く作ってほしいですねえ、氷の精霊系の呪文を……」
GM「上級ルール集が出ますんで……」
ケイン「分かりました。宣伝宣伝（笑）」

氷原の炎

　冒険者たちはアザラシをいかにして裂け目から引き離すかを議論する。ケッチャが幻影を作って驚かせるという案も検討されたが、今ひとつうまくいくとは思えない。
　結局、火を使って追いたてるのが一番ということになった。しかし、アザラシに炎を直接ぶつけては、せっかくの皮が台無しになってしまう。かと言って、氷の上に「ファイア・ボルト」を炸裂（さくれつ）させても、すぐに消えてしまうだろう。

アリシアン「じゃあ、ありったけのボロ布を持って行って、裂け目のそばに置いて、油をぶっかけて、火をともすというのは……」
ケッチャ「誰が置きに行くの?」
ユズ「そりゃあ……（と横目でアリシアンを見る）」
アリシアン「やりますよやりますよ、本人が（笑）」
GM「猫の首に鈴をつけるというやつやね」
ケイン「何人かで行ったら危ない」
ユズ「いや、へたに大勢で行って、誰かが1ゾロ出したりしたら……」
アリシアン「そら、一人で行く方が成功の確率が高い……だから、あたしの仕事なんだってば！（笑）」
ケッチャ「本人が行きたいと言ってるんだから、行かせましょう（笑）」
ユズ「ついでに幻影もつけへん?」
GM「『クリエイト・イメージ』を使おうと思ったら、術者が近くにいないと……」
ケッチャ「こっちは30メートル離れてればええんやから、30メートルのところで、作業が終わるのを待ってればいい」

　こうして作戦はまとまった。小さなソリの上にボロ布を積み上げて油をまき、それをアリシアンが引いて、こっそりアザラシの後ろに近づくのだ。ケインとケッチャは30メートル手前で立ち止まり、アリシアンが戻ってくるのを待つ。ディーボ、ユズ、ザボは、船の上でバリスタの発射準備。ラルー親子はいつでも船をスタートさせられるように待機している。

GM「じゃあ君はソリを引いて氷の裂け目に近づいていった……シーフ技能＋敏捷度（びんしょうど）ボーナスで振ってみて」
アリシアン「13です」

　GMはこの行為を難易度（なんい）5で判定することにした。サイコロの目は9だったので、目標値は14となり、ぎりぎりで失敗。すぐそばまで来たところでアザラシに気づかれたことにした。

GM「そしたらねー、この裂け目のところま

で来たところで、相手は気がついた。ぐるっと振り返って、君に向かってガオーッと吠えかかる。でもって、ズシンズシンと近づいてくる」
アリシアン「速度はどれぐらい？」
GM「人間が走るぐらいかな」
アリシアン「だったらさっさと逃げた方がいいな(笑)。ケッチャに向かって叫ぶよ。火つけて、火！」
ケッチャ「火はまだつけてないの？」
GM「火をつけずに逃げてきたんやね」
アリシアン「うーん、間に合うかな。踏みとどまって、火をつけてみようと努力する」
GM「アザラシが来るまで1ラウンドぐらいの余裕はあるよ。でも1ラウンドで火を起こせるかな？(笑)」
アリシアン「無理ですねえ。逃げる！」
ケッチャ「(ケインに)ソリに火をつけて」
GM「『ファイア・ボルト』の有効距離は10メートル！」
ケッチャ「あ、だめか！」
GM「何か他の魔法があったんじゃない？」
ケイン「『ウィル・オー・ウィスプ』は20メートルやけど……でも、ウィスプでは火はつきませんねえ」
ケッチャ「あ、そうか。アリシアンのショート・ソードに『ファイア・ウェポン』かけとけば良かったんだ」
アリシアン「今からでは間に合わへんなあ」
ケッチャ「それは置いといて(笑)」
ケイン「じゃあ10メートルまで近づいて火をつけます！」
GM「走るわけやね。敏捷度はいくら？」
ケイン「21です」
GM「ということは全力移動で1ラウンドに63メートル移動できるわけやね。充分に間に合うな。ちょうどアザラシがソリのすぐ手前まで来たところで、有効距離に入った」
アリシアン「失敗したら怒るよ」
ケッチャ「1ゾロはだめだよ」
GM「ところで、たいまつはちゃんと持ってるね？」
ケイン「いくらなんでも持たずに走りませんよ。行きます……成功！」
GM「じゃあ、ばっとソリに火がついた」
ケッチャ「それに『クリエイト・イメージ』を重ねる！　炎が大きく燃え上がったように見せる」
GM「うまくいったね。アザラシはびっくりして方向転換して、氷原を逃げ出した」
ケイン「やったあ！」
GM「トムリィ君が叫ぶ。『みなさーん、船に戻ってください。すぐに追跡にかかりまーす』」

氷上船の死闘

一行は再び氷上船に乗りこみ、逃げるゴールデン・ワンダラーを追跡する。他の裂け目に逃げこまれる前に、バリスタで仕留めなくてはならないのだ。
最初の射手はザボ。これははずれた。(ケイン「巻き上げ、巻き上げ〜」)
バリスタを巻き上げてボウをセットし、再度挑戦。またもはずれ。(ディーボ「巻き上げ、巻き上げ〜」)
三度目の正直……しかし今度も失敗。(全員「巻き上げ、巻き上げ〜」)
業を煮やしたディーボが、ザボに代わって射手になる。
ディーボ「(サイコロを振る)ふっ……何も言わんとこう(笑)。とてもじゃないが言えた数字とちゃう」
ケイン「次、ケイン行きまーす」
全員「えーっ!?」
ケイン「射つのは簡単やもん。ファイター技能があるから。ていっ……12！」
GM「はずれーっ」
六発目はザボ、これもはずれ。(ザボ「このサイコロ嫌い！　8以上出ない！」)
七発目はディーボ、またまたはずれ。
八発目はまたもケイン、やっぱりはずれ。
ユズ「いっぺん射たせていただきます」
ケッチャ「がんばってー」
全員「せーのっ……」
ユズ「よーし、6ゾロ！」
全員「おーっ！(拍手)」
GM「当たったね。打撃力はレーティング表の50の欄で見て(註：バリスタの打撃力は70だけど、50以上はすべて50の欄を使用することになっています)」
ユズ「50!?　誰かレーティング表見せて！」
GM「これでクリティカルでも出たら、一撃なんやけどね」
ユズ「あかん、7しか出なかった。10発」
GM「ユズさんのファイター技能は2レベルやったね？　ということは追加ダメージは12発で、合計22発やね」
アリシアン「痛いなあ。普通やったら」
ケッチャ「普通じゃなさそうよ」
GM「モリがぶすっと刺さったんで、かなり痛そうにしてる」
ケイン「怒るぞお」
GM「そいつは立ち止まって、こっちに突進してくる。2ラウンドほどかかりそうやけどね」
ケイン「『ホールド』！　ノームをコントロールしてますけど」
GM「氷の上じゃだめだね。人工の石でもいいから、石か土のある場所でないと」
ケッチャ「『ライトニング』しちゃだめ？　傷がつくかな？」
GM「炎はあかんけど、電撃ならかまわないでしょう」
ディーボ「クロスボウも射ってええよね？　あんなでかい矢が刺さってるんやから」
GM「うん。巻き上げに時間がかかるから、ぶつかってくるまでに1回しか発射できんけどね」
ザボ「私も射ちまーす」
ケッチャの放った「ライトニング」はわずかにアザラシを傷つけた。しかし、ザボのクロスボウははずれ。ディーボのクロスボウは命中したもののダメージはなし。
GM「アザラシはどーんと船の横腹に体当りしてきた……見張り台に立ってる人は誰やったっけ？」
アリシアン「はい(笑)。すでに衝撃に備えてしっかりしがみついてます」
GM「冒険者レベル＋筋力ボーナスで振ってみて。しがみついていられるかどうか」
アリシアン「12！」
GM「だったらだいじょうぶだ」
ケイン「さあ、来たぞ〜」
GM「アザラシは長い牙でがりがりと船にかじりついている」
アリシアン「アザラシというより、セイウチやんか！」
ユズ「かぶりついてるのよねえ。剣で切りつけた方が早いかな？」
ディーボ「剣で傷つけてもいいの？」
ユズ「いや、顔ぐらいならいいでしょ」
ディーボ「殴りに行ったるぞ。このやろ、ばかやろー(笑)」
GM「モリが刺さってるぐらいやから、剣もかまわんでしょう」
傷ついて凶暴になったゴールデン・ワンダラーは、氷上船の甲板に顔を突き出し、人間に食らいつこうとする。こうなっては悠長にバリスタを巻き上げてはいられない。ディー

ボ、ザボ、ユズは武器を取り、その巨大な顔面に切りつける！

この戦いは時間のかかるものとなった。三人の攻撃はなかなか命中せず、たとえ命中しても（ケッチャの『エンチャント・ウェポン』の援護があるにもかかわらず）、厚い皮にはばまれて、なかなかダメージを与えられないのだ。

一方、アザラシはなぜか集中的にユズを狙う。攻撃が三度命中して、ユズは合計10点のダメージを受ける。

意外にも戦いの決め手になったのはケインだった。彼は戦闘に参加せずに甲板の端で見守っていたのだが、「動物なら精神点が低いはず」という事実に気づき、精神点を減らす「シェイド」の呪文を使ったのだ。

アザラシは抵抗に失敗した。しかもダメージ判定でクリティカル！　精神点に7点のダメージを受けた。

次のラウンドもケインは「シェイド」を使った。今度は抵抗されたものの、3点のダメージを与えた。

GM「それは……気絶したなあ」
ケイン「やった！　よおし！」
ユズ「ケイン君、大活躍！」
ケイン「とりあえず、早いとこ仕留めへんと起きまっせ。気絶してるだけやから」
GM「みんなでとどめを刺さんとあかんよ」
アリシアン「そこはそれ、ラルーさんにやってもらったら？」
ユズ「あ、そやね」
GM「じゃあラルーさんはぎりぎりぎりとバリスタを巻き上げて、狙いを定めてぶしゅっと発射する。ひっくり返ってるアザラシの心臓を、ぐさっとひと刺し」
アリシアン「さあ、あたしは喜んで降りていくぞ」
ケイン「ぜえはあ、ぜえはあ」
GM「みなさんのおかげで倒すことができました。ありがとうございます。では、解体を手伝っていただけますか？」
アリシアン「解体？　あたしは嫌、できないもん」
GM「でも、このままだと船に積めないので……」
ケッチャ「そういうことになると思った。どうやって持って帰るんだろうなと思ってたの（笑）」
GM「まず皮をきれいにはいでですね、肉は適当な大きさに刻んで船倉に放りこんで、皮は甲板の上に干して、牙も根元からきれいに切り取って……」
ユズ「脂身はいるんですか？」
GM「とりあえず全部積みこんでください」
ケッチャ「あたし非力だから、みんなよろしく～」
アリシアン「（かわいらしく）あたしも非力だからだめ♪（笑）」
ユズ「アリシアンは引っ張るよ。お嬢様はあきらめてるけど。お嬢様はしかたがないから料理の用意でもしといて」
ケッチャ「うん！（笑）」

悪人捕らえて大団円

一行は氷の上で何時間もかかって、慣れない解体作業を続けた。（ちなみにケッチャの作った食事は前回よりはましだった）

GM「ケッチャ以外の人は、解体作業で体じゅう血とか脂とかでグチョグチョ……」
ケイン「そら、ニワトリばらすだけでも手が脂だらけになりますからね」
GM「ニワトリとスケールが違うよ（笑）。午後になって作業が終わりかけた頃になって、トムリィ君が『あっ、あれは!?』と言って、地平線というか氷平線の方を指さす」
アリシアン「それ来た、やれ来た」
ユズ「すいません。船に戻ってバリスタ巻き上げます（笑）」
ケイン「えぐいなあ」
ユズ「船に当てるだけやったらだいじょうぶや。人間に当てたらこわいけど」
GM「近づいてきたのは別の氷上船やね。しゅるしゅるしゅると音を立てて、氷の上を滑ってくる。こっちの船より小型みたいやね。小型だけにスピードも速そうだ。どんどん近づいてくるけど、こっちはまだ解体作業中なんで動けない」
ケイン「すいません。僕はもう精神点がほとんどないので、シャーマンとして役は果たせません。いちおう先に断わっておきます」
GM「船は速度をゆるめて近づいてくる。そして君たちの船に並んで止まる。その舳先に立ってるのは……」
アリシアン「例の汚いおっさん」
GM「そう、クランドーさん」
ケイン「さん付けするのもおこがましいわ」
ケッチャ「で、何とのたまわれるの？」
GM「『おお、ラルー、大漁じゃねえかい』と怒鳴る。するとラルーさんは、『クランドー、お前にはもう大きな顔はさせないぞ。これを持って帰って街で売れば、借金も返せるし、俺の名誉も回復するんだ！』と言う。そしたらクランドーたちは、『へっ、そうはいかねえぜ』と言って、ばらばらと船から降りてくる」
アリシアン「何人？」
GM「六人やね。（キャラクターのデータを見る）ボスのクランドーはハルバードを持って、四人の相棒はバトルアックスを構えてる。もう一人、女がいるんやけど、こいつは今のところ武器は持ってないね」
ケッチャ「距離は何メートル？」
GM「まだ30メートルぐらい離れてる。で、じゃん！　じゃん！　じゃん！　と近づいてくるよ」
ユズ「そろそろ行きまーす。『ダンス』ソング！　唄うだけ唄ってみましょうのパターンやね」

ユズの唄った呪歌「ダンス」は、達成値9という低いものだった。冒険者たちの側は、非戦闘員であるトムリィ少年が踊り出しただけで、他の者はみんな抵抗に成功した。

ところが悲惨だったのはクランドー側。もっとも戦闘力の高いボスのクランドーと、用心棒が一人、抵抗に失敗して踊り出してしまったのだ！

ユズ「あ、これはちょっとおいしいな。唄い続けるぞ。ちゃかちゃかちゃかちゃか♪」

クランドー側の紅一点、精霊使いのシャミナは、ユズに向かって『ミュート』を唱え、呪歌を封じようとする。しかしユズは抵抗に成功し、唄い続ける。

一方、ディーボから精神点をトランスファーされたケインは、シャミナに向かって逆に『ミュート』をかける。こちらも抵抗され、魔法はかからない。

かくして両グループは戦闘に突入した。先に魔法の使い手を潰すべきだと考えたシャミナは、ユズ、ケイン、ケッチャの三人に『コンフュージョン』をかける。ケインが1ゾロを出して混乱してしまう。しかし、そばにいたディーボがすぐに『サニティ』をかけて回復させた。

次のラウンド。ケインは再びシャミナに向けて『ミュート』を放つ。今度は成功。シャミナの呪文を封じこめた。シャミナはやむなくレイピアを抜く。

戦力の半減したクランドー側は、圧倒的に分が悪い。戦闘可能な三人の用心棒は、ディーボ、ザボ、アーウィン、ラルーの攻撃によ

ってじわじわと傷つき、二人が倒される。

アリシアンはシャミナと一対一で戦っている。しかしシーフ技能はアリシアンの方が高い。シャミナは二回傷つけられて、生命点が残り2点になったうえ、アリシアンにディザームをかけられレイピアを落とされる。やむなく逃げ出そうとするが、背後からアリシアンにタックルされて捕まる。

アリシアン「ソードを突きつけて、降伏しろ、と言う」

GM「そしたらその女は、『クランドー、助けておくれよ』と叫ぶ……あっ、しまった、聞こえへんのやった（笑）。口をぱくぱく開けてるだけや」

アリシアン「踊ってる熊親父に向かって、やい、熊親父！　この女の命が惜しかったら降伏しろ！」

GM「こいつは踊りながら、『ちくしょう！』と言って後ろ向きに逃げ出す（笑）」

アリシアン「女の命が惜しくないのか？」

GM「惜しくない！」

アリシアン「あ、悪い奴！　ザボさん、やっておしまい！（笑）」

まだ踊り続けているクランドーに、ザボが追いついた。たった2ラウンドの戦闘で、クランドーの生命点は5点まで減ってしまう。こうなってはまったく勝ち目はない。彼はついに降伏した。

ケイン「じゃあ全員、武装解除してもらいましょうか」

GM「みんな武器を捨てる」

ユズ「そこで歌をやめよう」

アリシアン「このまま縛り上げてつれて帰ったら、それで解決するんとちゃう？　何も殺さんでもええやろ」

GM「ラルーさんが『お前たちも年貢の納め時だぞ』と叫ぶ。『今度こそ役人に突き出してやる！』」

ザボ「役人も買収されてるんとちゃうの？」

GM「いや、これだけはっきりした悪事の証拠があったら、役人も無視するわけにいかんやろ」

かくして一行は、ゴールデン・ワンダラーを仕留めたうえ、悪人を一網打尽にして、プロミジーの港へ帰還する。

GM「船は波止場に戻ってきた」

ケイン「もちろん大漁旗をつけて（笑）」

GM「『おーい、ゴールデン・ワンダラーを捕まえたぞー』とラルーさんが叫ぶと、港の人たちが駆け寄ってくる。ラルーさんはゴールデン・ワンダラーから剝ぎ取ったでっかい頭の皮を見せる。すると、みんなが『おお、さすがはラルーだ！』と言って拍手する」

ケッチャ「あたしたちもいっしょになって拍手する（笑）」

悪人どもを役人に突き出した一行は、ラルーから謝礼として一人1500ガメルを受け取り、プロミジーの街を後にする。

GM「さて、これからどこへ行く？」

ケッチャ「まともな海が見たい（笑）。こんな氷の海じゃなくて」

アリシアン「あったかいところに行きたい（笑）」

GM「だったら南やね」

アリシアン「あ、街を出る前に、お金を宝石に替えられます？」

GM「できるよ。1割ぐらい目減りするけどね」

ユズ「私も宝石に替えよう」

ザボ「ピアスを耳にはめときます」

ユズ「そんな趣味あったの？（笑）」

ザボ「ええねん、左耳やし」

ユズ「じゃあ、寝てる間に右につけ換えてあげよう（笑）」

（以下次号）

カドカワ・カセット・ブック

KADOKAWA CASSETTE BOOK KCB

STEREO
価格各1,600円(消費税込み)
収録時間60分

新刊 **天と地と** 一の巻
海音寺潮五郎

角川映画戦国超大作6月23日、日本公開

ぼくらの七日間戦争 宗田 理

機動戦士ガンダム
逆襲のシャア 富野由悠季

魔獣戦士ルナ・ヴァルガー
★巨大ゴーレムの挑戦 秋津 透

ロードス島戦記 安田 均／水野 良
★1 眩惑の魔石
★2 宿命の魔術師

魔群惑星 渡邊由自
★プリンセス・ララバイ

アルスラーン戦記 田中芳樹
1 王都炎上
2 王子二人
3 落日悲歌

宇宙皇子（うつのみこ） 藤川桂介
1 はるかに遠き都よ
2 明日香風よ挽歌を
3 妖かしの道 地獄道
4 西海道隠び流し
5 名もなき花々の散華

未来放浪ガルディーン
大熱血 火浦 功

聖（セント）**エルザクルセイダーズ**
★1 ミホのGW（ゴールデンウィーク）日記 松枝蔵人
★2 恵利ちゃんの大脱走（だいだっそう）

ガンヘッド カセットブック版
PART1 映画脚本／原田眞人
PART2 J・バノン
脚色／遠藤明範

★印の作品はカセットブックのみのオリジナル作品です。

スニーカー文庫 SNEAKER BUNKO

3月の新刊

●スニーカー文庫は毎月1日発売です。
※定価には消費税が含まれています。

魔神英雄伝ワタル虎王伝説1 狼虎吼（おうこほ）**ゆる**
井内秀治 イラスト芦田豊雄
本物の虎王がワタル少年の部屋に飛び込んできた。いったいどうしたの!? 390円

ラフェールの末裔 喪神の碑①
津守時生 イラスト小林智美
コンピュータに女性として育てられたとびきりハンサム男の闘い! 430円

イラスト小林智美

キャット・ボーイ（上／下） 図子 慧 イラスト高河ゆん
亜夢の周りで不思議なことがおこるが…。青春ホラーサスペンス。各430円

ヴァレリア・ファイル5 完結編 谷 甲州 イラスト幡池裕行
オルドレイ研究所にとらえられたヴァレリアを救え! 新シリーズ完結。430円

一挙掲載

野性時代 4月号
2月24日発売 定価900円（消費税込み）

勇者達の織り成す"剣と魔法"の物語!
ロードス島戦記3 火竜山の魔竜 死闘編
水野 良
"支配の王錫"を持つのは火竜か水竜か? ロードスの戦士達は二頭の古竜に果敢な戦いを挑んだ——

KADOKAWA **F**シリーズ

海外ファンタジー&SF・ベスト・セレクション

新刊 電脳惑星③
脱走サイボーグを追え!
アジモフ+ウー／黒丸 尚訳 イラスト森木靖泰
500円

新刊 **宿命のチャンピオン**
エーリアン・スピードウェイ③
セラズニィ+ワイルド／野田昌宏訳 イラスト青井邦夫
720円

超大作映画／3月公開
アビス 上 下
カード／南山 宏訳
各520円

THE MOVIE MAGAZINE
in NEW YORK
MURDOCH MAGAZINES
in PARIS
HACHETTE
in TOKYO
KADOKAWA SHOTEN

ユミナ戦記

——由弥那——

AUTHOR
吉岡平
HITOSHI YOSHIOKA
ILLUSTRATOR
春巻秋水
SHUUSUI HARUMAKI

●前号までのあらすじ
異世界・由弥那に召還された平凡な高校生成宮晟は由弥那の危機を救う力を得るため、熊襲の戦士・丈流より体術の修業を受ける。しかし、由弥那を暗黒の世界に導く糜族の長・蛇比古にはまったく通用しない。そこで、晟はより大きな〝力〟を得るため由弥那の最終兵器・崑崙を探しに出る。〝黄泉の谷〟を越え、ついに崑崙を発見する。が、晟たちの背後に蛇比古の追手が迫っていたのだ。

糜族の戦士には、感情というものはない。断言してもいい。
情けも、憐れみも、悲しみも、喜びも、そしておそらくは恐怖さえない。だから剣を交えていても、人間と戦っているという気がしない。そのぶん人を斬るという罪悪感も稀薄なわけで、考えようによっては戦いやすい相手ではある。
とにかくこの世界に来て初めて、僕は自分の命を守るために剣を奮った。
崑崙の谷で、僕らを襲った兵士は六人であった。二人はあっという間に丈流に斬り伏せられ、一人が茅馬と斬り結んでいる間に、残りの三人が、いっぺんに僕に襲いかかってきた。
ちょっと待て！　僕ってそんなに重要人物なわけ……？
考えている暇はなかった。
そうでなくても足場は悪い。悪すぎる。
だが、その足場の悪さが、ここでは逆に幸いした。敵は一度に一人ずつしか打ってかかれなかったのだ。もしもこれが平坦なひらけた場所で、敵が一度に三方向から斬りかかってこれたとしたら、この物語はクライマックスを見ることもなく、ここで終っていただろう。
ようやく抜いた剣に、先頭の兵士の剣が激しくぶつかり、火花が散る。どうやって受け止めたものか、まったくと言っていいほど記憶にない。無我夢中とはこのことだ。
敵の太刀筋は、後になって考えてみるとさほどに鋭いとは言えなかったが、そこには一片の容赦もなかった。確実に僕をこの世界から抹消するつもりであった。
剣を握る手が痺れた。
実戦らしい実戦はこれが初めてという低レベルの戦士に、三人がかりとは大人げないが、どうせ頼んでも手加減してくれっこない。戦いの厳しさを、僕は骨身にしみて味わった。
不意に、先頭の敵の顔を、黒い影が過った。
僕にはそう見えた。
僕を助けてくれたのは、倭仁王丸である。武智彦が飼っていた鷹で、今では僕の鷹だ。自分で狩った獲物以外は、僕の手からしか餌を食べない。武智彦と僕とを、わけへだてなく付き合ってくれるのは、この世界ではこの倭仁王丸だけである。
鋭い嘴と爪が、敵の目を抉ったのだ。
そいつが顔を押さえている間に、僕はそいつの胴を真横に払って、殪すことができた。傍目にはへっぴり腰だろうが、この際勘弁してもらいたい。
なにしろ、たとえそれが糜族の戦士だったとしても、直接に人を殺したのは、これが初めてだったのだから……。もといた日本でも、この由弥那でも……。
恐怖はあとから来た。
ずんと背骨を、尾骶骨のあたりから突き抜けてきた。
たとえそれが僕の命を狙った奴でも、生まれて初めて他人の命をこの手で断ってしまった戦慄に、僕は震え——、
……ている余裕はなかった。
先鋒が斃れたと見るや、間髪を入れず、二番目の奴が突っ込んで来たからだ。
その剣を、またしても僕は、辛うじて受け止めることができた。
我ながら、奇跡のようだった。
丈流の訓練が、僕の血となり、肉となっていた証明であった。
ただ、訓練と実戦とは違う。
僕にはいまだ、人を斬ることにためらいがあった。訓練により、咄嗟に我が身は守れても、進んで敵は斬れないのだ。それが悪いとは、誰にも言えないだろう。
だが、この世界で長生きしたければ話は別だ。殺人を正当化するのではないが、いちいち人を斬るたびにためらったりしていては、本当に由弥那では、命がいくつあっても足りないのだ。
僕はそいつと剣を絡ませたまま、しばらく(自分では、相当長い間に感じた)お見合いを続けた。もっとも敵の顔は、深く被った兜のせいで見えなかったが、視線を合わせていたことは確かだ。
そいつの目には爬虫類を思わせる縦長の瞳があり、冷たい光を放っていた。あまりお付き合いしたいタイプではない。もう少し長く見つめ合っていたとしても、愛は芽生えなかっただろう。それどころか、僕はこの世界で生きることが、嫌になり始めた。
絡んだ剣の上に、何かが飛び乗った。重さを感じないほどに、そいつの身は軽く、動きは素早かった。
「甘いぜ！　晟」
魚栖だった。
剣の(両刃の剣だ！)上を駆け抜けて、敵の腕づたいに懐に飛び込んだ小さな戦士は、柄も折れよとばかりに、そいつの胸に剣を突き通した。剣は刃渡り10センチそこそこだったが、的確に敵の急所を抉っている。
ケヌブンの特技は、泥棒や罠の開封だけではない。いざとなれば彼らは、機敏で優秀な戦士に早変りするのだ。それは、普段人目を避ける彼らからは、想像もできない姿であった。勇敢さでは人間以上のケヌブンは、戦いにおいてもけっして侮れない敵だ。なめてかかれば、えらい目に遭う。

ユミナ戦記

由弥那

「でかいなりして、でくの棒め！」
今の僕では、魚柄になんと言われようと反論できない。
三人目の敵が、大上段に振りかぶって、打ち下ろしてきた。
またしても、僕は受けた。
体のほうで、自然に反応するレベルにまで、特訓の成果は現れているようであった。
しかし、その瞬間、僕は大きくバランスを失った。足場が崩れたのだ。
二三歩後退して、足場をつかもうとして、僕は思わず、あっと叫んだ。
足場がなかった。
視界の中で、すべての風景が急速に上昇していった。
むろん、僕が落ちているのである。
「晟！」
丈流の、叫ぶ声が聞こえた。
背中から、水の上に落ちた。
高さがあったので、まるでコンクリートに背中を打ちつけたようなショックがあった。
「あきらあ」
また叫ぶ声が聞こえた。
あの声は、娃鳥の……。
冷たい水をくぐりながら、僕の意識は青いグラデーションの底に向けて、すうっと沈んでいった。
『流される』
薄れる意識の片隅で、僕はそう感じていた。
溺れる僕を見て、誰かが笑っている。
「せいぜいうまく、やるがいい」
そいつが言った。
「ここで死ぬのもよかろうが、できればもう少し、楽しませてはくれないか」
「勝手なことを！」
僕は叫ぶ。
「いきなり知らない世界に、放り出された身にもなってみろ」
「元気はいいな」
そいつが言った。「ま、それがせめてもの取り柄と言えば取り柄だが……」
「姿を見せろ！」
僕は叫んだ。
「こそこそ隠れて、卑怯だぞ」
「なら、出てやろう」
目の前に現れたそいつを見て、僕の呼吸は一瞬止まった。
そいつは僕と、同じ顔をしていたのだ。

口に含まされた苦いもののせいで、僕は目が覚めた。
耳の奥がつんと鳴っている。谷川に落ちたところまでは、夢ではなかったらしい。
「気がついたか」
嗄れた声が言った。
「だいぶ、うなされていたようだが……」
洞窟の中だった。
声の主は焚火の向う側にいた。顔までは見えないが、ひょろりと痩せた、男だった。
「生きていたのか……」
できれば、もといた世界で目覚めたかった。覚めてみたら全部夢だったというオチは、君には許せないかも知れないが、僕にとっては悪くない結末だ。
「川岸で、倒れているお前を見たときは、正直驚いたよ。死んでいるのかと思ってな」
「どのくらい、気を失っていたんですか？」
命の恩人に対し、僕は敬語を使った。
彼は少し、驚いたように一瞬黙って、それから、
「まる一日だ」
と、言った。
「このまま死ぬかと思った」
「どうやら助けられたようですね、ありがとう」
「気色悪いな」
彼が言った。命の恩人に対して甚だ失礼ながら、言っているその声のほうが、僕にはよほど気色悪かった。
「どうしてですか？」
「その言い方だ」
いらついたように、彼は言った。
「柄にもない喋り方はよせ。武智彦」
またかと、僕はいいかげんうんざりした。
彼もまた、武智彦の知り合いだったらしい。それも言葉の調子からして、決して彼のことを快くは思っていない……。
待てよ？
それならなんで、助けたんだ？
それを僕は、口にしてみた。
「ほっておいても、よかったんだ」
彼は言った。「ただ……」
「ただ……？」
「お前にはひとつ、借りがあったのを思い出した」
それで引き返して、僕を助けてくれたらしい。
「どんな貸しだったかな？」
僕は言った。
「とぼけるなよ」
彼が立ち上がった。
長身だった。１８５センチくらいある。洞窟の天井に、頭がつかえそうだ。
ただ、痩せ方が普通ではなかった。病的と言ってもいいくらいだ。顔色も悪い。

ひからびた、土のような色をしていた。肌にも艶がなく、カサカサしている。

腕が、異様に長い、蜘蛛のような指に、指輪をいっぱいはめている。

「人から売られた恩は忘れるくせに、人に売った恩はしつこく覚えているお前が！」

いささか憤慨したような口調で、彼は言った。目つきは相当悪い。もっともそれは、大半は異様におちくぼんだ目と、薄いというよりほとんどあるのかないのかわからない眉のせいであった。頬のこけた面長の顔立ちに薄い唇。大きな耳。そして胸のあたりまである灰色の髪の毛。こいつは絶対、見かけで損をしていた。だからといって、僕はむやみに同情しない。

「それはお互い様だろう」

僕は言った。

なんとなく、そんな気がしたのだ。そしてそれは、だいたい当たっていた。

「ま、そうだが……」

血色の悪い顔を無理に歪めて、そいつは苦笑したのだった。

「これで借りは返したぞ。武智彦」

「確かに」

わけがわからないままに、僕は大仰にうなずいてみせた。

「あんたも、元気そうだね」

僕は、咄嗟にあるゲームを始めていた。彼に勘づかれることなく、どこまで武智彦を演じ続けられるかというゲームだ。

彼からできるだけの情報を、引き出したいという理由もあったが、大半は僕の好奇心である。僕もこの世界に来て、だいぶ大胆になっている。

「相変わらずさ」

そっけなく、彼は言った。

「お前も命が助かって、なによりだな」

皮肉っぽい笑いだが、どこかに奇妙な愛嬌があった。

「ところで僕が、どうして死にかけたか、その理由を知りたくはないか？」

彼はこの餌に、喰いついてきた。

「知りたい」

それは素直な気持ちだろうと思った。

「崑崙を見て来た」

「崑崙をか……」

表情が真剣になってくる。

「あれは動くぞ」

殺し文句であることを確信しながら、僕は言った。

「まさか……」

「嘘なもんか」

僕はさらにブラフをかける。こちらの手役が、ワンペアだということを知ったら、彼は驚くだろうなと思いながら……。

「ただ、動かすには剣と、鏡と、鈎玉が必要だがね」

「なんだ」

脅かすなといった表情で、彼は言った。

「そんなもの、もうどこにもあるはずがないだろう」

彼からもたらされたこの情報は有益だったが、いささか僕をがっかりさせた。しかしここはもうひと押しだ。

「わかってるよ」

僕は作り笑いを浮かべ、思わせぶりに言った。

「だけど、君が力を貸してくれれば、見つけられるかも知れない」

「俺が？」

彼は呆れたように叫んだ。

「俺が貴様に力を貸すだと、武智彦！」

馬鹿も休みやすみに言えとでも、いいたげだった。

「この魔拿飢さまが、よりにもよって武智彦、どうして貴様に力を貸さなきゃならん」

「だってあんたは、僕を助けただろう」

相手の名前がわかったので、僕は少し勇気づけられた。

「昔のあんたじゃ、考えられなかったことだよな。え、魔拿飢？」

「ほんの気まぐれだ」

魔拿飢は吐き捨てるように言って、激しく首を振った、首から下げた鈎玉が、ジャラジャラと鳴った。

「こんなことなら助けるんじゃなかった！」

「だけど悪い決断じゃなかったと思うぜ」

僕は言った。悪かろうはずがない。

「僕を助けてくれたことで、僕は君を信じる気になっているんだからね」

「またうまいことを言う」

魔拿飢が苦笑いした。「一度そうやってお前を信じて、えらい目に遭ったからな」

「そういうこともあったね」

僕は言った。

「でもそんなこと、僕はもう全部忘れたよ」

これは本当だ。

「そっちは忘れても……」

魔拿飢の目が、異様に光った。「こっちは忘れられるもんか！　お前のせいで俺は、あやうく死ぬところだったんだぞ！」

「悪かったと、思っている」

これは嘘だ。

「信じられるものか」

「信じてくれなくてもいい」

焚火を間にはさんで、しばらく重たい沈黙が続いた。

「崑崙を……」

先に沈黙に耐えられなくなったのは、魔拿飢のほうだった。

「崑崙を再び手にすれば、お前はまた、俺を追いかけ回すんだろうなあ……」

「かもね」

僕は言った。

「だけど考えてみてくれ」

僕は彼の目を見た。

「このままじゃずっと、蛇比古の天下だぜ」

蛇比古と聞いて、魔拿飢の薄い眉が、ピクンと跳ね上がった。

効いたぞ、このパンチは。

「確かに蛇比古の脅威は、看過できん」

よほどしばらくして、魔拿飢は言った。

「ここでこうして、人目を忍んで術の修行に明け暮れているのも、すべては奴を倒すため……」

そうだったのか、知らなかった。

「だがな、確かに奴は許せんが、俺にはそれ以上に貴様が許せんのだ、武智彦。わかるだろう？」

「わかるよ」

わからないなりに、わかるような気がした。僕自身にとっても武智彦は、相当に鼻持ちならない奴だ。

「だけど考えてみてくれ」

僕は言った。

「蛇比古の脅威はいつでもあるが、少なくとも僕は、崑崙を動かせるようになるまでは、君の味方だぜ」

「ずるいなあ」

魔拿飢が笑った。暗い笑いだった。

ユミナ戦記

由弥那

「お前はいつもそうだ武智彦。そうやっていつも甘い餌で、俺を釣る」
　こいつ、意外に根は単純で、おだてに乗りやすいタイプじゃないかなと、僕は思った。なんだかんだ言って、人を信じたくてしかたがないのだ。
「確かに俺とお前が手を組めば、蛇比古を倒せるかも知れん」
　自信過剰なところもあるなと、僕は思った。
「だが奴を倒してしまえば、その後でお前は俺を殺すだろう。昔、沙由羅の力を得た後で、俺を殺そうとしたように……」
　知れば知るほど、僕は武智彦という男を嫌いになりそうだった。後からあとから、悪事が山のように出て来る。
「かも知れない」
　僕は言った。
「だけど、そうなったらそうなったで、そうならないように工夫するのは、君の仕事じゃないのかい？」
「確かにな」
　感心したように、魔拿飢は僕を見た。
「俺の呪術も、かなり強力になっているんだぜ」
「見せて欲しいな」
「そのうちな」
　まだそれほどお前を信じているわけじゃないんだぞとでも言いたげに、彼は笑った。
　ともかく、商談は成立しかかっている。
　もうひと押しだ。
「丈流も、僕に協力してくれると言っている」
「丈流？　あの熊襲の爺さんか？」
「ああ、最後の生き残りさ」
「そうか……」
　魔拿飢はしばらく考えている様子だった。
「熊襲のあいつが……。なら、土蜘蛛の代表として、俺も考えにゃならんな……」
　彼の種族は、土蜘蛛という。
　熊襲が肉体派で、格闘戦のプロフェッショナルだとしたら、土蜘蛛は頭脳派で魔法（この世界では呪術と言う）のオーソリティーだった。
　彼らの使う魔法は、人間などよりはるかに強力だということだ。そう、比芽奈は言っていた。
　その代りに、肉体的には脆弱で、格闘には向かない。彼らの腕は剣を持つには細すぎたし、実際生まれてから死ぬまで、呪文の書より重い物を持たずに過ごす土蜘蛛も多いのだ。
「よし」
　意を決したように、魔拿飢は焚火に向った。
　袋から、何かを取り出した。
　乾いた音がして、転がったそれを見れば、動物の骨であった。
「何をするんだ？」
「太占で、占ってみる」
　そう言って魔拿飢は、おもむろにその骨を、焚火の中に投げ込んだ。
　やがて——、
　ペキッという音がした。骨の割れる音だ。
　魔拿飢は焚火の中から火箸で骨を取り出すと、顔を近付けて、詳細にその割れ目を調べている様子だった。
　どうやら何かを占っているらしい。
「不思議だ」
　しばらくして顔を上げた魔拿飢は、信じられないといった表情で、僕の顔をまじまじと見た。
「掛は吉と出た」
「どういうことだい？」
「お前に協力しろとよ」
「嬉しいね」
「しかもそれ以外の掛は、すべて凶だそうだ。お前が最後の希望だとはな……」
「その通りさ」
　僕は笑ってみせた。「その占いは、信じるに足りるようだね」
「ならば今度は、貴様の心に聞いてやろう」
　武智彦は、よほど信用がないのだろう。
「どうする」
「これさ」
　火にかざした土鍋の上で、熱湯が沸いていた。
「この中に手を突っ込んで、火傷をしなかったら、お前に協力してやってもいい」
「無茶言うな！」
　僕は叫んだ。
「そんな賭けがあるか」
「盟神探湯を知らんとはな……」
　魔拿飢が笑った。
「何度もやったはずじゃないのか、武智彦」
　どういう奴だ。
「それともあれは、全部法螺か？」
「法螺なもんか！」
　追いつめられて、僕は叫んだ。
「やってやるよ」
　これはいささか、無鉄砲に過ぎたと思うが、もう後戻りはできなかった。その場のなりゆきとか、勢いとかいうやつに、僕はどうも弱いのである。
　とはいえ、まったく勝算がないわけではなかった。
　空手の本で、熱湯の中に素早く手を突っ込めば、火傷しないというのを読んだことがあった。精神を統一すれば、なんとかなる。
　僕は無謀にも、それをやろうとしていたのである。

ユミナ戦記

由弥那

「見てろよ」
　呼吸を整えて、焚火の前に立った。
「足がふらついてるぜ」
　人の気も知らないで、魔拿飢はにやにや笑っている。
「病み上がりのその体で、大丈夫か？」
「うるさい！」
　ここらあたりが、成宮晟という男の、メッキの剝げた地なのだ。
　乗せられやすい単純なお調子者。いつもそれで泣きを見る。
「やめたかったら、やめてもいいぞ」
　やめたいのはやまやまだったが、ここで引き下がったら武智彦の仮面が剝げてしまう。武智彦はどうしようもなくひどい男には違いないが、少なくともこうまで言われて熱湯に手を突っ込むことをためらうような男でなかったことだけは確かだ。
「はあっ！」
　呼吸を整えて、僕は右手を煮えくり返る土鍋の中に突っ込んだ。
　突っ込みながら、目を閉じた。
　熱くなかった。
　むしろ冷たかった。
　おそるおそる、目を開ける。
　右手はなんでもない。
「無茶な奴だ」
　魔拿飢が笑っている。
「本当に、無茶な奴だよ、晟」
　僕は騙されていたことにようやく気づいた。なんのことはない、魔拿飢は僕の正体を知った上で、からかっていたのである。
　彼が他心通（テレパシー）を使えることを知ったのは、後になってからである。
「度胸だけは褒めてやるが、そんなことじゃ蛇比古を倒すどころじゃないな」
「笑うなよ」
　そう言ったとき、成宮晟の顔は相当情けないものになっていたと、僕は思う。
「これが笑わずにいられるか」
　魔拿飢は土鍋を指さした。
「鍋の湯を、ようく見てみろ」
　そこに入っていたのは、ただの冷水であった。
「術で湯に見せかけていたのよ」
　彼の目を見たとき、まんまと術にはまってしまったらしい。
「お前が本当の武智彦だとわかっていたら、おそらく助けなかっただろうよ」
　魔拿飢は言った。
「いい目をしてやがるなあと、最初にお前の顔を見たときに思ったよ。武智彦の奴には、そんないい表情はできやしない。悪く思うな、お前を試していたんだ」
「そうかい」
　穴があったら入りたいほどに恥じ入りながら、僕は言った。
「協力してやるよ」
　そっけい口調だが、熱がこもっていた。
「お前が本気で蛇比古を倒すつもりなら、賭けてみるのも悪くないだろう」
「本当？」
「もともと俺の夢は、この由弥那の主になることだった。その夢は今も、捨てちゃいないよ」
「…………」
「俺か、武智彦か、蛇比古だったんだ。少なくともそう言われた時代もあったんだぜ。早い段階で、俺は脱落してしまったがな……」
　懐かしいものでも見るような表情だった。
「武智彦が〝映し〟に追放されちまって、蛇比古の天下っていうのも、面白くねえなと思っていたんだ。俺も呪術だけなら蛇比古に負けない自信がある。その他はからきしだめだが……。この山奥に籠って、術を磨いていたのも、あわよくば玉砕覚悟で蛇比古の天下を引っくり返してやろうかと思ってな」
　魔拿飢は僕の肩に手をやった。
「武智彦にはいろいろと怨みもあるが、お前は別だ、晟。これも何かの縁だろう。一緒に蛇比古を倒して、あとはどうなるか、なりゆきで由弥那を治めようや」
「お〜い！」
　遠くで、丈流の叫ぶ声がする。
　どうやら僕を心配して、川づたいに下流の方へ捜しに来てくれたようだ。
「お……」
　叫び返そうとする僕を、魔拿飢が制した。
「丈流ともあろうものが、ヘマしたな」
「どうした？」
「尾けられてる」
「蛇比古の手下か？」
　魔拿飢は黙ってうなずいた。
「十……二十……三十人はいるぞ」
「よくわかるな」
「これだけの殺気を帯びた気配だ。すぐにわかる」
「どうする」
「まあ見ていろ」
　土蜘蛛族の特徴である細い指が、空中に輪を描いた。
「雷あれ！」
　魔拿飢は叫び、それに続けて僕には聞き取れない呪文を唱えた。
　雲ひとつ無かった空が、一天にわかにかき曇った。

魔拿飢が、雷を呼んだのだ。

「降れ！」

天高く差し上げた指を、地上に向けてさっと降り下ろした。

無数の稲妻と雷鳴とが、激しく地上を撃った。鼓膜が悲鳴をあげ、一瞬目が眩んだ。

雷の直撃を受けた巨木が、火柱になる。

大音響。

そして、それがおさまった後には——。

あたりは再び、なにごともなかったように晴れていた。雷が降った形跡は、なにひとつない。直撃を受けたはずの巨木ももとのままで、葉が風にそよいでいた。

「幻だったのか？」

「俺たちにはな……」

魔拿飢は笑った。

「見ろよ」

僕ははっとなった。

叢のあちこちに、倒れている兵士たちを見つけたのだ。

その数を数えてみた。

きっちり、三十人いた。

みな、もの言わぬ姿に成り果てている。これだけの敵を、魔拿飢は指一本触れるでなしに、一瞬にして斃してしまったのだ。

「あいつらには、雷は本当に降った」

そう言って、魔拿飢は僕を見た。

優しい目だ。この男はこんなに無邪気な顔で笑うのかと思った。

しかし、彼を敵にしないで本当によかった。僕は心からそう思う。

「おうい！　あきらあ」

僕を呼ぶ丈流の声が、風鳴りの中を次第に近づいてきた。

（つづく）

愛と冒険。
▼円 英智先生の熱いメッセージ▲
本編もついにクライマックス。
ますます、目が離せなくなることと思います。
愛と冒険、夢と浪漫、そして正義と勇気…。
これらは、やはり『エルデガイン』不変のテーマです。
熱い心で円が贈る、'90年代のエンターテイメント、
大冒険活劇『エルデガイン』の世界を、
どうぞ満喫してください!!
コミックコンプ
4月号は、絶賛発売中!!
エルデガイン
—導きの神—
円 英智
サイレントメビウス
麻宮騎亜
宇宙英雄物語
伊東岳彦
イースソード・マスター
羽衣 翔
銀河戦国群雄伝ライ
真鍋譲治
めたもる伊介
中津賢也
魔狼王風雲伝
沢田 翔
西遊少女隊
山本貴嗣
バイバイ青い鳥
迎 夏生
地球防衛少女イコちゃん
あさりよしとお
月刊コミックコンプ
毎月26日発売
定価390円(税込)
角川書店

青梓部槙依は霊媒師。でも、普段はごく平凡な文学女子高生なのだ。ところが、彼女の秘密を知る幼なじみの美少年、高島友永から秘家業の依頼を受けるのだが……！
COMIC
奥瀬早揮
SAKI OKUSE
御先祖様はご機嫌ななめ

こんにちは
槇依（まきえ）さん

読書の
邪魔をして
すまないが

きゃらきゃーっ

きゃーちょっとちょっと
アレ3年の
高島センパイ
じゃなーいっ!!

バレー部の
キャプテンの
高島様よ♡

えーっ
何で槇依と
話してるのー

あっあたし
知ってるー
青梓部さんと
高島センパイって
お隣さん同志
なんだってえ

うそぉー
そんなのって
許せなぁい

ちょっと
いいかい

ひそ
ひそ

……

ザワザワザワザワ
とゆー訳で頼む槙依っ!
このままじゃ来週の試合に勝てないんだ
がうっ
だから何度言ったらわかるのよあんたはっ!
学校じゃあたしに気安く声をかけないでって言ってるでしょ
あたし今さらいじめられっ子になるのイヤだからね
あんたにラブレター渡した3組の町田さんなんかあんたのグルーピーにあそこの毛剃られちゃったんだから
まっそこを何とかなっ――
槙依さん♡
いやっ
ほぉ――お兄さんがこんなに頼んでもイヤか
いいのかおまえがイタコの娘だって事みんなにバラしちゃうぞお
ふふんだ友永こそ変態の――
まーまーそームキにならないで
お隣さん同士兄妹のように育った仲じゃないか
うーっうーっ
クラスじゃ目立たない文学才女の槙依さんと
高校バレー界の星全女生徒の覇者たるこのオレと民衆はどちらを支持すると思う?
き きたない……

そんな訳で
困った事にもう放課後である
本当は今日ゼミがあったんだからね
そんなものオレが手取り足取り教えてやるって
オレの後輩でウチのエースアタッカーの片岡裕和君だ
あ、あのよろしく……

へえ〜〜〜
でもうやっちゃったの？
バカを言えオレたちはプラトニックだ
かあっ!
FUCK
FUCK
FUCK
FUCK

きっとお爺ちゃんは僕に言いたい事があったに違いないんだ

そう思ったら気になって部活の練習にも力が入らなくなっちゃって

ねえ君っ君イタコなんだろう頼むよお爺ちゃんに会わせてくれよお願いだ！

はしっ！

………

硬直…

あーなっさけない……なーにがお爺ちゃんだ

まあいいやとっととすましましょお

オッケー

じゃ友永(ともなが)は廊下で待ってて何かあったら頼むわ

えっ？行っちゃうんですか先輩………

ガサゴソ

ではこれより直系子孫片岡裕和の意志により故片岡又十郎の降霊を行います
降霊霊媒に関する規約十ヶ条
其ノ一 親族の許可なくして霊媒を行ってはならない
其ノ二 一切の親族以外の立ち入りを禁ず
中略――
其ノ十 術の前に必ず本規約十ヶ条を暗唱する事 以上

もしも何か危険な状態に陥った時はこのろうそくを吹き消して下さい
スッ

あの――このろうそくその他霊媒用品はいつも持ち歩いてるのでしょーか?
術中に私語はつつしむよーに
ゆらゆら
ページがないんだからつまらない事聞かないでよね

観自在菩薩行深般
五蘊皆空度一切苦
空不異色色即是空

若波羅蜜多時厄舎利子色不空即是色受想諸法空想不生
不垢不浄不想行識無限法無限界乃明盡乃至無道無智亦無
増不滅是故空中耳鼻舌身意無色声至無意識界無無明老死亦無老死盡無得以無所得故菩
ごくっ

ぴ
た

スゥ
お……
お爺ちゃん？
ごくっ…
この大たわけがあ
ひいっ！
ガタッ

うっうわー
いったい
どうしたんだよ
爺ーちゃん?
爺ちゃんが
知らんとでも
思うとる
のかー!
お前あの男と
いったい何をした
——?
お前は
廊下にいる男と
いったい何を
したんじゃあっ!
じ 爺ちゃん
まさか……
誰かて実の孫が
あんな事しとりゃあ
仏壇から
ころげ落ちるわっ!
やだなー
なんかヤバイ事に
なって来たなぁ
おまえら
男同士で
ピーッピーッ
しとったろーがっ!
あっあのホモ男
何がプラトニックだー
しっかりやる事
やってんじゃんかよォ
どっかーーん
じっ爺ちゃん
オッオレ本気なんだ
オレ本気で
高島先輩の事
愛してるんだ
それに先輩も
オレの事愛してるって
言ってくれたし
オレ達は
愛し合ってるんだ

ふふん
おまえはまだ若い
思春期の甘美な誘惑に
幻惑され真実を
見失うのも無理はない

良い機会じゃ
この辺でおまえも
一度女を知っておく
というのも
良いかもしれん

さあ来い裕和
爺ちゃんが女を
教えてやるわ

きゃーっ
きゃーっ

えっ
ちょちょっと
…………

あーん
ちょっと
やめてーっ

ドキドキ
ドキドキ
ドキドキ

これでは
まだ立たぬか
ならば爺ちゃんが
やりやすいように
しといてやるわ
つっ……
いやあーっ
助けてぇ
友永
兄ちゃーん!?
ずだーんっ!
ぶちっ
せ
先輩…
あーーん
友永あー
えーん
えーん
…………
くすん……
恥ずかしかった
よォ――
ひっく
ひっく
友永が助けてくれた
友永が助けてくれた
なんかよく分かんないけど
うれしい………

裕和っ!
今何してた
分かってんだぞ
女のパンツ見て
ピーッ
するなんて
非道いじゃないか
へっ?
なんかちょっと違うよーな
くっくっくっ
それはそうじゃ
爺いとはいえ
わしかて男だ
めいっぱい
ピーッ
さしてもらったわ
んっ?
まさか……
そこの
イタコの娘
見かけによらず
いい体しとる
からのォ
わしはもう
ピーッ
ピーッ
じゃ
こっ!
この色ボケ
爺いがっ!!
まっかっか
とっとと
裕和の体から
出て行きやがれ

いきなりっ
うわあっ！
ぶんっ
ドガアッ
はっはっは
バカめ
柔道七段
空手四段の
わしにかなうと
思ってか
気絶
死んじゃいやーっ
きゃーーっ
友永ーっ友永っ
さて では
邪魔者の消えた
ところで
孫の体に
女の良さを教えて
やるかいのお
ニヤリっ
ぷちっ
ぷちっ
えっ？

いや……

ガタッ

やだよ
来ないで…

ふふん
かわいいのお
まだ生娘か

震えておるのか
なーにすぐに
良くなるわ

い
いや…

チャラ

するっ

亦復如是舎利
子是無色無受
亦無無香味触

ご先祖様
お願いっ——!

くいっ
うわあああっ！
おっおのれ
小娘きさま
——っ！
しゅおおおおおお
！
バカな
ぬ ぬう
お主只者では
ないな
どういう
事じゃ
これは…
すさまじい
殺気じゃ

我が名は
青梓部備重
美影流骨法師範
血の縁あって
我がひいひいひい
中略 ひいひい孫の窮地に
助太刀に参った
うるさいっ
わしかて
孫のためを
思えばこそじゃっ！
ドガァ
ブン

うっうぐ
このわしが
一撃でやられる
とは………

本来ならば
一撃で頭骸骨を
陥没させるところ
だが――

お互い子孫を
思う気持ちを
汲み手加減
しておいた

●おしまい●

バセット英雄伝
エルヴァーズ
ELVERZ
第二部第五話
「新たなる胎動」後編
AUTHOR
ひかわ玲子
REIKO HIKAWA
ILLUSTRATOR
美樹本晴彦
HARUHIKO MIKIMOTO

4

真っ赤な炎が視界を覆っている。
黒ずんだ煤まじりの炎が闇を塗り潰し、夜を不気味な底知れぬ暗黒へと変えていく。
燃える……燃える。
すべてを燃やして、そして無へと。
炎には妖しい魅力がある。
真っ赤な炎を背景にひるがえる火炎鳥の旗。歓声と勝鬨の声をあげる騎兵たちが掲げていたその旗を魅せられたように見上げていた。
焼け落ちていく館と――。
炎に照らし出されて奇妙に生々しく、だが人形めいて美しく見えた鮮血を流す、父の私兵だった兵士たちの亡骸と――。
炎上する館の中に誰よりも敬愛した、誰よりも強いはずだった父がいた。彼をダリアン、と呼んでいた父が……。
（父上……！）
何もかもが炎の中で浄化されていく。その炎の中に、紅蓮の火の華に包まれた巨人の姿が見える。その情景は、まるであの夜のようだ。すべてが炎と化し、業火と闇の中へと消えていったあの夜……！

――彼は夢から逃れた。
黒い瞳が開かれ、黒髪の青年将軍はゆっくりと寝台の上で身を起こし、首を振ってしばしの仮眠から精神を現実へと引き戻した。
彼、ダリアン・リュート――いや、今の彼はリァン第六軍の将軍、イアリー・エスベルトだ。
手を伸ばし、寝台脇の椅子の背に掛けてあった緑色のマントと黒衣の将軍衣を取る。
黒髪を梳くように掻きあげた。
露台の方へと目を向けると、どんよりとした空に掲げられた火炎鳥の帝国旗がひるがえっているのが目にはいる。
ふ、とエスベルト将軍は笑った。
リァンの七美将のひとりである青年将軍の、若々しい美貌に浮かぶ冷たい微笑は、まるで何よりもその青年を彩るにふさわしい装飾品のようだった。その笑みが青年の貌を彩ったのは一瞬のことだったが。
「……閣下」
まもなく第六軍の緑色のマントを羽織った、リァンの軍官が居室に音もなく滑り入ってきた。エスベルト将軍はそれを待ち受ける姿勢で悠然と立っている。
「刻限きっかりか。ごくろう……ソルツ副将軍」
「は……」
仮眠を取る前に呼んであった男だ。
その男は前に横死した幕僚のハーラ副将軍の補充として転任してきた副将軍だ。
「アーレン……マイシャ将軍からは何と？」
「共同作戦を提案してきました。第五軍・第六軍管区の境界沿いに潜んで、第五軍・第六軍双方の目をかいくぐっているゲリラどもを殲滅するために……。
マイシャ将軍閣下自らが、その作戦について閣下と話し合うためにこちらに足を運ばれたい、とのご意向でした」
「ふうん……？」
この黒髪の将軍には珍しく、上機嫌な様子の軽い笑みがその貌に薄く乗る。
「そうか……それは慎重に、いや、丁重にお迎えせねばならないね。
意外だったな――」
ひとりごちる。
このところ、各地でバセット教徒たちの蜂起が相次いでいる。それはエールの百年祭を前にしたバセット教徒たちの最後の悪足掻きと見る者もいる。
イアリーの脳裏に白い髪、薄い水色の氷のような瞳をした同僚の将軍の姿が浮かぶ。
計算高く利口なあの男は、この事態をどう考えたのか……？
「奴らの動きはどうだ、ソルツ？」
「ゲリラどもの……？　それともソロモーの残党どもですか？」
「両方だ」
「はい。
洋上戦にまで至りながら、とうとう第七軍の軍船はソロモーの王子を取り逃がしたようです。リケーラにおける掃討は進んでいるようですが――」
リケーラの王位についてかなりになるというのに、サラジン・オラード将軍はまだリケーラの海軍を懐柔できていない、ということか。
「あの島からバセット教徒をすべて駆逐するには、国民を根絶やしにするしかないということだね、きっと……。続けろ」
「はっ。ゲリラどもはやはりソロモーの動きに呼応しているようです」
「密偵からの報告は？」
「それは……ありません」
「――どういうことだ？」
ぴくり、と黒髪の将軍の形良い眉が神経質に動く。
「ですから……つまり、この十日ほど、ゲリラどもは完璧に身を潜めていて、動きを悟らせません。我らが潜伏させている密偵たちからも何の報告も届いていません。おそらく……届けられない状況にいるか、と。
市井にいる協力者たちからも情報がありま

前回までのあらすじ

少年セイトはミラ姫救出のため戦う。が、過ちからソロモー砦を滅亡に導いたため砦を追われた。"剣"の力を制御することもままならず己れの担う使命の重さにたえかねたセイトは放浪し、やがて反帝国派の者たちと出会う。彼等に心を開き共に戦うことを決意するセイト。しかし、帝国の魔手は彼等に伸び、多くの同志と優しくしてくれたリムトの命を奪った。リムトが死の間際に残した「皆を救って」という言葉を胸に岩壁のエルヴァーズ像へとセイトは向かう。最後の神器"護符"を手にし、ミラの全てを知った彼は、英雄として生きることを決意するのだった。

堅固な造りの砦と、それを守る戦士たち――
熱く闘志をたぎらせ、生きる希望に満ちた人々
苦楽を共にした懐しいセイトとの再会に
フゼットは期待に震え、優しげな面影を探す
歓呼の中、現れたのは１人の若き英雄だった!!

せん」
「だから。ソロモーの奴らと呼応しているのだろう、ということか？」
「はい」
ソルツ副将軍は頭を垂れる。
彼はマイシャ将軍に似た白銀の髪をしている。リァンの将官の黒衣が似合う、有能な美しい青年だ。イアリーは彼を気に入っている。それは彼に命令を下す時、かの白銀の髪の僚友に命令するかのような密かな快楽を得られるからかもしれない……。
イアリーは視線を空に浮かせて、しばし思案した。
最近のバセット教徒たちの地下運動の動きには、かなりしっかりした組織性がある。
――指導者が出たということだ。
それも、強いリーダーシップ――強烈なカリスマを備えた。
それは、ソロモーの王子か？
だが……ソロモーの王子はまだ十歳くらいの少年だという。
腕組みをしていた腕を解き、青年将軍は優雅な仕種で前髪を掻きあげ、そして命じた。
「よし……下がっていい。ソルツ。兵たちにいつでも出動できる態勢を整えさせておけ。エール神殿の神官どもには、精霊で使える者がいたら、偵察によこせ、と。まあ……あてにはならないな。
そして――第五軍の指令部にわたしからの返事の使者を。『お待ちしている』とね。大掛かりな鼠退治になるぞ」
「は……閣下。楽しみです」
副将軍はその若い貌に追従の笑みを浮かべて一礼し、部屋を去った。
イアリーは再び居室でひとりになった。

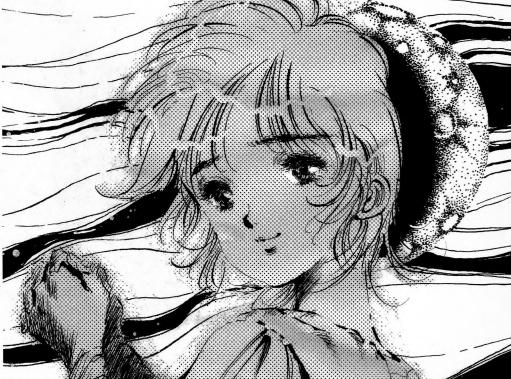
彼はたたずみ、しばらく考えていたが、やがて軍衣の襟をくつろげ、露台へと足を向けた。
エール信徒たちが住む街並みが見え、人々の雑踏の音が聞こえる。街を囲む城壁と、その外の森林と……。
「安寧……か」
彼はつぶやいた。
火炎鳥の帝国の旗が幾本も風にたなびいている。町中に。城壁の上に。
安寧――そんなものはいらない。
そう……白銀の髪の僚友、アーレン・マイシャがかつて彼に言ったことがある。
『安寧を望むのはクズどもだ。
勝つ自信を持たない弱虫どもが奪われることを恐れ、ひたすらに今のままの状態が永遠に続いて、何も起こらないことを願う。
それが平和というやつだ。
奴らは既得権にしがみつき、醜くあがいてその時その時の風が向く方にへつらって生きようとする。
奴らは寄生虫にすぎんさ。
そんなものに、何の価値があるね、イアリー？』
自信たっぷりの口調、怜悧な眼差し。落ち着いた態度。
一点の曇りもなく強い、自力で地位を昇りつめてリァン帝国の一軍を統べる将軍となった青年。
アーレンの妻は、リァン貴族の娘だ。リァン貴族嫌いの彼だが、彼の中ではそのことは彼のポリシーとまるで矛盾しない行為らしい。
彼の野望はどこまで行くのだろう？
「面白いな……」
イアリーは他人事のように冷笑してつぶやいてみる。

帝国の火炎鳥……炎のイメージが彼の脳裏を覆う。夢の中のように。
紅蓮の炎の中に立つ――巨人。
青年は帝国の将軍衣を脱ぐと、白いシャツの肩の上にひっかけ、露台の柱に寄り掛かって安寧をむさぼる城下の街にゆっくりと黒い双眸の視線を巡らせていった。
いつか……。
いつか、この街も炎に包まれるだろうか。
来るだろうか。……巨人は？
自らの心中の問いに答えるように、彼は風にささやいた。
「巨人が来る――すべてを浄化し、無に帰するわたしの……破壊の神が……」

5

ぎぃ、ぎぃと漕ぐたびに櫂は耳障りな音を立てる。
波は穏やかだが、それでも小舟はかなり揺れる。
「リー……平気か？」
「うん、ロナー」
風に吹かれる腰まで長い、もつれる茶色の髪をしきりに背の方に払いながら、幼い愛らしい少女はにこりと大弓を持った、体格の良い赤毛の少年の方に笑いかけ、うなずいた。
「リー、平気だよ」
「そーか。慣れて船酔いもしなくなっちまったか。あの戦闘中の船の揺れを経験しちまえば、まぁ……そうだよなあ。
……おい、フゼット」
ロナーは次に、小舟の舳先の方に腰かけたフゼット――妖精族の少女の方に声をかけた。
青すぎる大きな瞳を陸地の方に睨むようにじぃっと向けていたフゼットは、ロナーの声

に気がつかず、二、三度呼ばれてから、びくり、と身を震わせて振り返った。
「何？
……ああ、ロナー。何なのよッ？」
「フゼット。そんなに張りつめるなよ」
ロナーは溜め息をつく。
「張りつめてなんか……」
「いない、か？」
フゼットは答えようとして、途中で弱く首を振った。
「……そうね、ロナー」
「もうすぐ会えるんだぜ」
「でも……ねぇ、ロナー……」
フゼットはつぶやく。
「あたしたちが知っている……あの、セイトかしら？」
「たぶんな」
「でも……違ったら？」
「そんなこと、考えるなよ、フゼット。じゃあ、他に誰だっていうんだ？」
「わかんないわ……でも」
「セイトお兄ちゃんだよっ！」
横合いからリーがかん高い声を出した。
「ぜぇったいいっっ！」
「こらっ、リー」
コツン、とロナーはリーの頭をこづいた。リーのかん高い声に驚いたような顔を向ける小舟の漕ぎ手や艫の方に座る護衛の戦士たちに謝るように目礼する。
「……ついてくるって言い張った時に、お前、おれに何ンて約束した、リー？」
「――騒がな…い……」
「そ。大体お前、おしゃべりなんだよな。ったく。前はあんなにしゃベンなくて可愛かったのによ……」
「リー、おしゃべりじゃなぁいもんっっ！」
「ああ、わかった、わかった。おしゃべりじゃないよなぁ。ちっと、その口が滑っちまうだけだよナ。だからしばらくはそのお口を閉じとけよ」
ロナーに口をつぐまされて、リーは不満そうに頬をふくらませ、目付きだけで思いっ切りの抗議を表した。
（セイト……）
フゼットはそっと心の中で幼馴染みの少年に呼びかけた。
フゼットの脳裏に残っているセイトは今も暗い絶望に満ちた眼差しをしている。だが、この岸で待ち受けているというセイトは……セイトなのだろうか。
エルヴァーズの黄金の剣を持っているという、バセットの地下組織の指導者――セイトという人物。黄金の剣？……エルヴァーズの剣は朽ちてしまっているはずだ。黒く朽ちて……。それは、フゼットもその目で見て確かめている。それでセイトはソロモー砦から追放になったのだから。
ぎぃ……ぎぃ。
櫂を漕ぐ音が聞こえる。
背後に見える海原の沖合には、一隻の軍船が停泊している。そのマストの一本は折れて無残な有様になっていた。ここまでたどりつく前……リアン第七軍に所属するリケーラの軍船とやりあって、火弾の炸裂でへし折られたマストだ。
その軍船には、ソロモーのジュオン王子が乗っている。
戻ってきたのだ、この大陸に。感傷に浸っ

ている暇は無い。確かめなければ。本当に彼らが味方なのか。
　もし、これが帝国による手のこんだ罠だったら……！
「……フゼット」
　ロナーの声のトーンが変わった。
　眼差しが先程までと打って変わって険しいものになっている。
　素早くその手は背中に吊してある箙へ回り、矢を引き抜いた。
　ロナーの目線で示された方角に目を向け、フゼットはうなずく。
　森に覆われた岸辺の緑の茂みの中から、光の信号が送られてきている。猟師として鍛えられたロナーの目端の利く目がいち早く、その信号の光を捕らえたのだ。
　三回ずつ、二回光って、その後に四回光る。それが二回続けられて、その後に七回光った。
　前もってゲリラ組織から伝えられていた合図の信号だ。
「じゃあ……行ってきます」
　フゼットは小船の上にいるソロモーの生き残りの戦士たちである男たちに声をかけ、立ち上がった。
「……用心しろよ、フゼット。様子がおかしかったら、一旦、ともかくこの舟に戻ってこいよ」
「気をつけてね、フゼットお姉ちゃん」
　心配そうに見上げるリーに笑いかけ、フゼットは空に掻き消えた。
　大気と同化したフゼットは、姿を消したまま、光の信号が発せられている岸辺へと近づいた。
　もしかして……そこにセイトがいるのでは、という期待にフゼットは心臓がどきどきするのを感じた。
（落ち着かなきゃ……！
　心を乱して、ここでドジれば、ここまで必死で生き延びて、一緒に戦ってきたソロモーの王子や残党の人々を危地に陥れることになる。軍船には、彼らを助けてともにここまで来てくれたリケーラのバセット教徒による抵抗運動の闘士たちも乗っている。責任は重い。
　敵か味方か。
　しっかり見極めないと。
　――見えた。
　岸辺に男たちがいる。
　大きな鏡板を使って、ロナーたちが乗っている小舟に合図を送っている。
「……近づいてきません」
「続けろ。何かを警戒しているのかもしれない。砦の方へは誰か伝令に走って、視認したと――」
（……砦？）
　一団の男たちの中心にいるのは、背の高い年若い青年だ。金褐色の不思議な色合いの髪の。セイトは……いない。
　フゼットは男たちの前に翔んでいくと、彼らの手の届かない洋上に姿を現した。
　いきなり現れた精霊の娘――フゼットの姿に、男たちは皆、驚愕の表情を浮かべた。
「あたしは、妖精族のフゼットです」
　フゼットが名乗ると、男たちの表情はやや和らいだ。妖精族の者たちは精霊族として畏れられているが、また、バセット神を信仰している信徒であることでも知られている。
「あなたたちがジュオン王子を迎えに来た人たちですか？」
　フゼットが尋ねると、金褐色の髪の背の高い男が前に出た。
「そうだ」
「あなたは？　あなたがセイト？」
「……いや」
　青年はきっぱりと首を振った。
「セイトは、砦にいる」
「では。そこへ案内して」
「その前に――」
　リーダーらしき青年は、ちらりと沖合の軍船に目を向ける。
「……あの船を我らの隠し入江の方へ移動させてくれ。リアン軍の目を組織総出で逸らしてこの岸辺一帯をなんとか抑えてあるが、そ

れも完璧とはいえない。
　あんたらの船をこの入江まで呼ぶことで、我々は今、この瞬間にも、恐ろしく大きな危険を犯しているんだ。
　あの軍船はあのまま沖にいると……目立ちすぎる」
「でも、あたしたちもあたしたちの安全をあなたがたに完全に渡してしまうには、それ相応の保障が必要だわ。
　……リケーラから。
　命を賭して、ここまでやってきたのよ」
「わかるが命懸けなのはこっちも同じだ。
　ここはリケーラじゃない――信じてここまで来たなら、こっちの事情を呑んでくれ」
　青年は真摯な眼差しを向けてフゼットにそう言った。
（……ふう……ん？）
　青年は、嘘をついていない。フゼットにはそれがわかる。真偽を見分ける力は、妖精族に備わる力だ。
　青年の瞳を見たフゼットは、その瞳の底に拭いきれない深い哀しみがあるのも見て取った。この人は、失うことの哀しみを知っている。暗い……影。だが、だからこそ戦うことを選んだ……そんな人物だ、この青年は。
（そんな人が、あたしたちを陥れるはずがないわね……）
　この人の言っていることは、信じていい。
「わかったわ。どうすればいいの？」
　青年はホッ、とした顔付きになった。
「舟に戻ってくれ。仲間たちが光の合図できみたちを隠し入江の方に誘導する。それに従ってくれ。
　隠し入江の砦に、セイトはいる」
「ありがとう。
　……あなたの名は？」
「おれか？……ジャムだ」
「セイトの仲間なの？」
「ああ」
　青年は無造作に答えた。
　フゼットは青年の側に寄ると手を差し伸べ、青年と握手をした。
「ジャム――じゃあ、後で会いましょう」
「……砦で」
　青年は静かな、感じの良い笑みを浮かべ、答えた。
　フゼットは姿を消し、小舟に戻った。
「どうだった、フゼット？」
　弓に矢をつがえたまま、ロナーは尋ねてきた。
「味方よ」、フゼットは答えた。「バセットの同志だわ」

6

　隠し入江の中へと入っていくと、ジュオン王子を乗せたリケーラの船とそれを先導するロナーたちの小舟を取り囲んで、わらわらと多くの小舟が併走を始めた。
　森の茂みに隠されて、外からはまったくわからないようにしてあるその入江は奥行きが深く……左右から断崖が聳え立って上方ではほとんど接するばかりになっている。断崖はまるで洞窟のような水路を形造り、入江を秘密の軍港となしていた。
　フゼットたちはその奇観に圧倒された。
「……すごいところね」
「ああ」
　フゼットの感嘆の声にロナーはうなずいた。
　それに……どこに潜んでいたのだろう、こんな多くの人々も。
　リケーラの軍船やロナーたちに手を振る、併走する小舟に満載された人々。この人々はみな……リァン帝国に逆らって、バセットの神に心を寄せる同志たちなのか？
　これだけの人々を集め、そして組織化した力。人々の心をひとつに合わせ、導いた力は、どこにあったのか？
（……セイト！）
　フゼットの心は呼ぶ。
　セイト……あなたなの？　本当に？
　まだ信じられないわ。
　ううん……あなたでなくてもいい。ここにいるセイトがあなたでなくとも。
　でも……あなたは生きていて、セイト。
　……セイト！
（バセットの神よ……！）
　フゼットはもう何度も祈ったように、バセットの神へ祈った。
（セイトを守って下さい。
　お願いです。どうか……あたしのこの命に替えても……！）
　印を結ぶフゼットの手が震えた。
　ロナーの手が、フゼットの肩に触れた。
　フゼットはその手に気づいて、気弱ながら健気な笑みを彼に返す。
　ロナーはそうしてずっと、セイトのことを気遣い続けるフゼットを励ましてくれてきた。
　リーもフゼットに笑いかける。
「大丈夫だよ、フゼットお姉ちゃん。きっと……セイトお兄ちゃんだよ」
「……そうね。……リー」
　ロナーたちの舟は先に隠し入江の桟橋へと着いた。
　そこは断崖を削った、天然の要塞となっていた。
（……すごいわ、これなら――）

ソロモー砦に匹敵するかもしれない、とフゼットはその堅固な造りと砦を守備する武装した戦士たちの無駄の無い訓練された立ち働きぶりに目を奪われながら、そう思った。

なによりも……砦を守備している男たちの顔は、厳しかったが、それでも希望を宿している。その表情は、リケーラでのバセット教徒たちには見られなかったものだ。

（……何故？　どうして？）

断崖を削って造られた砦は、竪穴式に住居らしく穴が穿たれていて、幾層もの階層が造られている。そして断崖には骨組みが組まれて、階層ごとに通路が渡してあった。

フゼットとロナーたちが案内を受けてその骨組みの下の辺りまで来た時だった。

いきなり。

人々の間にどよめきが上がった。それは、次第に歓声へと変わっていく。

（……何？……）

ロナーもフゼットもリーも、人々の視線を追って自然に上の方を見た。

入江の桟橋を見下ろすように造られたその通路の上に、竪穴の中からひとりの人物が出てきたのだ。

若い……いや、まだ少年といってもいい。

彼は、手に黄金色に輝く剣を持っている。

人々の歓呼の声はさらに盛り上がる。

黒髪の少年は、人々を鼓舞するように剣を掲げた。すると、『剣』の放つ光は正視できないほどに清冽な輝きを増した。

（う……わっ！）

ロナーは光から目を覆い、リーを背に庇った。

「ロナー？　あれ、セイトお……兄ちゃん？」

リーが、おずおずと尋ねる口調で声を上げた。

「……セイ……ト？」

ロナーは我が目を疑い、つぶやいた。

あれが……セイト、か？

確かに、セイトに似ている。遠目だが、それでも……似ている。

だが、あれがセイトだろうか？

顔は同じでも……顔付きが違う。あんな精悍さは、あの優しげな少年にはなかった。

あれが……セイト？

「――セイトだわ！」

飛び出そうとするフゼットを、ロナーが引き止めた。

「……待てよっ！」

「……どおしてっ！」

「まずい……今のセイトは、ここのリーダーなんだ。立場ってもンがあるだろ。

すぐ、会える。

……待てよ」

フゼットはロナーの顔を見上げ、その時は納得した。

が……。やがて『剣』を持った少年が室内に入り、フゼットたちも砦内に案内され、そして仲間とおぼしき男たちに囲まれたセイトがいる部屋に連れていかれると……。

セイトがこちらを見た。

少年はロナーとリー、そしてフゼットの姿を認めた。

少年の顔に見慣れた、気後れしはにかむような笑みが浮かび……微笑った。

フゼットは一瞬、目を見張った。

それから……。

「もう、ダメ！……我慢できないっ！」

ふるふるっと身を震わし、叫ぶなり、フゼットの姿はロナーの脇からふっと消え、そして同時にセイトの目前へと出現した。

「――フゼット！」

「セイト！」

セイトはとっさに抱き止めるように両腕を広げ、フゼットはその細い体をぶつけるようにしてセイトの胸に飛び込んだ。

一瞬……フゼットの背に、ぱあっと妖精族の光り輝く羽が現出した。

セイトの胸に顔を押し付け、フゼットはわめいた。

「セイト……セイト！

もうっ、もうっ、セイトったら、セイトったら、セイトったらっっ……！

心配したんだからねっ！

心配したんだからねっ！

心配……し……た……！」

その声は次第に涙声になった。

「フゼット……」

戸惑うように、セイトはフゼットの両肩を支えた。

「フゼット……ありがとう。おれ、それに……ごめん」

フゼットは泣きじゃくった。

茫然とするこの砦の主だった者たちとおぼしき男たちを掻き分けて、ロナーはセイトの脇に立った。

「よぉ……セイト」

「ロナー。会えて……嬉しいよ」

「オレもだ。なんだか……ずいぶん、変わっちまったナぁ、お前」

「そんなこと、ないよ」

セイトは答え、そしてロナーを見上げて、いまいましげにつぶやいた。

「ちぇっ。今でもお前には背の高さじゃかなわないんだな」

「……ったりめーだ。そう、何もかも追い越されてたまるもンか」

ロナーは口をとがらせる。その会話だけで、ロナーは以前のセイトを確認していた。そこにいたセイトは以前のセイトではなかったが。

「リー……おっきくなったなぁ……」

ロナーの後ろにひっついているリーを、セイトは眩しげに見た。

「──おれたちのこと、忘れてなくて安心したぜ」

冗談めいてロナーが言うと、

「忘れるもんか」

セイトはしゃくりあげるフゼットの背を撫でて宥めながら、生真面目に答えた。

「ロナー、リー……フゼット。

お前らがいたから……おれ、生き延びることが出来たんだ……」

リケーラの軍船が隠し入江の桟橋に接舷し、ジュオン王子が下船してきた。

セイトは黄金の『エルヴァーズの剣』を持って、集ったバセットの地下運動のリーダーたち、それにフゼット、ロナー、リーたちとともに岸辺で出迎える。

セイトは、ジュオン王子の前にひざまずいた。

松葉杖をついた足の不自由なまだ幼い少年の王子は、セイトに語りかけた。

「セイト。

こうしてぼくをこの砦に迎え入れてくれたことに感謝します」

「いえ……王子。この砦があなたのものとなるべきなのは、当然のことです。そのことはあなたもわたしも知っています。

ここにおいで願えたことで感謝しなければならないのはむしろ……」

「──セイト」

頭を深く下げたままのセイトの言葉を、王子は静かに遮った。

「失われた砦のことは、もうぼくは言いません。

ぼくももう子供ではないし、苦しんだのはぼくだけではないし、あなただけでもない。

これを──」

王子は背後をかえりみて、従者が手に持っていた物を受け取った。それは、黄金の『エルヴァーズの楯』だ。セイトは、それに気づいて息を飲む。

王子はそれをセイトに差し出した。

「ラオース老からぼくが預かっていた物です。

時が至ったら、あなたに返すように、と。

その時、あなたがすでにエルヴァーズの三つの聖遺物の、最も大切なもの……『心』を手に入れているだろう、と。

そして、伯父もその時、ぼくに言いました。

『剣が輝きを戻し、いつか楯がその持ち主へと帰る時、失われた砦はより強固なる砦となって甦るだろう。その時を待て』と。

セイト……今こそその時です。あなたはぼくたちの、そしてバセット教を信じる民たちの砦となって下さい」

「ジュオン王子……」

セイトはごくりと唾を飲み込み……だが、ためらわず、王子の手から『楯』を受け取った。そして、立ち上がった。

砦を、人々の歓呼のどよめきが揺るがせた。

(……セイト……)

フゼットはそんなセイトの姿を不安げにみつめた。

セイト……ひとりの少年が真のバセットの英雄、エルヴァーズとして立つ時が来ていたのである。

第二部「灼熱の大地」編・了

ドラゴンスクランブル

読者のページ DRAGON SCRAMBLE

ILLUSTRATOR／Piccolo

はる。はる。はる――っ。もうすぐ春♡ですね。ポカポカでウキウキでフワフワでドキドキの春ですね。まだ風はちょっと冷たいのだけれど…でも、土の上にも水の中にも、ほんの少しだけ春が近いぞって予感がありませんか!? 春が近づくと、1人うかれるアブない人のよーな私……

ガメルに託す春の夢かな――

受験の合格祈願で某神社へ行ったところ、な、なんとそのさい銭箱(せんばこ)の中にガメル札を数枚見つけました。いったい、誰が入れたのでしょうか?

静岡県　日本一の斎藤義龍!!

☆いったい何を願ってガメルを入れたのかも気になります。（み）

☆合格祈願だとしたら、絶対（ピー）ですね。（時期的に不穏当な発言があった事をおわびします）（情知らずのM²）

☆静岡出身でウチの関係者ってーと――あいつかっ!（II）

ニュースを見ていたら、富士見市（埼玉県）という言葉が出てきた。何か事件かと思ったら「猿が逃げた」というものだった。富士見という名がつく所はスゴイ。

神奈川県　マジックユーザー

☆そ、そうかなぁ～? 富士山が見える所には大抵、〝富士見〟が地名としてついているハズだから、そこはヘ・ン・な所になってしまうのかね。（隆）

☆まあ今の首都圏じゃ富士山が見えるってだけで充分『変』かも知れませんね。（拓）

☆カエルが煮(に)えた。（ネタがわかった人はお手紙下さいのII）

➡大阪府・影山誠／つくった人は編集部にもください

➡山形県・MSK-426／ああっ背景が…心配っっ

➡静岡県・すこっち㊦ぱくろまん／あっ、ファリィさんがかわいい

➡岩手県・いずみきょーこ／シェクティのひと言――いいねぇ

➡東京都・新浜唯里猫／うん。美型の悪役っていーと思うナ

20文字コーナー

今月も選び抜かれた強者(つわもの)たちがやって来た。華麗なる20文字、GO

今月よりコーナー名は〝読者のはけ口〟に変わります
神奈川県　南海紅竜王

★

焼け石に水、ケインのスネアディーボのフォース
大阪府　日がわりタヌキ

★

脳に4cmの穴が開いている故(ゆえ)大学に落ちとるのです!
岩手県　ヒッポクラテス

★

ダマラムの正体みたり! 鋼鉄ジーグだ!!
群馬県　C・C・グレイン

★

トビラでの彼女(ミーナ)はすでに芸術です
群馬県　☆・ラッカス

★

彼(ケイン)ほどひとつの呪文(スネア)に執着する奴がいただろうか
兵庫県　ナオーダ

★

やった! ピアちゃん大活躍!!
愛知県　錯乱坊

★

金のムダだと言われても投稿人は今日も出す
神奈川県　夜明けの仕事人A

★

トロイ君、いーかげんに服を着なさいったら…
山梨県　薔薇王・如月

★

友人「お前、没常連だろ?」私「お・前・もな²」
神奈川県　イッチョメワーオ

➡大阪府・影山誠／いやーあ、ドロ沼は気持ちいいよぉ

東西――テレビ対決!!

全国ネットにもかかわらず、関西では『イカ天』をやっていない。土曜の深夜には『板東英二のわがままミッドナイト』という実に大阪色豊かな番組を放映している。くやしい! だが、だが『現代用語の基礎体力』や『探偵ナイトスクープ』は関西でしか見られないだろう……!! 槍魔栗三助の怪人さんや桂小枝の小ネタ集は絶品だぜ!! と、言いつつもやはり『イカ天』は見たーーい。

和歌山県　健吾

☆そーなんだよなぁー。関西地方だけオン・エアって番組におもしろいものが多いんですよね。（隆）

☆わたしの『イカ天』のビデオと関西の番組のビデオと交換しませんか。

（サルカニ合戦のII）

☆あの『たま』を見れなかったとはカワイソウ。（II）さんなんか、カッパ頭にしたい! などと言わなかったけど、編集部で大流行なんですよ。（Qz）

塾帰りのJRの車内での出来事。会社帰りのおじさんが小説を読んでいました。何を見ているのだろうと盗み見をしたら、なんと『風の大陸』ではありませんかっ! びっくり!! そして、またある日の塾帰りのこと。DMを読んでいた私の隣(とな)りに座った兄ちゃんが、おもむろにDMを取り出し読み始めたではないですか! いや〜〜、いろんな人が読んでいるのですねぇ!?

兵庫県　水樹螺旋

☆おじさんが読んでいたのは山田風太郎著『風の大陸』だったりして。いや、柴錬かな?（拓）

☆コミックスも車内で読んでほしい!!（み）

☆まさかウチの編集長では――とかゆーネタは前にやったな。（II）

お金がもったいないからといって、神奈川の川崎市から東京の秋葉原まで自転車で行った経験があります。もしかして私は貧乏なのでしょうか?

神奈川県　イッチョメワーオ②

☆自転車もってるだけでも金持ちです。（ひたすら歩くII）

☆子供の頃、東京じゅう迷子になりに歩いていったけど、いつのまにか知ってる所に出ちゃうのが不思議でしたね。（Qz）

☆貧乏というより、ケチといった方が正しいのでは? ちなみに私は自転車は持っているけど、パンクを修理するお金がもったいなくて、3年間パンクのまま放置してあります（自転車通学歴10年の武）

➡山口県・浜森ねむ／こちらこそ、ふつつかな娘ですが……

➡秋田県・風色しるふ／おお、ユニコーン

☆自転車は健康のモト。毎朝15分の自転車こぎ運動は、私の健康をつくる!! 私の住む街では、多くの人が自転車健康法を活用してます。自転車バンザイ!! （毎朝、自転車通勤を強いられているⓢ）

➡高知県・プロスペロ／ちょほぉっと、足が太いかな?

➡静岡県・上野珠理／まあ、か・な・り美化されてるわっ

➡秋田県・白さは愛だもの／ふっふっふっ。リナちゃんは不滅です（古い? ねっ古い?）

ネーミングセンス抜群の親

僕の友人の母はネーミングセンスばっつぐんです。友人の名前は「大西洋(おおにしひろし)」でその弟の名は「大西飛雄馬(ひゅーま)」と言います。最高だと思いません?

北海道　神龍幻風

☆名前いうだけで笑いがとれるなんて、いーぢゃありませんか。（II）

☆弟君は「星」さん宅の婿養子(むこようし)となって、名前に磨(みが)きをかけるべきです!!（み）

☆そう、それくらいしないと弟さんも無念でしょう。だって『大西洋』ってどう考えても一発ネタだもんなあ。もうひとり生まれちゃったんで、もうウケ狙(ねら)うしかなくて適当につけた、という御両親の心的情景がアリアリと見える……（拓）

☆『結花』ってつけられるよりマシじゃないでしょうか?（M²）

初夢はすさまじかった! なんということか「ドッペルゲンガー（すなわち自分自身）に喰われる」という夢だったのだ。今でも、うまそうに僕を食べる僕自身の顔が頭から離れない。RPGのやりすぎだろうか?

秋田県　武坂馬

☆スライムのよだれを少々、ドラゴンの牙の粉末を3分の1カップ、とろ火で一時間煮(に)ていただきますとおいしい「冒険者の煮込み」ができあがります。（料理人II）

➡大阪府・高野順行／やあ! 久しぶりにウケるネタだねいっ!!

★P130のバンダースナッチさんになぐり蹴りどつき(なんてコトゆーのあんたわーー)!!

茨城県　バズソーキッド

★ラッシーも復活しなきゃダマラッシーになれないぞ!

栃木県　おぶじぇ閑話休題

★またまたボイスはいなかったついにティーエも…

山梨県　トバティーエ

★つとむ君もウェアキャットも某司祭様を見習うべきだ

栃木県　おーしんAR

★最近やたらと人型巨大兵器に乗りたがる輩(主人公)が多いようで…

東京都　MAP

いやぁ、今回はネタにかたよりがありましたねぇ! ダマラムネタ、ケイン君のスネアネタ、それにミーナーー。でも、あれだけミーナが読者サービスをしたというのに、それを上まわる多数ネタが出てしまいました。（あー、出てほしくなかった…）もう、お気づきでしょーが誤植・乱丁ネタです。読者のみなサン、すみませんです。

困ったときの人頼み（Q&A）

どーも近ごろ、みんなの悩みが深刻化してきている気がする。できる限りのアドバイスはします。ひとりで悩んじゃ、チョメ

Q イラストレーターになりたいのですが、どうしたら良いのでしょうか？ また、イラストレーターになるための勉強は何をすれば大丈夫なのでしょうか？

水紀いおり＆エンブレムマスター

A 名刺にイラストレーターと刷り込んだ瞬間から、あなたはイラストレーターです。ただし、それで生計を立てられるかどうかは、才能と努力と運次第です。（M²）

Q おいしい日本酒の銘柄を教えてください。お願いします。

滋賀県　はりまる

A 特に銘柄は指定しませんが一般的にいって北の方（東北地方や新潟あたり）がスッキリとした飲み口が味わえます。また、純米酒や吟醸酒、大吟醸がおススメです。日本酒はデリケートな酒ですので品質管理（直射日光にあたってない、冷暗所で保存されている等々）がしっかりしている酒屋で買う方がいいと思います。（隆）

☆酒なんか不味いよー。（下戸のM²）

Q 女の子と知り合う機会の多い仕事に就きたいと思っているのですが、どのような職場が良いでしょうか？ 教えてください。

山梨県　高校合格した如月

A 機会というものは、作ろうとしたからといって必ず作れるものでもありませんが、少なくとも与えられるものではないことだけは確かです。ただ待っているだけで『知り合う』機会が転がり込んでくるような職場を、私は寡聞にして知りません。逆に言えば、たとえ男子校に籍を置いていたとしても、労力さえ惜しまなければ機会なぞいくらでも作れるはずです。（拓）

☆知り合うだけなら女子校の先生とか、

←北海道・ある・みなうず／ずいぶん、肉感的なミンク様です（うらやましくないよっ!!）

←岡山県・彩紋堂／うーん。さわやか!! いろんなミンクがいるね

めざせ！女装の星？

先日、学部祭がありました。私は、そこで女装コンテストに出ることになってしまったのです。しかたなく、化粧をしたのですが……。ところが、会う人みんなに「きれいだ……」と言われるという結果に!! 私自身、自分の顔に見とれてしまいました。私って……美人だったのですねぇ…

長崎市　Gray

☆〝女のよろこび〟を男が知るというのは恐ろしいと思う。常々、私たちが女性に対して行っている、血のにじむような努力を自分が受けるとしたら……。人生を間違えないように！（モ）

『センゴク』と聞いて、役所広司さんを思い出す私は、やっぱり時代劇マニアなのでしょうか～～～っ!?

神戸市　王竜樹

☆『カンゴク』と聞いて、マサ斉藤を思い出す私はプロレスマニアです。（M²）

☆ボクはイエスと答えます（この事件、憶えてるかな?）（T）

EVENT REPORT

今月のレポートは、『ワンダーフェスティバル』と『コミックマーケット37』です。今回、コミケのレポートが多かったですよ～～～。

●第9回　ワンダーフェスティバル●

1月5日、6日と行われた「第9回ワンダーフェスティバル」のレポートをさせていただきます。今回も前回と同様に、東京都立産業貿易センターの展示場3フロアを使って、2日間に亘り開催されました。初日は展示のみだったせいか、思っていたより人が少なく、ゆっくりと会場内を見ることができました。写真を撮ろうと思って来場した人（僕のように）には、ラッキーだったのではないでしょうか？ 初日が空いていたぶん、2日目の混雑ぶりは、すごいものがありました。今回、めだって多かったアイテムは、キャラクターでは『ボーグマン』の『アニス』『らんま½』『サイレントメビウス』関係……それと、ヤングマガジン連載中の『3×3 EYES』といったところです。メカ関係では、やはり何といっても『ガンダム』が1番で、次いで『ボトムズ』『パトレイバー』という感じでした。

今回の『ワンダーフェスティバル』で気づいたことをひとつ…。日本人だけでなく外国人が結構来てたようです（ディラー側にも何人かいたようですが……）。次回行われるときには、もっとたくさん来るかもしれませんね。そうなったら『ワンダーフェスティバル』も国際的なイベントの仲間入りだ!? ってな感じで最後にもう一つだけ言わせてください。『第9回ワンダーフェスティバル』は、金、土曜日に行われました。正月休みじゃなきゃツライ。

FULCRUM

☆いつもありがと。

➡『ウルトラマン』（海洋堂）

➡『らんま½』シリーズ（ムサシヤ）

●コミックマーケット37●

1989年12月23日、24日に幕張メッセにて冬コミケが行われました。私は24日しか行かなかったのですが充分に楽しめました。驚いたことに見田竜介先生がいらっしゃったのです。色紙にミンクを描いている先生の姿を拝見できて感激!! 『あ、本物の先生なんだ！』と思ってしまいました。会場内には数え切れない人、人、人で、ブースを見学するのにも苦労しました。さすがに新しいだけあって設備も整っていて良かったです。

さあ、次は夏コミケですよ！ 皆様、体力には自信がありますか？ 女性の方々、日焼け予防の薬用品が必要になるんじゃないかな？ それでは、いつかまたお会いできる日を楽しみにしながら……これにて失礼！

稲城市　ラーズ

コミケin幕張メッセに行きました。24日の午後に降られた以外は天気も良く、楽しい時間を過ごせました。さらにあの吉岡平先生にお会いすることができ、サインまでもらってしまい……ラッキーっ!! 会場が幕張メッセだというのが初めてだったせいか、2日間とも開場時間が遅れましたが、たいした事故もなく〝1日がアッという間〟に感じるくらい楽しいクリスマスイブ（イブイブかな？）でした。あと、ゴミについては、ゴミ箱があらゆる所に設置してあったせいか、あからさまに目につくようなポイ捨てもなく、完全とは言えないまでも以前にくらべればだいぶ少なくなったようでした。みんなのモラル意識が少しずつ向上してきた結果なのだ――と思いたいですネ。やはり、ゴミの散乱が少しでも減るだけで気分的にもずいぶん違うな――と思いますね。これからも、ずっとこうでありたいですね。

千葉県　風魔鬼組般若

☆DM読者でコミケに参加した人がかなり多かったらしく、コミケ関係のレポートが多かったです。その中から2人選ばせていただきました。

➡当日、幕張メッセに集まった面々――ハイチーズって違うでしょ!! そりはぁっ

デパートやスーパーの店員とか、エアロビクスやテニスのインストラクター、美容師、女子寮の管理人、少女マンガの編集者その他いろいろあると思います。でも、〝知りあい〟以上の関係にもちこめるかどうかは、本人の資質と努力次第、というわけだよね、拓ちゃん。（武）

A 1月号のじゃうまさんへ。『紳士同盟』（小林信彦・著／新潮文庫・刊）は、いかがですか？ ご存知とは思いますが、薬師丸ひろ子主演の映画『紳士同盟』の原作です。こちらの方が何十倍も面白い！ と私は思う。

福島市　風渡結城

おつかいワンちゃん出現!!

薄暗くなった道を歩いていたときのことです。前方から〝タッタッタッ〟と規則正しい足音が聞こえてきたのです。目をこらすと…いたんです。犬が…。中型の茶色い犬が、DMをしっかりとくわえて〝タッタッ〟と歩いて来るのです。いったい何故!? 私は今でも、あの無表情な犬の顔を忘れられません。

山形県　白狐

☆本屋さん帰りの「おつかいブル公」だったのでひょー。（グリコのおまけⅡ）

☆案外「万引きブル公」だったりして。（拓）

☆フッフッフッ、気づいてない、気づいてない。私があのネコにシークレットワン公をかぶせておいたのに…。（M²）

突然ですが私の悩みを聞いてください。現在、本誌でも連載中であるパトレイバーの主人公のあの彼女に恋してしまいました。彼女が私のそばにいてくれたら……。どおすりゃええんじゃー。のあちゃ――ん。

東京都　和泉野由

☆で？（隆）

☆人間はね、苦しい恋をしないと一人前になれないの。これも青春の一頁じゃない！（カウンセラーのお姉さん　み）

☆私の所に彼女を連れて来なさい。そうすれば、仲を取りもってあげましょう。（一休さんのM²）

☆そっくりさんを探して型をとらせてもらい中にテレコやその他をぶち込み人形でも造れば？（刃）

本当のような嘘の話

某ラジオ番組での話。歩行者用の信号機が青になると、たいていの所は『通りゃんせ』のメロディーが流れるのに、名古屋では『みゃー、みゃー』鳴くと言ってましたが本当でしょうか？

長崎県　ふぉ～ちゅん

☆本当です。ただし、他の地方でも名古屋人の多いとこで聞けます（と、知ったかぶりのT）

☆(T)氏……マジで名古屋市民に殺されますヨ……そーゆーわけで（刃）

私はういろうが好きです（刃）

あの～～。何日も眠らず、何日も家に帰らず、ひたすらマージャンをする根性なら持ち合わせている私は、編集者になれるでしょうか!?

栃木県　おーしんAR

☆何を言われても耐える根性と、何でも食べれる胃袋がそろってれば大丈夫！ かも知れないな？（T）

☆人生なめちゃいけないよ…（刃）

➡京都府・PEACHⅡ／早く春になるといいねぇ。ウキウキ♡

➡神奈川県・おーんぷうそー・金・タロウ

➡長野県・グレムリン／A-HA人気だね

➡北海道・反町亮弥／毎月投稿してね

➡埼玉県・RS山下／遅くなってゴメン

第3回 ファンタジア長編小説大賞

大賞／正賞の盾ならびに副賞100万円

選考委員／田中芳樹・火浦功・岬兄悟・安田均
月刊ドラゴンマガジン編集部

「ファンタジア長編小説大賞」は若い才能を発掘し、プロ作家への道をひらく新人の登竜門です。若い読者を対象とした、SF、ファンタジー、ホラー、伝奇など、夢に満ちた物語を大募集中！ さあ、君もチャレンジしてみよう。君の中の〝夢〟を、そして才能を、花開かせるのは今だ！

応募要項
●資格
年齢・性別を問いません。
●内容
ドラゴンマガジンの読者を対象とした長編小説。
未発表の原稿に限ります。
●枚数
400字詰原稿用紙250～350枚。必ずたて書きのこと。
●しめきり
1990年8月末日（当日消印有効）
●送り先
〒102東京都千代田区富士見1-12-14
富士見書房　ドラゴンマガジン編集部
第3回ファンタジア長編小説大賞係
●入選発表
1991年4月発売『ドラゴンマガジン』6月号誌上

◎原稿用紙に書かれたもの、またはワープロで原稿用紙と同様に打たれたもの以外、受け付けません。
◎原稿は（厚くなるため）2冊に分け、ヒモなどで右端2か所をとじてください。
◎原稿のはじめに4～5枚程度のあらすじをつけ、その末尾に郵便番号、住所、氏名（本名）、年齢、略歴、電話番号を明記してください。また2冊に分けた、それぞれの表紙に、題名と氏名を書いてください。
◎応募原稿は返却しません。また選考に関するお問い合わせには応じられませんので御了承ください。
◎入選作の出版権、映像権、その他一切の著作権は富士見書房に帰属します。

DS会議室

やっほーっ!! みんな元気ぃ? もうすぐ卒業式。今まで仲よくしてくれた人ともお別れ。ストレスは消えても、ちょっと寂しいね。

★やっぱり、温泉へ行くのが一番!だと思います。行けない場合は、家でいろいろな入浴剤をためす、というのも楽しい♡ですよ!
新潟県 長風呂の青山猫吉

☆う〜〜ん。いいかもしれないっ! ちなみに私のおススメは、ミルキータイプの入浴剤。ほんとの温泉の気分なんだよ〜〜ん。

★バーサークして暴れまくる。
(良い子のDM読者には推められない)
掲載された号を見てニンマリする
(総没の人の怒りをかいそうですね)
サ〇ライズ印の変態料理人の真似
(恥を捨ててアレをやるのも楽しいな)
愛知県 Billie

☆なかなか考えてるとは思う。が、ちょぉっと趣味に走ってるかもしれないゾ。次のような意見もあるので注意!

★物を壊すのはやめよう。一見、ストレス解消できそーだけど、実はダメなんだな。後でムナシイだけだよ。
北海道 辺境の剣士

☆なるほど、ごもっとも。

★紙ずもう。けっこう燃えます。(み)とか(拓)とか名前をつけて、おおいに笑いましょう!!
東京都 聖チェンバレン

☆聖チェンバレンくん♡ 間違えても(さ)なんてつけちゃ"めっ"よ。そんなことをしたら、かよわくて可憐で愛らしい力士になってしまうもの……♡

★ストレス解消法——んなもん、落ちる! ことに決まってんだろ——っ!!
奈良県 菊池桃太郎

☆おいおいおい。この時期になんてこと言い出すんだろうネェ、この子は…。"みなさんに愛されるDS"なんだから。おお——、くわばらくわばら。

★やっぱり、朝焼けの中、水平線の彼方から昇ってくる太陽に向かって「バカヤロー」って叫ぶのが一番ですよ。
東京都 ホラ吹き大王

☆ごめんよォ!! どーせ私の住む所は海がないよっ。田舎だよぉっ!!

★これしかなぁい! それは栄養ドリンクの飲みくらべです。やり始めると止まりません。(注)3本目あたりを過ぎる頃になると、目が血走ってしまう!
神奈川県 じゅうま

★かなり、危険度の高いワザですね。ヘタすると、頭カッカの心臓ドッキドキの眼はギンギラギン——ということになりかねません。

★ストレス解消法ですか? 深夜のお寺に白装束で五寸釘とわら人形を持って神木にコーン、コーンと——これは呪いの方法でしたね。
愛知県 あまてらす

☆ふっ——そういう奴だよ。あんたはよォ。大事なことはみんな隠しやがる。ちくしょーっ。(主演俳優になりきると、まぁこんな感じで今月は終わりですが……。来月で、「ストレス解消法」は、いよいよ最終回! だ・か・ら、新しい議題もお待ちしてますねん。

←愛知県・花鳥風月/関東地方だったら良かったのにねぇ

←東京都・新浜唯里猫/メカもしっかり書かなきゃ、めっ!

←新潟県・かみひとし/DM掲載の小説版はいかがですか。うん?

みなさんは悪魔に魅入られたことってありますか? あれは私が中一の頃のことでした。信号待ちをしていた私は、ふいに頭の中がスー——と真っ白になって、知らないうちに一歩踏み出していたのです。ぞ〜〜〜〜っ。
北海道 スーダラ武士

☆バイクに乗っているとしょっちゅうだなあ。減速なしでブラインド・カーブを抜けたあとで、自分がにたにた笑っているのに気がついたりして。(拓)

☆わたしわ、いつもあたまんなかまっしろけれす。(Ⅱ)

☆親マンに振り込むとわかっていても、止まらない牌が時々ありますねぇ。(M²)

☆悪魔を追っぱらう方法その一 頭にわらじをのっけて、一日中炭坑節をおどる。その二 ローマ法王庁に行き、法王様に清めてもらう。その三 いっそのこと同化して、デビルマンとして生きる(T)

☆お皿を割ったのも機械を壊したのも悪魔の仕業なんですぅ。(さ)

ドラゴンランス伝説『パラダインの聖女』。キャラモンファンの私には、あまりにも酷過ぎました。途中で「ウソだ! キャラモン!!」とつぶやくこと数十回。涙で字が読めなくなること数回。その日、眼鏡を新調したばかりだというのに! でも、でも、いつの日か『戦記』のキャラモンにもどってくれることをパラダインに祈りつつ続刊を待ちます。
長野県 グレムリン

☆う……耐える男も美しひですぜ
(メいっぱいワガママなⅡ)

☆えっ!? 美しひ男ですって!! ど、どこにいるんですかっ!! Ⅱさん!! 隠しだてするとタメにならないですよっ!! がるる〜〜ッ
(訳のわからんコトを責める(さ))

←千葉県・一ヶ谷流水/そりはペケだねぃ

←埼玉県・朝霧樹来/お願いっ、ディーボのキラキラおめめっ

←埼玉県・たく/埼玉のたくさんでRPGっていうとやっぱり…

←山梨県・那於熙/こらこらっ、勉強はどーしたどーした?

←伊勢市・渚のしっぽ/な、ぜ、ケイン君がいないの?

我がクラスのDM意識度は…？

僕の友達と僕が学校でアンケートをとった結果です。質問は「あなたはDMを知っていますか？」です。

1位　知ってる　19人（内、女子10人）
2位　なんだそれ？　13人
3位　ああ。RPGの？　5人
3位　やらしーい。Hね。　5人
3位　その他　5人

神奈川県　じゃうまる

☆3位の「やらしーい。Hね。」に関しましてはあながち否定できないのでは。「ドラゴンハーフ」とか「ヴェルバーサーガ」が…。（隆）
☆「その他」ってのは、なんなんだろーか。（気に病むII）
☆君には"DM諜報員(イリーガル)"の称号をあげよう。またレポートを送ってくるように。（Qz）
☆とにかく29人の人間はDMを知っているというわけだね。まあまあの成績ではないですか。残りの18人には、ちゃんと宣伝してくれたよね？（武）
☆もちろんですよ…ねえ？（さ）

➡新潟県・鈴木正和／純日本風の切り絵。影絵の雰囲気かな

➡愛知県・K-2／よく切り絵にする気になりましたねぇ。またチャレンジだっ

12月30日、カワイイ♡女の子たちに追いかけられて逃げまわるという夢を見ました。なぜ逃げまわっていたのだろう？

愛知県　ドラゴンソード秀明

☆理由はいろいろ考えられると思うんですけどね……あれ、なぜか真面目(まじめ)にコメントする気がせんなあ。なぜだろう。（拓）
☆現実じゃ、いつも追いかけまわしてるからじゃないですか？（II）
☆DNAをとられたくなかったのでしょう。（武）

➡愛知県・朝霧まどか／あの、初原稿ではなく初投稿では……？

➡神奈川県・九龍智也／ちょっと昔の投稿ハガキですね。エヘへっ！

最強のRPGキャラ

ロードス島戦記RPGをプレイしたときのこと。キャラクターで女戦士をつくり名前を、『シェクティ』としたところ、そんなに能力値が高いわけでもないのにクリティカルヒットを連続して出した。普通ならレベル4まで上げるのに5〜6時間かかるのだが、『シェクティ』は1時間30分程でレベル4になってしまった。『シェクティ』でこれだけ強いのだから、もし『ミンク』にしたら向かう所敵なしだったろう!!

島根県　濱名宏幸

☆『アリシアン』にするとよく裸になる——というネタはだれでも考えつくだろうな。（拓）
☆『セイト』にすると——最初はとっても悲惨(ひさん)だけど、きっといいことがある、と思うけど……（Qz）
☆『オオタ』にすると、コントロール不能になったりして……。（M²）
☆『円』にすると、すぐ死んだりして……（T）
☆そりはあんまりだと思う今日この頃の私でした。（刃）

DS／応募要項とあて先

★毎月22日締切（当日消印有効）
■イラスト■ペン、黒インク、スクリーントーン等を使って描いてください。うす墨や色鉛筆は原則として不可です。紙の質や大きさは自由です。
■タイトルイラスト■これは、指名制で描いてもらうことになっています。来月は、東京都の『深沢師生』さんに決定しました。よろしくね！
■ギャラリースクランブル■いわずと知れた、カラーイラストのページです。はっきりいって、まだ先が見えません。ごめんなさい。決まったら早々に告知をするので待っててね。
■イベントレポート■あなたの参加した、アイドルやその他のイベントを200字ぐらいでレポートしてください。必ず写真を同封してね。
■フィギュア＆ディオラマ■DMの作品のフィギュア等を作って写真を送ってください。持ち込みも大歓迎!!　ただし、あらかじめ編集部に連絡を入れてからにしてくださいね。それから、造形に関する質問も受け付けます。できるだけフォローします。
■困ったときの人頼み■Q＆Aコーナーです。質問はできるだけ簡潔にまとめてください。質問に対するみんなの解答も受け付けます。
■作家インタビュー■DMの連載中の先生方が、みんなの質問に直接答えてくれるコーナーです。第9回からはまだ未定です。決まりしだいお知らせしますので、期待して待っててね。

★毎月26日締切（当日消印有効）
■作品の感想・その他■DMの作品の感想や、あなたの身近な出来事、先生方へのファンレターなどを送ってください。楽しいおたより待ってます。

★締切日変動（3／9締切）
■20文字コーナー■DM4月号を読んだ感想を、20文字前後にまとめて送ってください。あなたの会心の一撃を送ってね♡
■DS会議室■DMの内容に関する議題そうでない議題に対して、みんなで気軽に話し合うコーナーです。現在の議題は『ストレス解消法』です。たくさんの意見を待ってます。議題に対する要望等もうけつけますので、どしどしご応募ください。

☆応募要項は以上です。それから封書で複数のコーナーに送るときは、一枚一枚にコーナー名と住所・氏名・PN等を明記してね。待ってるよ！
早いもので、月刊ドラゴンマガジンが創刊されてから3年目に突入してしまいました。内容も大きく変わり、表紙もアイドルからイラストへと……。それぞれ良くなった所、悪くなった所、それぞれあると思います。みなさんから多くのご意見をいただき、より一層すばらしいDMにしたいと思います。

DSに関する宛名は下図の通りです。コーナー名をしっかり明記して送ってくださいね。それから封筒や小包で送るときの注意ですが、大きくなったり厚くなったりするときには、必ず郵便局に料金等を問い合わせるようにしてください。それだけで事故が未然にふせげるので、よろしくね。

102
千代田区富士見
1-12-14
㈱富士見書房
ドラゴンマガジン編集部
○○○の係

ブックレビュー

BOOK REVIEW

新形式(ニュー・タイプ)の物語(ストーリー)、リプレイは小説を越えるか?

盗賊たちの狂詩曲(ラプソディ)

山本弘／グループSNE
(富士見ドラゴンブック)

RPGリプレイ ロードス島戦記I

安田均／水野良／グループSNE
(角川スニーカー文庫)

ヒトは数え切れないほどの「表現形式」を生み出してきた。音楽、詩、小説、映画――。それは、新しい「概念」がそれまでになかった表現の形を要求した結果であったり、新しい「技術」が新しい表現の方法をもたらしたからだったかもしれない。が、なによりも、表現する者が「表現したいものをより的確に表現できる手段が欲しい」と願い、模索した結果であったことはまちがいないだろう。

ここにあげた二冊は「リプレイ」という表現形式によって書かれた作品だ。『ロードス島戦記I』の安田均氏の前書きにもあるように、リプレイは、RPGと呼ばれるまったく新しいジャンルのゲームの面白さをいかにして伝えるかという模索の結果、生み出されたものだ。RPGをプレイしたことのある者ならわかる、ゲームマスターとプレイヤーの間で交わされる会話による、スリリングなゲーム展開。(ときには爆笑ものの)だがそれは、何度口を嗄らして「面白い」と言ったところで伝わるものではないだろう。それなら実際にプレイしているときに交わされる会話を、(若干の解説をまじえて)そのまま文章化してしまえばいいのではないか――例をみせるにしくはないのだ。

だが、実際に作品が生み出されたとき、それは同時に思いがけない効果も生み出した。これはひとえにRPGが持つストーリー・ゲームとしての側面によるのだが、もともとゲームの解説であったはずのものが、「読み物」として独立した面白さを備えていたのだ。

あるいは、これはゲームマスターとプレイヤーの共同執筆による、新しい「物語」の表現形式の誕生である。RPGファンだけでなく、物語ファンにも注目して欲しい作品だ。

暴走貨物船オーライガ号

ブライアン・キャリスン／伏見威蕃訳
(ハヤカワ文庫)

最近、新刊が出るたびに邦題が派手になっていくキャリスンである。前作が『地獄の輸送船団』、そして今回。キワモノすれすれのモダンホラーを思わせるキャッチコピーがまたすごい。

もちろん内容は、狂ったミュータントや殺人エイリアンの強引な迫力が読者を張り倒しかねない作品とは一味も二味も違う。38名の貨物船の乗組員がじわりじわりと狂気に陥っていくさまを、キャリスンはお得意の冷笑を交えた第三者の視点で描きつつ、その緊迫感で読者をラストの破局と種明かしまで引っ張っていく。

電脳学園EXTRA

ゼネラル・プロダクツ編
(勁文社)

パソコンゲーム『電脳学園』がクイズブックスとなって登場した。あまたのアニメマニアや特撮マニアの頭を悩ましたあの難しい問題がスケールアップ。パソコン版は○×方式であったが、この本は三択式になっているのだ。そのうえ、親切なことに解答には解説も掲載。問題のアニメや特撮を直接知らなくても十分に理解できる作りになっている。パソコン版ほどのエッチさはないけれども問題のマニアック性はものすごいぞ。

巻頭にはパソコン版のパート2、パート3の紹介もありおとくな一冊だ。

THEゴジラCOMIC

実相寺昭雄ほか
(JICC出版局)

まず、この豪華な執筆陣を見てくれ。実相寺昭雄・横山宏・麻宮騎亜・富本たつや・山田高裕・安永航一郎・近藤豊・石川賢・松崎健一・風忍・伊藤伸平・加藤礼次朗・夢野一子・環望・河崎実・破李拳竜・一峰大二に加え、イラストに中村純一とPOTA、そしてカバーはあさりよしとおだ!(敬称略)

ちょっと年季の入った特撮ファンは、『ゴジラ』に対して、特別の思い入れを持っている。そんな、ゴジラ世代から、ゴジラ世代に送る、ゴジラコミックアンソロジー。

新刊案内

雪深い東京からお送りする今月の新刊案内。まずは富士見ファンタジア文庫、2月刊行分の確認から。

六道慧『時の光、時の影2 闇の中のイノセント』

吉岡平『宇宙一の無責任男シリーズ⑥ タイラー大逆転』

とまとあき・塚本裕美子『悪の江ノ島大決戦』

笹本祐一著、小川範子主演のフォト・ノベル『RIO』

3月の刊行予定。まずFF文庫は――。

富田祐弘『ぺ天使たち③ ぺ天使たちのイタズラ騒ぎ』

遠藤明範『電脳都市(サイバーシティ)OEDO② 華麗なる堕天使(ルシファー)』

岬兄悟『ハイパータイマー・ネーナ① あやうしDNA』

そして驚くなかれ、ぶらじま太郎『東京忍者 総集編』も登場する! イラストは安永航一郎だ。

富士見ドラゴンノベルズからは好評シリーズ待望の続刊が2点。

M・ワイス&T・ヒックマン『ダーク・ソード (仮)光の都市』

C・スタシェフ『グラマリエの魔法家族6 魔術師の反乱』

富士見ファンタジアコミックスからは、DM連載の、赤石沢貴士の『シンデレラV』を収録した、『スプライツ』が登場する。

3月は出る本がいっぱいありすぎて、内容紹介できなくてゴメンね!

闇の中のイノセント

RIO

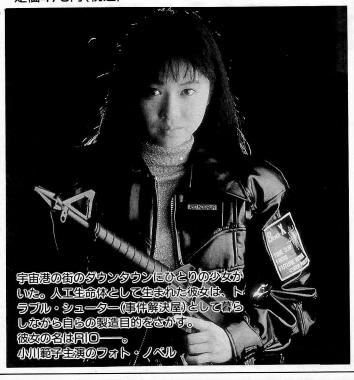
悪の江ノ島大決戦

タイラー大逆転

富士見ファンタジア文庫　今月の新刊

時の光・時の影②
闇の中のイノセント
六道慧　イラスト高田明美　定価470円(税込)

宇宙一の無責任男シリーズ⑥
タイラー大逆転
吉岡平　イラスト都築和彦　定価470円(税込)

RIO
笹本祐一
Photo 矢嶋英幸
主　演 小川範子
定価470円(税込)

悪の江ノ島大決戦!
とまとあき&塚本裕美子　イラスト都築和彦
定価430円(税込)

富士見書房　〒102 東京都千代田区富士見1-12-14
電話(03)261-5375(代)　振替／東京7-86044

次号の表紙は結城信輝先生です！

巻頭特集 **VAELBER SAGA** 結城信輝 黒田幸弘

富士見ファンタジア文庫特集
無責任艦長タイラー
吉岡平 都築和彦

バセット英雄伝 **エルヴァーズ**
ひかわ玲子 美樹本晴彦

星間貿易商タオ
大原まり子 真鍋譲治

ユミナ戦記
吉岡平 春巻秋水

Comic 機神幻想 **ルーンマスカー**
出渕裕

風の大陸
竹河聖 いのまたむつみ

ロバーズ・キラー
神坂一 あらいずみるい

Comic ドラゴンハーフ PART27
DRAGON HALF
見田竜介

次号は3月30日〔金〕発売！

STAFF
Editor in Chief
TOYOKAZU SUZUKI
Senior Editors
TAKESI YASUDA
HIROSI OGAWA
YOSIHIRO OOUCHI
Editorial Staff
TAKAHIKO SHIRAYAMA
TADASHI OGASAWARA
TAKUZO SUGANUMA
YASUKI SHINO
SHINOBU MORIYAMA
KUMIKO SATOU
HIDETOSHI NAKAMURA
MITSUWO MATSUDA
YUKAKO TAKETOMI
TAKAHIKO SHOUJI
HAJIME KATOU
EIJI SUZUKI
YOSHITAKA MURAKAMI
TADAO ASHIZAWA
KIYOTAKA MITAKA
SHIGEKI MORIMOTO
Assistants
MISAYO KITAZAWA
AIKO INAKI
Art Director
TETSUYA ASAKURA
Design Studios
Design CREST
Banana Grove Studio
NEXT
DESIGN LAND
Photographers
NARUO MORIYAMA
HIROAKI EJIRI
Proof Reading
MANABU TSUKUDA
Production Manager
YOSHIAKI NAKAZAWA
Thanks
SUNRISE
BANDAI
TOUHOKU SHINSHA
HEADGEAR
NTV
STUDIO HENSYUBU
G. TATSUNOKO
YUUSUKE TAKEDA
KAORU CHIBA
MASATO SASAKI
CODACS
Supervisor
YUTAKA IZUBUCHI

VOICE OF DRAGON 編集後記

●歴史の意外さを痛感する激動の大世紀末。とはいえ万物流転はギリシアの昔から。そして勝者・敗者のドラマは身近なところにも。喜憂・明暗表裏の季節です。(S)

●みなさん編集員のためにチョコレートありがとうございました。一同になりかわり厚く御礼申し上げます。特に、(刃)は読者の女の子に直接もらってたよなぁ～。(モ)

●どうして良い映画は正月にやるんだろう。寒いと外へ行くのがおっくうで、ずっと寝ていたくなる。また見のがしてしまった……。(Qz)

●(承前)バート・ヤンシュとジョン・レンボーンという二人の名ギタリストを擁し、アイルランド民謡を主体に、オリジナ(続く)(II)

●(隆)につめ寄る著者。(隆)の運命もこれまでと思われた。「先生、それはですね、時間管理をすればいいのです。」(以下次号)(隆)

●東京に大雪が降った日、身長150cm、体重200kgはある雪ダルマの製作に全精力を注ぎ込み、昨日の締切が地獄だったのは私です。(円)

●皮ジャンを新調したの。自分ではとってもいい買い物だと思ったの。でもだれもホメてくれないの。ぐっすん。(拓)

●富士見ファンタジア文庫作品をカセット文庫化しようと日夜企画書を書いてます。これは！という企画がある人は手紙下さい。(篠)

●ドラクエⅣを買う長い列を見て「あいつらバカだなあ。」と思いながらも、その列に入りたい自分がそこにいる…。いい物はいい。(刃)

●朝、会社に来たらアンパンマンが原稿整理をしていた。隣りの席では、テディ・ベアがFAXを読んでいる。ああ、メルヘン。(さ)

●るるるるる。ガチャ。「はい」「2回までだぞ」「今年はもう、2回役満を上がったぞ」「卑怯者！」「じゃあ、10分後に……」ガチャ。(瑠)

●いよいよ受験シーズンも大詰。受験生の皆様、まだ来年があります(悪意)。う～、早くDQⅣがやりたいぜ。(M²)

●今さらスキーを始めた。スキーは脚力が勝負、というわけで、仕事のひまをみてはヒンズースクワットに励む日々である。(武)

●蔵書を整理してたら、昔使っていた教科書が結構出てきました。あらためて読んでみると、自分の記憶力のなさに泣けました。(T)

●静岡県の東部ではイルカを食べます。しょう油干しにすると酒にあう！ クジラがだめでも我々日本人にはイルカがある!!(一)

●近頃、映画によく行きます。次に行くのは、「ニューシネマパラダイス」お願いだから私が観るまで終らないでね。(み)

●ウィルス性の腸炎にかかってしまった。腹痛と下痢がひどくて四日間も寝込んだ、疲労の蓄積か老化か？ 皆さんも気をつけて(N)

月刊**ドラゴンマガジン** 4月号
第3巻 第4号(通巻26号)平成2年4月1日発行
定価600円(本体583円)
発行人――中井茂雄
編集人――鈴木豊一
発行所――〒102 東京都千代田区富士見1―12―14
富士見書房
電話(03)261―5375(販売部)(03)261―3578
印刷――大日本印刷株式会社

DRAGON HALF

ドラゴン ハーフ

PART26

COMIC
見田竜介
RYUUSUKE MITA

毒で体の自由が利かぬとは

無様よのう

ああっ!?

ひょこっ

動けまい!!
…フフン!
グリ…
あっ

お…
俺の毒は
体の勝手を
奪うだけで…
バギッ

近づくと
攻撃して
来るよ
はっはっは
そ…
その位
知っとったわ
ジョークだ
ジョーク!
痛そな
ジョークやな

つまり…
接近せず
いじめれば
良いのだろう!?
ゴォッ

う…
あっっ
ああっ
危なーいっ
チーン
ミンクの墓

ゴォオォォオォ
ふぎゃ〜〜〜っ!!
あ……
熱いじゃないかっ
何をする!!
ブス ブス…
昨夜…向いの
サクミちゃんを
洞窟へ連れ込んで
ヘンな事して
たんですって!?
パッ
ばっ
な…何だと
バカ言うな!!
誰から聞いたか
知らんが……
そんなの
デタラメだっ
な――にが
洞窟だ!!
え!?
ええっ
ほ…本当に!?
ごめんなさいっ
連れ込んだのは
水車小屋だ!
誓います!!
ナンパは
しないと
よろしい!
ヒク ヒク〜

全く……

加減を知らんのかあいつは……

ぷりっ

ん!?

初めまして美しい方

唐突ですが……

シュバッ

!?

私と………燃えるような恋をしませんか

燃えつきていいわよ

ゴォ　オオォ

アラ見てたのね〜っ

はい?
ユラ〜
ゆ
くらっ
ばッ
何を見てって?
そうそうこれですっ!!

ココの玉
このアイテムはピアの鎧に反応するんです

…て事は
これがあれば家出した娘達の居場所が……
わかるんです!!
今朝これの事を思い出したんですよっ

すぐ探しに出発しましょう
あ…あなた!
たっ

前回までのあらすじ

はぁ〜い！私ミンクです♡　私のパパは竜討戦士、ママは火炎赤竜なの。アイドル騎士D・ソーサーに恋する乙女の私は、人間になりたくて、秘薬を求めて旅に出たの。ところが、秘薬は大魔王アザトデスに奪われちゃったし、恋敵きのビーナ姫はいじわるだし……。はぁ〜、私って不幸!!

は?

おい…
何をしとる?
ボォーッ

肉を
焼いてます!!
なしてそれがミンクへの攻撃?

フッフッフッ……まあ見て下さいこの残虐な攻撃を!
ズッ

ホ——レホレ!!うまそうな肉だろうっ食いたいか!?食いたかろう!?
でもやらないよ——だっ
頼むから冗談だと言え
ひょい

お気に召さないなら冷凍光線で…
もーーええ!!
ピシャーッ
みぞれ

わかりましたよ
……フグ様
フッ
ダグや
…貴様には
度重なる
恨みがある故
じっくり
いじめてから
と思ったが……
喜べ
ウィーン
ひと思いに
葬ってやるわ!!
グッバイ
ミンク♡
キュン
さらばだ
宿敵
ミンクよ!!
バカーーッ!!
で!?
どど
ぷすっ
あ
何だ!?

ふざえ〜〜っ!!

ああっ…

ビクッ

ビクッ

この雷撃波パワーは「雷鳴のつえ」の数十倍!!

ぬははは

貴様とて到底耐えられまい!!

わ〜〜っ体が勝手にぃ!!

ポカ
ポカ

どわっ!?何だ

ひくひく

ごめんねーっ
よくもやってくれたわねーっ
あーあ…解毒草を飲んじゃったっ
フフ………まあ良いです
私も動けぬお前を殺すのは心が痛んでいたのだ
うそつけっ
うれしそうにしてたくせにっ
パリ
パリ
パリ
これで心置きなくフルパワーを出せるわ！
ね！!! フグチリ様
ダ・グ!!
カモン!! メカラッシーMk=II

ゴォオオオオ
え!?
合体!!
ガコッ
ニョキ
ヘビィ＝ダマラッシー!!
これで勝負だ!!
ドォオーーン
これなんや?
あまっとるで
あら?
それは操縦パーツ…
ダマラム一生の不覚!!
合体プロセスを誤ったあ〜〜っ!!
ガーン
コントロールがきかぬ〜〜っ
ひろへろ
……
ふぅ

なっ……

しゃーない…そろそろわいが殺すか

ヴヴーン

!?

凶殺武闘大会ではな……
ワザと殺さなかったんやで!
びっ

ドーン
はぐっ

遊んでたんや!!
うわーっ
その証拠にほれわいが本気になれば手も足も出んやろ!?

な……何ですってえ
はあ…はあ…
わーん
くるくる
ミンクーっ

でももうお前にもあきたからな
死にや
グラグラ
でっ

お前の次はソーサで遊ぶんや
うわーっ

体が……動かないっ
さあゴーンと行くでえ
もう…だめっ!!

操作がきかぬ〜っ!!
ゴーン
ゴーンと……
ドガァーン
ひしっ
た…助かった——っ!!
…え!?
パラパラ
私も助けて…
あ…

ミンク達の居場所は遠いですね……

ええ…

でもこのフーパーでなら三日で着きますよっ

そうだ！

このフーパーを私の魔法で少し大きくすれば皆なで行けますよ

ギクッ

●第26話おわり●5月号(3月30日発売)につづく

SNE
きれもの、求む。
スタッフ募集
「ロードス島戦記」や「ソード・ワールドRPG」のデザイン、「ドラゴンランス戦記」やT＆Tの翻訳でおなじみのグループSNEが、スタッフとして働いてくださる人を募ります。①ゲームのデザイン ②ゲームの翻訳 ③イラスト（地図も含む）④英会話・英文作成・コンピュータプログラムなどの特技、この①から④までのどれかに自信があり、ゲームが好きで明るい人なら大歓迎。18歳以上、通勤可能な方で、応募されようと思う人は1990年3月25日までに下記住所まで、履歴書（市販のもので結構です）をお送りください。
グループSNE
〒650 神戸市中央区加納町2丁目9-20 クラタ12号館2F ☎(078)222-5777

雑誌03485-04 T4910348504602 大日本印刷株式会社印刷 Printed in JAPAN